

科 目 名	経 済 学 (経 済 学 科 1 年 必 修 科 目 共 通 シ ラ バ ス)	担 当 者 名	経 済 学 担 当 教 員 全 員
-------	---	---------	-------------------

講 義 の 目 標	<p>経済学科の学生にとって共通である経済学・経済理論の初等・入門コースがこの「経済学」であり、それ故に1年次に配当され、しかも必修科目に指定されている。また、したがって、経済理論の本格的修得を目標として2年次に配当されているミクロ経済学とマクロ経済学(いずれも必修科目)の初等的概論ともなる。</p> <p>このページは、経済学担当教員全員の共通シラバスであるので、受講する経済学の各担当者のページを併せ読み、共通する事項以外の指示・方針項目は、その担当教員の示す通りとする。</p>		
講 義 概 要	<p>講義概要として共通していることは、年間を通じてミクロ・マクロの経済理論の概要が初級的に講義される。詳細は各担当教員のページを閲覧すること。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	各担当教員の指示による	
	参 考 文 献	<p>中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社 伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社 ドーンブッシュ・フィッシャー/廣松訳『マクロ経済学(上・下)』マクロヒル 西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社 その他各担当教員の指示による。</p>	
評 価 方 法	<p>出席状況、受講態度ならびに前期・後期の定期試験の結果等を総合判定して評価されるはずである。</p> <p>詳細は各担当教員の方針による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>経済学科の学生にとっては最も基礎的入門コースであることを自覚してほしい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1	・講義の内容ならびに年間授業スケジュールについては、各担当教員の方針が尊重されているので、それに従っていただきたい。
	2	・ただし、各教員が共通して講義すべき内容事項については、以下に示した通りであり、経済学入門コースとして必要不可欠な知識・体系が用意されている。
	3	・本学では外国語教育が重視されており、経済学部でもこの方針に従って、入学初年度より専門用語を含めて、できる限り英語を併用している。経済学の授業もこれに従い専門英語・経済英語を授業の中で併用して講義している。
	4	<p>{ 講義の内容：担当教員共通 } 講義の手順は各担当教員による 序論 経済と経済学、経済学の目的・役割・方法、経済の循環、現代経済の諸問題</p> <p>・ミクロ経済学 序 ミクロ経済学序論、価格分析</p> <p>1. 消費の理論・消費者行動の原理・需要の法則 消費の選考、効用・限界効用、消費者の均衡点、価格・所得曲線、需要曲線、需要の法則、所得効果と 代替効果、代替財（競争財）と補完財、価格・所得弾力性、消費者余剰、消費者主権</p> <p>2. 生産の理論・生産者行動の原理・供給の法則 経済学上の生産とは、企業の費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、供給曲線・限界費用曲線、供給の法則、短期・長期供給曲線、長期供給曲線と外部効果、技術進歩、地域経済の外部性と企業行動、技術進歩と長期費用逓減</p> <p>3. 交換の理論・市場の原理・競争の問題 経済学上の市場とは、市場の機能、完全競争市場と不完全競争市場、独占の弊害と市場の失敗</p> <p>4. 市場の失敗と外部性 私有財と公共財、外部経済・不経済、パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税 パレート最適と社会的厚生</p> <p>・マクロ経済学 序 マクロ経済学序論、所得分析</p> <p>1. 国民所得の諸概念 GDP（GNP）、個人（家計）可処分所得、資本減耗と引当、直接税・間接税、社会保険負担金・給付金 租税負担と補助金給付、家計消費支出、家計貯蓄（法人貯蓄、法人留保）</p> <p>2. 国民所得水準と乗数の理論 総需要と総供給（総生産）、家計消費と消費関数、貯蓄と投資、国民所得の均衡、乗数の理論、節儉のパラドックス、集計需要・集計供給、潜在的産出量水準、完全雇用水準と物価水準、インフレとデフレ、インフレと失業、フリップス曲線、景気の循環、経済成長、資本蓄積と技術進歩</p> <p>3. 貨幣・金融市場と政府の経済的役割・金融政策 銀行の始まりと近代部分準備制度、金本位制・管理通貨（信用貨幣）制、銀行の預金創造、貨幣の需要と供給・中央銀行の役割、高馬力貨幣、中央銀行券（現金貨幣）、公定歩合政策、公開市場操作、準備預金と法定準備率の変更</p> <p>4. 国民生産物市場と政府の経済的役割・財政政策 投資の限界効率表と企業の投資行動、民間企業の投資の変動性、不況と不完全雇用、長期停滞とスタフグレーション、景気循環と赤字財政・黒字財政、長期的財政収支の均衡、IS-LM 曲線、ポリシー・ミックス</p> <p>・国際経済の問題 経済の国際化・グローバリゼーション、貿易の利益、貿易理論、先進国と発展途上国、資本の移動と技術進歩、経済総合</p>

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	小 林 進
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>		
講 義 概 要	<p>マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>テキスト なし</p>	
	参 考 文 献	<p>講義の中で適時に指示する</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期の二回の試験に平常の出欠を加味して評価する</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p style="text-align: center;">マクロ経済学</p> <p>国民所得概念 付加価値の定義（単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意） GNP = 雇用者所得（賃金）+ 営業余剰（利潤）+（間接税 - 補助金）+ 資本減耗分 GNP - 資本減耗分 = NNP（資本減耗分 = 減価償却費） GNP と GDP（国内総生産）の相違（海外からの要素所得の純受取分） GNP = C + I + G + X - Q（総需要） （C：消費、I：投資、G：政府支出、X：輸出、Q：輸入） 主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか？</p> <p>消費関数 $C = cY + A$ の性質</p> <p>限界消費性向 $\frac{\Delta C}{\Delta Y}$（$0 < c < 1$ の経済的意味に注意）</p> <p>貯蓄の定義及び貯蓄関数</p> <p>国民所得の決定 単純モデル（$Y = C + I$） 代数解 $Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$ 45 度線図による理解 貯蓄と投資の均等による図からの理解 （投資）乗数理論 $Y = \frac{1}{1-c}$</p> <p>生産関数 $Y = F(K, N)$（K は資本、N は労働） 短期生産関数 $Y = f(N)$（K は短期では一定と見なす、したがって N のみの関数） インフレギャップとデフレギャップ <small>かいいり</small> （完全雇用時の国民所得 Y_f と現実の国民所得の乖離）</p> <p>国民所得の決定 政府を含むモデル（$Y = C + I + G$） 可処分所得 $Y_d = Y - T$ 貯蓄と投資の関係式 $I = S + (T - G)$ 均衡予算乗数は 1（$Y = G$） 貯蓄のパラドックス（貯蓄は美徳か？） マネタリストの主張（大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小） 資本の限界効率と投資関数 IS 曲線とその右下がりの性質 貨幣需要関数と LM 曲線 IS・LM 曲線と経済政策の有効性 貨幣数量説（フィッシャーの交換方程式とケンプリッジ残高方程式） マーシャルの k といわゆる「カネ余り」の問題 $\frac{M}{M} = \frac{k}{k} + \frac{p}{p} + \frac{y}{y}$（$y$：実質国民所得）</p> <p>短期及び長期のフィリップス曲線</p> <p style="text-align: center;">ミクロ経済学</p> <p>経済主体(消費者及び企業)の合理的行動 最大化行動 ・消費者行動 効用関数 無差別曲線 限界代替率(MRS)逓減の経済的意味 予算線 最適消費点 $MRS = \text{価格比}$ 所得効果、上級財(正常財)、下級財(劣等財) 価格変化と代替効果 下級財の特殊例としてのギッフェン財 個別需要曲線の導出 需要の価格弾力性 豊作貧乏の理論分析 Jカーブ効果 ・企業の理論 総費用(TC) = 可変費用(VC) + 固定費用(FC) 平均費用(AC)と限界費用(MC)の関係（平均概念と限界概念の把握） $MC > AC$ ならば AC は増加する（逆も真） $MC < AC$ ならば AC は減少する（逆も真） 利潤最大条件 価格 $P = MC$ 個別供給曲線の導出、損益分岐点、操業停止 安全競争の成立条件 ワルラス的安定条件</p>
----------------------------	---

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	仙 波 憲 一
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>個人の消費や生産活動、国と国との諸取引等の背景には、何らかの行動原理や経済法則が働いている。経済学はこれらを体系的に解明することを目指す学問である。我々の身近な問題から世界の諸問題に至るまで、経済的要因を抜きにしては議論できない。したがって、経済学は極めて身近な学問である。本講では具体的な事例を用いて、経済学特有の考え方、分析方法をわかりやすく解説し、経済学の基本体系を理解できるようにする。</p>		
講 義 概 要	<p>経済学にはミクロ経済学あるいは価格理論と、マクロ経済学あるいは所得理論と呼ばれる分野がある。ともに、有限な資源を用いて経済活動を無駄なく行う為に、また得られた利益を公平に分配する為に望ましい経済システムは何かを考える。なお、ミクロ経済学は個々の消費者や生産者の行動原理及び市場における価格決定原理を分析する。マクロ経済学は個々の集合体である民間部門（消費部門と生産部門）、政府部門、海外部門ごとの行動論及び各部門の有機的な相互関連を分析する。前期はミクロ経済学を、後期はマクロ経済学を中心に解説する。その際新聞や雑誌等からできるだけ時事的な問題を取り上げ、これを経済学の立場から解説していきつつ、経済学の分析方法や考え方を学ぶ予定である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>試験、レポート、講義での発言等を総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義のなかで、積極的に発言をして考える姿勢を持つこと。また、社会のカレントトピックについて注意を払うように。</p>		

1. 講義の概要：一年間での講義の進め方について。
2. 経済学の役割：経済学を学ぶことの意義について。
3. 経済学の構成：経済学には多くの分野があることを説明する。
4. 分析の手法(1)：経済問題を分析するために有効な分析手法とは何か。
5. 分析の手法(2)：引き続き経済学の方法論について
6. 市場について：市場とは何か、消費者主権とは何かを説明する。
7. 需要と供給について：需要と供給の概念について議論する。
8. 市場の機能(1)：取引価格の決定メカニズムについて解説する。
9. 市場の機能(2)：需給調整により、いかに取引が成立するのかについて論じる。
10. 消費者余剰と生産者余剰：市場で実現した取引の評価基準を説明する。
11. 市場の失敗：市場経済では解決できない問題もあることを示す。
12. 規制緩和と経済厚生：経済政策の是非を論じるための視点を考える。(以上前期)
13. 経済マクロ的側面：後期はマクロ経済学の視点とは何か、から始める。
14. 国民経済計算、フローとストック：マクロ経済変数の性質について解説する。
15. 財市場の構成：消費と貯蓄について説明する。
16. 国民所得の決定と財政政策：有効需要の原理を解説し、政府の役割について考える。
17. 金利と投資行動：IS 曲線を導き、金利と国内需要の関係を論じる。
18. 金融市場と金融政策：LM 曲線を導き、金利の決定、金融政策の意義を考える。
19. 開放経済(1)：貿易収支と為替レートの決定について。
20. 開放経済(2)：海外取引と国内景気との関係。
21. 総需要関数：物価水準と国内需要との関係。
22. 労働市場と失業：景気変動と失業との関係。
23. 総供給関数と物価の決定：国民経済の規模と物価水準との関係。
24. 所得分配と公共政策：国民経済で求められる政府の役割について考える。

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	田 村 申 一
-------	-------------	------	---------

講義の目標	テレビや新聞のニュースから経済の動きに興味をもち、「なぜ？」と疑問を感じ、「どうすればいい？」と考えること。これが経済学の勉強をはじめるとき、一番、大事なことです。現実の経済問題に自分流で取り組むためには、経済学の考え方、分析の仕方を理解し、身につけておきたいものです。この講義では、経済の動きに関心をもち、自分なりに問題を見つけ、解決への手掛りを探っていくキッカケをつくりたいと思います。		
講義概要	講義は、およそ「経済学」共通シラバスに書かれている内容に沿って進めるつもりです。ここに並んでいるキーワードは、経済学を学ぶためのミニマム・エッセンスなのです。ただし、現実の経済の動向や経済政策との関連で、内容がかなり変わることもあると思います。経済の理論や学説を暗記するのではなく、経済をみる目、経済を考える力をもてるような講義にしたいものです。		
使用教材	テキスト	未定です。	
	参考文献	西村和雄著、「まんがDE入門 経済学」日本評論社、1998 酒井泰弘著、「はじめての経済学」有斐閣、1995 小室直樹著、「日本人のための経済原論」東洋経済新報社、1998	
評価方法	成績評価は、前期ならびに後期の試験の平均点を基準にし、これに出席状況などを加味して決めます。前期試験はレポート、後期試験は試験時間割で行います。前期と後期を必ず受験して下さい。		
受講者に対する要望など	成績と出席状況は、大体、正の相関関係があります。授業には、真面目に出席して下さい。		
年間授業計画	「経済学」共通シラバスによる		

科目名	経済学(済) 経済学(再履修)	担当者名	浜本光紹
-----	--------------------	------	------

講義の目標	本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎を修得することを目的とする。		
講義概要	ミクロ、マクロ経済理論を中心に講義を行なうが、こうした理論によって実際の経済諸問題がどのように説明されるのか、といったことにも触れていきたい。		
使用教材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・西村和雄「ミクロ経済学入門」岩波書店 ・中谷巖「入門マクロ経済学」日本評論社 などの、初級レベルのテキスト。	
評価方法	前期・後期の試験、および不定期に課すレポートの提出に基づいて評価する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション - ミクロ経済学の課題 - 2. 消費者行動 その1 3. 消費者行動 その2 4. 企業行動 その1 5. 企業行動 その2 6. 完全競争市場 その1 7. 完全競争市場 その2 8. 不完全競争 その1 9. 不完全競争 その2 10. 市場機構の限界 その1 11. 市場機構の限界 その2 12. ミクロ経済学の応用 13. イントロダクション - マクロ経済学の課題 - 14. 家計の消費・貯蓄行動 15. 国民所得の決定メカニズム その1 16. 国民所得の決定メカニズム その2 17. 企業の投資行動 18. 貨幣と経済活動 その1 19. 貨幣と経済活動 その2 20. マクロ経済モデル その1 21. マクロ経済モデル その2 22. マクロ経済政策 その1 23. マクロ経済政策 その2 24. 国際マクロ経済 		

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	本 田 浩 邦
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	講義全体をつうじて、経済学が現代の諸問題を考える上でもつ意味を考えてみたい。標準的な理論の解説だけでなく、経済の具体的な現実をもできるだけ織りまぜて話をすすめたい。どのようなトピックスからでも、経済理論、経済問題を身近に感じていただきたい。		
講 義 概 要	講義は 3 つの部分からなる。第 1 部「今日の経済問題」では、導入として最近のいくつかの経済問題を取り上げ検討する。第 2 部「経済学の考え方」では、マクロ経済学とミクロ経済学の基本的な枠組みおよび財政金融政策の構造・機能とを説明する。第 3 部「世界システムと環境問題」では世界経済システムの基本的枠組みと貧困・環境問題の現状をみる。		
使 用 教 材	テキスト	なし。毎回レジュメを配布する。	
	参考文献	塩澤修平『経済学・入門』有斐閣 ミルトン&ローズ・フリードマン『選択の自由』上・下、講談社文庫 ハーバート・スタイン『大統領の経済学』日本経済新聞社 宇沢弘文『経済学の考え方』岩波新書	
評 価 方 法	前後期の定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	継続的に出席していただきたい。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. はじめに 経済学とはどんな学問か / 他の社会諸科学との方法的な共通性と相違 / 現代経済学の課題 / 講義の課題と構成 / すすめ方と注意事項 / 評価方法 / 参考文献</p> <p>第1部 今日の経済問題</p> <p>2. 日本の金融・消費不況 バブル経済崩壊と土地本位主義 / 不良債権問題と金融システム / 消費と貯蓄 / 空洞化とリストラによる雇用不安 / 中小企業と地域経済</p> <p>3. 世界経済のカジノ化とアメリカ アメリカの持続的な経済成長と「ニューエコノミー」 / 資金フローと通貨危機 / 世界大恐慌との比較 / 「グローバル・スタンダード」</p> <p>4. 財政赤字と年金・医療問題 国と地方の財政危機 / 国の借金とはなにか / 欧米における財政赤字の削減 / 国民負担率の増加 / 年金財政の状況 / 財政再建と世代会計</p> <p>第2部 経済学の考え方</p> <p>5. マクロ経済学(1) ケインズ『一般理論』(1936) / 形成と背景 / 古典派雇用理論の批判 / 貯蓄・投資および乗数 / 貨幣・利子および流動性 / 賃金とインフレーション</p> <p>6. マクロ経済学(2) ケインズ経済学の動学化 / IS・LM と不均衡状態 / 成長政策としてのケインズ政策 / ケインズの世界経済認識 / ケインズ以降 / 補・国民経済計算</p> <p>7. マクロ経済学(3) 失業の解釈 / インフレとスタグフレーションの解釈 / 景気循環 / 「金融不安定仮説」</p> <p>8. ミクロ経済学(1) 新古典派の主要命題 / セー法則 / 需要と供給 / 消費者行動と生産者行動 / 市場均衡の安定性 / 企業と産業</p> <p>9. ミクロ経済学(2) 労働市場の規定要因 / 労働の需要と供給 / 人的資本 / 実質賃金率 / 効率性賃金仮説</p> <p>10. ミクロ経済学(3) 貨幣数量説とマネタリズム / インフレーションと金融政策 / マネーサプライと所得変化 / フリードマン『選択の自由』 / サプライサイド経済学</p> <p>11. 現代経済学の展開 新しい古典派理論 / 合理的期待 / 新しい古典派マクロ経済学 / 独占的競争と価格の硬直性 / 新ケインジアンと実物的景気循環論 / 新しい成長理論</p> <p>12. 前期全体のまとめ、質疑</p> <p>13. 財 政(1) 財政制度と財政政策 / ビルトイン・スタビライザー / ケインズ政策の帰結 / 安定化政策をめぐる今日のアメリカでの論争</p> <p>14. 財 政(2) 財政赤字および公債をめぐる議論 / リカード=バローの「等価定理」 / 財政赤字否定論 / 日本とアメリカの財政の現状 / 財政赤字はどのような意味で問題か</p> <p>15. 金 融 金融制度と財政政策 / グラス=スティーガル法と銀行・証券の分離 / 戦後日本の金融制度 / 80年代の自由化 / 日米の資金循環構造 / 1990年代の金融不況</p> <p>第3部 世界システムと環境問題</p> <p>16. 貿易理論 古典派理論(スミスとリカード) / 比較生産費説 / ドイツ歴史学派と保護主義 / 新古典派貿易理論(ヘクシャー=オリーン命題) / マルデル=フレミング理論</p> <p>17. 国際収支 理論と定義 / 国際収支表の読み方 / 外国為替のメカニズム / 為替政策と国際通貨制度</p> <p>18. 戦後世界経済システム(1) IMF と GATT / 戦後の経済成長 / 自由化と保護主義 / 多国籍企業と生産活動の国際化 / WTO と地域経済統合 (EU, NAFTA, ASEAN)</p> <p>19. 戦後世界経済システム(2) 戦後世界経済の発展と南北問題 / UNCTAD と新国際経済秩序 / 途上国開発理論の系譜(近代化理論、新旧従属理論、輸出志向型工業化戦略)</p> <p>20. 戦後世界経済システム(3) 途上国開発のケース(メキシコ、ASEAN) / 1980年代の累積債務問題とその解決 / 現在の途上国経済の現状</p> <p>21. 貧困と環境問題(1) 途上国の財政支出と援助 / 経済的危機の要因 / アフリカの経済危機(モロッコ、ザンビア、ケニアのケース) /</p> <p>22. 貧困と環境問題(2) 「二つの債務・環境関係」(スーザン・ジョージ) / 貧困・栄養・地域紛争・「静かな緊急事態」 ユニセフ『世界子ども白書』より</p> <p>23. 日米経済関係</p> <p>24. 講義全体のまとめ、質疑</p>
----------------------------	---

科目名	経済学(済)	担当者名	松本正信
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。 経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探してみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間授業計画に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</p>	
	参考文献	<p>中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社 伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い、自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。</p>		
受講者に対する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>つぎの序・終章を含めた12の章を2～3回の講義で進めて行く積もりである。</p> <p>序章（プロローグ）</p> <p>経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前後、ならびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前後との移り変わり）、現代の経済思想。</p> <p>第部 ミクロ経済学（価格分析）</p> <p>1 消費の理論</p> <p>（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補完財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。</p> <p>1章に最後にいって、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。</p> <p>2 生産の理論</p> <p>（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。</p> <p>3 市場；マーケット（交換の理論）</p> <p>市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）</p> <p>4 競争の問題</p> <p>競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。</p> <p>5 市場の限界と失敗・欠落</p> <p>市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税で賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。</p> <p>外部経済・不経済、公共財（公共サービス）、パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。</p> <p>第部 マクロ経済学（所得分析）</p> <p>6 国民所得の分析</p> <p>マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。</p> <p>マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。</p> <p>7 貨幣・金融市場</p> <p>金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率</p> <p>8 中央銀行の機能と役割：金融政策</p> <p>現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。</p> <p>9 政府の経済的役割：財政政策</p> <p>政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。</p> <p>その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。</p> <p>政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真、パラドックスなる由縁である。</p> <p>分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファアー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線</p> <p>10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線）</p> <p>ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再編とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マナリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。</p> <p>終章（エピローグ） 結びにかえて</p> <p>人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費率と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化</p>
----------------------------	---

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	山 越 徳
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済学を初めて学ぶ人にとって、経済および経済学を身近に感じ、理解が進められ、さらに深く入っていくための基礎づくりを目指す。経済学はどのような学問分野であり、どのような考え方をするのかを、それぞれの経済理論を扱いながら、用語や概念とともに理解していくよう進めていく。</p>				
講 義 概 要	<p>単に経済学の理論の紹介や説明に留まることなく、それらの理論が現実の経済とどのように結びついているのか、どこまでを説明しているのかを、理論モデル、統計データ、実証分析結果それぞれを関連させながら見ていくことにする。またそれらのことを通して日本経済の大きさ、構造、位置づけ、その動向にも理解を高められることを目指す。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>『入門 経済学ゼミナール』 西村和雄 実務教育出版</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>『現代経済学』(上・下) レスター・C・サロー、ジェームス・K・ガルブレイス、ロバート・L・ハイルブローナー著、中村達也訳 TBS プリタニカ</td> </tr> </table>	テキスト	『入門 経済学ゼミナール』 西村和雄 実務教育出版	参考文献	『現代経済学』(上・下) レスター・C・サロー、ジェームス・K・ガルブレイス、ロバート・L・ハイルブローナー著、中村達也訳 TBS プリタニカ
テキスト	『入門 経済学ゼミナール』 西村和雄 実務教育出版				
参考文献	『現代経済学』(上・下) レスター・C・サロー、ジェームス・K・ガルブレイス、ロバート・L・ハイルブローナー著、中村達也訳 TBS プリタニカ				
評 価 方 法	<p>前期のレポート(日本経済に関するもので、課題については授業中に提示) 後期の試験結果により評価。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>広く経済学および経済に関する文献に触れることと、現実の経済の動きに強い関心を持って考えること。</p>				

年 間 授 業 計 画	1.	・経済学とは 社会学としての経済学、経済学の考え方、経済合理性、前提、対象、ミクロとマクロ、
	2.	
	3.	・市場均衡、価格決定 需要と供給、競争、市場調整、価格と取引量の決定
	4.	
	5.	・消費者均衡、需要理論、消費理論 需要曲線、効用と効用極大、限界概念、限界効用逓減、限界効用均等法則、 無差別曲線、価格、経済要素
	6.	
	7.	・消費者均衡、需要理論、消費理論 需要関数、消費関数、弾力性、価格と所得、0次同次性、財と費目 指数と集計、指標、消費仮説、時系列分析とクロスセクション分析
	8.	
	9.	・国民所得、日本経済の規模と変動 フローとストック、国民経済勘定体系、新SNA、GNP、三面等価の原則、国民所得の決定 乗数理論、有効需要理論、景気と失業、消費性向、貯蓄と投資、資本、 政府と財政、貨幣と金融、貿易、産業連関論
	10.	
	11.	・日本経済の成長 産業の活動、産業構造、成長の要因、産業の相互依存関係 経済成長理論、国際化と依存関係
	12.	
	13.	
	14.	・供給者均衡、生産理論 供給曲線、コスト曲線、利潤極大、価格と供給量、限界生産力命題
	15.	
	16.	・供給者均衡、生産理論 生産関数、生産要素、資本と労働、分配、生産性、代替性、規模の経済 生産拡大と技術変化
	17.	
	18.	・労働市場 労働市場理論、賃金理論、失業、分断化
	19.	
	20.	・労働市場 日本の労働市場、産業と職業、年齢と性別、学歴、地域、 終身雇用と年功制、定年制、雇用調整
	21.	
	22.	・一般均衡モデル、経済政策 一般均衡と部分均衡、マクロ計量モデル
	23.	
	24.	・一般均衡モデル、経済政策 経済政策と経済理論

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	山 本 美 樹 子
-------	-------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>イギリスの経済学者ジョーロビンソンは「経済学は人間の行動の学問である」という。さて、日常の経済活動の背後にはどのような経済的法則があるのだろうか？経済理論とはそのような法則について取り扱う学問と考えればわかりやすいだろう。この講義は大学の経済学部に入學したばかりの一年生が対象である。経済学部の一年の学生として最低限知っておいてほしい経済理論の基礎を講義する。</p>		
講 義 概 要	<p>本年度は経済学に共通シラバスを設け、各教員はそのシラバスに準拠して講義を進める。本講義ではマクロ経済学、ミクロ経済学の順で講義を進める。 ミクロ経済理論：個々の消費者は会社の意志決定に溯り、各自の行動を分析する。 マクロ経済理論：経済全体、特に一國レベルを一つの巨大な単位と考え、その単位の各集計量の間の関係について扱う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参 考 文 献	<p>中谷巖 「入門マクロ経済学」 日本評論社 伊藤元重 「入門ミクロ経済学」 日本評論社 福岡正夫 「ゼミナール経済学入門」 日経新聞社 松下他 「チャートで学ぶ経済学」 有斐閣</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期の学期末試験 出席回数（5回以上欠席した場合には単位は出さない）</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>1年間ミクロ経済学、マクロ経済学を駆け足で講義するので、1回でも休むとついていけない。できる限り欠席しないで講義を受けてほしい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>第一部</p> <p>第 1 章 経済学とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、経済学を学ぶ目的 2、経済学と経済理論 <p>第 2 章 経済体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、混合資本主義体制の課題 2、社会主義体制の性格 <p>第二部 マクロ経済学の基礎理論</p> <p>第 3 章 マクロ経済学の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、マクロ経済学で取り扱うこと 2、ストックとフロー <p>第 4 章 国民所得とそれに関連する集計量</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、国民総生産、国民純生産、国民所得 2、三面等価の原則 3、国民所得集計上の留意点 <p>第 5 章 有効需要の理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、消費関数 2、投資関数 3、簡単な国民所得の決定の理論 4、海外部門を含めた場合 5、乗数効果 <p>第 6 章 貨幣の需要、供給</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、貨幣とは何か 2、貨幣の需要 3、貨幣の供給 4、信用乗数 <p>第 7 章 IS - LM 分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、IS 曲線 2、LM 曲線 3、IS - LM 曲線の同時均衡に意味すること 4、財政政策の効果 5、金融政策の効果 <p>以上のところまでを前期 12 週間で講義する</p> <p>第三部 ミクロ経済の基礎理論</p> <p>第 8 章 ミクロ経済学（理論）の課題</p> <p>第 9 章 消費者行動の理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、効用、限界効用 2、無差別曲線 3、限界代替率、限界代替率逓減の法則 4、生産者の利潤極大化行動 5、所得消費曲線 6、価格消費曲線 7、財の分類 8、社会的需要曲線、消費者余剰 <p>第 10 章 生産者の行動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、等量曲線と限界代替率 2、生産者の利潤極大化行動 3、生産可能性曲線と限界変形率 4、費用関数（1） 5、供給関数と生産者余剰 <p>第 11 章 市場価格の決定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、市場価格の決定 2、価格調整 フルラス的調整の理論 3、価格調整 マーシャル的調整の理論 蜘蛛の巣の理論 <p>第 12 章 独占、寡占、独占的競争</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、完全独占 2、差別独占 3、独占的競争 4、寡占と複占 5、独占の弊害 <p>第 13 章 まとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	経 済 学 (営)	担当者名	岡 田 博
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済への関心を一層深め、その動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。</p>		
講 義 概 要	<p>経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>未定、最初の講義のときに指示する。</p>	
	参 考 文 献	<p>川口他：『経済学入門』有斐閣、他。</p>	
評 価 方 法	<p>学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業に欠席しないこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
	2	経済体制について：経済体制とは、経済体制の共通課題
	3	経済体制について：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、需要と供給の調整機構、経済的成果の比較
	4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
	5	混合経済体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
	6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
	7	国民所得の概念：GNP、NNP等々、わが国の国民所得
	8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
	9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション、デフレーション
	10	貨幣と金融：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
	11	貨幣と金融：貨幣創出の機構、信用創造
	12	貨幣と金融：金融政策
		備考
	後 期	
	1	財政：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
	2	財政：租税、わが国の税制
	3	財政政策：財政政策の目標
	4	財政政策：資源配分と財政政策、所得再配分と財政政策、経済安定と財政政策
	5	消費の理論：消費者と効用、消費者の合理的選択
	6	消費の理論：序数的効用理論と消費者均衡
	7	生産の理論：供給と費用
	8	生産の理論：利潤極大の条件、生産関数
	9	市場価格の決定：需要と供給
10	市場価格の決定：市場構造	
11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発	
12	おわりに	
	備考	

科 目 名	経 済 学 (営)	担当者名	山 越 徳
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済学を初めて学ぶ人にとって、経済および経済学を身近に感じ、理解が進められ、さらに深く入っていくための基礎づくりを目指す。経済学はどのような学問分野であり、どのような考え方をするのかを、それぞれの経済理論を扱いながら、用語や概念とともに理解していくよう進めていく。</p>		
講 義 概 要	<p>単に経済学の理論の紹介や説明に留まることなく、それらの理論が現実の経済とどのように結びついているのか、どこまでを説明しているのかを、理論モデル、統計データ、実証分析結果それぞれを関連させながら見ていくことにする。またそれらのことを通して日本経済の大きさ、構造、位置づけ、その動向にも理解を高められることを目指す。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	『入門 経済学ゼミナール』 西村和雄 実務教育出版	
	参 考 文 献	『現代経済学』(上・下) レスター・C・サロー、ジェームス・K・ガルブレイス、ロバート・L・ハイルブローナー著、中村達也訳 TBS プリタニカ	
評 価 方 法	<p>前期のレポート(日本経済に関するもので、課題については授業中に提示)、後期の試験結果により評価。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>広く経済学および経済に関する文献に触れることと、現実の経済の動きに強い関心を持って考えること。</p>		

年間授業計画	1.	・経済学とは 社会学としての経済学、経済学の考え方、経済合理性、前提、対象、ミクロとマクロ、経済主体 経験法則、理論と実証、部分均衡と一般均衡、経済学の流れ
	2.	
	3.	・市場均衡、価格決定 需要と供給、競争、市場調整、価格と取引量の決定
	4.	
	5.	・消費者均衡、需要理論、消費理論 需要曲線、効用と効用極大、限界概念、限界効用逓減、限界効用均等法則、 無差別曲線、価格、経済要素
	6.	
	7.	・消費者均衡、需要理論、消費理論 需要関数、消費関数、弾力性、価格と所得、0次同次性、財と費目 指数と集計、指標、消費仮説、時系列分析とクロスセクション分析
	8.	
	9.	・国民所得、日本経済の規模と変動 GDPとストック、国民経済勘定体系、新SNA、GNP、三面等価の原則、国民所得の決定 乗数理論、有効需要理論、景気と失業、消費性向、貯蓄と投資、資本、 政府と財政、貨幣と金融、貿易、産業連関論
	10.	
	11.	・日本経済の成長 産業の活動、産業構造、成長の要因、産業の相互依存関係 経済成長理論、国際化と依存関係
	12.	
	13.	・供給者均衡、生産理論 供給曲線、コスト曲線、利潤極大、価格と供給量、限界生産力命題 生産関数、生産要素、資本と労働、分配、生産性、代替性、規模の経済 生産拡大と技術変化
	14.	
	15.	・労働市場 労働市場理論、賃金理論、失業、分断化 日本の労働市場、産業と職業、年齢と性別、学歴、地域、 終身雇用と年功制、定年制、雇用調整
	16.	
	17.	・一般均衡モデル、経済政策 一般均衡と部分均衡、マクロ計量モデル 経済政策と経済理論
	18.	
	19.	・一般均衡モデル、経済政策 一般均衡と部分均衡、マクロ計量モデル 経済政策と経済理論
	20.	
	21.	・一般均衡モデル、経済政策 一般均衡と部分均衡、マクロ計量モデル 経済政策と経済理論
	22.	
	23.	・一般均衡モデル、経済政策 一般均衡と部分均衡、マクロ計量モデル 経済政策と経済理論
	24.	

科 目 名	経 済 学 (営)	担当者名	米 山 昌 幸
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、貧困、不平等、公害といったさまざまな現実社会の問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指す学問である。私たちが経済学を勉強するのは、たんに難しい経済理論を修得すること自体が目的ではなく、その経済理論を用いて現実経済に対する理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためである。</p> <p>したがってこの講義の目的は、第一に、現実的な問題を取り上げて、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第二に、分析用具としての基礎的な経済理論をできるだけ体系的に理解してもらうことである。</p>
講 義 概 要	<p>前期は、資源配分のメカニズムを明らかにする「ミクロ経済学」の分野について講義し、家計と企業の行動を分析し、完全競争市場における価格決定のメカニズムを明らかにする。</p> <p>後期は、GNP、物価水準、利子率などの経済全体を捉えるマクロ変数の相互関係を明らかにする「マクロ経済学」の分野について講義し、財市場の分析を中心に、貨幣市場・労働市場の分析を行い、経済全体のマクロ均衡がどのように達成されるのかを明らかにし、経済政策の効果も考察する。</p> <p>講義形式が中心となるが、できれば報告・討論を通じて、学生自らが問題を考える機会も設けたい。</p>
使 用 教 材	<p>未定（下記のようなものを予定している）</p> <p>Samuelson , Paul A . , and William D . Nordhaus , <i>Economics</i>(16th edn.) . Irwin/McGraw-Hill , 1998 .</p> <p>奥野正寛 , 『ミクロ経済学入門(第 2 版)』 , 日経文庫 , 1990.</p> <p>中谷 徹 , 『入門マクロ経済学(第 3 版)』 , 日本評論社 , 1993.</p> <p>参 考 文 献</p> <p>第 1 回目目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは是非、各自で読んでおいてもらいたいサブリーダーとして次を挙げておく。</p> <p>林 敏彦 , 『ハート&マインド経済学入門』 , 有斐閣アルマ , 1996.</p>
評 価 方 法	<p>基本的に前期と後期の定期試験によって成績評価を行う。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>大学のテキストや学術書はけっして安くありませんが、身銭を切って本を買きましょう。また、日頃から新聞などに目を通して現実社会の問題に関心を持ち、それらについて経済学を用いて考えることができるようになることを目指して下さい。</p> <p>経済学は難しく、その学習は決して容易ではありません。だからこそ、講義を利用して、理解する糸口をつかんでください。</p>

授業内容は、基本的には「経済学」共通シラバスに従うが、そのすべてを網羅することは難しいと思われる。本講義では最低限下記の項目については扱うが、それ以外の項目については履修学生の学習意欲や理解度に応じて取捨選択しながら、授業の進行スピードを調整していく。

体系的な経済理論については2年次に「ミクロ経済学」「マクロ経済学」が用意されているので、本講義では広く体系的な理論を講義することよりも、むしろ限定された範囲であっても厳密に理論を理解してもらうこと、そしてそれを現実へ適用し理論的帰結を得るといった理論的な思考方法を学ぶことによって、理論の有用性をわかってもらうことに重点を置く。

ミクロ経済学

1．価格と市場メカニズム 部分均衡分析

完全競争市場の前提条件、部分均衡分析とは、需要曲線と供給曲線、市場メカニズム（ワルラス的調整過程）均衡の存在と安定性、市場メカニズムと経済厚生、生産者余剰・消費者余剰・経済厚生、自由市場と政府介入の経済厚生、与件の変化と市場均衡、市場の失敗（不完全競争、外部効果、公共財、情報の非対称性）分配と公正

2．家計の行動と需要曲線

効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、基礎的効用と序数的効用、限界代替率逓減の法則、予算制約と効用最大化（予算制約線と無差別曲線）主体的均衡点、相対価格と限界代替率、価格の変化と需要の変化（価格消費曲線）、個別需要曲線の導出、市場需要曲線と消費者余剰、需要の価格弾力性、代替財と補完財、需要の交差弾力性、所得の変化と需要の変化（所得消費曲線）、需要の所得弾力性と財の分類（上級財・中級財・下級財）与件の変化と需要曲線のシフト、賃金の変化と労働供給供給曲線

3．企業の行動と供給曲線

利潤とは、経済学上の利潤と会計上の利潤、機会費用、生産要素、短期と長期、短期総生産物曲線、労働の限界生産力（性）逓減の法則、生産関数と利潤最大化、プライス・テイカー、短期費用曲線と個別供給曲線の導出、短期費用曲線、（短期）限界費用と平均費用、限界分析、利潤最大化と短期個別供給曲線、価格と限界費用、短期市場供給曲線と生産者余剰、与件の変化と短期市場供給曲線のシフト

マクロ経済学

1．GNP と物価指数

GNP と GDP、GNP と NNP、固定資本減耗、三面等価の原則、国民所得、貯蓄と投資の恒等関係、IS バランスと財政収支・経常収支、各目 GDP と実質 GDP、GDP デフレーター

2．国民所得決定の理論

需給不一致とその調整、45°線分析による国民所得決定の理論、消費関数と貯蓄関数、限界消費性向、限界貯蓄性向、外生変数と内生変数、財市場の均衡、有効需要の原理、乗数効果、乗数とは、政府支出乗数、投資乗数、租税乗数、均衡予算乗数の定理、所得決定理論への限定事項、投資の限界効率表

年
間
授
業
計
画

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>		
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)記述的な統計 (2)主要な確率分布 (3)統計的推定 (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『統計学 データから現実をさぐる』内田老鶴圃 池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果により評価する。 また、出席状況等も考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容を理解するためのノートと電卓が必要です。</p>		

1. 今年度の「統計学」の講義について
(キーワード:教科書・ノート・成績評価)
2. 統計的な考え方と例
(キーワード:国勢調査・品質管理・コンピュータ)
3. 統計学の発達と先駆者
(キーワード:コルモゴロフ・ピアソン・フィッシャー)
4. データの整理 1
(キーワード:尺度・平均値・標準偏差)
5. データの整理 2
(キーワード:中央値・最頻値・四分位数)
6. データの整理 3
(キーワード:度数分布表・ヒストグラム・階級値)
7. データの整理 4
(キーワード:簡便法・平均値・標準偏差)
8. データの整理 5
(キーワード:散布図・相関係数・回帰直線)
9. データの整理のまとめと演習
10. 確率と確率分布 1
(キーワード:順列と組み合わせ・互いに独立・条件付き確率)
11. 確率と確率分布 2
(キーワード:離散型確率変数・二項分布・漸化式)
12. 確率と確率分布 3
(キーワード:連続型確率変数・正規分布・標準化)
13. 前期試験の結果と前期の復習
14. 母集団と標本
(キーワード:標本調査・乱数・中心極限定理)
15. 統計的推定 1
(キーワード:区間推定・信頼係数・点推定)
16. 統計的推定 2
(キーワード:比率の推定・二項分布・サンプルサイズ)
17. 統計的推定 3
(キーワード:母平均の推定・正規分布・推定のまとめ)
18. 統計的仮説検定 1
(キーワード:帰無仮説・第1種の過誤・有意水準)
19. 統計的仮説検定 2
(キーワード:比率の仮説検定・比率の差の仮説検定・両側検定)
20. 統計的仮説検定 3
(キーワード: 2×2 の分割表・独立性の仮説・ $r \times s$ の分割表)
21. 統計的仮説検定 4
(キーワード:母平均の仮説検定・母平均の差の仮説検定・等分散の検定)
22. ノンパラメトリックな方法 1
(キーワード:スピアマンの順位相関係数・ケンドールの順位相関係数・適合度検定)
23. ノンパラメトリックな方法 2
(キーワード:符号検定・順位和検定・検定のまとめ)
24. 「統計学」のまとめ

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に適用していく方法について述べていく。</p>		
講義概要	<p>講義は年間を通して系統的かつ段階的に進めていく。</p> <p>(1) 記述統計と呼ばれる、データの整理の方法 (2) 確率の概念 (3) 確率分布の考え方 (4) 特殊な確率分布 (5) 標本分布の考え方 (6) 点推定や区間推定の考え方 (7) 統計的仮説検定の考え方 (8) 2変量の相関と回帰</p>		
使用教材	テキスト	本田 勝 :「基本統計学」(産業図書)	
	参考文献	講義時にそのつど指示	
評価方法	前期および後期の定期試験と、レポート、出席調査による総合評価を行なう。		
受講者に対する要望など	講義は指定の教科書にそって進めるが、教科書はあくまで補助であり、教室での講義が中心であるから、必ず講義に出席し、ノートに講義内容をまとめて欲しい。		

1. 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。
(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2. 標本として得られるデータの整理のしかたについて述べる。
位置の尺度のとらえかたなど。(度数分布、平均、中央値、最頻値)
3. ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のしかたについて述べる。
(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4. データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。
5. 確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。
(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6. 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。
確率に関する問題演習を行なう。
7. 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8. 確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9. 2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10. ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11. 連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12. 正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習
(標準正規分布)
13. 標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
14. 標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
15. カイ2乗分布およびスチューデントのt分布を説明したあと、標本分布の確率分布について述べる。
16. 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。
(不偏推定量、信頼係数)
17. 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習
18. 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
19. 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。
問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
20. 2変数間の相関とは何かについて述べる。
(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
21. 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
22. カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。
(適合度検定、分割表、独立性の検定)
23. ノンパラメトリック検定の考え方について述べる。
(符号検定、順位和の検定)
24. 一年間の総復習を行う。

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目標とするが、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めることにする。</p>				
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、単純回帰、初歩的な確率論を経て、確率分布までを扱う。既知の内容も多いと思うが、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものなので、後期の内容との関連の上で体系的に説明してゆきたい。後期は、統計的方法として様々な分野で応用される内容を含んでいる。すなわち、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計的応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 「統計学 データから現実をさぐる」 内田老鶴園</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われぬ。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道「現代数理統計学」創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。</td> </tr> </table>	テキスト	池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 「統計学 データから現実をさぐる」 内田老鶴園	参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われぬ。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道「現代数理統計学」創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。
テキスト	池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 「統計学 データから現実をさぐる」 内田老鶴園				
参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われぬ。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道「現代数理統計学」創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。				
評価方法	前・後期二回の期末試験による。				
受講者に對する要望など	講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。				

年 間 授 業 計 画	<p>1. 統計学とは何だろうか :</p> <p>(1) 統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかについて概説する。あわせて、統計学の位置づけや統計的な考え方についても述べたい。(2) 年間の授業の進め方、方針、その他。</p> <p>2. 統計学の考え方、データを記述する尺度 :</p> <p>(1) 統計的な見方、考え方とはどんなことか。(2) 変量(変数)と尺度。(3) データを記述する尺度について。</p> <p>3. データを記述する尺度 :</p> <p>(1) 位置と散らばりの尺度。(2) データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。(3) 度数分布表、ヒストグラムなど。</p> <p>4. 2つの変数の間の関係をさぐる - 1 :</p> <p>身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数と回帰。</p> <p>5. 2つの変数の間の関係をさぐる - 2 :</p> <p>2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線、重回帰。</p> <p>6. 確率 - 1 :</p> <p>(1) なぜ確率を学ぶか、どんな点に注意すべきか。(2) 確率を考える立場、用語、定義。</p> <p>7. 確率 - 2 :</p> <p>(1) 順列、組み合わせなど。(2) 独立性など事象についての諸概念。(3) 条件付き確率。ベイズの定理。(4) 復元抽出。非復元抽出。</p> <p>8. 確率分布 - 1 :</p> <p>(1) 確率の考えを借りて、試行(実験)の結果を分布という概念でとらえる。(2) 離散型確率分布 超幾何分布。</p> <p>9. 確率分布 - 2 :</p> <p>(1) 二項分布、ポアソン分布。(2) 確率分布の意味を再考し、一般化する。(3) 離散型確率分布の平均値と分散、期待値。</p> <p>10. 確率分布 - 3 :</p> <p>(1) 連続型確率分布 連続型確率分布の意味。(2) 正規分布 分布の形状、特徴その他。</p> <p>11. 正規分布 :</p> <p>データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。</p> <p>12. 正規分布ほか :</p> <p>(1) 二項分布の正規近似。(2) その他の連続分布。(3) 連続型確率分布の平均と分散(期待値)。</p> <p>13. 無作為標本(ランダム・サンプル)、母集団と標本 - 1 :</p> <p>母集団と標本の概念は、現代の統計学の柱組みを与えていて大変重要。(1) 無作為標本。(2) 乱数、無作為抽出法。(3) 母集団と標本、統計量、標本分布。</p> <p>14. 母集団と標本 - 2 :</p> <p>(1) 標本平均の標本分布、中央値の標本分布、一般に標本分布。(2) 中心極限定理。カイ2乗分布、t分布、F分布。</p> <p>15. 推定 - 1 :</p> <p>標本(サンプル)にもとづいて母集団のパラメータ(母数)を推定する方法とその意味。(1) 点推定。(2) 比率の区間推定。(3) サンプルの大きさについて。</p> <p>16. 推定 - 2 :</p> <p>(1) 正規分布の母平均μの区間推定。(2) なぜ標本平均を用いるか 推定量の意味、推定量の性質、推定量の比較。(3) 最尤推定法 データから母数を探る。</p> <p>17. 統計的仮説検定 - 1 :</p> <p>“仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うのか、まず、(1) 手法(考え方)の理解、次に、(2) 様々な場合への対応という点から理解してもらう。</p> <p>18. 統計的仮説検定 - 2 :</p> <p>(1) 比率の検定 考え方と手順。(2) 2×2 表 - 2×2 表にもとづく検定の意味。</p> <p>19. 統計的仮説検定 - 3 :</p> <p>(1) 2×2 表 モデルとの関連、タイプの異なる 2×2 表。(2) $r \times s$ 表。</p> <p>20. 統計的仮説検定 - 4 :</p> <p>正規分布の母平均の検定 母集団が1つの場合、母集団が2つの場合(平均の差の検定) その外に、相関係数の検定、分散の検定など。一般に統計的仮説検定を行う際の手続きと注意を具体例を通して、考えてみる。</p> <p>21. ノンパラメトリックな方法 - 1 :</p> <p>(1) ノンパラメトリックな方法とは? なぜノンパラメトリックな方法を用いるのか。(2) 順位相関係数。(3) 符号検定。</p> <p>22. ノンパラメトリックな方法 - 2 :</p> <p>順位にもとづく検定。</p> <p>23. ノンパラメトリックな方法 - 3 :</p> <p>適合度検定。</p> <p>24. 統計的推測 :</p> <p>(1) 統計的方法の柱組みの理解と様々な手法の関連を再考。(2) 後期のまとめ。</p>
----------------------------	--

科 目 名	情報処理概論	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>経済学部の学生が4年間の学習、研究生活を通して必要とされる情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習するためのものである。授業の予習、復習やレポートの作成、卒業論文製作などの際に、次のような手段を使うことができるようにする。</p> <p>文章は、ワープロを使用して作成する。必要な資料やデータは、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。E-mailを使って、情報交換、資料のやり取りをする。統計計算や会計計算を行ない、必要があればグラフを作成する。報告用、発表用の資料を、以上のような手段を組み合わせ作成する。プレゼンテーションをパソコンを使って行なう。住所録など個人用のデータベースを作成し管理する。</p>		
講 義 概 要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するために、ワープロソフト・表計算ソフトの使用法を始め、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、情報処理全般の基礎的なテーマを扱う。</p> <p>なお、各テーマの取り扱われる順序、時間配分については担当教員によって若干異なることがある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	獨協大学情報センター編「コンピュータ入門」	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>原則として、試験およびレポートを中心に評価する。出席は重要なポイントである。担当教員によって、評価の仕方が異なるので詳細は各教員に尋ねること。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>最初のうちは“習うより慣れる”で、繰り返しの練習（復習）が必要である。講義に連続性があり、積み重ねが大事なので、欠席や授業中の集中度の不足が無いように願いたい。</p>		

以下の項目は情報処理の必須として取り上げる項目である。取り上げる順序や時間数は、担当者によって多少異なることがある。

前 期

1. イントロダクション ガイダンス、センター案内、キーボード操作、マウス操作、フロッピーディスク、情報倫理
2. 文字の入力、タイピング練習（ソフト）
3. メモ帳（ソフト）による入力、ファイルを開く、ファイルを保存する
4. インターネット インターネットとは、WWW とは、URL を与えて聞かせる、テーマを与えて探させる
5. メール 説明と設定、メールの送信
6. メール メール返信
7. ペイント（ソフト） 拡張子
8. ワープロ 文書の入力、保存：メール 文書の添付
9. ワープロ 文字の編集（切り取り、イタリック、センタリングなど）
10. ワープロ 文字の装飾（網掛け、色など）
11. ワープロ 表の作成
12. ワープロとクリップアート、ワードアートの組み合わせ、印刷

年
間
授
業
計
画

後 期

1. 表計算の概要 ワークシート、ブック、セル、相対番地
2. データの入力 入力（表）、合計、平均
3. データの取り扱い 関数、平均、標準偏差、最大、最小
4. データの取り込み
5. クロス集計、検索
6. グラフ 棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート、散布図など
7. エクセルとワードの結合 ワードへの貼り付け（表、グラフ）
8. インターネットとエクセルの結合 ネットワーク上からのデータの取り込み
9. データベース データベースの作成、並べ替え
10. データベース データベースの管理、抽出、フィルタリング、集計
11. プレゼンテーション 文字情報の提示
12. プレゼンテーション 画像、グラフの提示

科目名	経営学(済)	担当者名	仙田幸子
-----	--------	------	------

講義の目標	この講義は経済学科の学生に経営学の概要をつかんでもらうことを目的としている。経営学の対象領域は極めて広く、方法論も多様であるが、この講義では(古典的)経営学説をレビューした上で、経営学を「人に関するマネジメント」「組織構造に関するマネジメント」「組織戦略」の3点から整理することで全体像をつかむことにする。		
講義概要	前期は(古典的)経営学説を概観する。経営学は企業が現実直面する課題を研究課題としながらこれまで発展を続けてきた。その発展の過程をたどることは学問的な思考のあり方について考える一助ともなるだろう。 後期は「人に関するマネジメント」「組織構造に関するマネジメント」「組織戦略」という3点から経営学をとらえる。		
使用教材	テキスト	北野利信「経営学説入門」有斐閣、1979、ISBN 4 - 641 - 08717 - 2 坂下昭宣「経営学への招待」白桃書房、1992、ISBN4 - 561 - 15091 - 9	
	参考文献	伊丹敬之・加護野忠男「ゼミナール経営学入門」日本経済新聞社、1993 ISBN4 - 532 - 13045 - X できるだけ参考文献も購入することが望ましい。	
評価方法	前期試験(40%) 後期試験(20%)を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。小テストの成績が特に良い者は期末試験を免除することも考えている。		
受講者に対する要望など	遅刻、私語、その他授業の妨げになることは慎むこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期ガイダンス 2. 科学的管理法とフォードシステム 3. 管理過程 4. 人間関係論とリーダーシップ 5. 自己実現と職務満足 6. 動機づけの過程 7. 近代組織論 8. 組織構造 9. 組織形態 10. 経営戦略 11. 労使の協調 12. 前期のまとめ 13. 後期ガイダンス 14. 企業の成長戦略 15. 企業の競争戦略 16. 企業の組織構造 17. 企業の組織形態 18. 企業の組織文化 19. 企業のインセンティブ・システム 20. 企業のリーダーシップ 21. 日本的経営の制度 22. 日本的経営の経営システム 23. 変貌する日本的経営 24. 後期のまとめ 		

科 目 名	経 営 学 (営)	担当者名	栗村英二 (半期)
-------	-------------	------	-------------

講 義 の 目 標	この講義は、以下の理由から入門「経営学」と位置づけられる。会社のなかでは、組織やそのはたらき、それをとりまく経済や社会がふくざつに絡み合っている。その結果、それをあつかう「経営」はとても範囲がひろくなる。「会社」は日本経済を動かす舞台であり、「経営」の理解なくしては日本経済がわからない。そこで、できるだけわかりやすく講義することを旨とする。		
講 義 概 要	前期後期交代による講義のため、前期後期開講時に講義概説を行う。概ね年間講義予定に従う。		
使 用 教 材	テキスト	開講時に指示する	
	参 考 文 献	『テラスで読む日本の経営』日本経済新聞社 『企業の倫理』三嶺書房 『現代マネジメント』同文館 『企業形態論』八千代出版 『経営管理』中央経済社 『経営情報システム』中央経済社 など	
評 価 方 法	前期・後期末の定期試験と、平常授業への出席状況による。出題傾向などは前期後期の最終授業で説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 半期授業計画の概説（概ね以下の内容に沿って講義する） 2. 経営とは何か 3. 管理とは何か 4. 企業とは何か 5. 企業形態とは何か 6. 組織とは何か 7. オフィスとは何か 8. 意思決定とは何か 9. 国際経営とは何か 10. マーケティングとは何か 11. 経営情報とは何か 12. 経営戦略とは何か 13. 経営財務とは何か...資金調達など 14. 株式会社とは何か 15. 日本の経営とは何か...日本の経営の三種の神器（終身雇用・年功序列・企業内組合） 16. グロバリゼーションとは何か...内なる国際化・眠らない企業・本当の国際化など 17. ベンチャー・ビジネスとは何か...誰もができるベンチャーなど 18. トップの条件とは何か...責任・正義感など 19. 人材とは何か...人材になろう 20. ネットワーク・ビジネスとは何か...マーケティングにおける新ビジネスなど 21. よい会社（美しい会社）とは何か...必要十分条件など 22. メセナとは何か...企業内・外環境への配慮など 23. 社会的責任とは何か...企業内・外環境への配慮など 24. ビジネスマンの異質・国際化の問題...外国人雇用・男女均等法など
----------------------------	---

科 目 名	経 営 学 (営)	担当者名	高松和幸 (半期)
-------	-------------	------	-------------

講 義 の 目 標	この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。		
講 義 概 要	前・後期交代による授業のため、開講時に講義レジメを配布して説明する。概ね年間授業内容に従う。		
使 用 教 材	テキスト	プリント配布予定。	
	参 考 文 献	その都度指示する。	
評 価 方 法	期末定期試験・平常授業の課題など		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. ベンチャー起業について..ここでは企業創業のプロセスについて学ぶ。企業創業のプロセスは、企業を起こそうとするヒト、つまり企業家の積極的な活動がなければ成立しない。企業家は、いかに創業機会を発見し、それをどのように企業創業に結びつけていくのか。そのあたりに焦点を当て、ビジネス・プランの策定を試みる。
2. 現代企業について..ここではアメリカの石油産業を支配したスタンダード・オイル社の歴史をみる。現代企業の誕生を水平的統合と垂直的統合という概念を使って説明する。そして企業の法的形態の変化と、所有と経営のあり方の変化についても言及する。
3. 環境と組織について..フォード社がどのようにして大衆車モデル Tを開発したのか、そしてアメリカの自動車産業を制覇した。フォード社は、なぜGM（ゼネラル・モーターズ）社に追い越されたのか。企業をとりまく環境と企業が採用する戦略、組織のあり方がどのように関連しているかについて言及する。
4. 新事業の創出について..新事業の創造は現代企業の宿命である。企業は新事業を創造し、若返りを図る。しかし、新しい事業を創造することは「生みの苦しみ」という困難を伴う作業である。ここでは具体例を通じて説明し、新事業を展開するさいの経営管理上の重要性を示唆する。
5. 競争戦略について..ここでは「競争戦略」について、具体例を通じて説明する。競争戦略とは、いかに競合他社に対して競争上の優位性を確立し、またそれを持続させていくのかを決定することをいう。戦略では、相手との「ちがいを作りだし、効果的かどうかをみることである。
6. M&A について..企業は外部資源を利用することで、内部資源の不足を補うことができる。M&Aは、他の企業の一部または全部を買い取ることで外部資源を利用する方法である。ここではソニーの事例を通して、M&Aの効果や経営問題について学習する。
7. 日本的経営について..終身雇用・年功序列などによる日本的経営の転換といわれて久しいが、この体制のなにを意味していたのか。少なくとも高度経済成長時には意味を持っていたのか。なぜ日本的という形容が付されるのか。これらについて、具体例を通じてロナルド・ドーアなどの見解をみることにする。
8. 寡占について..経済学では、市場に複雑だが少数の売り手が存在するとき、それを寡占と呼ぶ。とくに競争戦略などを考えるときには、この理論が前提とならなければならない。この理論的な問題は、一般にはゲーム理論を用いることになる。これによって、格段の情況理解を深めることをねらいとする。
9. よい会社とは何か..それぞれの会社はそうなりたいと願う「良い会社」のイメージがある。良い会社の客観的な基準を作るとなるとそれは難しい。結論からいうと「良い会社」の条件やウエートの置き方は、時代や国によって異なり、これが必要十分条件であるということはないということを探る。
10. 製品開発について..キャラクターを交換することで遊びを創出した「ポケットモンスター」は、社会問題まで巻き起こしながら大ヒット商品となった。その製品開発までの軌跡を辿ることで、つまらないものには見向きもしない子供たちを相手に成功した要因を探る。
11. ネットワーク組織について..企業が、そのときどきに市場に求められているモノやサービスを生産し供給することを「マーケットイン」という。そのためには市場に柔軟に対応できる組織が求められる。一般にはこのような仕組みをもつ組織をネットワーク組織と呼んでいる。
12. 会社は誰のものか..ここでは現代企業の行動とそのコントロールについて考える。それは株主を重視するアメリカの会社観と、株主をそれほど重視しない日本の会社観の問題をみることにする。今日の企業経営のあり方において、その支配形態である株式会社は、経営者や株主はどのように位置付けられるのか。
13. 企業文化..沈滞している会社の社長や中間管理職が社員たちのムードや考え方の枠組みを変えると、企業全体の活動が見違えるほど生き生きとすることがある。それは企業のトップやミドルたちが組織全体の価値観を変えたりすることで、活性化されるからである。この企業独自価値観や考え方、行動パターンを「企業文化」という。具体例を通じて、企業文化の変遷、組織活性の実態などについて考える。

科目名	経営学(営)	担当者名	富田忠義(半期)
-----	--------	------	----------

講義の目標	<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさとを両立させたいと考えている。本講義は「経営学入門の入門」である。</p>		
講義概要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を激動する企業環境と関連させて概説して、全体として、現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p>	
	参考文献	<p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典(第3版)』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門(増補版)』同文館</p>	
評価方法	<p>期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。 定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというのではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>		

年
間
授
業
計
画

1. 授業計画の概説
2. 経営学の研究対象
3. 経営学の研究方法
4. 経営と管理、機能と機関
5. 企業形態
6. 企業体制
7. 企業集団と企業間関係
8. 企業経営の目的と目標
9. 経営社会責任と経営理念
10. 企業の経営環境
11. 市場と経営戦略
12. 授業のまとめ

科目名	経営学(営)	担当者名	西川純子(半期)
-----	--------	------	----------

講義の目標	経営学の入門講座。基礎的な知識を与えながら、学生諸君の経営学への興味をかき立てていくような講義を心掛けたい。		
講義概要	歴史的な考証、理論的な整理、現状分析など、いろいろな方法を用いながら、企業を中心にその社会における役割を検討する。		
使用教材	テキスト	特に定めない。	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	筆記試験		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業家、資本家、経営者 / 序論 三題晰 2. 営業の自由 / 企業者精神の発露は営業の自由なしには不可能である。 3. 自由と競争 / アダム・スミスの世界 4. 資本家と労働者 / カール・マルクスの世界 5. 株式会社 6. 競争と独占 7. 市場 8. 所有と経営の分離 / パーリー・ミーンスの問題提起 9. 財閥と企業集団 10. 企業系列 11. 多国籍企業 12. 日本的企業 		

科目名	簿記原理	担当者名	井出 健二郎
-----	------	------	--------

講義の目標	<p>この企業は良い・悪い、就職したい・そうでない...と評価するモノサシには何があるでしょうか？ それは色々と考えられますが、どれだけもうかっているか、いくら借金があるかというおカネのモノサシがあるでしょう。そのモノサシを作るもの...それが簿記です。</p> <p>また、皆さんが就職される際、評価されるものは何でしょうか？おそらく、第一は個人のキャラクターが左右されますが、資格の有無もポイントです。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記をもとにした資格です。また、海外志向の方は、アメリカ会計士などもあります。簿記のしくみを知ってもらい、皆さんのプラスとなるようにすることが本講義の目的です。</p>		
講義概要	<p>前期では、簿記がどうして役立つか、どのような目的があるかを説明します。続いて、簿記の大きな流れをひとつおり講義をしていきます。その場合、用語の説明、手順の紹介を行うと同時に、皆さんにも実際に作業してもらいます。</p> <p>後期では、前期での簿記の大きな流れをもとにしつつ、細かいポイントについて説明し、作業してもらいます。その結果として総合的な簿記の全体を講義します。さらに、検定試験（11月、2月）向けの対策をも考慮して問題などをできる限り解いていくことにします。</p>		
使用教材	テキスト	開講時までに確定します。	
	参考文献	<p>a、染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 b、会田一雄・中村泰将・百瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 c、小川 洵共著『簿記の基礎』創成社</p> <p>電卓（10ケタ以上のもの）を必ず用意してください。</p>	
評価方法	通常の出席状況をもとに試験（前期テスト・後期テスト）をふまえたうえで総合評価していきます。なお、資格を取得された方についてボーナス評価を行うつもりです。		
受講者に対する要望など	何か1つくらい資格を...と考えている他学部の方も歓迎しています。初心者も前提とし、できる限りわかりやすく、皆さんをひきつけられる講義を心がけます。皆さん自身も“この講義をうけて得るものが多かった”と充実感の残るようにしましょう。		

年 間 授 業 計 画	<p>前期講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の諸目的と種類について 2. 簿記の基本等式と基本概念について 3. 簿記上の取引とその記録について 4. 簿記上の取引の勘定記入について 5. 簿記のプロセス 1 : 仕訳について 6. 簿記のプロセス 2 : (元帳) 転記について 7. 帳簿記入と伝票について 8. 簿記のプロセス 3 : 試算表について 9. 簿記のプロセス 4 : 精算表について 10. 簿記のプロセス 5 : 決算手続について 11. 簿記のプロセス 6 : 財務諸表の作成について 12. 簿記のプロセスの復習と前期のまとめ <p>備考 随時、検定試験の対策をとっていきます。</p>
	<p>後期講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 前期講義内容の復習 14. 現金・預金・商品売買取引に関する簿記 15. 売掛金、買掛金、その他の債権・債務に関する簿記 16. 手形取引に関する簿記 17. 貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記 18. 有価証券、固定資産に関する簿記 19. 費用・収益に関する簿記 20. 資本と税金に関する簿記 21. 決算手続についての簿記 1 22. 決算手続についての簿記 2 23. 財務諸表の作成について 24. 簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり <p>備考 進度によって若干の変更があります。</p> <p>進度によっては、さらに上級の簿記（検定試験 2 級）に役立つよう工業簿記・原価計算のイントロダクションをも説明していきます。</p>

科目名	簿記原理	担当者名	氏原茂樹
-----	------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、簿記の初学者向けに基礎知識から専門知識まで理解可能なように易しく説明します。簿記の知識を修得するためには、まず、基礎概念の構築が必要であり、それを土台にして専門知識の高度化をはかることとなります。</p> <p>簿記は、技術的処理を中心とする科目ですが、その技術的処理は会計理論にもとづいているので、両面から理解が深められるように詳細な説明を行いません。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 企業の経済活動を仕訳にもとづいて、仕訳帳・元帳に記帳でき、試算表、6桁精算表、損益計算書、貸借対照表の作成方法が理解できるように簿記の基本原則を学びます。 ・後期 前期に学んだ簿記の基本原則にもとづき、特殊な取引に関する簿記処理を学習します。 ・講義のレベルは、日本商工会議所の簿記検定試験の商業簿記・3級程度となります。 		
使用教材	テキスト	氏原茂樹著「簿記の基礎詳解」税務経理協会	
	参考文献	平松一夫編著「商業簿記3級、ワーク・ブック」税務経理協会	
評価方法	定期試験	出席率	学習態度等
受講者に対する要望など	遅刻をしない	予習・復習をする	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資産・負債・資本 2. 収益・費用 3. 取引・仕訳 4. 転記・伝票 5. 仕訳帳・総勘定元帳 6. 試算表 7. 精算表 8. 決算手続 9. 現金・預金 10. 小口現金 11. 商品勘定と3分法(1) 12. 商品勘定と3分法(2) 13. 仕入帳・売上帳 14. 商品有高帳 15. 売掛金と買掛金 16. 手形取引 17. 貸倒償却と貸倒引当金 18. 有価証券 19. 固定資産と減価償却 20. その他の債権・債務 21. 個人企業の資本金 22. 決算整理 23. 8桁精算表 24. 損益計算書と貸借対照表 	<p>基礎概念と簿記処理</p> <p>基礎概念と簿記処理</p> <p>取引要素と仕訳の方法</p> <p>転記の方法と伝票の記入</p> <p>仕訳帳・総勘定元帳への記入</p> <p>試算表の機能と作成方法</p> <p>精算表の機能と作成方法</p> <p>決算の予備手続と本手続</p> <p>現金等の内容と処理</p> <p>小口現金の内容と処理</p> <p>分記法、総記法、3分法による仕訳</p> <p>分記法、総記法、3分法の決算処理</p> <p>仕入帳・売上帳の機能と記帳方法</p> <p>商品有高帳の機能と記帳方法</p> <p>売掛金元帳と買掛金元帳</p> <p>約束手形と為替手形の処理</p> <p>貸倒償却と貸倒引当金の内容と処理</p> <p>有価証券の内容と処理</p> <p>固定資産と減価償却の内容と処理</p> <p>その他の債権・債務の内容と処理</p> <p>個人企業の資本金の内容と処理</p> <p>決算整理の内容と処理</p> <p>8桁精算表の機能と作成方法</p> <p>損益計算書と貸借対照表の機能と作成方法</p>	

科目名	簿記原理	担当者名	内倉 滋
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」とであると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがあるわけであるが、その基本的な原理を習得することが本講義の目標である。そうした、言葉の構造を純粹に形式的に解明していく分野を、自然言語の世界では「構文論」と呼ぶのであるが、尝试してみるならば「会計言語」における構文論が本講義である、ということとなろう。</p>		
講義概要	<p>会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「構文論」として講義すべき中身もまた、講義担当者によって大きく変わるものではない。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に講義していきたいと考えている。まず前期で、決算整理を含まない、「分記法」を前提とした(=要するに基本的で最も簡単な、ということである)「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱う。そして後期に、その内容に「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを付け加えていき、その中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくこととしたい。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	特に必要とはいたしません。	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また受講生の理解度を知る目的からも、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>検定試験類に、どしどしチャレンジしてみてください。合格した場合は、平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。</p>		

1. 貸借対照表.....簿記の目的、資本、貸借対照表の内容
2. 損益計算書.....簿記の第2目的の達成方法、損益計算書等式（損益計算書）
3. 「取引」の記録.....期首貸借対照表と「取引」の記録からの貸借対照表と損益計算書との作成、「取引」記録のルール
4. 仕訳.....仕訳とは？、設例による説明
5. 勘定口座.....その必要性、勘定口座の形式、勘定口座への記入ルール
6. 仕訳帳と元帳.....仕訳帳（形式、「摘要」欄、「元丁」欄）、元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」）3伝票制
7. 試算表.....決算（決算予備手続き、決算本手続、財務諸表の作成）、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
8. 精算表.....仮設例の提示（次回と共通）精算表の原理
9. 「勘定の振替え」という技法について.....定義、具体例による説明
10. 決算本手続（帳簿決算）その1：純損益の振替.....帳簿決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正）資本金勘定を正しい値に修正するための第1の方法、その第2の方法
11. 決算本手続（帳簿決算）その2：帳簿の締切りと繰越試算表.....繰越試算表（その必要性等）勘定口座の締切り（参考：大陸式決算法）、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成
12. 前期の総復習.....同形式の問題により、前期末試験の予行演習
13. 現金・貯金の記重...現金（簿記上の現金概念、現金過不足の処理）、当座貯金（特徴、当座借越、当座預金出納帳）、小口現金（小口現金勘定、小口現金出納帳）
14. 商品売上の記帳（3分法その1）.....設例の提示、“修正された”分記法、3分法（2つの仮定を導入、期末に在庫が有る時の問題、売上時の処理）
15. 3分法（その2）.....3分法の復習、値引・返品の処理、諸経費の処理（買主負担の場合〔仕入諸掛〕、売上負担の場合〔発送費〕）
16. 3分法（その3：仕入帳・売上帳）.....帳簿の種類（主要簿、補助簿〔補助元帳、補助記入帳〕）、仕入帳・売上帳（補助元帳でない理由、記帳上の留意点）
17. 商品有高帳.....その必要性、その位置付け（3分法では存在しない「商品」勘定の「補助元帳」）、移動平均法、先入先出法
18. 掛け売買と固定資産の記帳.....掛け売買の記帳（売掛金〔買掛金〕元帳、貸倒れ）、固定資産の記帳（固定資産の意味、種類、固定資産台帳）
19. 決算整理その1（3分法関係）.....決算整理とは、3分法関係の「決算整理仕訳」と「決算振替仕訳」の例
20. 決算整理その2（貸倒れの見越し・減価償却）.....貸倒れの見越し（意義、原理、償却債権の取立て）、減価償却（意義、毎期の減価償却〔定額法〕、仕訳方法、売却時の処理）
21. 8桁精算表と損益計算書・貸借対照表.....8桁精算表（6桁精算表の限界、8桁精算表の原理）、損益計算書（仕入勘定等の表示、区分式）、貸借対照表（評価勘定の表示等）
22. 手形の記帳.....手形の種類、簿記上の勘定、為替手形振出しの説明、手形の裏書譲渡（意義等、割引）、受取手形記入帳・支払手形記入帳
23. 決算整理その3（収益・費用の繰延べ・見越し）.....設例の提示、収益・費用の繰延べ、収益・費用の見越し
24. その他の期中取引および決算整理事項等.....その他の債権・債務の処理（商品券等）、個人企業の資本の記帳、有価証券の期末評価、消耗品の処理

科 目 名	簿 記 原 理	担当者名	岡 下 敏
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>企業は、自社の情報を外部に公表することが求められている。そのため、日頃から公表する情報を作成するのに必要な資料を集めているが、そのために用いられる記録の仕方が簿記である。講義は、簿記の最も基本的な部分を体系的に解説することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>簿記では、記述する順番と記録する形がきまっている。その順番と形を、はじめから順に講義するが、本講義で明らかにすることは、将来どのような高いレベル又は部門の簿記を学習するにしても、全く変わることはない。練習問題を多く用いることになるであろう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	岡下 敏著『簿記の要点』(同文館出版 KK、平成 8 年)	
	参 考 文 献	沼田嘉穂著『簿記教科書』(同文館出版 KK、平成 8 年)	
評 価 方 法	<p>前期・後期ともに定期試験を行うが、後期の成績を特に重視する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>予習・復習を十分に行い、欠席しないこと。私語をつつしむこと。</p>		

1. 企業が情報を公表することの社会的意味
2. 公表する情報（計算書）の種類と記載内容 損益計算書及び貸借対照表
3. 簿記の記録法としての特徴 加算のみを用い、減算は用いない すべて二つの要素に分けて同額ずつ左右に記録する
4. 簿記でいう「取引」の意味 資産、負債、資本、収益、費用が増減する事象
5. 「取引」発生順の記録（仕訳）とその記録上の約束
6. 項目別（勘定科目別）の記録への転換とその約束
7. 簿記での検算の仕方（合計試算表を中心に）
8. 公表する計算書に記載する勘定科目及びその金額の検算方法（残高試算表）
9. 下書き（精算表）の作り方 6桁精算表
10. 日頃の記録の結末のつけ方（仕訳帳、総勘定元帳の締切り）
11. 勘定科目の学習(1) 現金、当座預金、小口現金
12. 勘定科目の学習(2) 仕入、売上、買掛金、売掛金
13. 勘定科目の学習(3) 受取手形と支払手形
14. 勘定科目の学習(4) 有価証券、備品、建物等
15. 勘定科目の学習(5) その他の債権と債務
16. 決算整理(1) その意味と処理手順（8桁精算表）
17. 決算整理(2) 仕入勘定の整理
18. 決算整理(3) 収益及び費用勘定の整理
19. 決算整理(4) 備品、建物勘定等の整理（減価償却）
20. 決算整理(5) 債券勘定の整理（貸倒れについて）
21. 決算整理(6) 有価証券勘定の整理
22. 練習問題を用いてのまとめ(1)
23. 練習問題を用いてのまとめ(2)
24. 練習問題を用いてのまとめ(3)

科目名	簿記原理	担当者名	香取 徹
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済学部の学生にとって簿記は必ず身につけておかなければならない基本的な科目です。将来、どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠です。また、財務会計論・管理会計論・原価計算論・経営分析論・会計監査論・税務会計論といった会計学に関連する科目を学んでいく上ではとても重要な基礎となります。そこで、この講義では、日本商工会議所簿記検定3級程度を完全に網羅したいと考えています。</p>		
講義概要	<p>前期の講義では、簿記一巡の手続きを理解することを目標とする。簿記の意義と目的、複式簿記の原則、取引・勘定・仕訳とは、試算表と精算表、決算の手続き。</p> <p>後期は勘定科目、補助簿、決算整理事項による決算の手続きを理解することを目標とする。現金・預金、商品、買掛金・売掛金、受取手形・支払手形、有価証券、固定資産と減価償却、資本金、費用収益の見越・繰延。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ New Concept 日商簿記検定試験 商業簿記3級 税務経理協会 ・ 同 ワークブック 	
	参考文献		
評価方法	定期試験による評価		
受講者に対する要望など	検定試験にどんどんチャレンジして下さい。合格したら試験の点数に加算します。		

年 間 授 業 計 画	複式簿記の基礎
	第1週 1 簿記の基礎概念
	第2週 2 資産・負債・資本と貸借対照表
	第3週 3 収益・費用と損益計算書
	第4週 4 取引と勘定
	第5週 5 仕訳と転記
	第6週 6 仕訳帳と総勘定元帳
	第7週 7 試算表と精算表
	第8週 8 決算手続
	取引の処理
	第10週 9 三分法による商品売買
	第11週 "
	第12週 10 仕入帳・売上帳・商品有高帳
	第13週 11 現金と預金 12 有価証券
	第14週 13 売掛金と買掛金 14 その他の債権・債務
	第15週 15 手形
	第16週 16 貸倒れと貸倒引当金
	第17週 17 有形固定資産 18 資本金と引出金
	第18週 19 費用・収益の見越・繰延
	決算と財務諸表
	第19週 20 試算表の作成
	第20週 21 決算整理と仕訳の訂正
	第21週 22 精算表の作成
	第22週 23 帳簿組織と伝票会計
第23週 24 貸借対照表と損益計算書	
第24週 "	

科目名	簿記原理	担当者名	中村泰将
-----	------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータの発達により、計算技術的に迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の成果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。</p>
講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A["(1) 経済活動"] --> B["(2) 簿記上の取引"] B --> C["(3) 分類・記録・計算"] C --> D["(4) 試算表"] D --> E["(5) 損益計算書"] D --> F["(6) 貸借対照表"] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>染谷恭次郎著『商業簿記』 基礎と実践 実教出版社 問題のプリントも併せて使用する。</p>
	<p>参考文献</p> <p>簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。 ・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社</p>
評価方法	<p>前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。</p>
受講者に対する要望など	<p>出欠は自由であるが、1回欠席すれば、それなりのリスクを伴うので授業に出席することが簿記を習得するための要である。</p>

年 間 授 業 計 画	<p>1. 簿記とは何かを理解する</p> <p>2. (1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素</p> <p>3. (1) 簿記上の取引の意味と種類 (2) 取引の8要素 (3) 資産・負債・資本の増減変化表の作成</p> <p>4. (1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのように計算するか</p> <p>5. (1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する</p> <p>6. 第5回までの一連のプロセス 取引 仕訳帳 元帳 ?</p> <p>7. 試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) どのような目的で試算表を作成するか</p> <p>8. 精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する</p> <p>9. 決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か</p> <p>10. (2) 決算の手続 予備手続と本手続 (3) 元帳の締切</p> <p>11. 決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 利益を資本金勘定に振り替える</p> <p>12. (3) 資産、負債、資本の勘定を締め切る</p> <p>備考 前期を以て簿記のワンサイクルが終了し、後期より個別の項目についてより詳しい簿記の処理(仕訳)と補助簿の作成を勉強する。</p> <p>13. 現金と預金の処理</p> <p>14. 商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割</p> <p>15. (3) 商品有高帳の作成</p> <p>16. (4) 仕入帳と売上帳の作成</p> <p>17. 有価証券の購入・保有・売却の処理</p> <p>18. 固定資産の購入・利用・修繕・処分の処理</p> <p>19. 債権・債務の処理(1)</p> <p>20. その他の債権・債務(2)</p> <p>21. 資本金の処理</p> <p>22. 決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用と前受収益</p> <p>23. 決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用</p> <p>24. 決算の修正手続(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成</p>
----------------------------	---

科目名	簿記原理	担当者名	細田 哲
-----	------	------	------

講義の目標	<p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続について理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続を遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式簿記とは ・簿記の仕組み ・試算表と精算表 ・決算() <p>後期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現金・預金取引の記帳 ・商品売買取引の記帳 ・手形取引の記帳 ・その他の取引の記帳 ・決算()決算整理 ・損益計算書と貸借対照表の作成 		
使用教材	テキスト	中村 忠「新訂・現代簿記」白桃書房	
	参考文献	平松一夫（編著）「New Concept 日商検定 商業簿記3級」(税務経理協会)	
評価方法	年2回以上の試験の結果による。		
受講者に対する要望など			

- 1. 1. 複式簿記とは(1) a) 簿記の目的と種類
- 2. " (2) b) 簿記の要素
- 3. 2. 簿記の仕組み(1) a) 取引と勘定、b) 勘定記入法
- 4. " (2) "
- 5. " (3) c) 仕訳と転記、d) 仕訳帳と総勘定元帳
- 6. " (4) "
- 7. 3. 試算表と精算表 (1) a) 試算表の作成、b) 精算表の作成
- 8. " (2) "
- 9. 4. 決算 () (1) a) 決算の意味と手続
- 10. " (2) b) 大陸式決算法、c) 英米式決算法
- 11. " (3) "
- 12. " (4) d) 損益計算書と貸借対照表の作成
e) 開始記入
- 13. 5. 現金・預金取引の記帳
- 14. 5. 商品売買取引の記帳(1) a) 分記法、3分法
- 15. 6. " (2) b) 仕入帳と売上帳、c) 商品有高帳
- 16. 6. " (3) "
d) 掛取引の記帳
- 17. 7. 手形取引の記帳 (1) a) 約束手形と為替手形、b) 受取手形勘定と支払手形勘定
c) 手形の裏書と割引
- 18. " (2) d) 受取手形記入帳と支払手形記入帳
e) 不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金
- 19. 8. その他の取引の記帳 a) その他の債権、債務取引、b) 有価証券取引
b) 固定資産取引、d) 営業費等の取引
- 20. 9. 決算()決算整理 (1) a) 決算整理の意味
b) 棚卸消耗損および商品評価損
- 21. " (2) c) 有価証券評価額
d) 固定資産の減価償却
- 22. " (3) e) 費用・収益の繰延べと見越し
f) 8桁積算表の作成
- 23. " (4) "
- 24. 損益計算書と貸借対照表の作成

科目名	簿記原理	担当者名	百瀬 房徳
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。</p>		
講義概要	<p>複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	1 年間における講義内容の説明。
	2	複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。
	3	仕訳の基本原理および取引勘定への転記。
	4	補助簿への記入、および試算表の作成原理。
	5	精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。
	6	取り引きパターン別仕訳例の説明。
	7	パターン別に仕分けされた例の勘定への転記。
	8	例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。
	9	例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。
	10	練習問題 取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。
	11	練習問題 試算表の作成および精算表の作成。
	12	練習問題 元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。
	備考	
	後 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	現金勘定と現金出納帳。
	2	当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。
	3	商品勘定の記入方法...単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。
	4	仕訳勘定と売上勘定...返品と値引きおよび商品の仕入価額。
	5	仕入勘定と仕分勘定および売上勘定と売上帳
	6	繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。
	7	売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。
	8	受取手形勘定と受け取り手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。
9	その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。	
10	固定資産の諸勘定...特に減価償却に関する処理。	
11	決算前の諸勘定の整理について。	
12	決算...勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。	
備考		

科目名	簿記原理	担当者名	湯田雅夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗に応じて教科書の「練習問題 A」および「練習問題 B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷武夫『日商簿記検定 3 級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・渋谷武夫『日商簿記検定 2 級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・小川 冽・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会、1984 	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の 2 回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		

1. イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方
2. 簿記の歴史
3. 第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表
4. 第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書
5. 第4章 取引；第5章 勘定
6. 第6章 仕訳と転記
7. 第7章 帳簿
8. 第8章 簿記一巡の手続き
9. 第9章 現金預金
10. 第10章 商品売買
11. 第10章 商品売買
12. 第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金
13. 第13章 その他の債権・債務
14. 第14章 手形
15. 第15章 貸倒れと貸倒引当金
16. 第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金
17. 第18章 収益・費用の繰延と見越
18. 第19章 決算予備手続
19. 第19章 問題
20. 第20章 決算本手続
21. 第20章 決算本手続
22. 第20章 問題
23. 総合問題
24. 本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。

科 目 名	英語（会話）(一外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------	------	-----------

講義の目標	自然なスピードの英語をビデオから選られる視覚的情報を利用しながら理解し、また、基本的な日常英会話が行なえるようになることを目標とする。		
講義概要	ビデオを見てその内容を理解し、テキストにのっているスクリプトで内容の確認を行なう。また、ドリルとして、スクリプトからとった重要会話表現のリピートをする。さらに、さまざまな疑問文の作り方、文型練習などを行なう。毎回学習した内容の確認として最後に True-False Quiz を行なう。		
使用教材	テキスト	<i>Family Album, USA</i>	
	参考文献		
評価方法	前後期定期試験としてビデオを使ったヒアリングテストを行なう。これに加え毎週実施する True-False Quiz , 出席、平常点などをもとに評価を行なう。特に遅刻せず授業に出席することが重要である。		
受講者に対する要望など	テキスト及び 60 分のテープを毎回持ってくること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Episode 1, Act 1 2 . Episode 1, Act 2 3 . Episode 1, Act 3 4 . Episode 2, Act 1 5 . Episode 2, Act 2 6 . Episode 2, Act 3 7 . Episode 3, Act 1 8 . Episode 3, Act 2 9 . Episode 3, Act 3 10 . Episode 4, Act 1 11 . Episode 4, Act 2 12 . Episode 4, Act 3 の概説及び復習 13 . Episode 5, Act 1 14 . Episode 5, Act 2 15 . Episode 5, Act 3 16 . Episode 6, Act 1 17 . Episode 6, Act 2 18 . Episode 6, Act 3 19 . Episode 7, Act 1 20 . Episode 7, Act 2 21 . Episode 7, Act 3 22 . Episode 8, Act 1 23 . Episode 8, Act 2 24 . Episode 8, Act 3 の概説及び復習 		

科 目 名	英語（講読）(一外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	本講義は、英語で書かれた小説、随筆、雑誌、新聞など様々な文章を読みこなすことができる読解力の基礎を養うことを目標とする。		
講 義 概 要	講義は、学生の英語力を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、読解力をつけるために訳読、要約、文法など総合的に学ぶ。		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が決める。	
	参 考 文 献	各担当教員の指示による。	
評 価 方 法	各担当教員による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習、復習を欠かさず、積極的に学習して欲しい。 年間講義予定については、授業時に指示する。		

科 目 名	ドイツ語（二外）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	----------	------	-----------

講義の目標	<p>A（基礎）/ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。</p> <p>B（読解練習）/読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。</p> <p>C（口頭練習）/日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。</p> <p>Aを中心に、AとB、またはAとCというように組み合わせて履修して下さい。</p>		
講義概要	<p>A（基礎）/ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。</p> <p>B（読解練習）/易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。</p> <p>C（口頭練習）/コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。</p>		
使用教材	テキスト	詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参考文献	・独和辞典（中型のもの）	
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受講者に対する要望など	練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。		
年間授業計画	<p>1. 第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。</p> <p>2. 第2週～第24週は、テキストに基づいた練習。</p>		

科 目 名	フランス語 (二外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	フランス語の基礎的文法を習得し、簡単なテキストを読む力をつけます。		
講 義 概 要	フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば、習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けて下さい。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	各担当者による（場合によっては、二人の担当で共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認して下さい）。	
	参 考 文 献	初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、担当者の説明を聞いて購入して下さい。 その他の参考書については、担当者に直接相談して下さい。	
評 価 方 法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	どの学習もそうですが、とくに語学では持続的な積み重ねが大切です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力して下さい。		

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語入門の授業である。基礎的文法を、基本単語を用いた会話文を通して学ぶ。声に出して練習することによって、あいさつ文、現在形を使う文、過去形を使う文まで学びたい。		
講義概要	テキストにそって、第 6 課（点過去）あるいは第 7 課まで進む。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年 2 回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（会話）との同時履修を望む。		
年間授業計画	1. テキストにそって第 1 課から第 3 課あるいは第 4 課まで前期でおこなう。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキストにそって第 4 課から第 6 課あるいは第 7 課まで後期でおこなう。 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	スペイン語（会話）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語会話入門の授業である。基本単語を用いた会話文を練習し、あいさつ文、現在形の文、過去形の文までを使えるようにする。		
講義概要	スペイン語（総合）と同じテキストを使い、その進度にあわせながら、会話練習をおこなう。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（総合）との同時履修を望む。		
年 間 授 業 計 画	1. テキストにそって第1課から第3課あるいは第4課まで（前期） 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキストにそって第4課から第6課あるいは第7課まで（後期） 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	ロシア語（講読）	担当者名	井 上 幸 義
-------	----------	------	---------

講義の目標	複雑な構造のロシア語の骨組を、講読を通してつかみ、できるだけロシア語に慣れることを目標とします。		
講義概要	全くの初学者を対象としています。前期は文法の授業と並行して文法の教科書に従って進め、名詞の格変化、動詞の現在人称変化がおおよそ理解できるようにします。後期は、前期で学んだ文法知識の応用として、簡単なテキストによる講読を行ない、基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくり、ていねいに進めます。		
使用教材	テキスト	プリント教材	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	前後期各1回の試験及び授業の出席の割合によって決定します。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	前期は、キリル文字のつづり、発音から始め、動詞の不定形と現在人称変化、名詞の格変化、形容詞の性・数変化、場所の用法を学ぶ。後期は、簡単なテキストの講読を行なう。講読の教材は、教科書及びプリント。		

科 目 名	ロシア語（文法）	担当者名	井 上 幸 義
-------	----------	------	---------

講義の目標	単語の活用が多く、一見取っつきにくいロシア語の骨組を、文法を通してつかみ、できるだけロシア語に慣れることを目標とします。		
講義概要	全くの初学者を対象としています。キリル文字（アルファベット）、発音から始めます。文法の教科書にしたがって、名詞の格変化、動詞の現在人称変化、過去時称形、未来形などを中心に学び、最も基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくり、ていねいに進めます。		
使用教材	テキスト	『はじめてのロシア語』（桑野隆著、白水社）	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	前後期各1回の試験及び授業の出席の割合によって決定します。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	前期は、キリル文字のつづり、発音から始め、動詞の不定形と現在人称変化、名詞の格変化を学ぶ。後期は、過去時称形、名詞の格変化の続き、未来形、形容詞の変化を学ぶ。		

科 目 名	中国語（講読）	担当者名	秦 敏
-------	---------	------	-----

講義の目標	初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。正確な発音と初歩的な文法が身につく、ある程度の読解力を身につけることを目標とします。		
講義概要	講義の内容は発音から始まり、簡単な挨拶、自己紹介など初級段階で必要と思われる重要表現項目をテキストの例文を使って覚え、文法は例文を学ぶことによって理解を深める。		
使用教材	テキスト	榎本英雄「できる中国語」同学社	
	参考文献		
評価方法	前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。		
受講者に対する要望など	復習と予習することを望みます。		

科 目 名	中国語（講読）	担当者名	陳 跡
-------	---------	------	-----

講義の目標	この講義の内容は、中国語の基礎知識（発音、文法、文の構造等）の習得を中心として、聴く力と会話力の学習を第一目標とする。		
講義概要	発音は初心者にとって最も難しい課題である。中国語独特の音声で、日本語の音声体系にないもの、つまり、四声 四種の調子音や、その他の特に注意すべき子音と母音の読み方を、集中的に練習する。言葉は、コミュニケーションの手段の一つである。初級中国語の授業は簡単で実用的な言葉や短い会話を用いて行う。		
使用教材	テキスト	“見る・聞く・話す 中国語ネットワーク” 荒屋 勤 / 尹 景春 / 岡部謙治 朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	成績評価に当たっては、平常点と最終試験をほぼ均等に扱う		
受講者に対する要望など	履修者の出席と復習を期待します		

科目名	中国語 I (文法)	担当者名	張 繼 濱
-----	------------	------	-------

講義の目標	総合的な語学能力を養成することを目標とします。		
講義概要	一年間で中国語の基本をマスターするようにします。中国語の発音体系の習得から始めて、基礎文化、簡単な会話を身につけるように努力してほしい。		
使用教材	テキスト	Basic Chinese	
	参考文献		
評価方法	授業中の学習態度、出席、テストなどを総合評価する。		
受講者に対する要望など	予習、復習を行うこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一回の授業中に指示する。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科目名	中国語（文法）	担当者名	頼 明
-----	---------	------	-----

講義の目標	<p>一つの外国語をマスターするには、書く・聞く・話すの三つがともにできなくてはならない。この授業では、発音に力を入れ、特に前期においては、中国語の発音表記である「ピンイン」のマスターに重点を置く。授業では各課の本文を正確な音で発音でき、かつ暗記できることを目指す。テキストには CD 付きの教材を採用し、学生が普段自宅において容易にヒアリング・発音の練習ができるようにする。さらに応用力が付くように、必要な文法事項について説明を行い、各課で出現した文法事項を生かした作文ができることを目指す。</p>		
講義概要	<p>テキストに沿って授業を進める。前期においては四百あまりある中国語の音節の習得に力を入れ、中国語の発音表記である「ピンイン」を多用した授業を行う。この段階では特にヒアリングと実際の発音が重要である。</p> <p>次の段階では、各課のテキストの内容に沿って、実用的な中国語の表現について学習する。授業では全体で繰り返し発音練習を行った上で、個別に学生を中心とした会話形式の発音練習を行う。さらに、各課で出現した文法事項について説明し、それを生かした作文練習をする。</p> <p>理解度を確認するため毎回小テストを行う。</p>		
使用教材	テキスト	中村俊也・謝謀・綾部武彦・頼明著 『みんなで中国語』朝日出版	
	参考文献	授業で必要に応じて紹介する。	
評価方法	出席率・授業態度を平常点として、小テストや前後期の筆記試験を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	特に出席を重視する。授業で学んだことは CD を生かして、次の授業までに暗記する。疑問点は積極的に質問する。		

1. 中国、中国語を紹介し、中国語を学ぶ上での留意点や同じ漢字圏に属する私達が特に注意すべき事項について紹介する。簡単な発音（声調など）の導入を行う。
2. 単母音・複合母音について学習する。
3. 有気音と無気音・巻舌音などの子音について学習する。
4. 鼻音を含む母音について学習する。
5. 中国語の音節構造・声調変化・巻舌母音・r 化音・軽音・声調符号の位置など中国語の音について総合的に触れる。
6. ①人称代名詞 ②動詞“是” ③“嗎”疑問文 ④“的” ⑤副詞“都”について学習する。
7. ①指示代詞(1) ②否定の副詞“否” ③反復疑問文 ④副詞“也”について学習する。
8. ①動詞“有” ②否定の副詞“没” ③動詞と目的語 ④“呢”疑問文 ⑤時を表す語句について学習する。
9. ①指示代詞(2) ②形容詞 ③選択疑問詞 ④疑問詞疑問文について学習する。
10. ①動詞句を目的語にとる動詞 ②方位詞 ③存在を表す動詞“有” ④存在を表す動詞“存”について学習する。
11. ①動詞・行為の「経験」を表す“了” ②語気助詞“了” ③比較の表現 ④“二”と“丙”について学習する。
12. これまで学んだことのまとめ・復習・応用練習を行う。
13. ①動詞・行為の「経験」を表す“过” ②動量詞 ③数量補語 ④離合詞について学習する。
14. ①量詞 ②近接未来の表現 ③存現文 ④“几”と“多少”について学習する。
15. ①動作・行為の「進行」を表す“在” ②介詞 ③“是……的”構文 ④動詞の重ね型について学習する。
16. ①助動詞(1)…可能を表す助動詞 ②助動詞(2)…願望・必要性などを表す助動詞 ③“着”の用法 ④家族・親族の言い方について学習する。
17. ①結果補語 ②方向補語 ③“多”+動詞+“点儿”について学習する。
18. ①可能補語 ②“有点儿”+形容詞 ③動作・行為の「終了」を表す“过”について学習する。
19. ①受身文 ②“把”構文 ③疑問詞の不定用法について学習する。
20. ①程度補語 ②方向補語の拡張用法について学習する。
21. ①使役文 ②語気助詞のまとめについて学習する。
22. ①様態補語 ②複文 ③二重目的語について学習する。
23. これまで学んだことのまとめ・復習・応用練習を行う。
24. 「応用」：短文の読解

科 目 名	韓国語（講読）	担当者名	朴 勇 俊
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化等の諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌等から時事情報を得る基本的能力の総合的な定着をめざし、多角的な授業を行う。</p>		
講 義 概 要	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象とし、読解・作文力の養成を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。その際に韓国語と日本語の共通点・類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させるようにする。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また言語だけでなく、絵・写真・スライド・ビデオ等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	『韓国語学習 - 基礎から完成まで - 』朴勇俊（プリント）	
	参考文献	後日指定	
評 価 方 法	<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について 2. 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 3. 韓国語の文字・文章の理解と解読 4. 韓国語の文字・文章の理解と解読 5. 韓国語の文字・文章の理解と解読 6. 次のような内容の題材を辞書をひきながら解読でき、それをもとに作文・会話ができるようにする。「一日の生活」 7. 「家族といっしょに」 8. 「ショッピング」 9. 「道で」 10. 「四季」 11. 「韓国料理」 12. 前期末試験 13. 次のような内容の題材を辞書をひきながら解読でき、それをもとに作文・会話ができるようにする。「百貨店で」 14. 「観光」 15. 「引っ越し」 16. 「健康」 17. 「週末」 18. 「趣味」 19. 「韓国の名節」 20. 「韓国の民俗遊び」 21. 「韓国の大衆歌謡」 22. 「太陽と月（民話）」 23. 「牛と鶏と犬（民話）」 24. 後期末試験
----------------------------	---

科目名	韓国語（文法）	担当者名	朴 勇 俊
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住等のストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>		
講義概要	<p>(1) 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 韓国語の特徴、特に「ハングル」の構造を日本語およびその文字との比較からわかりやすく説明する。</p> <p>(2) 韓国語の文字、文章の理解と解読 辞書の活用による「ハングル」の解読、「ハングル」による表現、「ハングル」の音韻的法則を指導する。</p> <p>(3) 実用会話 基本会話文（あいさつ、自己紹介、基本的感情表現、ショッピング、食事の注文等の日常生活に必要な表現）を厳選し、学習者同士が役割を変えながら問答型の会話の反復練習をする。</p>		
使用教材	テキスト	『韓国語学習 - 基礎から完成まで - 』朴勇俊（プリント）	
	参考文献	参考書や辞書等は後日指定する。	
評価方法	評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況等を総合的に判定する。		
受講者に対する要望など	外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、持続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について 2. 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 3. 韓国語の文字・文章の理解と解読 4. 韓国語の文字・文章の理解と解読 5. 韓国語の文字・文章の理解と解読 6. 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。 「スーパーマーケット」 7. 「市場」 8. 「薬局」 9. 「喫茶店」 10. 「郵便局」 11. 「洋服店」 12. 前期末試験 13. 「映画館」 14. 「スポーツ」 15. 「図書館」 16. 「クリーニング店」 17. 「銀行」 18. 「役所」 19. 「銭湯」 20. 「美容院」 21. 「趣味」 22. 「国際電話」 23. 「健康管理」 24. 後期末試験
----------------------------	--

科 目 名	英語（講読）(一外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	新聞、雑誌、詳説、随筆などさまざまなジャンルの英文を読み、英文の読解力の向上をめざす。また、これらの英文を読むことを通して、英語という言葉や英語圏の人々の考え方、文化、社会についての理解を深める。		
講 義 概 要	授業の進め方など詳しいことは、各担当者が最初の授業で説明する。		
使 用 教 材	テキスト	各担当者が指示する。	
	参 考 文 献	必要に応じて各担当者が授業時に紹介する。	
評 価 方 法	各担当者による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	英語 (総合)(一外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-------------	------	-----------

講義の目標	読む、書く、聞く、話すの 4 技能を総合した、現代英語のコミュニケーション能力の習得を目指す。		
講義概要	最初の時間に各担当教員からクラスごとに指示をする。		
使用教材	テキスト	テキストなど教材の選択は、各担当教員が決定するが、以上の主旨を反映した総合英語教材を使用する。	
	参考文献		
評価方法	前・後期の定期試験と平常点を考慮し、総合評価とする。		
受講者に対する要望など	最初の時間に各担当者より直接指示する。		
年間授業計画	最初の時間に各担当者より直接指示する。		

科 目 名	英 (会 話)(- 外)	担当者名	L . ヴィレヌーヴ
-------	------------------	------	------------

講 義 の 目 標	This course, a beginning-to-intermediate level, is designed to give the students practice in reading, listening and discussion skills. Someone with an average spoken skill will enjoy the class.		
講 義 概 要	ISSUES and ANSWERS Each unit begins with a basic question that focuses the students' attention on the central point of the lesson and the chance to respond to the question according to how s/he feels about the topic.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	ISSUES and ANSWERS	
	参 考 文 献	<p>READING gives an overview of the issue so the student gains a broader understanding of the topic.</p> <p>DISCUSSION The student develops English vocabulary and thinking skills by filling in a questionnaire. The results of the questionnaire are used to provide small group speaking and listening practice.</p>	
評 価 方 法	A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final marks.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Sharing Housework and Child-raising / 2
- 2 .
- 3 . Why Go to College? / 8
- 4 .
- 5 . What Kind of Job Do You Want? / 15
- 6 . Love and Marriage / 22
- 7 . How Rich Do You Want to Be? / 29
- 8 .
- 9 . What Do You Want Out of Life? / 35
- 10 . VIDEO
- 11 . VIDEO
- 12 . Mid-term Exam
- 13 . Food, Exercise and Health / 41
- 14 . The Death Penalty / 48
- 15 .
- 16 . Do People Need Religion? / 55
- 17 . The End of Life on Earth? / 62
- 18 . Alcohol and the College Student / 68
- 19 . What Do Your Genes Tell You? / 74
- 20 .
- 21 . VIDEO
- 22 . Is Your Destiny in the Stars? / 81
- 23 .
- 24 . Final Exam

科 目 名	英 (会 話)(一 外)	担当者名	P . ア ッ プ ス
-------	------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>1) To gain confidence in talking to a crowd</p> <p>2) To learn basic techniques in giving presentations</p>		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テ キ ス ト	“ Speaking of Speech ” by David Harrington and Charles Le Bean	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>The final evaluation will be based on four criteria:</p> <p>1) A presentation at the end of each semester: In this interview the students will be required to show speaking and listening ability.</p> <p>2) Class performance</p> <p>3) Class attendance</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.</p>		

The students will be selected on a first come, first serve basis.

SEMESTER ONE
TO BE ADVISED.

SEMESTER TWO
TO BE ADVISED.

年
間
授
業
計
画

科 目 名	ドイツ語 (二外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>A (読解練習 = ノンフィクション) } /ドイツ語 で修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。</p> <p>B (読解練習 = フィクション) }</p> <p>C (口頭練習) / 基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。</p>		
講 義 概 要	<p>A (読解練習 = ノンフィクション) } / 最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力を置きます。それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。</p> <p>ドイツの政治・経済・社会・雑誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。</p> <p>B (読解練習 = フィクション) } 小説・童話・説話・小説などのフィクションを教材とします。</p> <p>C (口頭練習) / 場面に応じて、基本的な文章を聞き取り、反復・応答できるように指導します。</p>		
使 用 教 材	テキスト	各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参考文献	・ 独和辞典 (中型のもの)、ドイツ語 で使用したテキスト。	
評 価 方 法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。		

1. 第 1 週は、テキストの内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また 1 年次に使用したテキスト（各自持参）及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。
2. 第 2 週～7、8 週は、文法の復習、未修事項の学習を行います。
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
8. 第 8、9 週以降は、ドイツ語 A、B ではテキストの読解練習に、ドイツ語 C では口頭練習に入ります。

科 目 名	フランス語（二外）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、フランス語の多様な表現を学びます。		
講 義 概 要	フランス語（二外）は、二人の担当者により週 2 コマ開講されます（内 1 コマは、フランス人教員によるフランス語会話の授業）。		
使 用 教 材	テキスト	各担当者による（場合によっては、二人の担当者が共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認して下さい。）	
	参考文献		
評 価 方 法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席して下さい。		

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語（総合）の既修者を対象にした授業である。1年次にひきつづいて、テキストの第6課以降を学ぶ。二つの過去形（点過去と線過去）および、現在分詞、過去分詞、接続法の活用とその使い方がポイントである。		
講義概要	テキストにそって、第6課以降を学ぶ。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（会話）との同時履修を望む。		
年間授業計画	1. テキスト第6課から9課まで 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキスト第10課から第12課まで 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	スペイン語（会話）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語（会話）の二年目の授業である。スペイン語（総合）の進度にあわせて、より高度な会話文（過去形と分詞、接続法が中心となる）を練習し、日常生活に必要な最小限の表現法を身につける。		
講義概要	スペイン語（総合）と同じテキストを使い、第6課以降の文法事項の進度にあわせて、練習をおこなう。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（総合）との同時履修を望む。		
年間授業計画	1. テキスト第6課から9課まで（前期） 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキスト第10課から第12課まで（後期） 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	中国語（総合）	担当者名	秦 敏
-------	---------	------	-----

講義の目標	<p>昨年中国語を履修した学生、あるいは同等の語学力を持つ学生を対象とします。授業は中国語の基本的な構文を会話を通して習得し、さらにそれを発展させることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>講義は理解し得る範囲内で中国語を行う。また、中国の文化、習慣、ものの考え方等を紹介したいと考えています。</p>		
使用教材	テキスト	沈国威・中川正之『ブラッシュアップ中国語』朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>復習と予習することを望みます。</p>		

科 目 名	高齢化社会論	担当者名	奥 山 正 司
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。</p> <p>なお、高齢化社会を研究するソーシャル・ジェロントロジィ（社会老年学）は、老年学（Gerontology）の一領域であるとともに、社会学（Sociology）の一領域として位置づけられる。また、ジェロントロジィとは「高齢化や加齢現象に関する科学的研究」を意味し、社会学とは「社会現象を人間生活の共同という視角から研究する社会科学」である。</p>				
講 義 概 要	<p>年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。</p> <p>前半では、人口高齢化、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、後半では、老人福祉、老後保障などの側面から講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>アードマン・B・バルモア著、奥山正司他訳『エイジズム』法政大学出版局、1995 小笠原祐次編『老人福祉論』ミネルヴァ書房、1995 その他の参考文献は授業中にその都度指示する。</p> </td> </tr> </table>	テキスト		参考文献	<p>アードマン・B・バルモア著、奥山正司他訳『エイジズム』法政大学出版局、1995 小笠原祐次編『老人福祉論』ミネルヴァ書房、1995 その他の参考文献は授業中にその都度指示する。</p>
テキスト					
参考文献	<p>アードマン・B・バルモア著、奥山正司他訳『エイジズム』法政大学出版局、1995 小笠原祐次編『老人福祉論』ミネルヴァ書房、1995 その他の参考文献は授業中にその都度指示する。</p>				
評 価 方 法	レポート提出、出席、試験等の総合的な評価によって行なう。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受講者が多い場合、止むをえず受講制限する場合もある。				

年 間 授 業 計 画	<p>1～2．高齢化社会に関する社会科学と周辺科学 社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていくジェロントロジィ（老年学、Gerontology）とはどのような学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、ジェロントロジィが社会学の代表的理論といわれる離脱理論、活動理論とは高齢者と社会のありかたをどうみているのか。</p> <p>3～4．人口高齢化と高齢化社会・エイジズム エイジング（加齢、Aging）及びエイジズム（Ageism）とはどのような現象か。また、わが国の人口高齢化の進展は、諸外国の高齢化と比較するとどのような特徴がみられるのか。人口高齢化の要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とは何か。</p> <p>5～6．高齢者と家族、老親子の居住形態 戦後、イエ制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的な様相はどのような状況なのか。</p> <p>7～8．ライフ・サイクル、家族周期と老年期 人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって既定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのであろうか。</p> <p>9～10．高齢者と生計 高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。</p> <p>11～12．高齢者と就業・雇用、定年退職 人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。</p> <p>13～14．高齢者と住宅環境 住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。</p> <p>15～16．高齢者と生涯学習、社会参加 高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいをもち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実情と対応策について。</p> <p>17～18．高齢者と保健・医療 死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向はどのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保健法とはどのような対策なのか。</p> <p>19～20．高齢者と在宅福祉 本格的な高齢化社会を向かえ、みじかな市区町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。平成2年にスタートし在宅福祉10箇年計画をかけた新ゴールドプラン及び2000年4月からスタートする介護保険とはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、デイサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。</p> <p>21～22．高齢者と施設福祉 在宅福祉とならんで施設福祉は、高齢者保健福祉推進10箇年戦略により、飛躍的に発展している。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況とその推移などについて。</p> <p>23～24．高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出 老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。</p> <p>25～．諸外国の高齢者対策 福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。</p>
----------------------------	---

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の問題は18世紀に始まった産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そして引き続いて今世紀に起こる脱産業化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義ではこのような視点から、現代のわれわれの日常生活に見られる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。</p>		
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかで起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配る。	
	参考文献	随時紹介	
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ 2. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 3. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 4. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 7. 現代の職業構造の分析 8. 雇用社会と職業的キャリア 9. 産業社会における知識の性格と教育 10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会 11. 社会的不平等の諸次元 12. 不平等の構造化 13. 社会移動の現実 14. 日本の階層社会と社会移動 15. 管理社会の中核としての官僚制 16. 近代的経営の社会構造 17. 日本的組織構造 18. 都市化と地域社会 19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化 20. 家族のライフサイクルの変化 21. 高齢化社会の人口学的および社会学的分析 22. 高齢化社会における社会問題 23. 生活の質を考える 24. まとめ
----------------------------	---

科目名	法 学	担当者名	山 田 恒 久
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>法律学の基本的な事項を解説するとともに、憲法を頂点とする法の階層構造を概観することを主たる目的とする。学としての「法律」を中心に講義する予定であるから、身近な例を挙げ、法をパズル的に扱うことはしない。また、分かりやすくするために、その時点で一般に話題となっている法現象を、取り上げることもしない。</p>		
講義概要	<p>講義の前半は、法の動態的把握が主たる目的となる。法規範を構成する法律要件と法律効果の基本的な類型、法の意味内容の確定、法適用の前提となる事実の確定方法、法がまさに機能する事になる、法の適用について、解説し考察する。</p> <p>講義の後半は、法の静態的把握が主たる目的となる。法は、憲法を頂点として、上位規範に矛盾抵触する下位規範はその限りで無効となるというような、階層構造をなしている。また、法は、それぞれ、領域的な分担によって、憲法、民法、刑法などに分類することができる。こうした、法秩序と構造について概観する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>教科書は特に指定しない。但し、携帯用の六法（ポケット六法 有斐閣、コンパクト六法 岩波書店など）を講義中に使用する。必ず携行すること。</p>	
	参考文献	<p>伊東乾「原点における法学の歩み」信山社 団藤重光「法学入門」筑摩書房 長尾龍一「法哲学入門」日本評論社</p>	
評価方法	<p>定期試験の成績による。但し、出席していなければ（たとえ、他人のノートのコピーが手に入ったとしても）試験で及第点を取ることはできないと思われるので、注意されたい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学の講義としての「法学」であることを自覚して、受講して欲しい。真剣に学び、一緒に考える意欲のある学生を望む。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序 社会規範としての法</p> <p>2. 第一編 法の動態</p> <p style="padding-left: 2em;">法規範とその構造 概説</p> <p>3.(1) 法律要件 (人の行為: 法律行為、準法律行為、事実行為など)</p> <p>4.(2) 法律要件 (事件、心理状態: 善意・悪意、時効、人の死亡など)</p> <p>5.(3) 法律効果 (権利の変動、権利の主体と客体)</p> <p>6.(4) 法律効果 (債権と物権)</p> <p>7. 二 法の機能 概説</p> <p>8.(1) 法の解釈 (解釈の意義、有権解釈)</p> <p>9.(2) 法の解釈 (学理解釈、解釈の実際)</p> <p>10.(3) 事実の確定 (推定、擬制、挙証責任)</p> <p>11.(4) 法の適用 (法的三段論法、法の適用機関)</p> <p>12. 三 法の効力の範囲 概説</p> <p>13.(1) 時間的限界 (公布、施行、廃止原因)</p> <p>14.(2) 空間的限界 (属地主義、属人主義、普遍主義)</p> <p>15. 第二編 法の静態</p> <p style="padding-left: 2em;">一 法秩序とその構造 概説</p> <p>16.(1) 成文法 (憲法、法律、命令、規則、自治法規)</p> <p>17.(2) 不文法 (慣習法、条理、判例、学説)</p> <p>18. 二 法の階層構造 概説</p> <p>19.(1) 階層の意義 (階層の必要、特別法と普通法)</p> <p>20.(2) 違憲立法審査 (階層の効果、裁判所の機能)</p> <p>21. 三 法の領域と分担 概説</p> <p>22.(1) 実体法と手続法 (民法と民事訴訟法、刑法と刑事訴訟法)</p> <p>23.(2) 実質法と抵触法 (国際私法、時際法)</p> <p>24. 終章 法と正義</p>
----------------------------	---

科 目 名	現代文化論	担当者名	柴 崎 信 三
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>グローバルスタンダード（世界標準）の波と国民国家の枠組みの揺らぎが、企業などの経済活動はもとより、政治や官僚機構から雇用や福祉・教育・家族・メディアといった個人の生活レベルに至るまで、日本のシステムとそれにかかわる個人の価値観を変えようとしている。人と金と物が国境を自在に超えて、現実の国家に代わる巨大なネットワークが支配しつつあるようにも見えるが、私達の現実は所属する文化の固有性から逃れることはできない。マスメディアにあらわれたキーワードから、その葛藤の背景にある現代文化の来歴と変容のかたちを探る。</p>		
講 義 概 要	<p>前期と後期を合わせて 24 回を以下の 6 つの主題群に分けて順次講義する。ただし、その時々 のニュースに対応して内容が変わることがある。</p> <p>日本プロブレム グローバル化の中で日本がいま直面している問題とは。</p> <p>1940 年体制 日本の戦後システムの起源としての戦時体制の成立。</p> <p>アメリカという鏡 敗戦による米国システムの移植と一国平和主義。</p> <p>ベトナム以降 ベトナム戦争以降の世界と戦後の思考の揺らぎ。</p> <p>日本システム 一億総中流といわれる例外的先進国の豊かさのかたち。</p> <p>新たなモデルへ 国際化と公共政策、文化的与件が共存した社会の模索。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に使用しない。各回講義の際に参考用の資料を配布する。	
	参 考 文 献	<p>全体の講義については以下の 2 点をあげる。</p> <p>寺島実郎 『国家の論理と企業の論理』（中公新書）</p> <p>ロナルド・ドーア 『21 世紀は個人主義の時代か』（サイマル出版会）</p> <p>各回の参考文献はその都度教室で紹介する。</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期各一回、定時試験の中で小論文形式の試験を行い、その評価をもとに判定する。授業は原則として出欠をとらないが、評価の参考として随時（年間数回）、出席をとることがある。授業はビデオなどを随時使用する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>私たちが生きている時代、社会への関心のアンテナをとぎすませることが必要です。新聞や時事的な雑誌、参考文献として紹介する書籍を出来るだけ読むことを受講者に求めます。授業内容はニュースに対応して変わることがあります。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本問題 『菊と刀』以来の外からの日本イメージと、その現代的な展開を探る。日本は本当に異質なのか。 2. 日本問題 何故日本の格付けが下がるのか。米国標準で攪乱される「規制国家」の姿を通して、「標準」の意味を考える。 3. 日本問題 護送船団方式を生んだ政官財のトライアングルが作るもたれあい社会がなぜ批判されるのか。キャッチアップ型国家からの離陸。 4. 日本問題 規制緩和とビックバンが生む競争至上主義の風潮は、「自己責任」という名目で官僚の腐敗など国家の枠組みの脆弱化も招く。 5. 1940 年体制 ムーディーズがトヨタの格下げ理由とした日本の雇用は本当に否定されるべきなのか。その起源と功罪を探る。 6. 1940 年体制 なぜ総会屋が企業社会の隙間に生まれたのか。株式持ち合いと株主総会の形骸化。株主利益より従業員共同体としての企業。 7. 1940 年体制 接待・談合・天下りなど産官癒着の文化は、官僚統制の原型としての「事業法」や「行政指導」が生んだ。 8. 1940 年体制 人口構造と世代という観点からすれば、戦後のベビーブーマーはその集団主義的なあり方を含めて戦時体制の遺産である。 9. アメリカという鏡 GHQ 主導の戦後改革は何をもたらしたか。平和憲法や教育制度などにみる米国の影とその無国籍性の功罪。 10. アメリカという鏡 安保の傘に守られた日本と沖縄の立場。新ガイドラインと日本の国家としての主体性。 11. アメリカという鏡 日米摩擦の心理学。優越、庇護者感情と警戒感が生み出す「バッシング」と「日本ブーム」の循環。 12. アメリカという鏡 ディズニーから映画『タイタニック』まで、大衆文化にみる米国のソフト支配力と戦後日本。 13. ベトナム以降 ベトナム戦争の敗退は米国に大きな負の文化遺産をもたらした。反戦、公民権運動、フェミニズムなどが新たな社会潮流を作る。 14. ベトナム以降 学園紛争と情報の支配。コンピューター社会の原型ができた。その後のポピュリズム型の政治の原点にもなる。 15. ベトナム以降 基軸通貨としてのドルとバクス・アメリカーナの陰りの中で、自動車など工業製品の輸出と大衆消費社会で新たな顔を作る日本。 16. ベトナム以降 冷戦構造の崩壊でイデオロギーと戦後秩序の無力化が進むとともに、市場化の波がアジアの中の日本人のアイデンティティーを変える。 17. 日本システム 戦後日本社会の所得の平準化と雇用や治安など社会秩序の安定は継承すべき文化といわなくてはならない。 18. 日本システム 自動車産業におけるカンバン方式、ビデオのVHS方式、セブン・イレブン・ジャパンの流通システムなど、日本標準の世界化。 19. 日本システム 金融、土地などに依存するバブル経済がモノづくりと品質管理の伝統を軽視してきたツケが現れてきた。 20. 日本システム 日本文化の対外発信能力。それは創造性とソフト支配というプロデュースのパワーにかかわる。デザイン、エンターテインメントなど。 21. 新たなモデルへ メタボリズム 22. 新たなモデルへ NPO と公共精神 23. 新たなモデルへ ソロスとマードック 24. 新たなモデルへ EU 国家と貨幣の実験
----------------------------	---

科 目 名	文化人類学	担当者名	井 上 兼 行
-------	-------	------	---------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。学問の歴史、事例を通じてそのおおよそを知る。		
講義概要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特の研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	出席はとらないし、レポート提出もない。後期の定期試験期間中に、一年間話した内容についての試験を行い、それだけで評価する。		
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまでも暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭に置いてほしい。		
年間授業計画	1. 序 どんな学問か。 2. 学問形成の歴史 (1) スペイン人のインディオ観 3. " (2) " 4. " (3) 16C 後半 ~ 18C 後半の西欧人の未開人観 5. " (4) 18C 後半 ~ 19C 後半の西欧人の未開人観 6. 19C 後半 文化人類学の誕生 (1)"文化" の概念 7. " (2)"文化" の概念 8. " (3)"進化" の概念 9. 19C 末 ~ 20C 初 現代の文化人類学へ 10. 研究方法としての " 実地調査 " (1) 11. " (2) 12. これ以降は事例研究になる。テーマは今のところ未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科目名	心理学	担当者名	杉山 憲 司
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>この授業では、性格、発達、知能、学習と動機づけ、社会などの心理学の諸領域から、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介する。心理学のキー概念や諸理論を学びながら、例えば、「切れる子どもたち」「目標の定まらない学生」などの現代の学校の諸問題や、「ストレスと精神的健康」「高齢者と若者の考え方のズレ」などの日常的な諸課題に適用し、対処法へとつなげる講義をする予定である。</p> <p>心理学から見た、多様な科学的人間性のモデルを理解することが、講義の最終的な目標である。</p>	
講義概要	<p>心理学の研究内容は、道徳性や性格など、日常的で身近な現象が多い。従って、学生は取り上げる現象に対して、既に、一定の意見を持っていることが多い。そこで、科学的な心理学の研究成果を講義することになる。また、心理学は自分自身が研究者であり、且つ、研究対象であるという特徴がある。従って、自己理解は重要なテーマである。</p> <p>心理学の領域を大きく分けると、1 性格や知性などのように、一人一人の個性・個人差の理解と、2 人間という種に共通する、学習・知覚・動機づけなどの一般法則の理解に分けられ、両者の関係や日常生活との関わりについて講義する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>青柳肇・滝本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）1989「こころのサイエンス」福村出版 ¥1900、青柳肇・滝本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）1989「トピックスこころのサイエンス」福村出版 ¥1900</p>
	参考文献	<p>教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。</p>
評価方法	<p>前後期2回の試験で評価する（追試は教務課を通すこと）。リーディング・レポートの実施については授業の始めに相談する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>この授業を自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用することを提案する。授業を聞く際、自分の専攻（将来の職業）や、現代の諸問題との関連を考えながら聴講することを希望する。</p>	

1. 心理学への導入：心理学の体系について、心理学の研究対象と方法、心理学と他の学問との比較。人間に共通な一般法則と一人一人の個性や個人差を理解することの意味。
 2. 1章 パーソナリティ：パーソナリティの緒理論は人間性のモデルである。1)精神力動的モデルとロールシャッハ検査。
 3. 2)行動主義モデルとM P I、3)認知的モデルと自己意識、4)パーソナリティの特性論とビッグ5
 4. 5)人間学的モデルとクライアント中心療法、6)標準心理検査、7)パーソナリティの形成・発達と病理
 5. 2章 知能と創造性：あなたの能力観は？ 知能検査で測られているのは何か？ 新たな能力観を求めて。1)知能研究の源、2)新しい知能観（能力か動機づけか）
 6. 創造性：知能検査で測られていないもう一つ的能力、創造性、1)Guilfordの知能構造モデルと拡散的思考 2)創造性の育成と活性化
 7. E Qとは何を指しているか、1)適性という概念、2)対人関係に必要な社会的スキル。
 8. 3章 生涯発達：高齢者も発達する、生涯発達視点から現在を捉える。1)研究の源と発達観の変遷、2)研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
 9. 初期発達 1)乳児の気質の型とアタッチメント、2)コンピテンスと自己原因性の獲得
 10. 社会性の発達：1)道徳性と向社会性の発達段階、2)仲間関係のルールとスキル、3)青年期の自己意識
 11. シルバーエイジと生きがい：1)アイデンティティの確立と自分らしさ、2)喪失の時期と統制感・自己効力感
 12. 前期のまとめ：一人一人の個性・個人差を理解することの意味・大切さ、1)心理学研究の2つの目標
 13. 4章 行動：行動の視点から人間を見る、行動の獲得・形成としての学習。1)学習とは、自発的に学ぶことと他者に教えることの違い
 14. 学習の基礎過程、1)行動の種類と発達・進化、2)学習の基本型（1）レスポナント条件づけ、しつけ、情緒の統制、他律から自律へ
 15. 3)学習の基本型(2)オペラント条件づけと強化随伴性（の認知）行動結果の持つ意味、4)観察学習とモデリング、模倣の役割と意義、
 16. 社会的行動：社会心理学の課題と研究方法、1)攻撃と愛他（利他）行動のバランスと育成、2)同調行動と服従、実験室のアイヒマン
 17. 3)リーダーシップ行動、変革期のリーダーには何が求められるか、4)集合行動とマスコミュニケーション
 18. 5章 認知：認知とは対象の意味づけのこと、客観的状況と主観的現実、1)感覚と知覚、2)感覚受容器、絶対閾、錯視、恒常性
 19. 3)認知のプロセス、原因帰属の構造と特徴、4)課題達成行動の原因帰属による理解
 20. 5)人間の記憶の情報処理モデル、1)情報処理モデルの例、トップダウンとボトムアップ、2)短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶
 21. 6章 動機づけと情緒：学習動機を中心とした動機づけの理解、1)さまざまな動機、食行動と摂食障害、ホメオステシス
 22. 2)内発的動機づけ、自発的な学び、知的好奇心、自己決定と最適不適合とズレ理論
 23. 3)対人社会動機、愛着、共感性と愛他動機、4)動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション
 24. 後期のまとめ：行動の一般法則を理解することの意義、1)心理学から見た人間とは、2)現代の問題にどれだけ答えられたか、3)残された問題
- 以上

科目名	心理学	担当者名	増田直衛
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。ここでは、心理学が自然科学の一分野として誕生してから、今日までどんな分野の学問と連携しつつ、自らの学問を築いてきたかを考えてみます。その中で心理学の対象、心理学の方法などを具体的に理解しながら、心理学とはどんな学問かを考えます。</p>		
講義概要	<p>最初に心理学とはどんな学問か、心とはなんだろうか、心理学の誕生、心理学の分野、心理学の方法、個体と環境との関係、などについて考察します。次に、感覚・知覚心理学を中心に、主として人間の認識機構について講義をします。その次に、行動・学習心理学を中心に、人間以外の動物も含めた行動の発達、変容について講義を、さらに、小集団の社会心理学の問題にも触れていく。スライド、OHP、VTR などを使って具体的に理解できるようにこころがけます。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しません。	
	参考文献	<p>宇津木 保ほか著「心理学のあゆみ」(有斐閣新書) 野口 薫ほか著「心理学入門」(有斐閣新書) この2冊は心理学の扱う領域と歴史を概観するのに便利です。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>	
評価方法	<p>評価は2回の定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>		
受講者に対する要望など	<p>岸田 秀「ものぐさ精神分析」(中公文庫)や橋本 治「帰ってきた桃尻娘」(講談社文庫)に戯画化されている大学で講義されている心理学の記述にはあらかじめ目を通しておくことをお勧めします。</p>		

1. ガイダンス 心理学とはなんだろう
2. 心理学の過去と現在
3. 科学としての心理学のあり方
4. 心理学の方法とその実例 (1) 観察
5. (2) 実験
6. (3) 調査
7. (4) 臨床的方法
8. (5) 統計的方法
9. 個体と環境 心理学のものとのとらえ方
10. 環境の認知 (1) 物理的世界と心理学的環境
11. (2) 感覚の世界
11. (3) 主観のものさし
12. (4) まとまりのある知覚世界
13. (5) ゲシュタルト知覚
14. (6) 知覚研究とその応用例
15. 行動とその変容 (1) 環境への適応様式
16. (2) 生得的な行動
17. (3) レスポンデント条件付け
18. (4) オペラント条件付け
19. (5) 記号行動
20. (6) 行動分析学とその応用例
21. 社会の中での行動 (1) 態度
22. (2) 状況の中で
23. (3) 社会的現実の構築
24. もう一度、心理学ってなに

科 目 名	歴史学（日本史）	担当者名	新 井 孝 重
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	14 世紀の内乱期は、日本の歴史の大きなまがり角であった。社会は南北朝の内乱を通過するなかで、どのように変化したのか。内乱期の諸相をながめながら、歴史の深いところに分け入り、社会の変化の様相をつかまえる。		
講 義 概 要	悪党とはどのような人々のことを云うのか。悪党の生態を観察することによって鎌倉末期の社会矛盾をつかまえる。そのさいの視点として、「武勇」と「武装」の問題は重要。つぎに、内乱の諸相を、なるべく具体的に、人間の行動と思想を通して観る。そのあとで、戦乱のなかで安穩をもとめる民衆のすがたを注目したい。		
使 用 教 材	テキスト	新井孝重『悪党の世紀』、吉川弘文館、1997年。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	評価は、後期の試験成績と年間の出席状況をもってする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	30 分以上の遅刻者は出席者とみなさない。 紳士的な態度で気楽に聴いていただければよい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大仏を領主にする村 伊賀の農村、出作をする人びと。 2. 大仏を領主にする村 奈良寺院社会の風景、南京大衆の周辺 在地住民の寄人（よりうど）・神人化による「僧兵」の出現 3. 悪党の活動 村の悪党 莊園在地武士の悪党化 4. 悪党の活動 村の悪党 莊園在地武士の悪党化 5. 寺の悪党 武装する僧徒 6. 寺の悪党 預所（あずかりどころ）の僧、悪党になる 東大寺僧快実について 7. 崩れる一揆の「作法」 中世の一揆とは 一揆の淵源である寺僧の衆会について 8. 崩れる一揆の「作法」 莊園体制の一揆的構造 莊民の一揆の「作法」、「武」をともなわない一揆 9. 崩れる一揆の「作法」 悪党の登場 「武」をともなう悪党の行動様式が莊園制の一揆的構造を破壊 10. 武装の行粧 民間における武装の禁忌性 甲冑を着ることの意味 11. 武装の行粧 武装すがたの異形性 中世の祭礼と武装 12. 武装の行粧 悪党の武装……禁忌と異形との関連で武装は“悪”そのものである 13. 内乱の風景 楠木の勢力 身体の武装の拡大したすがた……館の武装化 14. 内乱の風景 楠木の勢力 在地に城郭がつくられることの意味 15. 内乱の風景 金剛山の攻防 戦争を社会史的に観察すると 16. 内乱の風景 移動する大軍 北畠顕家奥州軍長征の実相 17. 内乱の風景 戦いの日々 内乱期武士の戦争観をみる 18. 内乱の風景 軍忠と恩賞 武士はなぜ戦うのか 19. 内乱の風景 傭われる凡下（ぼんげ）の輩 凡下と呼ばれる人々の生態をみる 20. 内乱の風景 戦争に疲れて 合戦にあけくれる武士の人生、負傷・討死・没落 21. 内乱の風景 武士たちの生きるための知恵 国人（こくじん）一揆 22. 悪党の美学 バサラをみる 23. 地下（じげ）の芸能と民衆 猿楽の形成 伊賀の猿楽 24. 悪党の終焉 「平和」をもとめる民衆
----------------------------	---

科 目 名	歴史学（日本史）	担当者名	齊 藤 博
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三つの視点から日本人像に照射を加えたい。</p> <p>1. 共同体、2. 村落、3. 天皇制、4. 幕末維新期、5. 英雄論、6. 民衆信仰、7. 民衆史、8. 差別史、9. 昭和十五年戦争、などが講義中のキーワードである。</p>		
講 義 概 要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考や CM 調流行ムード、あるいは大河ドラマの趣向によって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>日本人であるからといって日本史学習が容易であり気安く分かってしまうことはない。やはり丁寧に、きちんと出席しないとわからない。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博『歴史の精神』学文社 ・ 齊藤 博『民衆史の構造』新評論 	
	参 考 文 献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい、最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。割合と日本史百話的な「講談調」ではあるが、講義にでていないと無論、わからない。</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。とにかく、できる限り出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本および日本人について。日本史の特徴、日本人が日本史を学ぶ困難性 2. 日本史の特徴、風土と歴史、日本史研究者像、新井白石、本居宣長、伴信友（近世史） 3. 日本史研究者像、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎（近代、現代史） 4. 日本史研究者像、瀧川政次郎、渡部義通、石母田正（古代史、中世史） 5. 日本史研究者像、芳賀登、色川大吉、井上幸治（地域民衆史の視座と方法） 6. 「天への想い」、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築 7. 「天への想い」（天皇制論を含む） 8. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む 9. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む 10. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む 11. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む 12. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む 13. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む 14. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む 15. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む 16. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む 17. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む 18. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む 19. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む 20. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む 21. 近世史と近代史の問題点 高橋貞樹『被差別部落一千年史』を読む 22. 近世史と近代史の問題点 民衆信仰（中山みき、金光大神、出口王仁三郎）を考える 23. 日本近代化をどう考えるか（北村透谷、石川啄木、夏目漱石、永井荷風） 24. まとめ（総括）日本および日本人論をめぐって
----------------------------	--

科 目 名	歴史学（東洋史）	担当者名	熊 谷 哲 也
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。		
講 義 概 要	前半は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。 後半はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する、今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係について、関心と理解が深められるよう留意する。		
使 用 教 材	テキスト	とくにさだめない。	
	参考文献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらう。詳しくは授業で指示する。	
評 価 方 法	試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2. イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。 3. 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。 4. 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。 5. ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。 6. アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。 7. イスラーム教の聖典であるコーラン(クルアーン) 預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想と学問について学ぶ。 8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。 9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。 10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。 11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。 12. 同 その2 13. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、キャピチュレーションの問題をとりあげる。 14. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。 15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義(復興主義)の基本的メカニズムを理解する。 16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・ズーフイズムなどの問題について考える。 17. エジプトの近代化とその過程について考える。 18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。 19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。 20. 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事項をとりあげ、近代化との関係について検討する。 21. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 22. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。 23. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 24. (予備) まとめをおこなう
----------------------------	---

科 目 名	歴史学（西洋史）	担当者名	御園生 眞
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	近代ヨーロッパの歴史を社会経済の側面に重点をおいて講義し、経済学部での専門科目の学習の基礎となることを目標とします。		
講 義 概 要	前期：市民革命を主要テーマとして、近代社会と近代資本主義経済の成立過程を講義します。 後期：産業革命と帝国主義を主要テーマとして、19世紀からのヨーロッパ史を、国際的経済関係に視点を置いて講義します。		
使 用 教 材	テキスト	大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男編『西洋の歴史 増補版』〔近現代編〕 ミネルヴァ書房、1998年	
	参考文献	最初の講義の時に指示します。	
評 価 方 法	出席および定期試験（前後期計2回）の成績の両方で評価します。なお試験は、文章で解答する論述式です。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	履修希望者は必ず第1回の講義に出席すること。 事情により講義の内容が変更される場合があります。		

1. ガイダンス。参考文献の紹介。
2. 市民革命 1 大航海時代
3. 市民革命 1 大航海時代(続)
4. 市民革命 2 絶対王政
5. 市民革命 2 絶対王政(続)
6. 市民革命 3 市民革命(1)イギリス
7. 市民革命 3 市民革命(1)イギリス(続)
8. 市民革命 3 市民革命(2)アメリカ
9. 市民革命 3 市民革命(2)アメリカ(続)
10. 市民革命 3 市民革命(3)フランス
11. 市民革命 3 市民革命(3)フランス(続)
12. 市民革命 3 市民革命(3)フランス(続)
13. 産業革命 1 イギリス産業革命とその波動
14. 産業革命 1 イギリス産業革命とその波動(続)
15. 産業革命 2 後発国の産業革命
16. 産業革命 2 後発国の産業革命(続)
17. ナショナリズムの時代 1 1848年の革命
18. ナショナリズムの時代 1 1848年の革命(続)
19. ナショナリズムの時代 2 ドイツの統一
20. ナショナリズムの時代 2 ドイツの統一(続)
21. 帝国主義の時代 1 ドイツ
22. 帝国主義の時代 2 オーストリア
23. 帝国主義の時代 3 フランス
24. 帝国主義の時代 4 イギリス

科目名	哲学	担当者名	高尾由子
-----	----	------	------

講義の目標	さまざまな情報が氾濫する現代、「確実な知」はいかにして得られるのか。そもそも知とは何なのか。主に西洋哲学の基本的な概念を用いて、「自分自身の知」の形成を中心課題として、「自分で哲学的に考える」ことをめざす。		
講義概要	西洋哲学史上、主要な思想家の著作を読みながら、何が問題となっているのか、その問題がどのように考えられているのか、を検討する。		
使用教材	テキスト	プラトン「ソクラテースの弁明・クリトーン・パイドーン」新潮文庫 デカルト「方法序説」岩波文庫、カント「純粹理性批判」上巻、岩波文庫	
	参考文献	田中美知太郎「ソクラテス」岩波新書、野田又夫「デカルト」岩波新書 石川文康「カント入門」ちくま新書、その他授業で指示する。	
評価方法	前後期各1回のレポートによる。 テーマその他は授業で指示する。		
受講者に対する要望など	テキストを読んでくること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の予定と授業の進め方の説明。哲学という学問について。 2. プラトンの「ソクラテースの弁明」を読みながら、「知を求めること」と「魂を気づかうこと」の結びつきについて考える 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. デカルトの「方法叙説」第一部～第四部を読み、近世哲学の出発点としての「確実な知」について考える 9. " 10. " 11. " 12. 前期のまとめと課題について 13. 「方法叙説」第五部、第六部を読み、哲学と自然科学のかかわりについて考える。 14. " 15. " 16. 自然科学の発展がもたらした哲学への影響について考える。 17. カントの「純粹理性批判」第2版序文を読み、理性自身が理性の吟味をすることによって変革される知と世界のあり方について考える。 18. " 19. " 20. " 21. " 22. " 23. " 24. 1年間のまとめ課題について。 		

科目名	哲学	担当者名	松丸 壽雄
-----	----	------	-------

講義の目標	諸文化の担い手としての人間存在は存在するがぎり、根源的なレベルから実際のレベルまで様々な問題と遭遇し、これと対決せざるを得ない、その場合に、どのような立場から、どのような方法でこれらの問題に対処するかを、様々な角度から考えることができる基礎力を養うことを目標とする。		
講義概要	実地に現代の諸問題の根源を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜指示。	
評価方法	最低年2回のレポートとディスカッションへの積極的貢献度により評価。		
受講者に対する要望など	自分で考えようと努力し、ディスカッションへの積極的に参加するつもりのある人。ディスカッションという性質上、人数制限もあり得る。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明。 2. 愛とは何かについての考察。ビデオ鑑賞 3. 愛についての様々な思想(1)プラトン 4. 愛についての様々な思想(2)キリスト教とフォイエルバッハ 5. 愛についての様々な思想(3)西田幾多郎 6. グループ分けと小グループによるディスカッション時の諸注意。 7. ディスカッション(小グループ) 8. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 9. 差別についての考察。 10. 障害者と差別。ビデオ鑑賞。 11. ディスカッション(小グループ) 12. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 13. 生と死についての考察。 14. 生と死についての様々な思想(1)宗教と哲学。 15. 生と死についての様々な思想(3)西田幾多郎と禅。 16. ディスカッション(小グループ) 17. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 18. 脳死と倫理。 19. 生命倫理について。 20. ビデオ鑑賞。 21. ディスカッション(小グループ) 22. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 23. 年間を振り返ってのディスカッション(小グループ) 24. 年間を振り返ってのディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 		

科 目 名	文学（日本文学）	担当者名	飯 島 一 彦
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文藝と言ってよいが、庶民文藝であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	その都度教室で配布する。	
	参 考 文 献	その都度教室で指示する。	
評 価 方 法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「お伽草子」とは何か? 2. 「浦島太郎」を読む 3. 「浦島太郎」を読む 4. 「浦島太郎」を読む 5. 奈良時代の「浦島太郎」 日本書紀 6. 奈良時代の「浦島太郎」 万葉集 7. 平安時代の「浦島太郎」 8. 平安時代の「浦島太郎」 9. 昔話・伝説の中の「浦島太郎」 10. 国定教科書の「浦島太郎」 11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間 12. 予備日「絵本の中の浦島太郎」 13. 「一寸法師」を読む 14. 「一寸法師」を読む 15. 「一寸法師」を読む 16. 奈良時代の「一寸法師」 17. 奈良時代の「一寸法師」 18. 平安時代の「一寸法師」 19. 平安時代の「一寸法師」 20. 藝能に見る「一寸法師」 21. 国定教科書の「一寸法師」 22. 昔話の「一寸法師」 23. まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。 24. 予備日『絵本の中の一寸法師』
----------------------------	--

科 目 名	文学（日本文学）	担当者名	肥田野 昌 之
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講 義 概 要	<p>前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。それとともに代表的な歌人たる柿本人麻呂や山部赤人などについて考察する。</p> <p>後期は主として、伝説・説話の歌や東歌。防人歌の問題、また山上憶良・大伴家持などの有力歌人について広く検討してみたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上・下（岩波新書）	
評 価 方 法	授業への出席と前・後期の試験によって決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	出席は原則として 3 分の 2 必要、前期の試験で極端に悪い学生は単位をあきらめてもらいます。		

1. 一年間の講義概要を説明。『万葉集』についての名義・成立・注釈書などを概説する。
2. 巻一 1番・雄略天皇の歌について考える。
3. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
4. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5. 柿本人麻呂とその長歌を中心によむ。
6. 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件との関連でそれらの歌をよむ。
7. 穂積皇子と但馬皇女との悲恋と歌物語について。
8. 有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。
9. 柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
10. 前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。
11. 山部赤人「不尽山を望る歌」を中心によむ。
12. 大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にしてよむ。
13. 真間娘子の歌 - 赤人と虫麻呂 -
14. 山上憶良とその歌 - 貧窮問答歌を中心にして -
15. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしてその歌を説明。
16. 高橋虫麻呂の伝説歌について - 浦島子・菟原処女など -
17. 寄物陳思・正述心緒 - 卷十一の歌をよむ。
18. 万葉集の用字法 - 特に義訓・戯訓 -
19. 東歌について説明と歌。
20. 中臣宅守と狭野弟上娘子の悲恋と贈答歌について
21. 卷十六有由縁并雑歌を中心によむ。
22. 後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。
23. 大伴家持とその歌についてよむ。
24. 防人歌についての説明と鑑賞。上代特殊仮名遣についても説明する。

科 目 名	文学（世界文学）	担当者名	石 崎 晴 巳
-------	----------	------	---------

講義の目標	<p>フランス文学は、中世におけるその成立以来、一貫してヨーロッパ文学の主流をなして来たと言える。それはフランス文学が、ギリシア・ローマの古典古代の文学を最も正統的に継承したからでもあるし、フランスが中世に作り出した騎士道恋愛物語がヨーロッパ全体に広まって、ヨーロッパ文学の最初の共有財産を形成したからでもある。フランス文学のアウトラインをたどることは、ヨーロッパ的な考え方と感性とはいかなるものかを知る上で大いに意味深いはずである。</p>		
講義概要	<p>学生が読んでもない作品のタイトルを次から次に羅列して、教師が一方的に語るという形には、できるだけならないようにしたい。基本的には言及される作品には学生諸君も一通り目を通して、という形で進めたいと思う。そのため基本的には、毎回一つの作品を取り上げて、分析し、その抜粋（邦訳の）を味わうということを中心に進めることになる。また関連する絵画やオペラ等の音楽作品、映画や劇のビデオなども積極的に利用して、作品を享受することの楽しさを可能なかぎり追求したい。なお、学生諸君の読書の便宜を考えて、十七世紀古典劇がら始めることにする。</p>		
使用教材	テキスト	なし。必要に応じて、プリントを用意する。	
	参考文献	教場にて指示。	
評価方法	<p>前・後期ともレポートによって評価を決める予定であるが、場合によっては、きわめてレポートに近い形の筆記試験（問題予告による記述試験）を行なうかもしれない。またできれば学生諸君にも発表をして貰いたいと思っているので、それも評価の手段となるだろう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>少しでも多く読むこと</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 方針説明。課題図書の設定と分担決定。 2. ラシーヌ「アンドロマック」(ヨーロッパ文学の基層としてのギリシア神話・伝説の典型としてのトロイ戦争) 3. ラシーヌ「フェードル」(フランス古典主義の絶頂。その作劇法) 4. モリエール「ドン・ジュアン」(リベルタンの伝統。cf. モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」) 5. 「ロランの歌」(フランス文学の発生。cf. ニーベルンゲンの歌) 6. 「トリスタンとイズー」(cf. ワグナー「トリスタンとイゾルデ」) 7. 「狐物語」 8. ラブレ「ガルガンチュアとパンタグリユエル」(ルネサンスの展望。cf. パーサー) 9. モンテーニュ「エッセー」(自己検討・モラリストの伝統) 10. デカルト「方法叙説」(フランス的合理主義の伝統) 11. ラ・ロシュフーコー「箴言」 12. ラ・ファイエット夫人「グレーヴの奥方」(フランス心理小説の伝統) 13. パスカル「パンセ」(神の問題) 14. マリヴォー「愛と偶然の戯れ」(フランス十八世紀のイメージ。雅びな宴。cf. モーツァルト「フィガロの結婚」) 15. アベ・ブレヴォ「マノン・レスコー」(cf. マスネ「マノン」) 16. ルソー「告白」 17. バルザック「ゴリオ爺さん」 18. スタンダール「パルムの僧院」 19. フローベール「ボヴァリー夫人」 20. ボードレール「悪の華」(フランス作詩法の基礎) 21. ジイド「背徳者」 22. プルースト「失われた時を求めて」 23. マルロー「人間の条件」 24. サルトル「嘔吐」
----------------------------	--

科 目 名	文学（世界文学）	担当者名	北 澤 滋 久
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	文学を味わうこと愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講 義 概 要	<p>英米の文学に観る人間像</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1 講義、1 作家、1 作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていれば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使 用 教 材	テキスト	テキストは特に定めません。	
	参 考 文 献	参考文献は、2 回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評 価 方 法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）その感想文（小論文）を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年 20%以上の不合格者が出ています。		

1. 登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2. 開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3. 現代文明下のアメリカの少年たち
『ハックルベリィの冒険』：イノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4. 『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5. 『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩
THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6. 19世紀、イギリスの娘たち
『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE DURBERVILLES by Thomas Hardy
7. 『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて
THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8. 『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9. 19世紀、英米文学の驚異
『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS by Emily Brontë
10. 『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY - DICK by Herman Melville
11. 英雄不在の20世紀の英雄たち
『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12. 『老人と海』：一老漁師にみる英雄的姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
13. 海洋（冒険）小説の諸相
『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
14. 『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
15. 近代芸術観の極致
『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
16. 『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて
THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allen Poe
17. 『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って
THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
18. 父なるもの、母なるものの原像
『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by William Shakespeare
19. 『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
20. 『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて
A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
21. 倫理と欲望の峡間
『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
22. 『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて
THE HEART OF THE MATTER by Graham Greene
23. 『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
24. 閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答

科目名	文学（世界文学）	担当者名	山路朝彦
-----	----------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。		
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。		
使用教材	テキスト	カフカの作品『変身』、『城』、『審判』	
	参考文献		
評価方法	前期レポート、後期試験		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. 文学の理論へ 感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質 2. 3. 4. 5. カフカの作品紹介 6. 文学の理論へ 伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌 7. 8. 「小説」の誕生とその歴史 9. 10. 文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究 11. 12. 芸術の自律性、アヴァンギャルド 13. 文学研究の立場と方法 精神史的方法 14. 15. 作品内在解釈（インタープリテーション）の方法 16. 17. マルクス主義の立場から 18. 19. 構造主義的方法 20. 21. 文学社会学的方法 22. 23. 「エッセイ」という方法 24. 新たな立場と方法		

科目名	国語	担当者名	飯島一彦
-----	----	------	------

講義の目標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>		
講義概要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	<p>毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行われる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>		

年
間
授
業
計
画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3.)
4.)
5.)
6.)
7.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8.)
9.)
10.)
11.)
12. 夏休み課題ガイダンス。
13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。
14.)
15.)
16.)
17.)
18.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
19.)
20.)
21.)
22.)
23.)
24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。

科目名	国語	担当者名	小島幸枝
-----	----	------	------

講義の目標	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の収集および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。</p>		
講義概要	<p>前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。</p>		
使用教材	テキスト	松村明編『国語表現法』おうふう	
	参考文献	・都度、紹介する。	
評価方法	提出物による平均点、および出席点。		
受講者に対する要望など	授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなるとお考えください。		

科目名	国語	担当者名	肥田野 昌之
-----	----	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。		
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。		
使用教材	テキスト	特に使用せず、その都度プリント配布。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	授業への出席と実作および年度末試験によって決定する。		
受講者に対する要望など	30%程度の学生は単位がとれないものと思われます。遅刻・欠席・私語・居眠りの多い学生、学習意欲の乏しい学生は登録しないで下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語・国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。 2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。 3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。 4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。 5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。 6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。 7. 豊かな内容とは - 物の見方や読書などについて考える。 8. 国語表記の問題 - 段落の分け方や送りかななどについても言及する。 9. 原稿用紙の使い方や校正などについて説明する。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字の書き取りを行う。 10. 作文を書く（添削と採点） 11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。特に誤字の問題、常体・敬体の混在など。また学生が黒板に出て、四字句の完成など行う。 12. 教養としての文学史 - 能・狂言について 13. 教養としての文学史 - 歌舞伎について 14. 文字について - 特に「漢字御廃止の儀」から常用漢字までを概説する。 15. 仮名づかいについて - 仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいを現代かなづかいに力点を置いて説明する。 16. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。 17. 文章のさまざま - 実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など - 18. 学生が黒板に出て、漢字検定2級の問題を中心にとく。 19. 手紙の書き方の実習 - 手紙の形式を中心にして説明する。 20. 教養としての文学史 - 俳句を中心にして 21. 課題作文を書く（添削と採点） 22. まとめとしてプリントを二枚を配布し、年度末試験について傾向と対策を説明する。 23. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字の書き取りを行う。 24. ことばと社会 - ことばの乱れや敬語法について考える。 		

科 目 名	地球環境論	担当者名	加 藤 信 重
-------	-------	------	---------

講義の目標	近年、問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためには新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。 必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	受講希望者が多い場合、最初の日にテストを行う。また当日、年間の予定も説明するので、必ず出席すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>序論</u> 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。 2. <u>日本の抱える環境問題</u> ヒトの影響が大きくなった地球。 3. <u>日本の抱える環境問題</u> 人口増加に追いつかない食糧の総量。 4. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。 5. <u>生態系</u> 無機物 有機物 の流れにのって。 6. <u>生態系 2</u> 7. <u>ナショナルトラスト制度</u> 地域文化を保存するために。 8. <u>ナショナルトラスト制度 2</u> 9. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。 10. <u>国立公園制度</u> 手本はアメリカ？、ヨーロッパ？ 11. <u>国立公園制度</u> 12. <u>身近な自然</u> 夏期休暇のレポートを書くために。 13. <u>後期の序論</u> 後期の講義の進め方を説明。 14. <u>種の多様性保全条約</u> なぜ他の生物を守らなければならないか。 15. <u>ラムサール条約</u> 日本のフライウエイを渡る鳥たち。 16. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。 17. <u>ワシントン条約</u> 絶滅の危機に瀕している動植物。 18. <u>ワシントン条約 2</u> 19. <u>ワシントン条約 3</u> 20. <u>ワシントン条約 4</u> 21. <u>ワシントン条約 5</u> 22. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。 23. <u>豊かな生活とは</u> 地球環境を守るために。 24. <u>まとめ</u> 一年間のまとめと試験の説明。 		

科目名	数 学	担当者名	遠 藤 信
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。</p> <p>この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微分である。</p>		
講義概要	<p>前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部の学生が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後半では、微分を講義する。これは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>		
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。	
	参考文献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。	
評価方法	出席状況と授業中におこなう演習や小テストの成績と、前期、後期におこなうまとめの試験の成績を総合して成績評価をする。数学では、きちんと出席して、演習問題を解くことが非常に大切なので、欠席の多い者は単位が取れない。		
受講者に対する要望など			

年
間
授
業
計
画

1. 行列の定義 行列の演算
2. 行列の演算
3. 行列の性質
4. 行列式の定義
5. 行列式の計算
6. 行列式の性質
7. 行列式の性質と行列式の計算
8. 余因子とその性質
9. 余因子とその性質
10. 余因子を用いて逆行列を求める方法
11. 連立1次方程式 Cramerの公式
12. まとめの試験
13. 関数と関数の極限
14. 関数の極限 関数の連続
15. 微分係数と導関数の定義
16. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
17. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
18. 関数の極大・極小
19. 関数の極大・極小
20. 高次導関数 平均値の定理
21. 偏微分の定義 偏微分の計算
22. 偏微分の計算
23. 微分の社会科学への応用
24. まとめの試験

科目名	地理学	担当者名	犬井 正
-----	-----	------	------

講義の目標	熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。		
講義概要	熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTR なども援用しながら講義をすすめる。		
使用教材	テキスト	・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ T . C . ホイトモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館 ・ ジョン . C . クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』1992、どうぶつ社 ・ 四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス 	
評価方法	前期、後期各 1 回ずつの定期試験による。		
受講者に対する要望など	「経済地理学(犬井担当)」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう 2. 1次生産者としての森林の重要性について。 3. 世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。 4. 熱帯雨林成立の過程と特質。 5. 熱帯雨林の森林としての構造。 6. 熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。 7. 熱帯雨林の生態学的多様性。 8. VTR『熱帯雨林の生態』視聴。 9. 熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。 10. 様々な開発形態と開発速度。 11. 薪炭材の生産と焼畑農耕 伝統的焼畑農耕は破壊か？ 12. 人口爆発と集落再編計画。 13. 商業的木材生産による森林破壊。 14. プランテーション経営と牧畜業。 15. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。 16. VTR『緑を守る男たち』視聴。 17. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。 18. 熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。 19. 熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。 20. 熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境 アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。 21. VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。 22. 日本の熱帯材輸入と森林破壊。 23. 熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？ 24. まとめ 再考「人間と自然のかかわり」。
----------------------------	---

科 目 名	地 理 学	担当者名	山 本 正 三
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	今日、地球の表面はどのようになっているか、そこでどのような生活が営まれているかを、地域的に理解することをめざす。		
講 義 概 要	前期には地表面の自然の特色を概観し、後期には、自然的基盤のうえでくりひろげられる人々の生活状態を地域的に説明する。		
使 用 教 材	テキスト	山本（他）著『世界の自然環境』大明堂	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	定期試験の成績と出席状況を加味して行う		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	地図帳を必ず持参すること		

1. 自然のしくみ
 1. 地形の諸類型、山のでき方、地形の発達、大地形と小地形
2. 2. 侵蝕地形と堆積地形
3. 河川による侵蝕地形と堆積地形
4. 氷河による侵蝕地形
乾燥地形（砂漠の地形、風の浸食作用）
5. 3. 構造地形
火山地形・断層地形
6. 4. 世界の大地形
世界の大山脈と平野の配置、プレートテクトニクスと大陸の移動
7. 5. 世界の気候地域
8. 気候地域の形成要因、気候と降水量と風
気候の諸類型と世界の気候地域区分
9. 6. 植生地域
世界の植生の水平分布と垂直分布
10. 7. 土壌類型の分布
成帯土壌と非成帯土壌の分布とその要因
11. 8. 海洋と陸水
地表における水の循環（海洋と陸水）海流、地下水、河川
12. 9. 自然災害と環境破壊
13. 世界の自然地域における人間の生活
1. 人間と自然環境の関連についての諸理論
14. 2. 熱帯地域
15. 高温湿潤環境の人間への影響、風土病、第3世界としての特質
熱帯の開発の歴史、植民地時代、温帯への従属
熱帯環境への現代的対応、東南アジアの新興工業国
16. 3. 砂漠地域
17. 乾燥への適応によって形成された生活形態、砂漠とイスラム教
地下資源開発と中近東の近代化とその諸相
18. 4. 地中海性気候
19. 乾燥地域と冷温帯との漸移地域としての特質
夏季高温乾燥冬季温暖湿潤な気候への特殊な人間生活の適応形態
地中海地域とカリフォルニアの文明論的比較
20. 5. 中緯度草原地域
中央アジアと合衆国西部とアルゼンチンパンパの比較
21. 6. 温帯混合材地域
22. 四季の変化の明瞭な気候と人間生活、先進工業国と自然環境との関係
西ヨーロッパ、中国、アングロアメリカの温帯混交林地域の比較
23. 7. 寒帯森林地域
きびしい冬季への適応を中心とする生活形態
24. 8. 山地地域
高度に適応した生活形態。アンデス山地、ヒマラヤにおける生活の高度による変化

科 目 名	精神衛生論	担当者名	佐々木 雄 司
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「精神衛生学」イコール精神医学ではない。後者の中核が「医療の場」における治療なのに反し、前者は、あらゆる「生活の場」(地域社会、職場、学校)における実践といえよう。</p> <p>私は、精神科医で、メンタルヘルスとくにコミュニティメンタルヘルスのパイオニアの 1 人として日本の各地で活動を重ねてきている。その日頃の実践の中で、精神衛生の基礎知識をもつ社会人の仲間が 1 人でもいたら.....と思うことの連続である。産業精神衛生は、現代の企業の重大問題の 1 つ。本授業を、そのよき社会人モデルを育てる基礎訓練の場としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>「暮らしの中の健康学、とくに精神衛生学概論」と集約できるかもしれない。身近に起こっている、生命や健康に関するありふれた出来事あるいは特異な出来事などをとりあげる。</p> <p>授業は精神科医としての 40 年間の私自身の実践や研究やフィールドワークの体験を縦軸とし、学生サンの討論などを横軸として進める。ビデオや新聞記事などを授業時間の最初に使用し、それをもとにした「グループ討論」をできるだけ頻回にとり入れたい。</p> <p>我国が、高度のストレス社会に突入した現在、本授業が、人間・家庭・地域社会・学校・企業・社会福祉・行政・信仰・日本文化などを考える緒の 1 つともなれば幸である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	なし	
	参 考 文 献	<p>佐々木 雄司「宗教から精神衛生へ」金剛出版、1986</p> <p>厚生省精神保健課「我が国の精神保健福祉」厚健出版(最新版)</p>	
評 価 方 法	<p>2 回の期末テストだけでなく、ミニテスト、出欠や発言などの参加姿勢を、平常点として重視する。期末テストのみの参加は認めない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>「精神衛生学」は人間関係の学であり、約束を重んずることと参加することが基本要件。先述した講義形態でもあり遅刻は厳禁。なお、ゼミ生(精神衛生論)は本授業も受講されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. オリエンテーション
	2. グループ討論「最近の新聞記事など」をとりあげる
	3. いのちと医療 (1) 新聞記事、グループ討議
	4. " (2) まとめ
	5. そこで起こっている現象の捉え方、考え方 (1) Video、グループ討論
	6. " (2) まとめ
	7. 信仰と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
	8. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
	9. 精神医学の知識 (1) 具体例、グループ討論
	10. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
	11. 新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (1) 具体例、グループ討論
	12. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
	13. 地域社会の精神衛生
	14. 家庭の精神衛生
	15. 学校の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
	16. " (2) まとめ
	17. 職場の精神衛生 (1) 具体性、グループ討論
	18. " (2) まとめ
	19. 加齢と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
	20. " (2) まとめ
	21. 日本の医療ことに精神科医療の現状
	22. 医師、医療機関の選び方
	23. 総括 (1) 新聞記事、グループ討論
	24. " (2) Video、まとめ

科 目 名	医療・福祉概論	担当者名	藤 井 賢一郎
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、医療・保健・福祉それぞれに対する社会制度・仕組みの現状や今後のあり方について議論し理解することを目標としている。特に、「こころの健康」や精神障害者に関する制度・仕組みの現状と課題について議論し、その中からわが国の医療・福祉の制度、システムに及ぶ問題点を抽出する。なお、制度、システムの分析に際しては、特に経済学の視点・手法を用い、問題点の一般化・普遍化に力点を置く。</p>		
講 義 概 要	<p>精神医療・保健・福祉の現状と課題（こころの病と健康の理解、精神医療・保健・福祉の制度・仕組みの現状と課題）</p> <p>医療・保健・福祉の現状と課題（わが国の医療・保健・福祉の現状と課題、わが国の社会保障制度の現状と課題、医療・保健・福祉の経済学）</p> <p>なお、授業に関する意見・感想があれば随時レポート・電子メールで提出してもらい、それを授業にできる限り反映する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	福祉養成講座編集委員会（編）「精神保健」中央法規出版	
	参 考 文 献	<p>西村周三「医療と福祉の経済システム」ちくま新書</p> <p>厚生省監修「日本の社会保障の歩み」中央法規出版</p> <p>池上直己、J. C. Campbell「日本の医療」中公新書</p> <p>鴨田忠彦「日本の医療経済」東洋経済</p> <p>藤井賢一郎「精神障害の生活と医療の費用負担に関する研究」獨狂経済 65号</p>	
評 価 方 法	<p>後期修了試験（小論文形式）の成績を主とする。ただし、平常成績（授業への意見・感想に関する随時レポート、課題に対するレポート）や その他（講義への貢献度等）も含めて評価を行う。詳細は第1回講義時に説明する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>医療・福祉分野やこころの健康に問題意識を持ち、問題を客観的・分析的に捉え、自分なりに考えようという姿勢を持っていただきたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：本講義の目標と概要、評価の方法について説明を行う。受講希望者は必ず出席すること。 2. 健康と障害：死因や疾病・健康状態に関する統計をもとに、わが国の現状を概説する。 3. 医療・福祉総論（1）：病院や診療所などの機能について概説を行う。 4. 医療・福祉総論（2）：予防や保健の意義について概説を行う。 5. 医療・福祉総論（3）：保健所、保健センターなどの機能について概説を行う。 6. 医療・福祉総論（4）：福祉サービスの対象とサービス内容について概説を行う。 7. 医療・福祉総論（5）：保健・医療・福祉サービスの連携について概説を行う。 8. グループディスカッション1（前半）配布した課題をもとに、4～6名のグループでディスカッションを行う。時間内に、グループの意見をまとめる。 9. グループディスカッション1（後半）各グループの意見を発表の後、講師より説明を行う。 10. 医療・福祉各論（1）：ビデオをもとに、精神障害についての概説を行う。 11. 医療・福祉各論（2）：community mental health に関する概説を行う。 12. 医療・福祉各論（3）：精神障害者の処遇とその変遷に関する概説を行う。 13. 医療・福祉各論（4）：精神障害者の処遇と財源問題に関する概説を行う。 14. グループディスカッション2（前半）：配布した課題をもとに、4～6名のグループでディスカッションを行う。時間内に、グループの意見をまとめる。 15. グループディスカッション2（後半）各グループの意見を発表の後、講師より説明を行う。 16. 経済学と医療・福祉（1）：「情報の非対称制」「エイジェント理論」について概説を行う。 17. 経済学と医療・福祉（2）：「不確実性」「逆選択」と保険の意義についての概説を行う。 18. 経済学と医療・福祉（3）：「人的資本論」「外部性」の概説および、制度学派の観点についての概説を行う。 19. 経済学と医療・福祉（4）：医療・福祉における公的意思決定問題とわが国の現状について概説する。 20. 社会保障制度（1）：わが国の公衆衛生、社会福祉、国家扶助制度について概説を行う。 21. 社会保障制度（2）：わが国の社会保険制度（医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度）に関する概説を行う。 22. 社会保障制度改革（1）：今後の社会保障制度改革の必要性とその方向性について概説を行う。 23. 社会保障制度改革（2）：社会保障制度の財源問題について概説を行う。 24. まとめ 講義全体に関するまとめを行う。
----------------------------	--

科 目 名	スポーツ・健康論	担当者名	本 田 稔 祐
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	現代は、数多くのスポーツが大勢の人々に実施されたり、見られるようになってきている。そこでスポーツの功罪をとりあげ、将来にわたり健康を維持していくためには、どんなスポーツが良いか、などについて検証していくこと。		
講 義 概 要	スポーツとは何なのか、健康とはどんな状態なのかより始め、われわれのからだにスポーツがどのような影響を与えているのか、そしてどのような危険性があるのか、健康に役立てようとするにはどんな方法で実施すれば良いかなどを学習し、実際に自分達が、スポーツをする際の注意点、問題点などを考えて、健全な日常生活を営めるようにすること。		
使 用 教 材	テキスト	特に使用しない。必要に応じてプリントを配布。	
	参考文献	ハラルド・メラロヴィッチ、石川亘、杉山進、兵頭圭介共訳 「健康と運動」ベースボールマガジン社 福岡スポーツ研究所「健康スポーツライフ」スキージャーナル社 桑野 豊「みんなのスポーツ Q & A」不昧堂出版 他	
評 価 方 法	出席状況 40% 前期レポート 20% 後期筆記テスト 40% で評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	遅刻、欠席をしないこと、私語はしない、ノートをとり疑問点は質問してただしておくこと。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 人の健康とは 2. スポーツとは 3. スポーツの特性 4. スポーツの種類 5. 能力スポーツについて 6. 能力スポーツの役割と健康との関係 7. レクリエーションスポーツとレジャースポーツ 8. レクリエーションスポーツの効果 9. レジャースポーツの効果 10. 健康スポーツについて 11. 健康スポーツに適した種目 12. 健康スポーツの実施方法、注意点 13. トレーニングの基礎理論 14. ウォーミングアップとクーリングダウンの必要性 15. スポーツと用具 16. スポーツの効果的な実施場所 17. 自由時間の有効利用 18. 運動と栄養 19. 肥満の功罪 20. スポーツと疲労 21. スポーツ障害 22. 運動中の事故の応急処置 23. 事故と救急法 24. 筆記テスト（予定）
----------------------------	--

科 目 名	経営外国語	担当者名	井 出 健二郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>テレビ・新聞の経済記事では最近、原語（カタカナ）で綴られている用語が多くなりました。また、これまでにないほど外資系の企業が国内に入ってきています。こうした状況ではこれまでの講義（経済学 Economics、経営学 Management、会計学 Accounting）の中には、皆さんに是非知ってもらいたい専門の用語や特有の言葉があります。これらは、どのような意味をもち、英語ではどのように呼ばれる（呼ぶ）のでしょうか？</p> <p>本講義では、皆さんが受験の時に英単語を覚えたように、“ビジネスの英単語”をマスターしてもらいます。そして、文章がスラッと読めるように習得していきます。</p>
講 義 概 要	<p>経済学 Economics、経営学 Management あるいは会計学 Accounting に関する入門用の外書をもとにして、読み進めていきます。進行としては以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) テクニカルタームについて皆さんにあらかじめ調べてもらいます。 (2) テクニカルタームについて解説していきます。 (3) それをもとにして、英文を皆さんに解釈してもらいます。 (4) その解釈されたものについて、必要とあれば補足・修正の説明を行なっていきます。 <p>また、関連する新聞記事、雑誌記事などを適時プリントを配布し、外書の理解を促すようにします。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>Economics、Management あるいは Accounting の入門書をとりあげます。テキストを特に指定せずに、プリントを配布していきます。</p>
	<p>参 考 文 献</p> <p>特に、経営経済の英書をあつかいますので、手もとに英和の経済・経営・会計用語辞典などがあると、予習や講義の理解のときに役立つものと思われます。</p> <p>（そのいくつかについては、開講時に紹介していきます。）</p> <p>また、授業の際には辞書を忘れずに持参してください。</p>
評 価 方 法	<p>定期試験（前期テスト・後期テスト）出席、レポートを総合評価していくつもりです。評価の配分としては、試験 40%、出席 50%、レポート 10%を予定しています。（また、外書の輪読という形式のため、通常点をプラスしていきます）。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>できるだけ皆さんの積極的な姿勢を期待しています。外書という講義形式にとらわれず、ゼミ・演習のようにコミュニケーションをはかり、楽しくそして満足の得られるものにしていきましょう。</p>

科 目 名	経済外国語	担当者名	伊 藤 為一郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	英・米の経済に関する論文を読み、テクニカルタームを学びながら内容の理解を深める。		
講 義 概 要	内容を理解するため必要に応じて基礎的な講義をする。 英・米の経済状況についても概観できるようにする。		
使 用 教 材	テキスト	プリント教材	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	期末試験の結果に平常点を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習をしておくこと。		

科 目 名	経営外国語	担当者名	氏 原 茂 樹
-------	-------	------	---------

講義の目標	<p>会計情報に関する英文の記事や論文の読解力をつける。 英語の会計用語と構文に親しむ。 欧米と我国の会計情報の比較研究の展開。</p>																																																				
講義概要	<p>毎回テーマにそって、一定の範囲を輪読する。 主要な概念、問題点については、その都度解説する。 受講者は、その時に割り当てられた順番で訳す。</p>																																																				
使用教材	テキスト	“Accounting The Easy Way”、その他の配布資料による。																																																			
	参考文献	“International Accounting Standard” 『経済用語辞典』 『会計用語辞典』																																																			
評価方法	<p>下記の事項を参考にして総合的に評価する。 定期試験 学習意欲と学習成果 出席状況</p>																																																				
受講者に対する要望など	遅刻をしない	予習・復習をする。																																																			
年間授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1 . What Is Accounting?</td> <td>The Art of Recording</td> </tr> <tr> <td>2 . Accounting Information</td> <td>The Financial Status</td> </tr> <tr> <td>3 . What Are Assets?</td> <td>Money Value, etc.</td> </tr> <tr> <td>4 . The Value of Items</td> <td>Monetary Principle</td> </tr> <tr> <td>5 . Accounting Equation</td> <td>Assets = Liability + Capital</td> </tr> <tr> <td>6 . What Are Profit?</td> <td>Revenue - Expenses = Profit</td> </tr> <tr> <td>7 . Recording Revenue</td> <td>A Result of the Sale</td> </tr> <tr> <td>8 . Recording Expenses</td> <td>Cost of Doing Business</td> </tr> <tr> <td>9 . Capital</td> <td>Permanent Capital, Temporary Capital</td> </tr> <tr> <td>10 . Financial Statements</td> <td>Income Statement, Balance Sheet, etc.</td> </tr> <tr> <td>11 . Income Statement</td> <td>Listing of the Revenue and Expenses</td> </tr> <tr> <td>12 . Statement of Capital Balance Sheet</td> <td>The Proprietor's Ownership Financial Position of a Business</td> </tr> <tr> <td>13 . Classifying Assets</td> <td>Current Assets, Intangible Assets, etc.</td> </tr> <tr> <td>14 . Classifying Liabilities</td> <td>Current or Liabilities</td> </tr> <tr> <td>15 . Business Transactions</td> <td>Related to business Activities</td> </tr> <tr> <td>16 . Kinds of Information</td> <td>Date, Explanation and Amount</td> </tr> <tr> <td>17 . The Ledger Binder</td> <td>A Recording of Account</td> </tr> <tr> <td>18 . Standard Form of the Account</td> <td>The “T” Account, etc.</td> </tr> <tr> <td>19 . Ledger Accounts</td> <td>Showing of Balance</td> </tr> <tr> <td>20 . Recording Asset Changes</td> <td>Calculating of Asset Accounts</td> </tr> <tr> <td>21 . Recording Changes</td> <td>In Liability Accounts, etc.</td> </tr> <tr> <td>22 . Recording Transactions</td> <td>In Temporary Capital Accounts, etc.</td> </tr> <tr> <td>23 . Double-Entry Accounting</td> <td>Rules and Concepts</td> </tr> <tr> <td>24 . Standard Form for the Ledger Account</td> <td>Debit and Credit</td> </tr> <tr> <td>Recording Business Transactions</td> <td>Journal and Ledger Account</td> </tr> </table>			1 . What Is Accounting?	The Art of Recording	2 . Accounting Information	The Financial Status	3 . What Are Assets?	Money Value, etc.	4 . The Value of Items	Monetary Principle	5 . Accounting Equation	Assets = Liability + Capital	6 . What Are Profit?	Revenue - Expenses = Profit	7 . Recording Revenue	A Result of the Sale	8 . Recording Expenses	Cost of Doing Business	9 . Capital	Permanent Capital, Temporary Capital	10 . Financial Statements	Income Statement, Balance Sheet, etc.	11 . Income Statement	Listing of the Revenue and Expenses	12 . Statement of Capital Balance Sheet	The Proprietor's Ownership Financial Position of a Business	13 . Classifying Assets	Current Assets, Intangible Assets, etc.	14 . Classifying Liabilities	Current or Liabilities	15 . Business Transactions	Related to business Activities	16 . Kinds of Information	Date, Explanation and Amount	17 . The Ledger Binder	A Recording of Account	18 . Standard Form of the Account	The “T” Account, etc.	19 . Ledger Accounts	Showing of Balance	20 . Recording Asset Changes	Calculating of Asset Accounts	21 . Recording Changes	In Liability Accounts, etc.	22 . Recording Transactions	In Temporary Capital Accounts, etc.	23 . Double-Entry Accounting	Rules and Concepts	24 . Standard Form for the Ledger Account	Debit and Credit	Recording Business Transactions	Journal and Ledger Account
1 . What Is Accounting?	The Art of Recording																																																				
2 . Accounting Information	The Financial Status																																																				
3 . What Are Assets?	Money Value, etc.																																																				
4 . The Value of Items	Monetary Principle																																																				
5 . Accounting Equation	Assets = Liability + Capital																																																				
6 . What Are Profit?	Revenue - Expenses = Profit																																																				
7 . Recording Revenue	A Result of the Sale																																																				
8 . Recording Expenses	Cost of Doing Business																																																				
9 . Capital	Permanent Capital, Temporary Capital																																																				
10 . Financial Statements	Income Statement, Balance Sheet, etc.																																																				
11 . Income Statement	Listing of the Revenue and Expenses																																																				
12 . Statement of Capital Balance Sheet	The Proprietor's Ownership Financial Position of a Business																																																				
13 . Classifying Assets	Current Assets, Intangible Assets, etc.																																																				
14 . Classifying Liabilities	Current or Liabilities																																																				
15 . Business Transactions	Related to business Activities																																																				
16 . Kinds of Information	Date, Explanation and Amount																																																				
17 . The Ledger Binder	A Recording of Account																																																				
18 . Standard Form of the Account	The “T” Account, etc.																																																				
19 . Ledger Accounts	Showing of Balance																																																				
20 . Recording Asset Changes	Calculating of Asset Accounts																																																				
21 . Recording Changes	In Liability Accounts, etc.																																																				
22 . Recording Transactions	In Temporary Capital Accounts, etc.																																																				
23 . Double-Entry Accounting	Rules and Concepts																																																				
24 . Standard Form for the Ledger Account	Debit and Credit																																																				
Recording Business Transactions	Journal and Ledger Account																																																				

科 目 名	経営外国語	担当者名	内 倉 滋
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済学部や経営学部の学生が、インターネットを通じて英文の情報に触れる機会は、今日ますます増えつつある。本講義は、下記の“実験テキスト”〔＝著者の表現〕により、“インターネット時代の英語”の一端を垣間見ることを、講義目標としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>この“実験テキスト”は、全部で12章あり、その各章は、1～2ページのテキストとそれに関連した「Questions」や「演習」から成っている。したがって、2週で1つの章を、というペースとし、最初の週にテキストの内容の純粋理解を、そして次の週にその章にかかわる「Questions」や「演習」を取り扱う、という形で進めていくこととしたい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	和久 豊編、「インターネット時代の英語」、英宝社。	
	参 考 文 献	特に必要とはいたしません。	
評 価 方 法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また（受講生の理解度を知る目的からも）何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講義科目の主役は、担当者である私ではなく、受講生である皆さん方です。そのことの認識だけは、お願いしておきます。</p>		

- 1 . Chapter 1 : What is Internet?
- 2 . Chapter 1 : What is Internet? [「Questions」 and 「演習」]
- 3 . Chapter 2 : The History of the Internet
- 4 . Chapter 2 : The History of the Internet [「Questions」 and 「演習」]
- 5 . Chapter 3 : Stratford-upon-Avon - Shakespeare's Country
- 6 . Chapter 3 : Stratford-upon-Avon - Shakespeare's Country [「Questions」 and 「演習」]
- 7 . Chapter 4 : Beatrix Potter in Lake District
- 8 . Chapter 4 : Beatrix Potter in Lake District [「Questions」 and 「演習」]
- 9 . Chapter 5 : Baseball in USA TODAY
- 10 . Chapter 5 : Baseball in USA TODAY [「Questions」 and 「演習」]
- 11 . Chapter 6 : Scanning TimeOut - London Musicals & Theatres -
- 12 . Chapter 6 : Scanning TimeOut - London Musicals & Theatres - [「Questions」 and 「演習」]
- 13 . Chapter 7 : Clinton Calls For Bipartisanship
- 14 . Chapter 7 : Clinton Calls For Bipartisanship [「Questions」 and 「演習」]
- 15 . Chapter 8 : The Virtual Library in White House
- 16 . Chapter 8 : The Virtual Library in White House [「Questions」 and 「演習」]
- 17 . Chapter 9 : Gates sings Internet's praises
- 18 . Chapter 9 : Gates sings Internet's praises [「Questions」 and 「演習」]
- 19 . Chapter 10 : Prince and Princess of Wales
- 20 . Chapter 10 : Prince and Princess of Wales [「Questions」 and 「演習」]
- 21 . Chapter 11 : China mourns paramount leader
- 22 . Chapter 11 : China mourns paramount leader [「Questions」 and 「演習」]
- 23 . Chapter 12 : Toyota urges Britain to join the euro
- 24 . Chapter 12 : Toyota urges Britain to join the euro [「Questions」 and 「演習」]

科 目 名	経営外国語	担当者名	遠藤 信 (A・B)
-------	-------	------	------------

講 義 の 目 標	現代の著名な科学者による一般読者向けにおこなった講演を読んで、決定論と自由意志、生命とは何かという問題、人類の未来について必要な解説を加えながら考えることが、この講義の目標である。		
講 義 概 要	<p>(1) この世には、何か明確な法則があって、宇宙も宇宙の中にあるすべてのものも、時間とともにどのように発展していくかは、それらの法則により決められているのだろうか。もし決められているとするならば、自由な意志とか自分の行動に対する責任はどうなるのであろう。</p> <p>(2) 生命について考える。何故、この惑星（地球）に生命が現れたのか。生命の起源と生命が未来に向かってどのように発展するのかについて考察する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	LECTURES BY S . W . HAWKING (COPY)	
	参考文献		
評 価 方 法	出席状況と平常点とテストの成績を総合して、成績を評価する。出席点と平常点を重視するので、欠席の多い者は単位が取れない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習を必ずしてくること。 欠席をしないこと。		

年
間
授
業
計
画

1. 前期は Is Everything determined ?
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
13. 後期は Life in the Universe
- 14.
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科 目 名	経営外国語	担当者名	岡 下 敏
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	社会にでて英文にとまどいを感じることなく、正しく内容を把握する力を身につけることを目的とする。		
講 義 概 要	新聞又は雑誌等から適当な記事を取り上げ、それを各人が順番に訳してゆく方法を進める。 教材は予めコピーを配布する。		
使 用 教 材	テキスト	教室で相談の上きめる。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	教室での訳と期末試験とを総合して評価する。出席の様子も十分に加味する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習、復習を十分に行うこと。欠席しないこと。		

科 目 名	経済外国語	担当者名	岡 田 博
-------	-------	------	-------

講義の目標	Wilfred Owen 『Transportation and World Development』をテキストとして、訳を主として読んでいき、読解力をつけるとともに、交通と世界経済との関連について理解を一層深めてもらうことに目標をおく。		
講義概要	交通の世界システムへの展望をテーマにオーエンの上記テキストを読んでいく。		
使用教材	テキスト	・ Wilfred Owen; <i>Transportation and World Development</i> , The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore.	
	参考文献		
評価方法	授業中の発表と、定期試験の成績とで評価する。		
受講者に対する要望など	次週の授業で進む範囲を指示するので、毎週指示された範囲のところをあらかじめ訳してきて、それを提出させる。欠席の多い人には単位を与えない。		
年間授業計画	前期	『Transportation and World Development』の中の7章 Global System Strategies を読んでいく。	
	後期	前期に引き続き、Transportation and World Development を読解していく。	

科 目 名	経営外国語	担当者名	岡 村 国 和
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義の目的は、将来履修する専門科目を外国語文献を用いて研究しようと志す学生君のためにその方法を準備することにある。翻訳が主目的ではなく、内容の理解とその検討が主目的である。さしあたり経済・経営に関する記事や指標などについての読み方を習得するため、実際に記事・資料などを輪読する。輪読しその後に討論を行うというステップを繰り返すことを予定している。資料・データは雑誌のほかインターネット上から取得する。あるデータが与えられたとき、その解読・分析を自力で行うには最低限の専門用語の知識が要求されることはもちろんのこと、数字を翻訳する作業も併せて要求されることを理解してほしい。これも本講義の目標の一部である。</p>		
講 義 概 要	<p>まず経済・経営の一般的用語を理解し、経済構造や企業行動の特徴を知る上で必要な知識の習得を目指す。次いで産業構造、産業政策についてその基礎を検討するための分析枠組みを検討する。経済の真の姿を理解するには多面的な考察が必要であるが、本講義では主として基本的な分析用具を紹介しつつ将来の学習に備える工夫ができるようになることを配慮しつつ講義を進める。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>未定。さしあたり当方で金融、財政などに関する雑誌やインターネット上の資料を用意する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>輪読の際の個々人の報告を中心とし、これに基づいて最終評価を行う。場合によっては夏と冬にレポートを課すこともある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>日経新聞などの経済誌の読み込みなどに労を厭わない学生を歓迎する。</p>		

科 目 名	経営外国語	担当者名	小 川 剛
-------	-------	------	-------

講義の目標	現代社会において企業活動を行っていくためには、広い視野に立ち、事象を多面的にみる必要がある。思想界では、ポスト・モダンがいわれているが、その原点としてのモダンな社会がどのようなものか理解する必要がある。本授業では、イギリスの外交官であり、国際関係の研究者でもあった人の著作を講読する。		
講義概要	産業革命・仏革命によってもたらされた「新しい社会」にたいして、歴史的・経済学的・政治学的・国際関係論的といったアプローチで、その実態にせまる。		
使用教材	テキスト	E . H . Carr “ The New Society ” Macmilan 1956 (テキストは授業の際コピー配布)	
	参考文献	適宜指示	
評価方法	出席点と各章ごとの理解の程度をみるレポートで評価する。		
受講者に対する要望など	内容の濃い含蓄の豊かな内容なので、必ず予習してくること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . The Historical Approach 2 . From Competition to Planned Economy 3 . From Economic Whip to Welfare state 4 . From Individualism to Mass Democracy 5 . The World Transformed 6 . The Road to Freedom 		

科 目 名	経済外国語	担当者名	奥 山 正 司
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>21 世紀を目前にして、本格的な高齢化社会をむかえようとしている日本社会において、高齢化や高齢者に関してさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした課題が多い。それは、介護にかかわる福祉や医療を今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題である。一方、健康で活動的な高齢者が老年期をいかに生活していくかも重要な課題であり、本年度はそれらの課題について、考える力を身につけさせる。</p>		
講 義 概 要	<p>アメリカ側と日本側の研究者が協力して作成した「日本の高齢化や高齢者についての小冊子」を輪読し、さらには、それぞれの課題について、講義と討論を併用し、多少なりとも専門の用語や課題について深めていくことにする。</p> <p>講義の内容は、日本において退職した高齢者ではなく、人生の最後まで現役である高齢者及びそれをめざしている高齢者を対象とし、かつ生産的な高齢者として活動していくためには、どのような方策が考えられるかについて、深めていく。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>Productive Aging and the Role of Older People in Japan: New Approaches for the United States by Scott A. Bass(1994) The Japan Society and the International Leadership Center on Longevity(United States)at the Mount Sinai School of Medicine, an affiliate of The City University of New York.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>予習、復習、発表、出席を重視する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>こつこつと予習をしてくること。</p>		

1. 教科書の概要についての説明
2. 日本の高齢者についての概説
3. 生産的高齢者及び高齢化とは
4. 将来への問題についての心構え
5. ヘルスケア
6. 文化と社会
7. 長寿（生きること）とその哲学
8. 高齢化社会
9. 高齢化社会の経済的な意味
10. 雇用・労働・年金
11. なぜ日本の高齢者は働くのか
12. 雇用政策
13. 伝統的な産業及び経済にみられる高齢者の貢献度
14. 高齢者の生きがいと役割

科 目 名	経営外国語	担当者名	梶 山 皓
-------	-------	------	-------

講義の目標	マーケティングと広告に関する基礎的な理論を英語で学びます。		
講義概要	マーケティングの基礎的な理論、すなわちマーケティング計画の立案、製品開発と管理、流通システム、プロモーション政策、製品の価格設定、特定分野のマーケティング等を学びます。他に広告理論を概観します。授業は学生が英文を訳出し、教員が内容を解説する形式で進めます。		
使用教材	テキスト	James E. Finch: The Essentials of Marketing Principles, Research and Education Association, 1992.	
	参考文献	P. コトラー他(和田充夫他訳)『マーケティング原理』、ダイヤモンド社、1995。	
評価方法	「試験」「出席状況」「発表内容」を総合的に判断して評価を行います。 なお欠席が年間6回以上の方は、原則として評価を不可とします。		
受講者に対する要望など	授業には辞書を必ず持参してください。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概容 2. マーケティングとは 3. マーケティング情報システム 4. 市場分析 5. マーケティング・セグメンテーション 6. 消費者行動 7. ビジネス・マーケティング 8. 製品開発 9. 製品ミクス 10. 流通システム 11. 物的流通 12. 問屋 13. 小売 14. プロモーション戦略 15. 広告 16. PR 17. 人的セールス 18. セールス・プロモーション 19. 価格決定 20. 価格政策 21. マーケティング評価 22. 国際マーケティング 23. 非営利機関のマーケティング 24. ダイレクト・マーケティング 		

科 目 名	経営外国語	担当者名	香 取 徹
-------	-------	------	-------

講義の目標	21世紀は、国際的という言葉の意味がなくなります。それくらい人々が世界中を回り、行き来するようになるからです。そのときの共通語は少なくとも日本語ではないでしょう。1つの共通語としての英語に触れる機会を多くもつこと大変大切なことです。この講義では、経済関連の内容にこだわらず、英語を読むことから、書くことへ、つまり英語を使うことを心がけています。		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを使って、インターネットとE-mailによる世界中の学生との交信。 2. CNN やBBC のニュースをビデオ等の教材で聞いて、書く。 3. ABC 製作のビデオを見てレポートする。 4. その他、音楽や映画などのビデオを教材とします。 		
使用教材	テキスト	毎回配付します。	
	参考文献		
評価方法	レポートやメールで毎回確認します。		
受講者に対する要望など	和英・英和の辞書(小さいものでもよい)が必要。休まないこと。		
年間授業計画			

科 目 名	経営外国語	担当者名	日 下 泰 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	マネージメントに関する文献を輪読することによって、テクニカル・タームを学び、英文の読解力をつけ、併せて内容についての理解を深める。		
講 義 概 要	<p>日本企業では、欧米で開発されたコンセプトを模倣し優秀な生産技術と品質管理技術によって安価で高品質の製品を開発してきた従来の後追い型経営から、真に創造的な製品を開発する経営へとパラダイムの転換を図ることが必要とされている。本講義は、企業のイノベーション・マネージメントと新製品開発をテーマに取り上げ、次の方法で進められる。</p> <p>受講者は予め割り当てられた範囲を輪読する。</p> <p>必要があれば、主要な概念、テクニカル・タームなどは教員が補足説明をする。</p> <p>検討課題について全員で討論し、内容についての理解を深める。</p>		
使 用 教 材	テキスト	Paul Trott: " Innovation Management & New Product Development" Financial Times Pitman Publishing, 1998 (コピーを配布する)	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	前・後期末試験、発表内容とそのレポート、出席状況、平常点を総合して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	必ず予習をしてきて下さい。やむを得ない場合を除いて継続して出席するように、そして、出席した以上は討論に積極的に参加するように心がけて下さい。		

- 1 ~ 3 . Innovation management : an introduction
- 4 ~ 6 . Managing innovation within firms
- 7 ~ 9 . Business strategy and organisational knowledge
- 10 ~ 12 . Product strategy
- 13 ~ 14 . New product development
- 15 ~ 18 . Managing the new product development team
- 19 ~ 21 . Management of research and development : an introduction
- 22 ~ 24 . Strategic alliance and intellectual property

科 目 名	経済外国語	担当者名	小 林 進
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	理論経済学を中心に、できるだけ大量の英文の読破を目指したい。経済学の重要性は近年非常に高まってきており、その学習においては翻訳書に頼るだけでは不十分で、原書で読むことの必要性が増している。受講者は、途中で脱落することなく毎週必ず出席し、経済学の用語に早くなれて研鑽（ケンサン）を積んでほしい。昔の賢人いわく「努力しない者が成功することは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」		
講 義 概 要	米国の標準的な経済学テキストの講読		
使 用 教 材	テキスト	R. Dornbusch, S. Fischer & R. Startz, <i>Macroeconomics</i> , 7th edition, 1998	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	平常の出欠と受講態度を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	必修経済学を履修していること、またはそれと同程度の実力があること		

科 目 名	経営外国語	担当者名	小林哲也 (A・B)
-------	-------	------	------------

講 義 の 目 標	<p>国際経済に関する時事的なテーマのもとで、英文雑誌記事を多読する。不況下での世界的な産業の再編成、日本経済の世界的な位置など、経済学の応用問題ともいえるテーマを中心にとりあげる予定である。本講義では、語学上の予習・復習の努力はいうまでもないが、時事的な経済問題に対する日常的な理解が必要である。</p>		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テ キ ス ト	BUSINESS WEEK, THE ECONOMIST, など	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷川啓之編『英和・和英経済用語辞典』富士書房 ・太田稀喜『時事英語で世界を読む』亜紀書房 ・森岡裕一他『ビジネス・ウィークを読む』日本生産性本部 ・尾崎俊二『ワールド・スピークス 英語で読みとく現代世界』11 ベルタ出版 ・寺沢浩二『英文経済記事を読む辞典』ジャパンタイムス ・C.NELSON, Economic Indicators, Willey & Sons 	
評 価 方 法	平常点を重視する。夏期レポート、小レポートあり。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	国際経済やビジネスに関心を持っている者が望ましい。進度が速いので、キチンと予習ができる者に限る。		

年 間 授 業 計 画	1. はじめに： 経済情報の集め方 参考書の使い方
	2. 英文情報源のいろいろ
	3. JAPANESE ECONOMY 景気編
	4. JAPANESE ECONOMY 産業編
	5. JAPANESE ECONOMY 金融編
	6. JAPANESE ECONOMY 経営編
	7. ASIAN ECONOMIES NIES
	8. ASIAN ECONOMIES NIES
	9. ASIAN ECONOMIES CHINA
	10. ASIAN ECONOMIES CHINA
	11. Internet を使った情報収集術
	12. Internet を使った情報収集術
	13. US.ECONOMY
	14. US.ECONOMY
	15. US.ECONOMY
	16. US.ECONOMY
	17. World Corporations
	18. World Corporations
	19. World Corporations
	20. 研究発表 学生自身が、グループを作り、世界経済上の話題を英文で調査・発表する。
	21. 研究発表 同 上
	22. 研究発表 同 上
	23. 研究発表 同 上

科 目 名	経済外国語	担当者名	駒 形 哲 也
-------	-------	------	---------

講義の目標	第2外国語で中国語を履修し、中国経済に関心をもつ学生を対象に、中国の経済・商業に関する中国語を学ぶ。		
講義概要	経済外国語の授業なので、中国語の学習（経済・商業関連の単語の習得に重点をおく）が主となるが、日本語の中国経済・ビジネス関係図書も読み物として使用する予定。		
使用教材	テキスト	開講時に指示する。	
	参考文献		
評価方法	授業への参加状況とほぼ毎週行う小テストの結果によって、成績評価を決定する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	受講者の状況によって決定する。		

科 目 名	経営外国語	担当者名	齋藤正章
-------	-------	------	------

講義の目標	<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくない。最近では海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されるので、読解のための語学力はさして必要ではないと感じる向きも居るかもしれない。また、インターネットの急速な進展による翻訳支援ツールの普及はその感をますます強めさせるであろう。しかし、それらはいくまでも「他人の翻訳」であって自分のものではない。原著にある微妙なニュアンスは、数少ない例外を除いて翻訳では失われていることが多い。本講義では、原著で書かれている内容を真に自分のものとするための読解力の養成を目標としている。</p>		
講義概要	<p>テキストには経営全般（マーケティングや会計を含む）に関する、英語圏の大学で使用されている標準的なものを採用する。経営（マネジメント）に興味のある者やこれから勉強したい者にとってのよき基本書・入門書となろう。</p> <p>次に授業の進め方であるが、前半は、専門用語や基本概念の確認のためややスローペースで、後半は量をこなすためハイペースで進める予定である。</p>		
使用教材	テキスト	開講時に指示する。	
	参考文献		
評価方法	前後期の試験に出席率を加味する。		
受講者に対する要望など	辞書を引く手間を惜しまないこと。授業には辞書を持参すること。		

科 目 名	経営外国語	担当者名	仙田幸子 (A・B)
-------	-------	------	------------

講 義 の 目 標	<p>英語の文献を読みこなす力の養成を目的とし、1つの文献を速読と熟読という2つの方法で読む。速読ではある程度の量を一度に読み、論文の構成と重要な点を正確につかむことを心がける。熟読では逐語訳を行い内容を深く理解することを心がける。</p> <p>使用するテキストは職務満足の基本的な概念である「動機づけ - 衛生」理論に関する文献である。</p>				
講 義 概 要	<p>あらかじめ分担を決め、担当者のレポートをもとに内容を検討する。報告の際にはレジメを用意し、それをもとに報告する。各期1回ずつは報告することになる。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Frederick Herzberg, Bernard Mausner, Barbara Bloch Snyderman "The Motivation to Work" Transaction Publishers, 1993 ;ISBN 1-56000-634-X</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>テキストは変更する場合がある。</td> </tr> </table>	テキスト	Frederick Herzberg, Bernard Mausner, Barbara Bloch Snyderman "The Motivation to Work" Transaction Publishers, 1993 ;ISBN 1-56000-634-X	参考文献	テキストは変更する場合がある。
テキスト	Frederick Herzberg, Bernard Mausner, Barbara Bloch Snyderman "The Motivation to Work" Transaction Publishers, 1993 ;ISBN 1-56000-634-X				
参考文献	テキストは変更する場合がある。				
評 価 方 法	<p>担当部分についてのレジメと報告内容(70%)および授業態度(30%)を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>予習をきちんとしてくる。英和辞典を持ってくるのが望ましい。</p>				

科 目 名	経済外国語	担当者名	高 橋 善四郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>古典講読 経済学の古典学派のジョン・スチュアート・ミル (John Stuart Mill) の『経済学原理』を講読する。</p>		
講 義 概 要	<p>Principles of Political Economy, with some of their Application to Social Philosophy</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>テキストのコピーを配布する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>期末試験の成績、出席状況、ノートの提出、授業における評価を総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	経営外国語	担当者名	高 松 和 幸
-------	-------	------	---------

講義の目標	現代経営学に影響を与えた名著を読む。 英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説や練習問題を解くことで習得を目指す。		
講義概要	組織を構成する諸種の体系を学習できるように配慮するとともに、前編を読まなくとも理解できるように解説を加えることにする。		
使用教材	テキスト	James G. March & Herbert A. Simon, <i>Organizations</i> , John Wiley & Sons. (本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、他にも必要に応じて他文献のコピーも配布する。)	
	参考文献		
評価方法	レポート・授業出席状況による総合評価。		
受講者に対する要望など	予習・復習をすること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . The literature of organization theory 2 . same as above 3 . same as above 4 . Some types of propositions 5 . same as above 6 . Taylor's Scientific management 7 . same as above 8 . Operational and empirical problems of classical administrative science 9 . same as above 10 . Theory of bureaucracy 11 . same as above 12 . Conclusion 13 . Motivation to produce 14 . The evoked set of alternative 15 . same as above 16 . Individual goals 17 . same as above 18 . The theory of organizational equilibrium 19 . same as above 20 . Employee participation : The participation criterion 21 . same as above 22 . Employee participation : The general model 23 . same as above 24 . conclusion 		

科 目 名	経営外国語	担当者名	立 田 ル ミ
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>アメリカでポピュラーな最新の本を利用し、インターネットの専門用語を解説することを目的とする。また、現在どのようなネットワークのソフトウェアが開発されているかを概説し、その利用法について実際にコンピュータを使って解説する。ネットワークを用いて英語圏の大学のコンピューサイエンス学科をアクセスし、どのような授業や研究が行われているかを調べる。さらにコンピュータネットワークがどのように教育に利用されているかを Web のページを読むことにより、それらを研究することを目的として講義・演習を行う。</p>		
講 義 概 要	<p>インターネットがどのようなものかを最初に外書を読みながら講義する。また、インターネットを利用するためにはどのようなものが必要かを概説し、必要なソフトウェアについて講義とデモンストレーションを行う。次にインターネットを実際に利用するためのソフトウェアをダウンロードして、それらを実際を使って演習を行う。また、検索用エンジンを用いて、コンピュータサイエンス学科を検索し、どのような教育が行われているかを調査する。また、教育用ソフトウェアとしてどのようなものが開発されているかも調査する。さらに、音声、動画があるページを検索し、されらがどのような命令やソフトを用いているかを調べてもらう予定である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Galen A. Grimes, Rick Bolton: The Internet and World Wide Web, Que, 1997	
	参 考 文 献	Web 上のページ	
評 価 方 法	<p>毎回電子メールでレポートを提出してもらい、それを 30% の評価とする。 前期 1 回、後期 1 回の試験を行い、それを各 35% の評価とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>プログラミング論および情報処理概論を履修したか、現在履修の学生に限る。コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎的知識のある学生に限る。出席をしない学生は単位を与えない。</p>		

1. インターネットの概要：インターネットとは
2. サービスプロバイダーについて：サービスプロバイダーの現状
3. Windows に TCP/IC クライアントをインストールする：プログラムのインストール
4. PPP 接続について：PPP 接続の方法
5. ダイアルアップ接続のための設定：ダイアルアップ接続に必要なソフトウェア
6. インターネットセットアップ：インターネット接続に必要なこと
7. FTP のダウンロードと利用：FTP を用いてソフトウェアをダウンロードする
8. Microsoft Exchange の設定と電子メール：電子メール、Microsoft Exchange の利用
9. World Wide Web について：WWW とは
10. Microsoft Internet Explorer のダウンロードと利用：Microsoft Internet Explorer を利用する
11. ブックマークの利用：ブックマークの利用と整理
12. 検索エンジンの利用：いくつかの検索エンジンを使う
13. グラフィックファイルの利用：グラフィックファイルの種類
14. 音声ファイルの利用：グラフィックファイルの種類
15. Microsoft Internet Explorer のファイルの追加：ファイルの追加方法
16. Netscape のヘルパーの設定と利用：ヘルパーの設定方法
17. Newsgroup の利用：ニュースグループの設定と利用
18. Newsreader の設定：ニュースリーダーとは
19. グラフィックファイルの変換：ファイルの変換とソフトウェア
20. チャットソフトの利用：チャットソフトの設定と利用
21. Gopher : Gopher とは
22. マルチユーザに対するテレネット：テレネットとは
23. マイクロソフトネットワーク：マイクロソフトネットワークとは
24. スクリプトを書く：スクリプトの利用

科 目 名	経営外国語	担当者名	富 田 忠 義
-------	-------	------	---------

講義の目標	経営学の原書が読めるようになること。		
講義概要	テキストの講読。順番で訳していきます。 テキストは経営戦略の学習の際の重要文献です。 すでに翻訳がでております。		
使用教材	テキスト	H. Igor Ansoff "Corporate Strategy" 1965	
	参考文献		
評価方法	期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価します。		
受講者に対する要望など			
年 間 授 業 計 画			

科 目 名	経営外国語	担当者名	中 村 泰 將
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>1. 英文の意味内容を的確に理解することが第一の目標である。</p> <p>2. 専門用語をできるだけ身につけることが第二の目標である。</p> <p>3. 辞書は、必ず引き、アクセントおよび発音記号にも気を配ることが第三の目標である。</p>
講 義 概 要	<p>本講義では、アメリカのビック・ビジネスの代表的な企業を選び、その経営戦略および成功への道のりを英文で講読することによって、アメリカの企業文化・経営戦略について広く学ぶことを目的とする。</p> <p>ファーストフード、自動車、ドリンク、航空機を代表するアメリカのトップ企業の歴史を、フルカラー写真、イラストを見ながら読み進められるテキストを用いる。</p> <p>授業の進め方：授業では、全員があらかじめ予習してきて、だれがあてられても良いように準備してくることが要求されます。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>BUSINESS IN ACTION (アメリカのビック・ビジネスのすべて) William Gould 他 SEIBIDO</p>
	<p>参 考 文 献</p> <p>本書の特色は、Business Matters という項目があり、マーケティング、マーケット・リサーチ、多国籍企業、多角化、人間資源、労働問題、会社のアイデンティ等の解説を易しくしており、経営関係の基本も学ぶことができる。</p>
評 価 方 法	<p>授業の発表内容、出席、前・後期のテストの総合点によって判定いたします。</p> <p>出席は重視します。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>辞書は、必ず毎回持参すること。</p>

- 1 . The adventure of business
- 2 .
- 3 .
- 4 .
- 5 . McDONALD'S (マクドナルド社)(pp. 9 - 30)
- 6 .
- 7 .
- 8 .
- 9 . FORD (フォード社)(pp. 31 - 57)
- 10 .
- 11 .
- 12 .
- 13 . COCA - COLA (コカコーラ社)(pp. 59 - 79)
- 14 .
- 15 .
- 16 .
- 17 . BOEING (ボーイング社)(pp. 81 - 101)
- 18 .
- 19 .
- 20 .
- 21 . その他、IBM、AT&T、Xerox 等を選びます。
- 22 .
- 23 .
- 24 .

科 目 名	経済外国語	担当者名	波 形 昭 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>テキストの著者がINTRODUCTIONで‘ The purpose of this book is to give the reader a chance to learn some basic yet useful ideas about economics through the study of English ’と述べているように、本講義の目標は、英語の読解を通じて経済学の基礎的知識および基礎的センスを習得することにある。テキストの英語レベルは、中学3年生クラスの英語力で十分対応できるであろう。</p>		
講 義 概 要	<p>CONTENTS 1. A MATTER OF CHOICE 2. MEANING OF MICRO 3. MEANING OF MACRO 4. POLITICS & POLICY 5. AT LEAST IN THEORY 6. THE INTERNATIONAL ARENA 7. THE DEVELOPING ECONOMIES 8. CONCLUSION</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>John Tilmant ; ECONOMICS IN OUR LIFE (日常の経済) ・(新井恵理 ・ 注解) 成美堂 , 1997 年 , 1648 円</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>前期・後期ともに試験をおこない、出席状況、積極性等を加味したうえで総合評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	経済外国語	担当者名	浜 本 光 紹
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、最近の経済問題について、経済理論に基づいた分析による解説を行っている文献を読んでいく。この文献の講読を通じて、現実の経済問題の本質を理解し、理論的な解釈を行う能力を会得することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>主として米国や日本の経済問題を扱っている文献を読み進めていく。この文献を読むためにはミクロ、マクロ経済学の基本を修得していることが望ましいが、必須ではない。本講義と並行してミクロ、マクロ経済学を学習することにより、一層理解を深めることが可能となる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>テキストをコピーしたものを配布する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>出席状況、不定期に課すレポートの提出、および前期・後期の試験によって総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>予習を必ず行ってくること。</p>		

科 目 名	経営外国語	担当者名	原 亨
-------	-------	------	-----

講義の目標	この講義の目的は、外国語で書かれた経済学を学ぶことである。もっとも外国語が読めなくては、そこまでいかない。まず文献を正確に読み込むことである。それから書かれている理論や実話を理解していくことを心がけよう。		
講義概要	現代アメリカ経済の現状やポリシーについて書かれた論文、資料、文献などを収集し、それを読んで、アメリカ経済を分析する。		
使用教材	テキスト	コピーを配布する。	
	参考文献		
評価方法	予め下訳をしてくる。講義ではそれを訂正、修正する。さらにそれを清書する。いずれもレポート用紙に書き、提出する。それと講義中の発表、前・後期末の試験、出席状況、受講態度を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	新聞、雑誌、書物等で、アメリカ経済に関心を持ち、勉強しておく。		
年間授業計画	講義中に指示する。		

科 目 名	経営外国語	担当者名	細 田 哲
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	英書文献に慣れ親しみ、その内容を正確に把握できる力を養成すること。		
講 義 概 要	<p>アメリカにおける経営者報酬問題を題材とする。</p> <p>経営者報酬をいかなる組織の下で決定し、いかなる業績指標と関連づけるべきかを巡って、どのような議論が展開されているか、下記の文献を通じて学習する。</p> <p>英書文献の読解にとって、邦書文献が必要と思われる場合は、これについて適宜学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	Brancato, C. K. "Institutional Investors and Corporate Governance" (Irwin, 1997)	
	参考文献	"Harvard Business Review on Measuring Corporate Performance" (Harvard Business School Press, 1998)	
評 価 方 法	第2回の試験結果、出席状況および授業中の発表内容による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習を必ずしてこよう。		

科 目 名	経済外国語	担当者名	本 田 浩 邦
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	経済英語をつうじて英語に親しみ、基礎的な力をつける。		
講 義 概 要	授業の構成は、Listening(30 min) , Reading(30 min) , Grammar(15 min) , Presentation(15 min)である。 リスニングはアメリカのラジオ番組(National Public Radio)からピックアップした経済的な話題を用いる。リーディングはアメリカ財政のしくみと現状を解説したものを読む。		
使 用 教 材	テキスト	Office of Management and Budget (OMB), <i>A Citizen's Guide to the Federal Budget: Budget of the United States Government</i> , U.S. Government Printing Office, 1998. (ただし必要部分をコピーして配布するので購入の必要はない。)	
	参考文献	『米国経済白書』99年度版(エコノミスト臨時増刊号、4月上旬発売予定)の付録の「用語解説」	
評 価 方 法	平常点と後期の定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	継続的に出席していただきたい。辞書はポケット辞書のようなものではなく、中辞典を持参すること。ANCHORなどの学習辞書も語彙が少ないので好ましくない。		

- 1 . Introduction
- 2 . Listening(30 min): Computers and Contributions /Reading (30 min): What Is the Budget?/
Grammar (15 min) /Presentation (15 min)
- 3 . L: Entrepreneurs as Role Models 1/ R: Where the Money Comes From- and Where it goes/
G/ P
- 4 . L: Entrepreneurs as Role Models 2/ R: Revenues and Spending/ Grammar/ Presentation
- 5 . L: Entrepreneurs as Role Models 3/ R: “ On ” and “ Off ” Budget/ Grammar/ Presentation
- 6 . L: Entrepreneurs as Role Models 4/ R: How Does the Government Create a Budget?/
Grammar/ Presentation
- 7 . L: Entrepreneurs as Role Models 5/ R: The President's Budget/ Grammar/ Presentation
- 8 . L: Venture Capitalists 1/ R: “ On ” and “ Off ” Budget/ Grammar/ Presentation
- 9 . L: Venture Capitalists 2/ R: The Budget Process/ Grammar/ Presentation
- 10 . L: Venture Capitalists 3/ R: Action in Congress/ Grammar/ Presentation
- 11 . L: Venture Capitalists 4/ R: Monitoring the Budget/ Grammar/ Presentation
- 12 . L: Venture Capitalists 5/ R: Deficits and the Debt/ Grammar/ Presentation
- 13 . L: Global Economy and Small Business 1 / R: Why the Deficit is a problem / Grammar/
Presentation
- 14 . L: Global Economy and Small Business 2 / R: Deficit Reduction Efforts/ Grammar/
Presentation
- 15 . L: Global Economy and Small Business 3 / R: The President's 1999 Budget/ Grammar/
Presentation
- 16 . L: Global Economy and Small Business 4 / R: Investing the Future/ Grammar/ Presentation
- 17 . L: Global Economy and Small Business 5 / R: Improving Performance through Better
Management / Grammar/ Presentation
- 18 . L: Global Economy and Small Business 5 / R: Improving Performance through Better
Management / Grammar/ Presentation
- 19 . L: Combating Patent Infringement 1 / Reading/ Grammar/ Presentation
- 20 . L: Combating Patent Infringement 2 / Reading/ Grammar/ Presentation
- 21 . L: Combating Patent Infringement 3 / Reading/ Grammar/ Presentation
- 22 . L: Combating Patent Infringement 4 / Reading/ Grammar/ Presentation
- 23 . L: Combating Patent Infringement 5 / Reading/ Grammar/ Presentation
- 24 . L: Combating Patent Infringement 6 / Reading/ Grammar/ Presentation

科 目 名	経済外国語	担当者名	松 本 正 信
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>日本が経済先進国と言われるようになって久しい、外国書研究（講読）の目標はもとより外国語の専門書等を読んで理解出来る能力を養成することであるが、逆に日本の経済諸事情など日本に関する事柄の外国語で著わされた書籍や資料を読んで、これを外国人に解説して理解して貰えるような能力の養成ということを、今日では要請されてもしくはないであろう。その意味で格好の教材を見つけた。文章も平易・平明で分かり安く、直ぐ慣れるであろう。意欲ある諸君の選択を望む。</p>		
講 義 概 要	<p>テキストを観れば一目瞭然であるが、近時ほぼ 20 年；1970 - 1990 年の日本経済の事情や特質を、アダム・スミスやケインズの古典を引用し、理論的ツールも駆使しながら極めて分かり安く解説していく。また明治時代からの近代化と経済成長についての歴史的概観も示され、最後には最近時の言う所のバブル発生とその余波や将来に対する課題や挑戦にも言及されていて教材としても格好、なかなか面白い内容だ。また、これからの国際人としての豊富な用語の習得にも役立つ教材だ。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>・ Tachi, Ryuichiro, translated by Richard Walker; <u><i>THE CONTEMPORARY JAPANESE ECONOMY An Overview</i></u>; University of Tokyo Press, 1993.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>後期定期試験を中心に評価していきたいと考えてはいるが。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>文章は平明で分かり易いから、ともかくテキストを早目に求めて読んでみてほしい。途中所によっては簡単な解説のみで訳は省略し、年間を通じて読み切りたいので、受講者も左様心得度し。</p>		

序論、後書を合わせて 10 章を、年間を通じて各章 2～3 回の講読のペースで進めて行く積もりである。

The Contemporary Japanese Economy, An Overview by Ryuichi Tachi

Introduction

- 1 . The Growth and Development of Japan's Economy
 - 2 . Monetary Policy
 - 3 . Public Finance
 - 4 . The Social Security System
 - 5 . International Balances of Payments
 - 6 . Prices
 - 7 . Structural Changes in the Economy
 - 8 . Problems and Challenges for the Future
- Afterword : The “ Bubble ” and Its Aftermath

年
間
授
業
計
画

科 目 名	経済外国語	担当者名	森 健
-------	-------	------	-----

講義の目標	<p>比較的平易な英文経済記事を辞書なしで読み、大意を掴むことができるように訓練することが講義の目的である。この訓練をしておけば、より複雑な英文記事も取り組み易くなるはずだからである。平易であるかどうかは、構文や使用されている語句によるのは当然であるが、書かれている内容についての知識があるかどうかも重要である。例えば、自分の趣味と重なる英文なら、少くも単語が分からなくても概要を掴める場合が多いであろう。したがって、この授業では、できるだけ身近な経済問題に関連する英文を教材として、読解力と共に、経済論理を学ぶこととしたい。</p>		
講義概要	<p>講義の目的で触れた趣旨に沿う英文を配布するので、各自、先ず、辞書なしで文の趣旨(メッセージ)の把握(恐らく推定)に努める。次にその内容について発表して相互に議論をし、異なった解釈があれば、どの部分の解釈が異なったのか、を確認する。 最後に、辞書を用いて徹底的に読みなおす。</p>		
使用教材	テキスト	コピーを配布する。	
	参考文献		
評価方法	通常の授業参加を主とし、定期試験結果を参考として総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	予習は必要ないので、復習を怠らないよう努めること。		
年間授業計画	特にない。		

科 目 名	経営外国語	担当者名	森 澤 拓
-------	-------	------	-------

講義の目標	技術革新は、新しい言葉の出現とともに、社会に姿をあらわす。情報処理の世界では、日々、Technical term が新しく生まれ、言葉とともに新たなパラダイムが出現している。雑誌、ホームページ、文献等の英文を参考に情報処理の英文に親しむとともに、Technical term を解説し、情報処理の世界で今何が起きているのか、最新のパラダイムに触れる。		
講義概要	コンピュータ英文雑誌、インターネット上、ネットワーク技術関連書籍の英文をピックアップし読解を行う。背景となるコンピュータ技術、概念についての解説を行い、情報処理の理解を深める。演習として、インターネット上のデータの検索手法等について解説し、海外の英文ホームページからデータを収集する実習を行う。		
使用教材	テキスト	テーマに沿って英文を配布する。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	出席および、講義の際の読解。さらに前期・後期レポート提出により総合的に判定する。		
受講者に対する要望など	情報処理概論を履修済で、情報処理に関心を持つ学生の参加に限る。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般ユーザー向けコンピュータ英文雑誌の最新の記事を配布し、読解を行い、文書の内容について解説を加える。 2. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 3. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 4. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 5. インターネット関連英文雑誌の最新の記事を配布し、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 6. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 7. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 8. インターネットの利用できる教室で、インターネット上のデータの検索手法について解説し、海外の英文ホームページからデータを収集する実習を行う。 9. 上記と同じ。 10. 上記と同じ。 11. 上記と同じ。 12. 上記と同じ。 13. ネットワーク技術関連書籍の英文をピックアップし読解を行う。 14. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 15. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 16. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 17. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 18. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 19. 上記配布文書を、学生に読解させる。文書の内容について解説を加える。 20. HTML 言語等を解説し、ホームページ作成及びネットワーク利用の実習を行う。 21. 上記と同じ。 22. 上記と同じ。 23. 上記と同じ。 24. 上記と同じ。 		

科 目 名	経営外国語	担当者名	百 瀬 房 徳
-------	-------	------	---------

講義の目標	ヨーロッパ経済共同体が 1993 年より形成され、現在では欧州連合になろうとしています。この形成の為に種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。		
講義概要	付加価値税は導入以来ほぼ 100 年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となつて以来、非常に大きな役割を果たすようになって来た。付加価値税の歴史、付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。		
使用教材	テキスト	・ Ernst & Young ; <i>VAT in Europe</i>	
	参考文献	無し	
評価方法	前期および後期に試験を行う。		
受講者に対する要望など	無し		
年間授業計画	<p>下記の項目にしたがって一年間の授業を進める：</p> <ul style="list-style-type: none"> The European Economic Community The Aims of the European Community The White Paper The Community's Institutions The Financial Means of the Community The Value Added Tax Harmonization of VAT Legislation within the European Community The Proposals for Further Harmonization 		

科 目 名	経済外国語	担当者名	山 越 徳
-------	-------	------	-------

講義の目標	英文の文献を通して経済、社会および経済学の知識や理解を深めるとともに専門用語に触れ、これを身近なものにする。とくに最近の状況をより理解するため、国際化、経済統合、国際労働力移動あるいはプロスポーツの経済などの文献を扱っていくことにする。		
講義概要	数多くの事柄や言葉に触れること、1つ1つを読み終えることの条件を充たすために、4~5篇のペーパーを共に読んで、議論し、理解していくことを目指す。 また関連事項について調べてくるよう指示することがある。		
使用教材	テキスト	ペーパーのコピーしたものを配布する。	
	参考文献	授業中辞書は必ず持参すること。	
評価方法	前期テストに代わるレポート（夏休み中に与えられたペーパーについてのもの）と、後期テストの結果による。		
受講者に対する要望など	ペーパーのテーマに関連した文献（日本語文献や訳本でもかまわない）を数多く読み、知識や言葉をより多く蓄えること。		
年間授業計画	1. ペーパーの分量にもよるが、できれば1つのペーパーを4~5週で読み終える予定で進めたい。		

科 目 名	経営外国語	担当者名	山 崎 静 光
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ、貿易に使われる特殊な用語と技術をある程度憶えること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。		
講 義 概 要	テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書き方の説明をした後、課題を与えて手紙を書かせ提出させ、次回の講義の際その講評を行う。手紙のみならず信用状、契約書裏面約款などの読解を課し、用語に親しませる。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	物産研修センター編「ザ ビジネスレター」(有斐閣刊)	
	参 考 文 献	山崎静光「輸出入手続ハンドブック」(中央経済社刊)	
評 価 方 法	<p>学年試験の成績による。</p> <p>中間試験は行うが、単位を与えるか否かの境界線上の者についての参考とするにとどめ、学年試験を受けなかった者には単位を与えない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業中に理解することを心掛け、質問、教師に対する批判を活発にし、双方向の通信のあるクラスにするのに寄与して下さい。前期の終わりと学年末に、教務部のものとは別に授業評価を求め、feedback をしている。</p> <p>高校程度の英語は心得ておくこと（これは見くびってはならない：この水準にある者は毎年寥々たるものである）</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. orientation. 簡単な手紙を書いてもらう。その場で講評をして授業のやりかたを知ってもらい受講するか否かの参考にしてもらう</p> <p>2. 前回書いた手紙の詳しい講評。採点したものを渡す。テキスト「ビジネスレターの構成要素」の説明</p> <p>3. 「ビジネスレターの構成要素」についてのテスト(手紙を書く)。前回テストの講評の続き</p> <p>4. 前回テストの講評。「ビジネスレターの本文」の説明</p> <p>5. 「ビジネスレターの本文」についてのテスト(以下2-4の循環)</p> <p>6. カバーリング レター</p> <p>7. テスト</p> <p>8. 新商売の開拓</p> <p>9. テスト</p> <p>10. 引き合いとその返事</p> <p>11. テスト。前期授業の評価</p> <p>12. 前回テストの講評。授業評価に対する回答</p> <p>13. 前期試験の講評。オファーと見積もり説明。テスト</p> <p>14. カウンターオファー</p> <p>15. テスト</p> <p>16. 受諾と拒絶</p> <p>17. テスト</p> <p>18. 受諾後の手続き</p> <p>19. テスト。裏面約款を読む</p> <p>20. 苦情とクレーム</p> <p>21. テスト。信用状を読む</p> <p>22. 苦情とクレームに対する返事</p> <p>23. テスト</p> <p>24. 前回テストの講評。通年授業の評価</p>
----------------------------	--

科 目 名	経営外国語	担当者名	山 田 浩 一
-------	-------	------	---------

講義の目標	本講義においては、英語の文献を通じて会計学に関する基礎的理解を得ることを目的としている。したがって、語学力を高めることのみではなく、会計学の諸概念を英文の平易なテキストを通じて把握してもらうこととしたい。		
講義概要	予めプリントを配布し、報告箇所を分担してもらった上で、担当者のレポートに沿って内容を検討していく。 テキストの概要については年間授業計画欄に目次を記載してあるので参考にされたい。		
使用教材	テキスト	Harrison & Horngren : <i>Financial Accounting-third edition</i> , Prentice Hall International Inc.を利用するが、受講生諸君の要望により変更もあり得る。	
	参考文献	簿記、会計学に関する一般の参考書を併読することが理解を早めることとなる。	
評価方法	講義への出席と報告、意見発表等を重視したい。		
受講者に対する要望など	受講生は必ず予習をして講義に臨むことが求められる。また関連授業として、簿記原理、会計学原理、財務会計等の履修が望まれる。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Chapter 1 : Summarizing Business Activity and using the Financial Statements 2 . Chapter 2 : Processing Accounting Information 3 . Chapter 3 : Accrual Accounting and the Financial Statements 4 . Chapter 4 : Internal Control and Managing Cash 5 . Chapter 5 : Accounting for Short-Term Investments and Receivables 6 . Chapter 6 : Accounting for Merchandise Inventory, Cost of Goods Sold., and the Gross Margin 7 . Chapter 7 : Accounting for Plant Assets, Intangible Assets, and Related Expenses 8 . Chapter 8 : Accounting for Current and Long-Term Liabilities 9 . Chapter 9 : Measuring and Reporting Stockholders Equity 10 . Chapter 10 : Accounting for Long-Term Investments and International Operations 11 . Chapter 11 : Using the Income Statement and the Financial Statement Notes : Additional Corporate Reporting Issues 12 . Chapter 12 : Preparing and Using the Statement of Cash Flows 13 . Chapter 13 : Financial Statement Analysis for Decision Making 14 . Appendix A : The Annual Report of Land's End, Inc. 15 . Appendix B : Time Value of Money : Future Value and Present Value 16 . Appendix C : Summary of Generally Accepted Accounting Principles (GAAP) 17 . Appendix D : Accounting for Partnerships 18 . Appendix E : Modern Accounting Information Systems 19 . Appendix F : Special Accounting Journals 20 . Appendix G : Check Figures 		

科 目 名	経営外国語	担当者名	山野邊 義 方
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>外国書（英語）を講読し、経済社会における交通（旅客・貨物輸送）の機能・役割、交通基礎施設整備等の交通政策。交通の近代化と将来展望について考察する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、第2次大戦前の経済社会と交通との関連、道路、鉄道の建設、海運の発達など、歴史的展開に重点を置く。 後期は、第2次大戦後の経済成長および産業構造の変化と交通との関連、高速道路、高速鉄道、空港建設など交通基盤整備と交通政策、経済活動エリアの拡張と国際交流の促進を図る交通の役割に重点を置く。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>Roland Thord “The Future of Transportation and Communication”等から教材を選び、そのプリントを使用する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>提出レポート、口頭報告による研究成果、前期・後期の定期試験、出席状況等により総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義には常時出席する。英文の読解力を高めるとともに、交通についての問題意識をもつことが必要である。</p>		

1. 交通の概念
2. 経済社会と交通
3. 近代以前の交通・通信
4. 道路輸送と海上輸送
5. 近代国家の建設と交通・通信の役割
6. 資本主義経済と交通・通信の役割
7. 鉄道建設と鉄道事業
8. 戦前・戦時中の交通・通信
9. 戦後の日本経済と交通・通信
10. 経済成長・産業構造と交通
11. 交通政策
12. 交通の基礎施設
13. 交通のシステムと構造
14. 道路網の整備
15. 幹線道路と都市間交通
16. 高速道路
17. 交通拠点施設とアクセス道路
18. 地域経済と交通
19. 橋梁による交通
20. 高速鉄道
21. 空港と航空輸送
22. 国際輸送、国際交流機能の向上
23. 情報・通信システムの整備
24. 交通・通信の近代化と将来展望

科 目 名	経営外国語	担当者名	湯 田 雅 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	環境マネジメントの内容の把握と理解につとめる。		
講 義 概 要	環境マネジメント、環境監査に関するテキストとして採り上げ、各自予習していることを前提に、輪読形式で進める。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	未定	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ R. グレイ / D. オーエン / K. マンダース著 山上達人監訳 水野一郎、向山敦夫、國部克彦、富増和彦訳 『企業の社会報告 会計のアカウンタビリティ』白桃書房 ・ 小川 冽、鎌田信夫編 『現代英和会計用語辞典』同文館 	
評 価 方 法	成績評価は、授業への貢献度、担当箇所の訳（ワープロ〔A4版〕で作成し、提出のこと）および後期試験によって行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	私語厳禁。受講者は、十分に予習をして出席すること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営外国語をどのように進めるかについての説明 2. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 3. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 4. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 5. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 6. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 7. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 8. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 9. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 10. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 11. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 12. 前期の期末試験 13. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 14. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 15. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 16. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 17. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 18. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 19. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 20. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 21. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 22. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 23. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 24. 後期の期末試験
----------------------------	--

科 目 名	経営外国語	担当者名	米 山 昌 幸
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	国際経済の理論や現実を扱った英語文献を読み、専門用語や経済理論を学びながら、国際経済の仕組みや問題について理解を深める。
講 義 概 要	<p>貿易に関連するテーマを中心として、国際経済学の分野についての理論的なものと時事的なものとを織り交せて、単行本、雑誌、新聞などさまざまな文献を読み、できるだけ理論と現実を関連付けながら、学習していきたい。</p> <p>基本的には輪読の形式をとるが、日本語での関連文献を利用した補足学習、討論なども取り入れていく。こちらから報告者を指名することはせず、一人ひとりの意欲や必要性に応じて自発的に報告を担当してもらう。報告者は必ずレジュメを用意すること。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>Krugman, Paul, <i>Pop Internationalism</i>, MIT Press, 1996. Krugman, Paul R., and Maurice Obstfeld, <i>International Economics: Theory and Policy (3rd edn.)</i>. New York; Harper Collins College Publishers, 1994. テキストとして上記の文献を予定しているが、その他の文献についても適宜、コピーして配布する。</p> <p>参考文献</p> <p>英和辞典として、次のようなものが有用である。 『リーダーズ英和辞典』研究社。 長谷川啓之(編)『最新英和経済ビジネス用語辞典』春秋社。</p>
評 価 方 法	前期および後期の定期試験の成績と報告回数によって成績評価を行う。
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>国際経済学について勉強したい学生に、他の国際経済関連の講義課目（例えば貿易論）と併せて、履修していただきたい。最初は内容が難しく思われるかもしれないが、関連分野の情報量が増えてくるにつれ、しだいにその内容が理解できてくるはずである。</p> <p>履修者は、必ず第1週目の授業に出席すること。</p>

科 目 名	経済外国語	担当者名	W . B . ロビー
-------	-------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>This course will consist of the supervised reading of a textbook which features four large corporations : McDonald's, Ford, Coca Cola, and Boeing. In addition, the instructor will select articles from the business and general press (Wall Street Journal, Japan Times, The Economist, etc.). In addition, there will be some practice for the reading portion of the TOEIC exam. The goal of the course is to prepare students for the study of business and economics in English.</p> <p>Note: a description of this course as taught during the second term of 1998 is available on the WWW at http://www2.dokkyo.ac.jp/~clec0002/</p>		
講 義 概 要	<p>Students will read the selections on their own. Class sessions will be devoted to discussions of content. Each study group will have responsibility for presenting information related to the portion of the day's reading(s) assigned to it. In addition, the instructor will highlight important vocabulary and business terminology. There will be mini-lectures on cultural topics which emerge from the readings. Near the end of the course the students will be expected to choose articles for reading and discussion.</p>		
使 用 教 材	テキスト	Business in Action (BIA) Seibido Publishing. 1998	
	参考文献	Materials on the WWW and in the Dokkyo University library (Wall Street Journal, Japan Times, etc.)	
評 価 方 法	<p>Quizzes count for 40% of the grade. 40% comes from group presentations. 20% comes from written work.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Students must attend regularly and participate actively in their study group and in whole-class discussions. Students should own an English learners' dictionary. Students must regularly check their e-mail and the WWW page for the course.</p>		

Note: The schedule set out here is approximate.

- 1 . Introduction of course. Get acquainted. Discussion of syllabus. Brief English proficiency examination. Formation of "Attack teams" (to be explained).
- 2 . BIA 1-15 Discussion of the terminology of text.
- 3 . BIA 16-25 Supplementary McDonald's reading. Demonstration of reading strategies.
- 4 . BIA 26-30 Supplementary McDonald's reading Mini-lecture on American eating habits
- 5 . BIA 33-43 Discussion of the factory system and robotization. TOEIC practice. First quiz
- 6 . BIA 44-57 Discussion of innovation and think tanks. Supplemental Ford readings
- 7 . Second quiz. Discussion of the world auto industry.
- 8 . BIA 60-69 Discussion of the Japanese beverage industry.
- 9 . BIA 70-80 Discussion of brand names and brand loyalty.
- 10 . Supplemental Coca-Cola readings. TOEIC practice
- 11 . Readings and discussion of advertising. Third quiz
- 12 . BIA 82-91
- 13 . BIA 92-101
- 14 . Supplemental Boeing and transportation industry readings.
- 15 . Discussion of government influence in business. Fourth quiz
- 16 . Review of all yellow sidebars in BIA (business and economics concepts)
- 17 . Readings chosen by students. TOEIC practice
- 18 . Readings chosen by students.
- 19 . Readings chosen by students.
- 20 . Readings chosen by students. Fifth quiz
- 21 . Readings chosen by students.
- 22 . Readings chosen by students. TOEIC practice
- 23 . Readings chosen by students.
- 24 . Readings chosen by students. Final quiz

科 目 名	経済外国語（ドイツ語）	担当者名	御園生 眞
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、経済学の基礎を学びます。		
講 義 概 要	テキストを分担して訳してもらいながら、説明を加えて講義を進めます。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Otto Seitzer 著 <i>Ein Blick in die Wirtschaft</i> 三修社	
	参 考 文 献	第 1 回の授業時に指示します。	
評 価 方 法	出席と試験（前期、後期の 2 回）の成績で評価します。 出席を重視します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	履修希望者は必ず第 1 回の授業に出席してください。		

科 目 名	経済外国語（フランス語）	担当者名	千代浦 昌 道
-------	--------------	------	---------

講義の目標	比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解すること。		
講義概要	前・後期とも、フランスの新聞、雑誌に掲載されたやさしい経済・社会関連記事を講読する。難易度のレベルは、履修者のフランス語修得レベルに合わせて調整する予定。		
使用教材	テキスト	随時に配布する。	
	参考文献	松本 正 『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971） 松本 正 『時事経済フランス語』（第三書房、1973） 小林 茂 『新聞のフランス語』（白水社、1984）	
評価方法	前期、後期のレポート（仏文和訳）によって評価する。出欠は成績評価の参考資料とする。		
受講者に対する要望など	新聞、雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。		
年間授業計画	<p>第1回</p> <p>(1) 授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明</p> <p>(2) 最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識</p> <p>第2回以降は、随時に配布するフランス語テキストを使用して授業を行う。</p>		

科 目 名	経済外国語（外国人学生用）	担当者名	駒 形 哲 哉
-------	---------------	------	---------

講 義 の 目 標	外国人留学生在日本で学ぶ際に、何よりも基本となるのは日本語で読み、話す力であることはいうまでもありません（もちろん書く力も不可欠です）。そこで本講義では、輪読（参加者が1冊の本を一緒に読み、その内容をめぐって意見を交わすこと）をつうじて、日本語文献を読み、日本語で討論する力を養いたいと考えています。		
講 義 概 要	外国人留学生のために企画された経済学の入門書（下記テキスト）の各章を、受講者が分担して報告し、その内容について日本語で討論します。そして毎回、授業の終わりには、その日討論したトピックについて各人の考えを文章にまとめてもらいます。日本経済を履修者の母国の経済と比較し、共通の課題、固有の課題を明らかにすることを目指します。		
使 用 教 材	テキスト	岡田泰男、野澤素子、村田年共編『はじめての経済学 日本語と英語で学ぶ経済用語1,000』慶応義塾大学出版会、1995年。その他必要な文献はコピーを配布します。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	受講者の発表と討論への参加状況によって成績評価を決定します。無断欠席は厳禁です。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. 概要説明
2. 経済学の基本問題
3. 人口と資源(1)
4. 人口と資源(2)
5. 市場経済の仕組み
6. 経済循環
7. 国民所得
8. 所得の決定
9. 貯蓄と投資
10. 市場と厚生
11. 財政・金融(1)
12. 財政・金融(2)
13. 労働市場(1)
14. 労働市場(2)
15. 経済成長と景気変動(1)
16. 経済成長と景気変動(2)
17. 産業構造(1)
18. 産業構造(2)
19. 国際経済(1)
20. 国際経済(2)
21. 世界経済における日本経済
22. 日本経済の問題(1)
23. 日本経済の問題(2)
24. まとめ

科 目 名	マクロ経済学	担当者名	高 橋 房 二
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講は現代経済理論にしたがって標準的なマクロ経済学の基礎を体系的に講義する。経済学部の専門課程の学生としての巨視的経済理論に関する必要不可欠な基礎学力の育成をはかる。それと同時に現実経済とその動きに関する理解と認識の基礎を与えることをめざすものである。</p>		
講 義 概 要	<p>マクロ経済学に関して取扱うべき内容は多く、また多岐にわたるが下記のように限定される。まず、国民経済において最も重要な経済量の一つである国民所得と以後の議論の展開において必須の重要な若干の概念について述べる。ついで、均衡国民所得の決定の基礎的な関係について講義される。それにつづいて、乗数理論に関して閉鎖・開放両体系について議論する。つぎの段階として、ケインジアン体系についてその重要な経済概念と理論の講義が展開される。さらに、経済動学として経済成長、景気変動の問題についてふれる。ついで、インフレと失業に関して議論される。また、マネタリズムや合理的期待仮説がとりあげられそれらの特質や問題点に関して講義が行われる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	なし	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドーンブッシュ、フィッシャー 『マクロ経済学』 マグロウヒル ・ バロー 『マクロ経済学』 多賀出版 ・ 中谷巖 『入門マクロ経済学』 日本評論社 ・ ホール・テラー 『マクロ経済学』 多賀出版 ・ サックス・ラレーン 『マクロエコノミクス』 日本評論社 	
評 価 方 法	<p>定期試験、レポート、ミニテスト、出席状況</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>出席が重視される。授業内容の理解につとめ、反復して復習すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. マクロ経済学の授業内容と展開の概要の説明、国民所得に関する若干の基礎概念、GDP、NDP、分配国民所得、個人可処分所得等、所得分析</p> <p>2. 最終消費と貯蓄に関する基礎的關係 事前的概念と事後的概念、消費関数、消費曲線、貯蓄曲線、APC、MPC、APS、MPS</p> <p>3. 単純な国民所得の決定關係 () 貯蓄と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系) 広義と狭義における完全雇用、均衡国民所得、均衡理論</p> <p>4. 単純な国民所得の決定關係 () 最終消費と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系) 均衡の存在と安定条件</p> <p>5. インフレギャップとデフレギャップ、およびその対策 乗数理論 () 閉鎖体系 単純な乗数理論、投資乗数、比較静学</p> <p>6. 乗数理論 () 閉鎖体系 政府活動と乗数理論、その一般的關係、赤字予算と均衡予算の場合、税率変化と乗数効果</p> <p>7. 乗数理論 () 開放体系 2国貿易モデル、輸入関数、限界輸入性向、2国の国民所得の変化、2国の貿易収支の変化、外国貿易乗数</p> <p>8. ケインズ経済学 () ケインズの「一般理論」の意義とその特質、新古典派理論との相違</p> <p>9. ケインズ経済学 () 非自発的失業、非自発的失業の再決定仮説による説明、不均衡理論、企業の投資、予想、資本の限界効率、投資のインセンティブ</p> <p>10. 貨幣需要理論 貨幣、貨幣需要、流動性、ケインズの流動性選好説、流動性のトラップ、債券価格と利子率、ポーモル・トービンモデル</p> <p>11. 消費関数の理論 () 経済変動における APC の推移、ケインズ型消費関数、相対所得仮説</p> <p>12. 消費関数の理論 () 恒常所得仮説、ライフサイクル仮説、若干の補論</p> <p>13. 投資の理論 誘発投資、加速度原理による投資関数とそのパラエティ、投資の q 理論</p> <p>14. 経済成長の理論 () 動学、長期理論、経済成長率の諸概念、均衡成長、恒常成長、ハロッド・ドーマーモデルとその不安定性</p> <p>15. 経済成長の理論 () 成長過程における定型化された事実、新古典派成長モデル、技術進歩と経済成長、最適成長</p> <p>16. 景気変動 景気循環、各種のサイクル、単純な乗数加速度モデル</p> <p>17. IS・LM 分析 () 生産物市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線、古典派と初期ケインズ学派の LM 曲線、生産物市場と貨幣市場の均衡と均衡国民所得および均衡利子率の決定</p> <p>18. IS・LM 分析 () IS 曲線のシフト、LM 曲線のシフト、両曲線のシフトと均衡国民所得と均衡利子率の変化、IS・LM 分析と金融政策</p> <p>19. 物価水準 総需要関数、総供給関数、物価水準、マークアップルール</p> <p>20. 失業とインフレ () フィリップス曲線、インフレ期待、適応的期待、インフレ率</p> <p>21. 失業とインフレ () 短期インフレ率、自然失業率仮説、短期フィリップス曲線のシフト、長期フィリップス曲線</p> <p>22. 合理的期待仮説 合理的期待、単純な合理的期待モデル、合理的期待仮説とその評価</p> <p>23. マネタリズムとケインズ学派 マネタリズムとマネタリストの主張、マネタリストのモデルとケインズモデルの比較、両者の議論の相違</p> <p>24. 国際経済学 国際収支、為替レートの決定、国民所得と為替レートの決定</p>
----------------------------	--

科 目 名	マクロ経済学	担当者名	西 村 允 克
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	市場経済の仕組みを理解することが、経済理論学習の目的である。マクロ経済学は、国民経済全体の視点から、経済主体、経済活動をいくつかに集約し、国民経済を理論的に操作可能な型式に整理し、経済政策の目的と効果を理解可能とすることにある。		
講 義 概 要	講義はテキストを用いるが、テキストの順序に従って進行するのではなく、テキストを私の観点から再整理して、進行するから、講義中に指示する参照ページに注意して理解を進めなければならない。前期は国民所得の諸概念と国民所得決定の基礎モデル、後期は前期のモデルを拡張（貨幣市場の導入）して、現実のマクロ経済学を理解するための基礎を固める。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	「入門マクロ経済学」 中谷巖 日本評論社	
	参 考 文 献	吉川洋「マクロ経済学」 岩波書店	
評 価 方 法	前期と後期の試験の結果		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎日、新聞を読み、現在の日本経済の問題は何であるかを知っておくこと。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学を学ぶための基礎 () 経済主体と経済活動の基本的分類 2. マクロ経済学を学ぶための基礎 () 数式と図の読み方 3. 国民経済計算 () 付加価値額、GDP、GDE、グロスとネット 4. 国民経済計算 () 物価指数、名目値と実質値 5. 国民経済計算 () 変化率の問題 6. 消費関数と貯蓄関数 () 消費と貯蓄の定義、限界消費性向、限界貯蓄性向 7. 消費関数と貯蓄関数 () 関数の変化の意味 8. 投資について、投資関数、技術革新 (イノベーション) 9. 貨幣について () 貨幣の機能、貨幣需要 10. 貨幣について () マネーサプライ、短期ではなぜマネーサプライを一定とするか 11. 国民所得決定理論 () 簡単なモデル、乗数理論 12. 国民所得決定理論 () 財政政策の変化と GDP の変化 13. IS - LM 分析 () IS 曲線と LM 曲線の導出 14. IS - LM 分析 () 財市場と貨幣市場の同時均衡 15. IS - LM 分析 () IS 曲線、LM 曲線の変化と GDP、財政・金融政策の変化が GDP に及ぼす影響 16. 失業問題 自然失業率、フィリップス曲線 17. インフレとデフレ () 期待 18. インフレとデフレ () 19. 国際経済と国民経済 () 為替レート、為替相場制 20. 国際経済と国民経済 () 海外部門を入れた財市場の均衡、Jカーブ 21. 成長と変動の理論 () 経済成長の意味、経済成長理論 22. 成長と変動の理論 () 景気変動、バブルと恐慌 23. 戦後二本のマクロ経済問題 () これまで展開したマクロ経済学のモデルを用いて戦後日本の経済問題を解説 24. 戦後二本のマクロ経済問題 ()
----------------------------	--

科 目 名	ミクロ経済学	担当者名	小 林 進
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルは必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p>		
講 義 概 要	<p>経済学(必修)をすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を講義し、講義の最後ではミクロ経済学とマクロ経済学の関係についても、方法論的個人主義や合成の誤謬の立場から触れることにする。なお最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済学の歴史について述べ、市場経済の歴史的役割を簡潔に説明する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示する。	
評 価 方 法	前期と後期の二回の試験によって評価する		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>消費者は効用関数を最大にするよう行動する。</p> <p>効用関数 $U = U(X, Y)$ の定義とその性質 (辞書の順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる)</p> <p>無差別曲線と予算線の接点 $MRS = P_X / P_Y$</p> <p>予算線 所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。</p> <p>所得効果と代替効果 (この概念の理解が重要であることを強調する)</p> <p>労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的などきの賃金率と供給量の関係</p> <p>不労所得がある場合の労働供給曲線</p> <p>失業保険と労働供給曲線</p> <p>二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利率と貯蓄の関係</p> <p>効率賃金理論</p> <p>需要の価格弾力性 e と支出額 Z の関係 $\frac{dz}{dp} = x(1 - e) \quad (x \text{ は数量を示す})$</p> <p>この関係の J カーブ効果への応用</p> <p>競争市場の企業の最適化行動 $P = MC$</p> <p>完全競争の成立条件</p> <p>ワルラス的安定条件</p> <p>総余剰分析 (消費者余剰 + 生産者余剰) と完全競争の最適性</p> <p>応用として自由貿易の問題、関税と補助金の相違</p> <p>パレート最適</p> <p>ボックスダイアグラムと契約曲線</p> <p>生産可能性曲線</p> <p>供給独占者の利潤最大条件 $MR = MC$ (限界収入 = 限界費用) $MR = P \left(1 - \frac{1}{e} \right)$</p> <p>ラーナーの独占度 $1 / e$</p> <p>二つの分離した市場に直面した独占者 $MR_1 = MR_2$ より $e_1 > e_2$ ならば $P_1 < P_2$ (需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける)</p> <p>その応用として映画の学生割引きの経済的意味</p> <p>カルテル (価格決定)</p> <p>独占と余剰分析</p> <p>独占と規制 上限価格の設定</p> <p>寡占と屈折需要曲線</p> <p>ゲームの理論、囚人のディレンマ、ナッシュ均衡、フォーク定理</p> <p>市場の失敗として、費用逓減産業、外部経済、公共財、不確実性</p>
----------------------------	---

科 目 名	ミクロ経済学	担当者名	西 村 允 克
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>市場経済の仕組みを理解することが、経済理論学習の目的であるミクロ経済学は市場を構成するこの経済主体の観点からこの目的を達成する。それゆえ講義ではこの目的を実現するために、いかに学習するか、そこにおける重点はどこか、いかに受講者は理解してゆくべきかなどが問題とされ、受講者の学習効果を高めることが目的とされる。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、消費者と生産者という2つの経済主体を取り上げ、これらの経済主体が与えられた条件の下で、それぞれの目的実現のためにいかなる行動をとるかが、極めて簡単なモデルの下で分析される。</p> <p>後期は、前期で学習した成果を基礎として市場問題、寡占問題など現実のより複雑な市場へ前期の成果によっていかに考えるべきかが課題とされる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	R. D. プレア & L. W. ケニー「現代ミクロエコノミクス」 多賀出版	
	参 考 文 献	<p>吉岡恒明・小口登良「テストブック現代経済学」 多賀出版</p> <p>倉沢資成「入門価格理論」 日本評論社</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。講義中において、解答作成のために注意する点を述べるから、採点はこれらの注意点をどれだけ守っているかについて多大の配慮をする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>前週の講義は今週の講義の前提である。欠席すればまず確実に講義内容の理解は困難となる</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. ミクロ経済学を学習するための基礎 () a. 価格とは何か、b. 市場とは何か、c. 供給者と需要者</p> <p>2. ミクロ経済学を学習するための基礎 () 数式と図の読み方</p> <p>3. 需要と供給による価格決定理論 () 市場経済の基本モデル</p> <p>4. 需要と供給による価格決定理論 () 需要の価格弾力性</p> <p>5. 消費者行動 () a. 人はなぜ財・用役を購入するか、b. 効用関数の基礎</p> <p>6. 消費者行動 () 無差別曲線をめぐる問題</p> <p>7. 消費者行動 () 所得変化と価格変化</p> <p>8. 消費者行動 () 以上のまとめ (効用関数の考え方をいかに拡大するか)</p> <p>9. 生産者行動 () a. 生産者はなぜ財・用役を生産するか、b. 生産関数の基礎</p> <p>10. 生産者行動 () 費用関数を中心として(1)</p> <p>11. 生産者行動 () 費用関数を中心として(2)</p> <p>12. 生産者行動 () 規模に関する収穫</p> <p>13. 前期の講義内容のまとめと後期の講義内容</p> <p>14. 市場構造 () 競争市場、寡占市場</p> <p>15. 市場構造 () カルテル、共謀</p> <p>16. 寡占理論 () 限界収入</p> <p>17. 寡占理論 () 生産物差別、価格差別</p> <p>18. 寡占理論 () クールノーの独占モデルと複占モデル</p> <p>19. 要素市場 () 投入物に対する需要と供給</p> <p>20. 要素市場 () 労働時間</p> <p>21. 一般均衡理論 () 部分均衡と一般均衡、効率性の条件</p> <p>22. 一般均衡理論 ()</p> <p>23. パレート最適をめぐる問題</p> <p>24. 後期講義のまとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	経済社会学	担当者名	高 橋 善四郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>20 世紀末、ソ連が崩壊したとしても、講義としては、イデオロギーのマルクシズムではなく、20 世紀を代表した思想としてのマルクスである。</p> <p>マックス・ウェバーの資本主義観、社会科学論と対比して検討する。</p>		
講 義 概 要	<p>1. M. ウェバー 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」</p> <p>2. カール・マルクス 唯物資観と資本主義</p> <p>3. M: ウェーバー 社会科学論</p>		
使 用 教 材	テキスト	講義資料を配布する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>期末試験の成績に、出欠状況を加味して、評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	経 済 哲 学	担当者名	高 橋 善 四 郎
-------	---------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>経済哲学を、私は、経済学説の根底にある理念と方法論を解明していくこととしては、考えていない。20 世紀の東西の冷戦構造の根底には、理性の確実性に依拠した思想と、逆に、「理性の無謬性の仮定」を理性の倨傲として拒否する思想とが、二つの潮流のように対立している。私は、後者を「自由の哲学」として捉えて、以下の三人の思想家の文献を跡付けたい、と考えている。このことが 21 世紀に向けて、「開かれた」思想を整えていくことになる、と考える。</p>		
講 義 概 要	<p>. J . S . ミル 1 . 『自伝』 2 . 『原理』より「静止的狀態」 3 . 『自由論』 . F . A . ハイエク 「自由の構成」 . カール・ヤスパースの実存哲学</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	講義資料を配布する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	期末試験の成績に、出欠状況を加味して、評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	経済統計論	担当者名	松 本 正 信
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p>		
講 義 概 要	<p>第 部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠 第 部 国民所得統計と産業連関表 第 部 時系列分析と回帰分析</p> <p>以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年(21刷) 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の都度指示 	
評 価 方 法	<p>前期・後記の2回ある定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。2回の試験のうち、学年末の後記定期試験にややウエイトを置いた配点としたい。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>まずは講義を聞き給え。きっと面白いぞ。</p>		

以下の、序論を含めた19の項目を年間を通じて1~3回にわたる講義で進める予定である。

序 論

経済と経済統計と経済学

第 部 指数

- 1 指数について(指数理論)
- 2 平均値について
- 3 物価指数と数量指数
- 4 消費者物価指数(付論:消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式)
- 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター
- 6 生産数量と生産指数 いくつかの代表例

第 部 国民所得統計と産業連関表

- 1 国民所得統計と国民所得分析
- 2 社会会計の考え方とマトリックス
(2の付論:コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制)
- 3 新SNA
- 4 産業連関表
- 5 産業連関分析とその応用

第 部 時系列分析と回帰分析

- 1 時系列データとその解析
- 2 時系列分析 トレンド(趨勢、傾向線)、循環変動、季節変動、不規則変動
- 3 時系列分析の方法 移動平協法、趨勢線のあてはめ、他
- 4 景気動向指数 ディフュージョン・インデックス
- 5 回帰分析と回帰方程式
- 6 計量経済学の方法
- 7 構造推計と将来予測

付 論 ORの話;オペレーション・リサーチとゲームの理論

年
間
授
業
計
画

科 目 名	経済政策論	担当者名	伊藤正昭
-------	-------	------	------

講義の目標	<p>資源配分のゆがみ、不公平な所得分配、経済の低成長、景気の変動、地価や内外価格差問題、そして、談合などにみられる企業の独占的な行動、消費者・生活者を重視した経済への体質転換（構造調整）、規制緩和など現代的な経済問題が山積している。こうした経済問題へのいわば処方箋を検討するのが経済政策（論）とすることができるであろう。</p> <p>経済問題に関心をもつ者に、経済政策の理論と現実をできるかぎりやさしく解説することにより、受講者の経済政策をみる目を養うことを目的としたい。</p>				
講義概要	<p>経済政策は応用経済学の一分野であり、マクロおよびミクロ経済学で蓄積された諸理論を応用することになる。経済政策の方法論から始め、マクロ経済学のエッセンスを学んだ後、財政学、金融論などを応用して財政、金融政策について学習する。ついで、マクロ経済学をベースにした経済成長政策、そして、景気循環や雇用・物価問題にかかわる経済安定政策を学ぶ。</p> <p>さらに、価格理論ともいわれるミクロ経済学をベースとする産業組織政策などに触れ、市場経済の役割、規制緩和の是非など現代的な経済問題へアプローチする。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・伊藤正昭『現代経済と経済政策 理論と実際』1998（予定）</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭他『経済政策の基礎理論』八千代出版、1990年 ・黒川・大塚・高山・武蔵他著『経済政策入門(1)理論』有斐閣、1993年 ・永井・藤井・阪本・安田他著『経済政策入門(2)理論』有斐閣、1993年 ・尾上久雄・新野幸次郎編『経済政策論（新版）』有斐閣、1993年 ・ドーンブッシュ・S、フィッシャー／廣松訳『マクロ経済学(上・下)』マグロウヒル ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1998年 ・倉澤資成『入門／価格理論（第2版）』日本評論社、1993年、その他。 </td> </tr> </table>	テキスト	・伊藤正昭『現代経済と経済政策 理論と実際』1998（予定）	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭他『経済政策の基礎理論』八千代出版、1990年 ・黒川・大塚・高山・武蔵他著『経済政策入門(1)理論』有斐閣、1993年 ・永井・藤井・阪本・安田他著『経済政策入門(2)理論』有斐閣、1993年 ・尾上久雄・新野幸次郎編『経済政策論（新版）』有斐閣、1993年 ・ドーンブッシュ・S、フィッシャー／廣松訳『マクロ経済学(上・下)』マグロウヒル ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1998年 ・倉澤資成『入門／価格理論（第2版）』日本評論社、1993年、その他。
テキスト	・伊藤正昭『現代経済と経済政策 理論と実際』1998（予定）				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭他『経済政策の基礎理論』八千代出版、1990年 ・黒川・大塚・高山・武蔵他著『経済政策入門(1)理論』有斐閣、1993年 ・永井・藤井・阪本・安田他著『経済政策入門(2)理論』有斐閣、1993年 ・尾上久雄・新野幸次郎編『経済政策論（新版）』有斐閣、1993年 ・ドーンブッシュ・S、フィッシャー／廣松訳『マクロ経済学(上・下)』マグロウヒル ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1998年 ・倉澤資成『入門／価格理論（第2版）』日本評論社、1993年、その他。 				
評価方法	前期末および学年末に筆記試験を行い、その結果で成績評価を行う。				
受講者に対する要望など	経済学部必修科目である「経済学」の単位をすでに修得していることを前提に講義を進める。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済政策序説(1) 経済政策とはなにか(講義のフレームワークの説明とガイダンス) 資源の希少性、効率的な資源配分、経済問題、経済体制 2. 経済政策序説(2) 戦後日本の経済政策のレビュー プラザ合意以降の政策、財政・税制改革、規制緩和と自由化 3. 政策の主体と経済政策思想(1) 政策主体と政策決定メカニズム 政治と経済、公共選択、政治家・官僚の行動原理、審議会 4. 政策の主体と経済政策思想(2) 現代の経済政策思想 政府介入をどうみたらよいか ケインズ、新古典派総合、新自由主義、サプライ・サイド 5. 経済政策の目的と手段(1) 経済政策における価値判断の問題 ウェーバー、ピグー、パレド最適、厚生経済学の基本定理 6. 経済政策の目的と手段(2) 政策の目的と階層性 目的間のトレード・オフ 政策手段(財政・金融政策、経済的規制)の多様性と有効性 7. マクロ経済政策の原理(1) 完全雇用と政府介入の論理 ケインズのねらい 古典派とケインズの雇用理論(2つの公準) 価格調整と数量調整 8. マクロ経済政策の原理(2) 国民所得決定の理論 マクロ経済政策の基礎理論 有効需要、国民所得、消費(貯蓄)関数、投資乗数、$I = S$ 9. 財政政策(1) 財政政策と手段 財政の機能、予算と財政投融资、財政制度改革、公債負担問題 10. 財政政策(2) ビルト・イン・スタビライザーと裁量の財政政策 経済安定化政策、累進税制、政府支出乗数、政策のラグ 11. 金融政策(1) 金融政策の理論的基礎 貨幣の需要と供給、流動性選好、マネー・サプライ、$L = M$ 12. 金融政策(2) 金融政策の目的と手段 ハイパワード・マネー、マネー・サプライの管理、金融自由化 13. 財政政策と金融政策のIS LM分析(1) 財政政策と金融政策の有効性と条件 生産物市場と貨幣市場の同時均衡、ポリシー・ミックス 14. 財政政策と金融政策のIS LM分析(2) 財政金融政策に関する諸見解 ケインジアンとマネタリストの論争、貨幣数量説、合理的期待 15. 経済成長と経済安定の政策(1) 経済成長の基礎理論と政策 ハロッド=ドーマー/新古典派モデル、生産関数、技術選択 16. 経済成長と経済安定の政策(2) 景気変動と政策 景気循環の理論、リアル・ビジネス・サイクル、景気動向指数 17. インフレーションの理論と政策(1) 総需要曲線と総供給曲線 物価水準、インフレ供給・需要曲線、スタグフレーション 18. インフレーションの理論と政策(2) ケインジアンとマネタリスト フィリップス曲線、自然失業率仮説、オーカンの法則 19. 産業政策(1) 産業構造政策と産業調整政策 サプライ・サイド、保護主義、NAPとPAP、技術革新 20. 産業政策(2) 産業組織論と独占禁止政策 日本とアメリカの比較 S-C-Pパラダイム、シカゴ学派、コンテスタビリティ、サンク・コスト 21. 規制緩和と経済政策(1) 現代の市場システムと問題 市場の失敗、自然独占と規制の論拠、レント・シーキング 22. 規制緩和と経済政策(2) 産業規制と規制緩和 規制緩和の経済理論、規制緩和のプラスとマイナス 23. 国際協調の経済政策(1) 自由貿易と保護主義の論理と現実 GATTからWTOへ、国家主権、地域統合の時代 24. 国際協調の経済政策(2) 経済摩擦の分析と政策 日米経済摩擦の3つの局面、経済政策摩擦、日本の経済体質
----------------------------	---

科 目 名	経済開発論	担当者名	千代浦 昌 道
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>特に指定しない。</p>	
	参 考 文 献	<p>総務庁統計局編 『1999 世界の統計』(大蔵省印刷局、1997) 西垣 昭、下村恭民 『開発援助の経済学(新版)』(有斐閣、1997) E. F. シューマッハー 『スモールイズビューティフル』(講談社、1986) C. キンドゥルバーガー、B. ヘリック 『改訂 経済発展論』(好学社、1981) M. トダロ 『M. トダロの開発経済学』(国際協力出版会、1997)</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済開発論の基礎的概念 (経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度) 2. 発展途上国の基本問題 (発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存) 3. 発展の非経済的側面 1 (経済発展の政治的側面、経済発展の社会文化的要因、発展の社会学的把握) 4. 発展の非経済的側面 2 (家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展) 5. 発展の非経済的側面 3 (開発と女性の役割、発展途上国の環境問題) 6. 先進工業国経済発展の教訓 1 (先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化) 7. 先進工業国経済発展の教訓 2 (ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化) 8. 人口と経済開発 (人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策) 9. 雇用と失業 (発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用) 10. 教育と発展 1 (教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困) 11. 教育と発展 2 (教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発) 12. 都市と農村 (発展途上国の都市と農村、農村 都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門) 13. 経済発展のモデル 1 (古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド = ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説) 14. 経済発展のモデル 2 (新古典派の成長モデル、チェネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ = シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整) 15. 農業と開発 (農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発) 16. 工業化と開発戦略 (均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替工業化と輸出促進工業化) 17. 貿易と発展 1 (絶対生産性の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出指向工業化) 18. 貿易と発展 2 (南北問題とプレビッシュ = シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序) 19. 貿易と発展 3 (自由貿易と NIEs の発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展) 20. 多国籍企業と発展途上国 (直接投資の利益、多国籍企業についての利害損失、新国際経済秩序と多国籍企業) 21. 国際収支と債務問題 (国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態) 22. 発展途上国債務問題への国際的対応 (世銀・IMF の融資、債務 = 環境スワップ) 23. 国際援助と経済開発 1 (途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展) 24. 国際援助と経済開発 2 (草の根援助と NGO の役割、援助の功罪、これからの国際援助)
----------------------------	---

科 目 名	日本経済史	担当者名	齊 藤 博
-------	-------	------	-------

講義の目標	<p>世界でもっとも華麗な超一流選手となった現代日本の社会経済の、「栄光」の土台と繁栄の原因は、なにか。その歴史的な過程の問題点はなにか。現代における「悲惨」はなにか。本講義は、これからの課題に対して、いわゆる「社会経済史学」の方法、「地域社会史」の視座、「民衆史」の見方をもって、答えようとしている。</p> <p>日本社会経済史の展開過程の特徴を概観しながら、学問的に、真摯に、知的な好奇心と生真面目な問題意識をもち、さらには社会的な同情心を身につけて、日本および日本人に関する「過去と現在との対話」を試みてみたい。</p>				
講義概要	<p>本講義の枠組みと範疇がもつ、基礎概念と問題意識のキーワードは、以下の通りである。</p> <p>1. 本源的蓄積期 2. 人間疎外 3. 零細過小農経営 4. 商品経済 5. 貨幣</p> <p>6. 農民分解 7. 村落共同体 8. 地域社会史</p> <p>いわゆる、上すべりの現代経済風俗や繁栄風潮の一般的原因や動向を描写することはしない。歴史的かつ社会的な人間諸関係の特殊具体像を細密に歴史描写しながら、日本および日本人についてきびしく、かつ暖かい自己批判と反省を加え、21世紀に生きる日本人の生き方の指針の参考にしたい。地域民衆社会史という「新しい歴史学」の立場に立つから、従来の学問教養で安易に考えることはできない。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『概観日本社会経済史』学文社 ・齊藤 博『地域社会史の誕生』藤原書店 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『概観日本社会経済史』学文社 ・齊藤 博『地域社会史の誕生』藤原書店 	参考文献	<p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『概観日本社会経済史』学文社 ・齊藤 博『地域社会史の誕生』藤原書店 				
参考文献	<p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p>				
評価方法	<p>前期および後期末に、それぞれ筆記試験を行なう。</p> <p>講義ノートをきちんと作成していることを評価の際に重視したい。</p>				
受講者に對する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。なお、受講生有志の強い希望があれば、小人数の自主研究として「資本論輪読会」を開設することができる。</p>				

年 間 授 業 計 画	1.	社会経済史学の課題と問題点	「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
	2.	社会経済史学の課題と問題点	近代日本資本主義発達史論の立場から考える
	3.	社会経済史学の課題と問題点	ブルジョワ革命、本源的蓄積、産業革命をめぐる
	4.	社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風	(地域社会史、地方史をめぐる)
	5.	社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風	(民衆史をめぐる)
	6.	社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風	(いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」をめぐる)
	7.	日本に於ける社会経済史学の発達	(服部之総を読む)幕末維新社会経済史
	8.	日本に於ける社会経済史学の発達	(羽仁五郎を読む)幕末維新社会経済史
	9.	日本に於ける社会経済史学の発達	(農商務省『職事情』の世界)
	10.	日本に於ける社会経済史学の発達	(猪俣津南雄『窮乏の農村』の世界)
	11.	近世封建社会の構造と展開、および問題点	封建領主制と封建農奴、零細小農経営、商品経済
	12.	近世封建社会の構造と展開、および問題点	封建領主制と封建農奴、零細小農経営、商品経済
	13.	社会経済史学の課題	地域民衆史学と全体史
	14.	本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」	封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
	15.	本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」	封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
	16.	近代日本形成確立の全体像と問題点	秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
	17.	近代日本形成確立の全体像と問題点	(井上幸治と色川大吉を読む)
	18.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺	
	19.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺	
	20.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺	
	21.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺	
	22.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺	
	23.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺	
	24.	総括	近代日本の批判的考察と現代日本への展望

科 目 名	日本社会史	担当者名	新 井 孝 重
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	13 世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団 = 悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講 義 概 要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらを見る。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	新井孝重 『中世悪党の研究』 吉川弘文館	
	参 考 文 献	網野善彦 『蒙古襲来』 小学館、日本の歴史 佐藤進一 『南北朝の動乱』 中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）	
評 価 方 法	評価は、後期の試験成績と年間の出席状況をもってする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	30 分以上の遅刻は出席と認めない。 紳士的な態度で聴いてほしい。（私語・飲み物は遠慮してほしい）		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 東大寺荘園の成立 平安時代の堂舎修造事業と財源としての荘園の関係をみる。</p> <p>2. 東大寺荘園の成立 堂舎修造過程でみられる寺内権力の再編と荘園制の確立をみる。 大衆勢力の勃興</p> <p>3. 東大寺荘園の成立 治承4年の東大寺焼討ちとその後の堂舎再建造営のうごきを追う。</p> <p>4. 東大寺荘園の成立 大勧進重源の蓄積せる財を寺家がその内部に組み込む過程を見る。 この組み込みを画期に東大寺荘園制は完成する。</p> <p>5. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。</p> <p>6. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。</p> <p>7. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。</p> <p>8. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに 荘園を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。</p> <p>9. 幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。</p> <p>10. 幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。</p> <p>11. 幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。</p> <p>12. 悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。</p> <p>13. 南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。</p> <p>14. 南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。</p> <p>15. 南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。</p> <p>16. 建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。</p> <p>17. 建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。</p> <p>18. 建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。</p> <p>19. 内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。</p> <p>20. 内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。</p> <p>21. 内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する。</p> <p>22. バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。</p> <p>23. バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。</p> <p>24. 中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。</p>
----------------------------	---

科 目 名	東洋経済史	担当者名	駒 形 哲 哉
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「改革開放」は今や中国経済を語る当然の前提と化しているが、「改革開放」とは何であろうか。中国国内では「資本主義」が十分育たず、むしろ在外中国人によって発展をみたという事実が存在している。「改革開放」政策は、そうした「資本主義」のエッセンスを国内にとりこみ、中国国内に「資本主義」を开花させる試みであるという見方もできるのではなかろうか。本講義では、上記のような観点に立ち、中国の「改革開放」政策採択の意味および東アジアにおける中国の位置付けについて、歴史的側面から考えることを目的としている。</p>		
講 義 概 要	<p>まず、アヘン戦争以来の中国近代史を経済的側面を中心に概観し、清朝、中華民国の時期にかけて、なぜ、どのようにして資本主義が十分発展しなかったのかを考える。こうすることで新中国がなぜ社会主義計画経済体制を採択したのが理解されよう。つづいて、中国が「改革開放」以後、外資導入に「成功」した理由を在外華僑・華人の存在に求め、華僑・華人の生成・発展のプロセスを、東南アジア諸国との連関をふまえながら、みていくことにしたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>毎回講義メモを配布する。</p>	
	参考文献	<p>適宜紹介する。</p>	
評 価 方 法	<p>夏休み中の課題（ブックレポート）提出を後期試験参加の資格とし、ブックレポートと後期試験などをもとに成績評価を決定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 中華世界と国際関係(1) 3. 中華世界と国際関係(2) 4. 近代のはじまり(1)アヘン戦争 5. 近代のはじまり(2)辛亥革命 6. 国土統一から日中戦争へ 7. 開国前夜の在来産業 8. 欧米資本主義の進出 9. 洋務運動と民族工業の誕生 10. 民族工業の発展と限界(1) 11. 民族工業の発展と限界(2) 12. 大後方の経済建設 13. 中国の改革開放政策と華僑・華人 14. 華僑・華人の生成と発展(1)華僑・華人の里 15. 華僑・華人の生成と発展(2)海洋ネットワークの形成 16. 華僑・華人の生成と発展(3)大量出国の時代 17. 台湾～もう一つの「中華」資本主義 18. 現代中国と東南アジア(1)新中国の華僑・華人政策 19. 現代中国と東南アジア(2)インドネシア - 1 20. 現代中国と東南アジア(3)インドネシア - 2 21. 現代中国と東南アジア(4)タイ、マレーシア 22. 世界のチャイニーズ 23. 華僑・華人の新動向 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	西洋経済史	担当者名	御園生 眞
-------	-------	------	-------

講義の目標	ヨーロッパを主要な対象地域として、資本主義経済の成立と発展の要因を考察する。これを基礎に、19世紀後半からのイギリスを中心とする資本主義世界体制の構造を解明する。		
講義概要	<p>前期：イギリスにおける資本主義経済の成長を中心に、資本主義の古典的モデルの特徴を分析する。</p> <p>後期：イギリス産業革命を起点とし、その前提条件、展開過程、特質と問題点を考察する。続いて、後発諸国の対抗的工業化の特徴を分析し、資本主義世界体制の構造の解明をおこなう。</p>		
使用教材	テキスト	石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實『新版 西洋経済史』有斐閣、1986年。	
	参考文献	最初の講義で指示する。	
評価方法	出席および定期試験（前期と後期の2回）の成績。ほとんど出席せずに試験を受けても単位は修得できないので注意すること。		
受講者に対する要望など	1年生はこの科目の履修が可能ですが、講義は3年生・4年生を対象としたレベルなので、3年生になってから履修することをすすめます。事情により講義内容の予定が変更になる場合があります。履修希望者は必ず最初の講義に出席すること。		

1. ガイダンス、参考文献の紹介。
2. 資本主義経済の起点 1 農業・土地制度の変容
3. 資本主義経済の起点 2 大航海時代と商業革命
4. 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (1)農村工業の展開
5. 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (1)農村工業の展開
6. 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (2)イギリス毛織物の展開
7. 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (2)イギリス毛織物の展開
8. 資本主義の成立 2 絶対王政と市民革命
9. 資本主義の成立 2 絶対王政と市民革命
10. 資本主義の成立 3 重商主義政策
11. 資本主義の成立 3 重商主義政策
12. 資本主義の成立 3 重商主義政策
13. 産業革命と工業化社会 1 産業革命前夜のイギリス経済
14. 産業革命と工業化社会 1 産業革命前夜のイギリス経済
15. 産業革命と工業化社会 2 イギリス産業革命
16. 産業革命と工業化社会 2 イギリス産業革命
17. 産業革命と工業化社会 2 イギリス産業革命
18. 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(1)フランス
19. 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(1)フランス
20. 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(2)ドイツ
21. 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(2)ドイツ
22. 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(3)ロシア
23. 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(4)アメリカ
24. 世界市場の成立と構造

科 目 名	国際経済論	担当者名	益 山 光 央
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講 義 概 要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は会報経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使 用 教 材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評 価 方 法			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	まじめに勉強してほしい。		

年
間
授
業
計
画

1. 講義のアウトライン
2. リカード的奉易理論
3. リカード的奉易理論
4. ヘクシャーオリーン定理
5. ヘクシャーオリーン定理
6. リブチンスキー定理
7. ストルパーサミュエルソン定理
8. 関税
9. 関税
10. 国際生産要素移動
11. 国際生産要素移動
12. まとめ
13. GNP と GDP
14. 固定収支表
15. 固定相場制下の所得決定
16. 固定相場制下の所得決定
17. 変動相場制下の所得決定
18. 固定相場制下の所得決定
19. 開放経済上の金融政策
20. 開放経済上の金融政策
21. 開放経済上の財政政策
22. 開放経済上の財政政策
23. ポリシーミックス
24. まとめ

科 目 名	日本経済論	担当者名	波 形 昭 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「日本経済論」と銘打った書物は巷に氾濫しているが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解にすぎるからである。「日本経済論」としては当然それでよいのだが、どうも学生諸君には不向きようだ。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいためか、現状分析の意味そのものがよく理解できないでいるようだ。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目指したい。</p>		
講 義 概 要	<p>【前期】戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後復興から高度経済成長への発展過程を論ずる。</p> <p>【後期】ドル・ショック、オイル・ショックを契機に高度経済成長のシステムが崩れ、新たなシステム再構築を迫られる現代日本経済の諸問題と論ずる。詳細は、次頁の年間講義予定を参照。</p>		
使 用 教 材	テキスト	竹内宏著『昭和経済史』(筑摩書房、1988年)をテキストとし、同時に統計資料等のプリントを配布して授業を進める。	
	参考文献	<p>中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986年</p> <p>野口悠紀雄著『1940年体制』東洋経済新報社、1995年</p> <p>中谷 巖著『日本経済の歴史的転換』東洋経済新報社、1996年</p> <p>原田 泰著『1970年体制の終焉』東洋経済新報社、1998年</p> <p>橋本寿朗ほか著『現代日本経済』有斐閣、1998年</p>	
評 価 方 法	前期・後期とも試験をおこない、総合点で評価する。したがって、いずれかの試験を受け損じた場合、単位の取得はほとんど不可能と心得ておいてほしい。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義中の「私語」と「飲食」は固く禁ずる。大学の教室内は映画館ではない。		

1. 日本経済の近代化と産業・貿易構造
2. 日本経済の近代化と金本位制の成立
3. 恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ
4. 井上財政から高橋財政への転換
5. 高橋財政の経済学的意味
6. 忍び寄る戦時経済体制
7. 戦時統制経済の実態
8. GHQ の対日占領政策と4大経済改革
9. 戦後復興を目指す生産力拡大策
10. ドッジ・ラインとシャウブ勧告
11. 戦後復興からの脱皮、高度成長の到来
12. 高度成長の構造
13. 高度成長の精神的土台
14. 大衆消費社会の意味
15. ニクソン・ショックとオイル・ショック
16. プラザ合意と対外経済構造の激変
17. バブル景気の構造
18. バブル崩壊と不況の長期化
19. 日本経済の諸問題(1) 日本型経済システムの動揺
20. 日本経済の諸問題(2) 日本型産業システムの動揺
21. 日本経済の諸問題(3) 日本型金融システムの動揺
22. 日本経済の諸問題(4) 日本型流通システムの動揺
23. 日本経済の諸問題(5) 1940年体制論と1970年体制論
24. まとめ

科 目 名	北アメリカ経済論	担当者名	本 田 浩 邦
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	29 年恐慌から現在にいたるアメリカ経済の発展を学習する。全体をつうじて、今日の経済理論や経済政策が、どのような歴史的背景の中であらわれてきたのか、それらは今日からみてどのような効果をもったのか、といったことについて考えてゆきたい。		
講 義 概 要	講義は 3 つの部分からなる。第 1 部「29 年恐慌・ニューディール・第二次大戦」(第 1 回～第 5 回)、第 2 部「戦後の経済発展」(第 6 回～第 12 回)、第 3 部「1990 年代における経済・社会の諸側面」(第 13 回～第 24 回)である。経済以外の社会問題ももりこみ、できるだけ立体的なアメリカ経済像を模索したい。		
使 用 教 材	テキスト	なし。毎回プリントを配布する。	
	参考文献	平井規之ほか『概説アメリカ経済』有斐閣 萩原伸次郎『アメリカ経済政策史』有斐閣 ハーバート・スタイン『大統領の経済学』日本経済新聞社	
評 価 方 法	後期の定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	継続的に出席していただきたい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 現代アメリカ経済論の課題 / 講義の構成 / すすめ方と注意事項 / 評価方法 / 参考文献 2. 20年代のブームと大恐慌の発生 「繁栄」の20年代 / 住宅・耐久消費財 / スムート・ホーレー関税法 / ヨーロッパの通貨問題 / 大恐慌の発生と波及 / 互恵通商法 / ロンドン世界経済会議 3. ニューディールの登場 第1期(1933-35) / NIRA(1933.6) / 第2期(1935-37) / 社会保障法 / 第3期(1937-39) / ニューディールの資金調達 / ニューディールの現代的意義 4. 29年恐慌論争 ブルッキングス研究所 / マネタリズム / キンドルバーガーの「覇権安定化理論」 / 1920年代におけるフラン問題 5. 第二次大戦と軍事経済 戦争の性格 / 戦争の準備 / 戦時生産体制 / 配給と物価統制 / 労働 / 戦費の調達 6. 第1期(1947~57)(1) 戦後世界体制の再編 / 「大西洋憲章」(1841.8.14) / トルーマン・ドクトリン / 朝鮮戦争 / 世界経済の枠組み / マーシャル・プラン(1947.6) / IMF・GATT体制 7. 第1期(1947~57)(2) 戦後経済成長の国内的条件 / 「1946年雇用法」 / 政府の経済的機能 / 自動安定装置 / 所得分配 / 技術革新 / インフレと国債管理政策の転換 / 「アコード」から「ビルズ・オンリー政策」へ 8. 第2期(1957-67)(1) ケネディ政権期の経済政策と経済成長 / 「ニュー・エコノミックス / 1964年減税その他の減税政策 / インフレとドル過剰 / IMF体制の動揺 / 景気循環 9. 第2期(1957-67)(2) アイゼンハワーからケネディへ / 「軍産複合体」 / 宇宙開発競争 / NASA(1963) / ベトナム戦争 / 人種問題 / 公民権運動 / 1960年代の黒人暴動 10. 第3期(1967-79) ニクソン政権期の経済的背景 / 二つの石油危機と不況 / ケインズ主義からマネタリズムへ / ウォーターゲート事件 / 二桁インフレ / スタグフレーション論争 11. 第4期(1980-90)(1) レーガノミックス / 経済再建プログラム(1982.2.18) / 当初の問題点 / 1980年代のマクロ経済の概観 / 貯蓄投資バランス / 「双子の赤字」 12. 第4期(1980-90)(2) 「ブラザ合意」 / 累積債務問題と金融危機 / 財政赤字の削減とグラム・ラドマン・ホリングス法 / 企業収益基盤の変化 / 所得格差拡大 13. 1990年代のマクロ経済と経済政策(1) ディスインフレーション / 自然失業率の低下 / 設備稼働率と産出能力 / 貯蓄率の低下と家計負債の累積 / 対外債務 14. 1990年代のマクロ経済と経済政策(2) 産業基盤の二極化 / 国際競争力の定義 / 「ダウンサイジング・オブ・アメリカ」 / 自動車と航空機産業のリーン化 / アウトソーシング 15. 1990年代のマクロ経済と経済政策(3) 所得分配の長期的傾向(グズネッツ) / 所得分配の不平等化 / 賃金と資産の分配 / 貧困の定義 / 産業間の所得格差 / 企業収益性への影響 16. 人種・移民問題(1) 黒人問題 / 公民権運動とアフターマティブ・アクション / 1964年以降の保守派の台頭 / 反税闘争 / プロポジション 13 / 少数人種間対立 17. 人種・移民問題(2) アメリカ移民小史 / 「モイニハン報告」 / 65年移民法以降 / 移民の経済的効果をめぐる議論 / 労働の国際移動とグローバリゼーション(サッセン) 18. どのようにして財政赤字はなくなったか? 財政赤字の推移 / 歳出と歳入の構造 / 包括財政調整法(1990) / 「フレキシブル・フリーズ」 / 社会保障制度改革 19. 軍縮と民需転換政策 軍事支出のマクロ的効果をめぐる論争 / 「軍民転換論」(ガンスラー) / ディアルユース・テクノロジー / 海外援助と兵器輸出のリンケージ 20. 金属市場と株式市場 銀行と投資会社 / 80年代の「金融危機」と資金循環構造 / 90年代の株式市場の状況 / 「ニューエコノミー」 21. 貿易と資本取引 90年代の貿易赤字の拡大の構造的要因 / サービス貿易 / 知的所有権 / 「戦略的通商政策 / NAFTA 22. 中南米・アジア・ヨーロッパとアメリカ 23. 日本とアメリカ 24. 講義のまとめ、質疑
----------------------------	---

科 目 名	ラテンアメリカ経済論	担当者名	山 本 正 三
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	日本経済と深いつながりのあるラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情を、自然的基盤、歴史的発展過程、資源と産業、国内諸地域の地理的、経済的、社会的諸特性を分析し、考察することが目標で、この地域の経済の将来展望、日本との関連についても考察を進めていく。		
講 義 概 要	前期にはラテンアメリカ経済の現状とその自然的基盤との関連、歴史的経緯、経済活動を一般的に説明し、後期にはこの地域の経済発展の諸相、経済問題、産業と企業の特質について説明する。		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ A . ギルバート 『ラテンアメリカ入門』二宮書店、1996 ・ 小池洋一、西島章次編 『ラテンアメリカの経済』新評論社、1993 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加茂雄三編 『ラテンアメリカ・ハンドブック』講談社、1982 ・ 細野昭雄 『ラテンアメリカの経済』東大出版会、1983 ・ 染田秀藤編 『ラテンアメリカ』世界思想社、1993 	
評 価 方 法	定期試験の成績と、前期と後期それぞれ1～2回のレポートおよび出席を加味して行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	テキストを必ず用意すること。私語をつつしむこと。 地図帳を持参すること。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. ラテンアメリカ経済の一般的・地域的特質</p> <p>2. 経済の一般的条件 (1) 自然条件 位置、地形</p> <p>3. 経済の一般的条件 (2) 自然条件 気候の地域的差異と経済への影響</p> <p>4. 経済の一般的条件 (3) 歴史と住民 住民の構成、歴史的発展過程</p> <p>5. 経済の一般的条件 (4) 歴史の住民 先住民とその文化・経済、植民の展開</p> <p>6. 経済の一般的条件 (5) 住民の社会的特質</p> <p>7. 経済の一般的条件 (6) 人口増加、分布状態、都市の発展</p> <p>8. 経済活動 (1) 農牧業 土地所有、農場規模構造、生産構造、生産物の経済的特性</p> <p>9. 経済活動 (1) 農牧業 農牧業の地域分化、生産の地域的特性</p> <p>10. 経済活動 (1) 鉱山業 経済における鉱山業の地位、発展過程、主要鉱山業地域</p> <p>11. 経済活動 (1) 商業・貿易 輸出業の盛衰、その特質</p> <p>12. 経済活動 (1) 工業 工業化の進展、経済における工業の地位の変遷、工業地域の形成過程と地域的特質</p> <p>13. 経済発展の諸相 (1) ラテンアメリカ農牧業の特質 大土地所有制、輸出指向、近代化と農村人口減少、農村の貧困</p> <p>14. 経済発展の諸相 (2) 一次産品輸出経済 その形成過程と要因、温帯工業国との関連</p> <p>15. 経済発展の諸相 (3) 工業化戦略の展開 輸入代替工業化戦略、自由主義戦略</p> <p>16. 経済発展の諸相 (4) 経済発展と所得分配 現状と歴史的、社会的構造的要因</p> <p>17. 経済発展の諸相 (5) 都市のインフォーマルセクター その実態とその社会経済的意義</p> <p>18. ブラジルの経済 (1) ブラジル経済の特質、その形成過程、自然的基盤</p> <p>19. ブラジルの経済 (2) 経済発展の地域的特質、地域較差と地域開発計画の進展</p> <p>20. ブラジルの経済 (3) ブラジル経済における日系人</p> <p>21. アンデス諸国の経済的特性 とくにペルー、コロンビア、ベネズエラ、ボリビアの経済的特性</p> <p>22. 温帯ラテンアメリカの経済 アルゼンチン、ウルグアイ、チリその経済的発展</p> <p>23. メキシコの経済 アメリカ合衆国との関係</p> <p>24. ラテンアメリカ経済と日本との関連 歴史的過程、日系企業の進出、相互依存関係</p>
----------------------------	--

科 目 名	西ヨーロッパ経済論	担当者名	大 島 通 義
-------	-----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>西ヨーロッパは今、アジアとアメリカとならんで、世界経済における三極化の一つの中心をなしている。その原動力はドイツとフランスにあり、第二次世界大戦後には、この両国の協調関係のうえにヨーロッパ連合が築かれてきた。しかし、両大戦以前にまでさかのぼるならば、そこではドイツとフランスは政治的にも経済的にも対立し競合していた。列強の対立から協調へとこのように大きな転変をとげるヨーロッパ経済の歴史を振り返り、そのうえで現在の状況を考察する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期においては、19 世紀後半期以来最近までのほぼ一世紀半のあいだに、ヨーロッパにおける諸国の経済関係がどのように発展してきたかを概観し、かつては対立・競合していた列強諸国が戦後になって経済と政治の統合へと転換していく過程を明らかにする。とくに戦後のマーシャル援助にはじまり、最近の通貨統合までの統合の諸段階をおって、その発展の跡をたどることとする。後期には、この地域のおもな国（英・独・仏など）をとりあげて、その近年の発展を概観する。そのあと、欧州共同体が直面している経済問題、経済政策の課題などについて考察する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	とくに指定しない。講義の進行におうじて必要な文献を指示する。	
	参 考 文 献	<p>Hobsbawm , E . (河合訳) 『20 世紀の歴史』(上・下) 三省堂、1996 年。 中木康夫・河合秀和・山口定 『現代西ヨーロッパ政治史』有斐閣比較、1990 年。 原輝史・工藤章編 『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣、1996 年。</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。ほかに、前・後期にそれぞれ 2 回程度、それまでの講義内容についての短いレポートの提出を求める。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>高校教科書程度の「世界史」の知識を前提に講義する。さらに経済原論と経済史の一般的な知識を備えていることを期待する。</p>		

[前期]

1. 第一次世界大戦以前のヨーロッパ経済
 - (1) 国民国家と国民経済の形成
 - (2) 勢力均衡と市場獲得競争
2. 両大戦間期のヨーロッパ
 - (1) ヴェルサイユ体制のもとでの欧州経済
 - (2) 世界大恐慌とブロック経済への転換
 - (3) 第二次大戦による地域経済の変貌
3. 戦後体制の準備とその制度化
 - (1) 連合国による戦後構想
 - (2) 戦後復興の開始
 - (3) 統合への始動と反動
4. ヨーロッパ共同体の形成過程
 - (1) 域内市場統合の完成まで
 - (2) その後の発展

[後期]

5. 福祉国家の制度とその現状
 - (1) 福祉国家の諸類型
 - (2) ドイツの社会保険福祉国家体制
6. コーポラティズムの経済体制
 - (1) 企業内労使協調体制
 - (2) 社会的規模での協調体制
7. 新保守主義の経済政策
 - (1) 新保守主義台頭の背景
 - (2) 新保守主義の経済政策
8. 市場の統合から通貨の統合へ
 - (1) 戦後西欧における経済統合
 - (2) 市場の統合から通貨の統合へ
9. 世界の中での西ヨーロッパ経済
 - (1) 1989年 = ドイツ統一と西欧経済
 - (2) 世界経済における西ヨーロッパ経済

科 目 名	東ヨーロッパ経済論	担当者名	鈴 木 勇
-------	-----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>この地域の諸国は社会主義体制の崩壊と資本主義体制への移行という大転換期に直面している。社会主義の崩壊という現実、マルクス主義の見方からすれば、歴史の歯車の逆転であって起るはずのない出来事であった。にもかかわらず、ソ連・東欧の社会主義は崩壊してしまった。「なぜ崩壊したのか」、「社会主義とは一体何であったのか」。これらの問題を考察することが本講義の第一の目標である。もう一つの目標は、転換期のただ中にあるこれらの国が、どのような状況にあり、どのような問題を抱えているのか、体制転換の展望と意義を探ることにある。</p>		
講 義 概 要	<p>つい近年まで、この地域の諸国は社会主義体制のもとにあったが、同じ社会主義といっても経済システムの特徴からすると著しく性質を異にするものであった。まず、ソ連型の国家管理社会主義と旧ユーゴスラヴィアの労働者自主管理社会主義、それに1968年改革後のハンガリーの経営者管理社会主義の三つに大別できる。本講義ではこの点に着目して、これら三つのパターンを中心に考察し、マルクスの社会主義モデルとの比較検討も加えて、上記の講義目標に接近したいと思っている。この地域の最近の経済事情に関しては、本年度はロシア経済と新ユーゴ経済を中心に考察する予定である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>・鈴木 勇『市場的社会主義とマルクス主義』(増補改訂版)学文社、1988年</p>	
	参 考 文 献	<p>その都度指示する。</p>	
評 価 方 法	<p>評価は定期試験の成績に出席状況を加味して行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	東アジア・中国経済論	担当者名	駒 形 哲 哉
-------	------------	------	---------

講義の目標	成長のセンターに躍り出て「東アジアの奇蹟」とまで称された東アジア経済が、1997年のタイの金融不安をきっかけに一転して苦境にあえいでいる。香港という開かれた経済センターを回収して、国内経済改革の加速をもくろんだ中国にとって、こうした事態は大きな誤算であったかもしれない。しかし、それでも中国は経済発展の実績を背景に、アジア経済の安定のために役割を果たす意思を示している。本講義では、激動の東アジア経済を分析するための基礎を身につけ、受講終了後もひきつづき、地域経済に関心を持ち続けてもらうことを最大の目標としている。		
講義概要	本年は、東アジアのなかでも、近年とりわけ急激な経済成長を遂げてきた中国に焦点をあて、中国の「社会主義市場経済」化の道のりを内外情勢をふまえて論じることにした。建国50年を迎えた中国の経済発展と制度改革および解決を迫られる課題について、アジア諸国との比較を交えながら説明する。視覚的にも理解を深めてもらえるよう留意する。		
使用教材	テキスト	河地重蔵、藤本昭、上野秀夫『中国経済と東アジア圏』世界思想社、1998年	
	参考文献	栗林純夫、高橋宏編著『中国経済における持続的成長の可能性』人と文化社、1998年	
評価方法	夏休み中の課題（ブックレポート）提出を後期試験参加の資格とし、ブックレポートと後期試験などをもとに成績評価を決定する。		
受講者に対する要望など			
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 東アジアの経済発展と中国経済 3. 中国経済の今日までの歩み（1） 4. 中国経済の今日までの歩み（2） 5. 経済成長とその要因 6. 産業構造と産業の諸問題 7. 人民生活 8. 中国経済の諸問題（1）地域格差、食糧 9. 中国経済の諸問題（2）エネルギー・環境 10. 市場経済化（1） 11. 市場経済化（2） 12. 前期のまとめ 13. 社会主義市場経済（1）その枠組み 14. 社会主義市場経済（2）財政税制改革 15. 社会主義市場経済（3）金融改革 16. 社会主義市場経済（4）国有企業改革 17. 対外開放政策の変遷 18. 外資導入と投資環境 19. 貿易構造とその形態 20. WTO 加盟問題 21. 日中経済関係 22. 華人ネットワークと中台経済関係 23. 後期のまとめ 24. 予備 		

科 目 名	東南アジア・オセアニア経済論	担当者名	森 健
-------	----------------	------	-----

講 義 の 目 標	<p>世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もこのような固有性を反映する。しかし、経済活動の本質的な部分には各国に共通する法則（普遍的な法則）が働いていることを実感させられる例が多い。この講義の目的は、対象とする国の経済発展の歴史と現状を前記の観点、即ち、固有性と普遍性の発見に努めることにある。今期の授業では、オーストラリアを中心として取り上げ、オーストラリアとの関連において、日本を含むアジア諸国の経済を取り上げる。</p>		
講 義 概 要	<p>オーストラリアは近年、極めてユニークかつ大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力（APEC）会議を提唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化推進に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れている国として知られている。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易国であり、有色人種の移民を排除していた国でもある。何故このような政策変換がなされたのか。この変換はどのようなことになってきたのか。97年以降のアジア経済危機はオーストラリアにどのような影響を与えているのか。この講義では、このような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、マクロ経済、ミクロ経済、対外取引、政治・社会体制など）から解明する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>竹田いさみ、森 健（編）『オーストラリア入門』（東京大学出版会、1998年 6月刊）ビデオ、ハンドアウト（教室で配布）を使用する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>定期試験を中心とし、時折上映するビデオに関して提出して貰うコメント等も参考とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>自国以外の国の事情を知ることによって、複眼的な思考ができるようになって貰いたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. イントロダクション 地域研究の意義。アジア太平洋地域におけるオーストラリアの位置。</p> <p>2. - 4. 歴史と文化 植民地社会の形成。コールドラッシュ。牧羊業の発展。1890年代の恐慌。連邦整理の経緯。賃金裁定と産業保護。白豪主義。両次大戦と工業化。移民政策。資源ブーム、アジア化。</p> <p>5. - 6. 社会 アボリジニ。多分化社会化。労働。社会福祉。教育。メディア。</p> <p>7. 政治 政治構造と制度。政策推移。</p> <p>8. - 9. 外交・安全保障 第2次大戦までの政策。冷戦期の政策。ベトナム戦争。冷戦後の政策。政策分野別検討（安全保障、国連外交、非核政策、APEC、経済安全保障とASEAN、対外援助、難民政策）</p> <p>10. - 11. 経済と貿易 経済構造の特徴と変化。経済政策と環境資源問題。貿易と投資。アジア経済の危機。</p> <p>12. 日豪関係 第2次大戦前期。第2次大戦後。経済摩擦。日本経済の危機。多国間協力関係。</p>
----------------------------	---

科 目 名	金融経済論	担当者名	田 村 申 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>この講義の目的は、金融ビッグバン、金融機関の提携など、いま私達の目の前で起っている金融の諸問題に受講生が興味をもち、自分で情報を集めて分析し、自分なりの意見をもてるような考察力を身につけて貰うことです。授業は、金融に関するウィークリートピックスの解説で始まり、キーワードに従って、最小限の理論をベースにして日本の金融をわかり易く説明します。この講義を通じて、金融を考える手掛りをつかみ、研究に役立てて下さい。</p>		
講 義 概 要	<p>金融を理解するためには、金融システム、金融行動、金融市場、金融政策の4本柱を一体的にとらえ、それらの相互関係を知ることが大事です。図式的にいえば、時代の経済環境 金融システム 各経済主体の金融行動 金融市場の動向 金融政策 行動・市場の変化という関係があります。このような視点から、講義ではこれら4本柱をタテ系として順次明らかにし、その体系的把握ができるように組み立てます。その際、金融の自由化・国際化などの時代のトレンドを1本の太いヨコ系として、4本柱を結びつけていきます。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定です。	
	参考文献	<p>山田良治・田村 茂・田村申一・花輪俊哉著「金融入門」有斐閣、1989 池尾和人・岩佐代一・黒田晃生・古川 顯著「金融」(新版)有斐閣、1993 柴沼 武・森 昭雄・藪下史郎・書間文彦著「金融論」有斐閣、1993 池尾和人著「現代の金融入門」筑摩書房、1996 貝塚啓明・奥村洋彦・首藤 恵著「金融」東洋経済新報社、1997</p>	
評 価 方 法	<p>成績評価は、前期ならびに後期の試験の平均点で決定します。前期と後期の両方を受験しなければ、単位は認定しません。前期試験はレポートとし、9月末日までに教務に提出して下さい。後期試験は、試験時間割で行います。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業には真面目に出席して、金融の面白さを実感して下さい。</p>		

はじめに 金融の現状と課題

・金融システム

1. 貨幣 (1)貨幣の機能
(2)マネー・サプライ
(3)電子マネー
2. 金融構造 (1)部門別資金過不足
(2)金融方式
(3)金融構造の変化
3. 金融制度 (1)商業銀行主義と総合銀行主義
(2)戦後の金融制度
(3)金融制度改革
(4)金融ビッグバン

・金融行動

1. 資産選択 (1)個人・企業の貨幣需要
(2)投資家のポートフォリオセレクション
(3)資産選択の日米比較
2. 企業金融 (1)企業の資金調達
(2)金融方法と資本コスト
(3)企業金融の変容
3. 銀行行動 (1)銀行の機能
(2)信用創造のメカニズム
(3)銀行の行動原理
(4)メインバンク・システム

・金融市場

1. 金融市場 (1)金融取引と金利裁定
(2)短期金融市場
(3)資本市場
(4)デリバティブ市場
2. 金利 (1)利子率水準の決定
(2)金利体系
(3)利回り曲線の推移

・金融政策

1. 金融政策の目標と手段 (1)政策目標
(2)運営目標
(3)政策手段
2. 金融政策の有効性 (1)金融政策の効果波及経路
(2)波及経路の変化
(3)金融政策の有効性
3. 金融システムの安定化政策 (1)市場規律と公的規制
(2)最後の貸手機能と預金保険制度

科 目 名	金融システム論	担当者名	平 木 俊 一
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>国内金融システムを深く、国際金融システムは広く学ぶ。二つのシステムの基礎事実とその働き及び相互作用について分析し、実体経済のコインの裏側としての金融経済（制度）についての考え方を学習します。他の関連科目（金融論、国際金融論、国際経済論）の履修と合わせて、卒業後に金融関係に就職する諸兄弟が必要とする、現代の金融経済の市場・制度・機関とそれらの統合作用（システム）を学びます。</p>		
講 義 概 要	<p>金融問題は一国の枠を超えています。特に先進国間では、各国の金利変動や為替レート変動を通じて、実体経済へ働きかけ、さらに先進国間では直ちに相互に影響を及ぼし合い連動するのであります。</p> <p>国内金融システム分野では、戦後の金融制度、その改革、ピックパン、中央銀行の独立性、金融システムリスク、金融再編等を中心にとりあげます。</p> <p>国際金融システム分野では、ブレトンウッズ体制、変動為替相場制、G 7 の協調、国際金融システムの改革等を中心にとりあげます。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>特に定めませんが、データの入ったプリントを毎回配布します。 尚このプリントは最終試験で持込み可とする予定です。</p>	
	参 考 文 献	<p>「わが国の金融制度」 日本銀行金融研究所 「国際通貨システム」 山本栄治 岩波書店</p>	
評 価 方 法	<p>前期はレポートを課します。後期は記述試験です。 どちらも出席し、配布したプリントの中のデータを利用することを前提とします。両方の課題をクリアーした人のみ、二つの平均点で評価します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>出席をして下さい。毎日、日本経済新聞を図書館等で目を通す。そうでなければ全国紙の経済欄を読む。衛星放送(チャンネル7 午後10時半経済ニュース) 12チャンネル(午後11時ワールド・ビジネス・サテライト)を見て下さい。</p>		

1. ガイダンス 金融システム論とは何か 市場と制度と機関（銀行）
- 2.〔国内金融システム〕 銀行、ユニバーサルバンク、ナロウバンク、決済機能、信用創造
3. その他金融機関、郵便貯金、証券、保険、ノンバンク
4. 金融市場、間接金融、短期金融市場
5. 証券市場（株式・債券）、直接金融、長期金融市場
6. 金融制度 戦後の護送船団方式、部門別資金過不足、マネー・サプライ
7. 金融制度 金融制度改革、他先進国の金融制度改革
8. 金融制度 ビッグバン、不良債権処理、B I S 規制
9. 中央銀行の役割、独立性、他先進国のケース
10. 大蔵省の改組、金融監督庁、市場原理の適用
11. 金融機関の再編成、海外有力金融機関の進出
- 12.〔国際金融システム〕 貿易決済、金本位制
13. ブレトンウッズ体制、固定為替相場制
14. ドルの信認低下、流動性のディレンマ、金ドル交換停止
15. 変動為替相場制、大巾な変動の回避のために
16. ブラザ合意、G 7 の協調
17. メキシコ、アジア、ブラジル通貨危機
18. I M F の機能不全、国際金融システム改革
19. ユーロの出現、E U の金融改革・財政政策
20. 円の国際化、新外国為替法、東京国際金融センター
21. 短期資本移動（ヘッジ・ファンドの問題）と長期資本移動（直接投資）
22. 対外直接投資と対日直接投資のアンバランス
23. 金融派生商品（フォワード、ヒュー・チャー、スワップ、オプション）
24. まとめ

科目名	財政学	担当者名	大島 通義
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>政府は毎年予算を組み、巨額の税金を家計や企業から徴収し、これをさまざまな政府としての活動にあてている。「財政学」は、このような公共部門の経済活動を対象とする学問である。「政府」の「経済活動」を対象とする学問である以上、これを理解するには経済学の基礎的な知識を備えているのと同時に、政府の意思決定にかかわる政治や行政にも目を向けることが必要である。このような観点から現代財政についての理解を深めることに努めたい。</p>		
講義概要	<p>前期においては、政府の経済活動全般を視野に入れながら、現代までの財政論の主な潮流、政府部門の収支の構成をみたうえで、主として政府の支出活動に焦点を合わせた講義とする。政府による公共財の供給、高齢化社会における財政の役割、分権化と財政、国際化時代の財政などの問題を取り上げる。後期には、政府の収入調達、すなわち租税（所得税、法人税、消費税など）と公債発行についての理論、その現状について講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>貝塚啓明・宮島洋『財政学』（放送大学教材） その他、講義の必要に応じて、参考文献目録、資料等を配布する。</p>	
	参考文献	<p>片桐正俊編『財政学 転換期の日本財政』東洋経済新報社 重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編『Basic 現代財政学』有斐閣ブックス 林健久・今井勝人編『日本財政要覧』東大出版会</p>	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。場合によっては、講義内容についての短いレポートの提出を求めることがある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済学についての基礎的な理解を前提して講義をおこなうので、これを欠いている場合には、各自でそれを補うようにつとめること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要、最近の財政問題、財政学の課題 2. 「政府」とは何か、二つの見方 3. 「市場経済」と「政府」、その中間組織 4. 予算の仕組みとその決定の過程 5. 国民経済計算における政府部門 6. 国と地方の財政関係 7. 「公共財」とは何か 8. 政府支出決定の論理とその実際 9. 政府支出の長期的趨勢 10. 公共投資とその管理 社会資本の整備 11. 福祉国家の成立とその発展 12. 高齢社会の財政問題 <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税とは何か、租税体系、税負担の国際比較 2. 個人所得課税の理論とその実際 3. 同上 4. 法人企業課税の理論とその実際 5. 同上 6. 消費課税の理論とその実際 7. 同上 8. 資産課税の理論とその実際 9. 同上 10. 租税政策の社会経済的作用 11. 公債発行の財政問題 12. 同上
----------------------------	--

科 目 名	公共経済学	担当者名	伊 藤 為一郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>わたしたちの日々の生活は公共部門の活動と切っても切れない関係にある。水・清掃・教育・道路・警察・消防など様々な公共サービスによって便益を受けている。政府の活動と民間部門の活動とはどういう関係にあるか。政府の活動は大きすぎるのか。介入するとすればどういう方法であるべきか。政府の活動を効率化するにはどんな改革が必要か。政府は国民の福祉にどのように関係すべきであるか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが本講の課題である。</p>		
講 義 概 要	<p>公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図や表を多用しながら講義を進める予定である。</p> <p>国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきたが、その経過をたどることによって、現代の政府活動の特徴を明らかにする。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	講義のはじめに指示する。	
	参 考 文 献	講義のなかでその都度指示する。	
評 価 方 法	年度末の成績および中間テストの成績によって評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	1. はじめに	政府と市場	政府の範囲	文献紹介			
	2. 公共部門存在の理論的根拠	市場の失敗	政府の失敗	資源配分	所得再配分	経済成長・経済安定	
	3. 公共財とその供給	公共財	混合財	メリットウオント	外部性	公的供給と公的生産	
	4. 公共選択	資源配分のメカニズム	選好表示	公平と効率			
	5. 社会資本と公共サービス	社会資本と経済発展	高度成長と社会資本充実政策	新しい社会資本	費用・便益分析		
	6. 公共サービスの供給と財源調達	なぜ租税が必要か	租税原則	公平な租税とは	租税構造		
	7. 現代の租税	所得税	法人税	消費税	資産税	目的税	
	8. 公債	租税国家の危機	公債の増大	公債の機能	累積公債と財政再建		
	9. 地方政府	地方公共財の供給	地方財政の拡大	財源調整制度	地方交付税	国庫支出金	地方分権
	10. 都市問題	一極集中					
		土地と住宅	交通	ゴミ	財政危機		
	11. 環境問題と財政	市場の失敗と環境政策	課徴金か補助金か	PPP	から環境税へ	地球温暖化問題	
	12. 高齢化社会と財政	高齢化の進展	年金財政の破綻	負担とサービスのバランス	賦課方式と積立方式		
13. まとめ							

科 目 名	環境経済学	担当者名	浜 本 光 紹
-------	-------	------	---------

講義の目標	近年の環境問題の深刻化とともに、「環境」と「経済」のあり方を問い直す必要性が高まってきている。本講義では、この課題に経済学の立場から取り組み、環境破壊が進行する経済的要因を解明し、環境制御のための公共政策のあり方について考える。		
講義概要	前期は、環境経済学の基礎について、特に環境政策の設計という課題を中心に講義する。後期は、現実の環境政策の諸事例を取り上げながら、こうした事例を経済学的見地から分析することにより、今後の環境政策設計のためにいかなる政策的含意を得ることができるのかを考えていく。		
使用教材	テキスト	植田和弘「環境経済学」岩波書店	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植田和弘「環境経済学への招待」丸善ライブラリー ・ D.ピアス他 / 和田憲昌訳「新しい環境経済学」ダイヤモンド社 	
評価方法	レポートの提出、および前期・後期の試験に基づいて評価する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経済学の課題 2. 環境と開発 3. 環境評価と意思決定 その1 4. 環境評価と意思決定 その2 5. 環境政策の諸手段 その1 6. 環境政策の諸手段 その2 7. 環境政策の諸手段 その3 8. 環境資源管理 9. 地球環境問題 その1 10. 地球環境問題 その2 11. 持続可能な発展に向けて 12. 日本の環境政策 その1 13. 日本の環境政策 その2 14. 各国の環境政策 - 米国 - 15. 各国の環境政策 - ドイツ - 16. 環境税 その1 17. 環境税 その2 18. 気候変動 その1 19. 気候変動 その2 20. 廃棄物問題 その1 21. 廃棄物問題 その2 22. 環境政策過程 その1 23. 環境政策過程 その2 24. まとめと展望 		

科 目 名	経済地理学	担当者名	犬 井 正
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p>		
講 義 概 要	<p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、前期、後期に各 1 回ずつのフィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各 1 回（それぞれ 4000 字程度）の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. グリッグ著『西洋農業の変貌』1986 年、農林統計協会 ・ 定本正芳著『農業地理学の理論』1983 年、大明堂 ・ 山本正三他編著『日本の農村空間』1990 年、古今書院 ・ 山本健児著『経済地理学入門』1993 年、大明堂 	
評 価 方 法	<p>年間指定小論、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。 2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。 3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサデータ、地図の活用などを中心として。 4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。 5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。 前期小論提出 6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競争を視点として考察する。 7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。 8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。 9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。 10. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する） 11. 同上 12. 前期のまとめと評価。全フィールドワークのレポート提出 13. 日本の農業の特色と農業地域の概観。 14. 首都圏の農業地域の構造と特色。 15. 輸送園芸農業地域の構造と特色。 16. 米作地域の農業経営の特色と問題点。後期小論提出 17. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。 18. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。 19. イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。 20. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。 21. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。 22. 同上 23. 草加市の綾瀬川流域沖積低地の伝統的農産物生産地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する） 24. 1年間の講義のまとめと評価。後期フィールドワークのレポート提出。
----------------------------	---

科 目 名	交通経済論	担当者名	岡 田 博
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>現代の経済は高度に発達した交換経済であり、多くの経済システムの相互依存関係を通じて運営されている。交通サービスを提供する交通システムも現代の社会経済活動を支えている重要な経済システムである。</p> <p>本講義においては交通を国民経済活動との関連において捉え、国民経済において交通が果たしている機能と役割について分析を行う。交通の経済学的分析とともに現代の交通問題に対する交通政策的アプローチについても意を注ぎたい。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義は交通を研究対象として、これに経済理論の分析用具を用いて分析を行うものである。</p> <p>講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、交通需要の特性、交通サービス供給について、交通市場の構造と特性、運賃の理論と実際、交通調整問題、交通と環境問題、交通政策等々について。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定、講義の最初に指示する。	
	参 考 文 献	岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣	
評 価 方 法	<p>前期および学年末の定期試験によって評価するが、ときにレポートの提出を指示することもあり、これらを総合して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業には必ず出席して、ノートをとること。また授業で勉強したことについて、図書館で関連の書物を読み、さらに知識を深め確実なものとすることを習慣化してもらいたい。</p> <p>授業中、私語は行わないこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	1	交通経済論について、研究の方法、交通の概念、交通の生産物について
	2	交通需要 交通需要の特性、交通需要の弾力性について
	3	交通需要 交通需要の予測とその方法
	4	交通サービスの供給 交通サービス供給の史的概観
	5	交通サービスの供給 交通サービス供給の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態の変化
	6	交通市場 交通市場の特性
	7	交通市場 交通市場の構造
	8	運賃理論 運送価値説
	9	運賃理論 独占運賃と差別運賃 1
	10	運賃理論 独占運賃と差別運賃 2
	11	運賃理論 運賃費用説
	12	運賃理論 限界費用運賃
		備考
	後 期	
	1	交通の社会的費用 交通の社会的費用の概念
	2	交通の社会的費用 交通の社会的費用の実態と対策
	3	交通の社会的費用 交通の社会的費用の内部化
	4	交通投資と資金調達 交通投資の経済効果
	5	交通投資と資金調達 資金調達の方法について
	6	国民経済と交通 交通の発達と経済成長、近年における GDP と輸送量の乖離とその要因
	7	国民経済と交通 交通の発達と地域開発
	8	国民経済と交通 交通の発達と生産物市場圏の変化
	9	国民経済と交通 交通システムの発達と企業形態、多頻度少量輸送の増大と問題点
	10	交通政策 交通政策の理論
	11	交通政策 交通安全政策
	12	おわりに
	備考	

科目名	社会政策	担当者名	桑原靖夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>社会政策（Social Policy）とは一体いかなる学問なのか。講義名を聞いて直ちにその内容を類推することができる人はきわめて少ないだろう。元来、社会政策という学問は明治期にドイツから輸入された政治経済学であり、資本主義の発展に伴い、展開してきた様々な労働問題を対象とする政策科学として成立・発展してきた。しかし、今日では、社会政策が対象とする領域も大きく変わり、多くのチャレンジングな問題が提起されている。講義では新しい視点から広く「労働」（働くこと）にかかわる現代の様々な政策課題を検討する。</p> <p>詳細なシラバスが大学ホームページの桑原ゼミのページに掲載されているので受講者は必ず参照すること。</p>				
講義概要	<p>今日、世界の労働の分野では、きわめて多くの注目すべき変化が展開している。雇用機会の空洞化現象、国際労働力移動（外国人労働者）、開発途上国の低賃金、技術革新の雇用に与える衝撃、高齢化、女子労働者の増加、労働時間短縮、サービス経済化など、枚挙にいとまがない。人生において、労働（雇用）の次元はしばしば最も重要な時期を占めている。21世紀に向けて我々の社会における労働のあり方はいかなる変貌をとげるのだろうか。</p> <p>講義では、いまやきわめて広範な領域にまで拡大した労働の問題を整理し、新たな実証分析の成果を加えて解説する。並行して開設される「労働経済学」が理論的・実証的アプローチを主とするのに対して、「社会政策」ではより幅広く問題の政策的アプローチを主とすることにしたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>本講義では特定のテキストを使用しないが、桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995年）は、講義の一部分をカバーしている。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに詳細なシラバスおよび文献リストを配布する。比較的新しく広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <p>桑原靖夫・G・バンパー、R・ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』（日本労働研究機構、1999年）</p> <p>桑原靖夫・連合総合生活研究所編『労働の未来を創る』（第一書林、1997年）</p> </td> </tr> </table>	テキスト	本講義では特定のテキストを使用しないが、桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995年）は、講義の一部分をカバーしている。	参考文献	<p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに詳細なシラバスおよび文献リストを配布する。比較的新しく広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <p>桑原靖夫・G・バンパー、R・ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』（日本労働研究機構、1999年）</p> <p>桑原靖夫・連合総合生活研究所編『労働の未来を創る』（第一書林、1997年）</p>
テキスト	本講義では特定のテキストを使用しないが、桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995年）は、講義の一部分をカバーしている。				
参考文献	<p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに詳細なシラバスおよび文献リストを配布する。比較的新しく広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <p>桑原靖夫・G・バンパー、R・ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』（日本労働研究機構、1999年）</p> <p>桑原靖夫・連合総合生活研究所編『労働の未来を創る』（第一書林、1997年）</p>				
評価方法	原則として年1回ないし2回のテストによる。				
受講者に對する要望など	講義で取り上げる課題は多くの点で、受講生諸君の今後の人生のあり方、設計に関する重要な意味を内包している。受け身で授業に出るのではなく、積極的に問題を発見する意欲を持って出席してほしい。				

年 間 授 業 計 画	<p>前期・後期（講義の進行は受講者の理解度を見て調整する）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会政策とはいかなる学問か 社会政策学の歴史、産業の発展と社会政策の対象とする内容の変遷を取り上げる。 2. 第二次大戦前の社会政策（2回） 戦前日本の工業化と社会政策の課題について説明する。あわせて、戦後の一時期、学会の中心的テーマであった社会政策論争といわれる論争の評価を行う。 3. 現代社会政策の展望 高度な段階にまで到達した工業化社会における労働の特徴、ポスト工業化時代の到来と社会政策が対象とする課題の変容について検討する。 4. 国家の盛衰と労使関係（2回） 第二次大戦後の極貧から「世界の先端モデル」とまで言われ、いまや頂点へ立つことになった日本経済の発展過程における労使関係の役割について評価を行う。 5. 日本労使関係：歴史の変遷（2回） 労働問題の中心的課題のひとつである労使の関係は、戦後の「労使対決」の時代から「労使協調」の時代へと変容した。この変化の過程を新たな視点から解剖してみたい。 6. 変化する雇用・労働の世界（展望） 現代日本の労働市場では、サービス化・情報化、高齢化、女性化など、雇用の仕組みの再編が進行している。これらの構造的変化と労働市場への影響を展望する。 7. 雇用機会としての企業（2回） 企業は労働者がそこに雇用され、賃金・俸給を得る場所以上の意味を持っている。生き甲斐発見の場、スキル蓄積の場としての企業の意味、日本人が企業に期待するものはなにかを考察する。 8. 現代日本の経営構造と労使（2回） 働く場としての日本の企業は、経営の構造・編成という点でいかなる特徴を持っているのか。日本的雇用慣行といわれる大企業に特有な制度、慣行の実態を新しい角度から分析する。 9. 中小企業の労使関係 日本の雇用機会の大部分を構成するのは、中小企業である。この領域における雇用についての通念と現実の差異、雇用労働の特徴を分析する。 10. 採用と配置・昇進 企業における採用、配置、昇進のあり方は、労働者の勤労意欲、報酬、効率などに重要な意味を持つ。今日求められている公正な採用、配置、昇進とはいかなる内容のものか。 11. 変わり行く労働組合：新しい労使関係の枠組み 伝統的労使関係は、労働組合と使用者（団体）の関係を意味してきた。しかし、今日では組織率の低下など、労使の関係は実態および概念の双方において再編を迫られている。 12. 景気循環と賃金・雇用調整 資本主義経済においては景気循環は避けがたい現象である。企業が実施する賃金・雇用調整の仕組みを分析し、日本の特徴を明らかにする。 13. 秘術革新と変貌する職場 1970年代以降、マイクロエレクトロニクスなどの技術革新の展開で、日本の職場は大きく変貌した。これらの技術変化が雇用や仕事の内容に与える影響を考える。 14. サービス化・情報化と労働のあり方 サービス化の進展はホワイトカラーの増加、労働の質的・量的変化、労働時間の弾力化など、多くの変化を雇用の場にもたらした。今日の国民的課題ともいえる時間短縮についても考察する。 15. 高齢化時代の経営と労働 21世紀初頭には世界有数の高齢国となる日本では、従来の雇用慣行にも様々な修正が迫られている。高齢者に適した職場の再編・処遇、生き甲斐などについて考える。 16. 国際化と労使関係 日本企業の海外直接投資の拡大にともない、日系企業に働く現地従業員の数も増加した。この新しい環境における日本的経営・労使関係を検討する。 17. 外国人労働者と日本（2回） 1980年代から急速に増加した外国人労働者は日本社会に大きな衝撃をもたらした。その実態と政策のあり方について考察する。 18. 新しい働き方を求めて 21世紀に向けて、真に人間らしい仕事と生活の両立を求めて、「新しい働き方」の模索が始まっている。その現状と方向性について展望を試みたい。
----------------------------	--

科 目 名	労働経済学	担当者名	桑 原 靖 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>労働経済学 (Labour Economics, The Economics of Labour) は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事 (労働) に従事する時間・空間的次元、いいかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようにしたい。</p> <p>詳細な学習案内とシラバスが大学ホームページの桑原ゼミのページに掲載されているので受講者は必ず参照のこと。</p>				
講 義 概 要	<p>労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新たな問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。いわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには 1 年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。受講者が終了段階で今まで見えなかった世界への分析武器を身につけることが出来たと実感できるように、インテンシブな講義を目指している。講義では現代労働経済学の主要領域をカバーし、さらに上級段階へ登頂するための手がかりを準備したい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td> <p>本講義の全体をカバーするテキストは使用しないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成 11 年版労働白書』日本労働研究機構、1999 年。例年 6 月末に刊行。桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995 年）も労働経済の基礎知識のない人には役に立つだろう。</p> </td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭『労働経済学』（東洋経済新報社、1994 年）</p> <p>樋口美雄・中馬宏之『労働経済学』（岩波書店、1997 年）</p> </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	<p>本講義の全体をカバーするテキストは使用しないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成 11 年版労働白書』日本労働研究機構、1999 年。例年 6 月末に刊行。桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995 年）も労働経済の基礎知識のない人には役に立つだろう。</p>	参 考 文 献	<p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭『労働経済学』（東洋経済新報社、1994 年）</p> <p>樋口美雄・中馬宏之『労働経済学』（岩波書店、1997 年）</p>
テ キ ス ト	<p>本講義の全体をカバーするテキストは使用しないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成 11 年版労働白書』日本労働研究機構、1999 年。例年 6 月末に刊行。桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995 年）も労働経済の基礎知識のない人には役に立つだろう。</p>				
参 考 文 献	<p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭『労働経済学』（東洋経済新報社、1994 年）</p> <p>樋口美雄・中馬宏之『労働経済学』（岩波書店、1997 年）</p>				
評 価 方 法	<p>原則として年 1 回ないし 2 回のテストによる。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義ではできうるかぎり、グラフィックな提示などを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<p>講義予定（講義の進行は受講生の理解度を見て調整）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 労働経済学とはいかなる学問か 臨床医学・基礎医学との対比 制度学派、社会政策学との関連 応用経済学としての特徴 2. 労働経済学の進展 イギリス、アメリカなどにおける学問的發展 マクロ・ミクロ経済理論との関係 労働統計の見方、使い方 3. 労働市場の理論（学説史的考察） 学問的系譜 制度学派、新古典派、組織の経済学 4. 労働市場理論の展望（1） 制度学派の貢献、分析のための道具箱の充実 5. 労働市場理論の展望（2） 新古典派の労働市場についての見方 6. 労働市場理論の展望（3） 組織の経済理論、組織論 理論の統合は可能か 7. 労働供給の理論（1） 家計の経済学的意味、所得・余暇選好の理論、労働供給の理論 供給曲線の導出、供給曲線の形状と意味、所得効果と代替効果 8. 労働供給の理論（2） 日本の経済学者の貢献、新しい発展 新家庭経済学（New Home Economics） 家計内生産(home production)の意味 9. 労働力と労働時間・余暇 労働力をめぐる諸概念（労働力、労働力率、失業率など）、労働力の調査について、労働時間と余暇の概念 10. 労働需要の理論（1） 派生需要としての労働需要、企業の行動様式の理論化、企業の労働需要曲線の導出産業・社会全体の労働需要 11. 不完全競争下の労働需要、投資と雇用 12. 労働市場の構造と機能（連続2回） 労働市場における需要調整、調整の速度、制度的要因 分断的労働市場（Segmented Labour Markets）の理論 13. 労働移動（連続2回） 労働移動の理論、地域・産業間移動、国際労働力移動の理論と実証 無制限的労働供給の理論（ジョブシサーチの理論） 14. 賃金決定・賃金構造（連続2回） 賃金決定の思惑、賃金構造（賃金格差）、賃金プロフィール 最低賃金制度、労働組合と賃金決定 15. 雇用と賃金の理論（1） 古典派理論、ケインズ理論、新古典派理論の展開 失業の概念 自発的失業、非自発的失業、摩擦的失業 16. 雇用と賃金の理論（2） 失業とインフレーション、フィリップス曲線、自然失業率の概念、所得政策、効率賃金仮説、暗黙の契約理論 17. 雇用調整のメカニズム 雇用調整の速度と範囲、雇用保険制度の機能 18. 人的資本の理論 理論の基本的骨組み、熟練と訓練、一般的熟練と企業特殊の熟練 教育の経済学 教育投資と生涯賃金、応用問題：差別の経済分析 高齢化と定年制 19. 労使関係の理論（連続2回） 労働組合の構造と機能、団体交渉、労使協議、苦情処理 対立と協調、シェア・エコノミーの概念、産業民主主義の展開
----------------------------	---

科 目 名	経営学原理	担当者名	河 野 重 榮
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営学の各専門科目を研究してゆくための基礎づくりが、この科目の狙いである。経営学の研究対象である「経営とは何か」を理解し、経営学の考え方 原理の実際への適用について学ぶ。現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境.....などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、問題解決に達しない。経営学の最近の研究成果を熟知することによって、「経営とは何か」が、一層明らかになるであろう。</p>		
講 義 概 要	<p>はじめに、経営の研究対象である「経営」の把握の仕方、経営学の方法について、また、経営の所有形態（企業形態、企業グループ、非営利事業体など）と制度的環境（支配集団、利害関係集団など）について述べる。 ついで、トップ・マネジメントのあり方について論じ、 それとの関連で日本的経営の特質と経営の国際化に言及する。</p> <p>管理問題に関しては マネジメントの生成と発展を、人・組織・システムにおいて考え、マネジメント・プロセスをめぐって、環境適応、組織の活性化、人材の育成に閑説し、最後に、経営戦略と経営問題の今日的課題を取り上げる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版	
	参 考 文 献	河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館	
評 価 方 法	成績評価は前期後期 2 回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義に出席しキチンと講義ノートをとること。		

年
間
授
業
計
画

1. 経営学を学ぶ姿勢・方法について
2. 組織・制度・職能
3. ドイツ経営学とアメリカ経営学
4. 企業形態と株式会社
5. 企業グループと非営利事業体
6. 経営者支配、利害者集団、コーポレート・ガバナンス
7. トップ・マネジメント論
8. 企業家精神、社会的責任、経営理念
9. 最高経営責任者の役割
10. 日本の経営へのマネジメントの導入
11. 日本的意思決定システム
12. 国際化と経営文化
13. マネジメントの生成と発展
14. マニュアルと流れ作業
15. マネジメント・サイクルと人間問題
16. 管理原則論と組織の編成原理
17. 人間関係論と戦場士気
18. マネジメント・プロセス
19. 管理過程論への挑戦
20. 管理システムと環境適応
21. 組織の活性化と動機づけ
22. 人材の育成と活用（人間資源管理）
23. 経営戦略と競争優位
24. 経営問題の今日的課題

科 目 名	企 業 論	担当者名	西 川 純 子
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	企業とは何かを問いながら、企業が人間社会において果たしてきた役割とその問題点を検討してみたい。		
講 義 概 要	講義は歴史的な考察と理論的な検討を2本の軸としてすすめていく予定である。		
使 用 教 材	テキスト	特に定めない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Th.ヴェブレン 『営利企業の理論』(1904)、『職人技本能と産業技術の発展』(1914) ・ J.シュンペーター 『経済発展の理論』(1908)、『経済分析の歴史』(1954) ・ A.チャンドラー 『経営者の時代』(1977)、『スケールとスコープ』(1990) ・ J.M.ケインズ 『自由放任主義の終焉』(1926) ・ M.ロー 『アメリカの企業統治』(1994) 	
評 価 方 法	筆記試験		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	質問歓迎、私語はつつしんで下さい。		

年 間 授 業 計 画	1. 「見えざる手」と「見える手」	その1
	2. 「見えざる手」と「見える手」	その2
	3. 営利主義と職人的本能	その1
	4. 営利主義と職人的本能	その2
	5. 所有と支配	その1
	6. 所有と支配	その2
	7. 不在所有の制度	その1
	8. 不在所有の制度	その2
	9. 競争と独占	その1
	10. 競争と独占	その2
	11. 技術革新	その1
	12. 技術革新	その2
	13. 企業と国家	その1
	14. 企業と国家	その2
	15. 多国籍企業	その1
	16. 多国籍企業	その2
	17. グローバリゼーション	その1
	18. グローバリゼーション	その2
	19. 企業統治	その1
	20. 企業統治	その2
	21. 非営利企業	その1
	22. 非営利企業	その2
	23. 企業と環境問題	その1
	24. 企業と環境問題	その2

科目名	会計学	担当者名	内倉 滋
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>本講義は、“制度としての会計”の解明を目的とする。その目的のため、我が国における慣習的なルールたる「企業会計原則」(「連結財務諸表原則」等の関連する諸原則を含む。)を直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。なお本講義では、その“理論的な背景”として、主として今世紀初頭のドイツの理論、とりわけシュマーレンバッハ(ドイツの会計学者)の議論を取り上げることとした。</p>		
講義概要	<p>年間授業計画は次ページに掲げるとおりであるが、おおむね前期は、企業会計や会計学の誕生からその後の発展といった歴史的流れを紹介することから議論を出発させ、各種資産の種類別評価ルールの紹介を中心に、講義を進めていきたい。他方後期は、負債・資本の計上ルールおよび収益・費用の認識ルールを中心に、財務諸表の様式や連結財務諸表といった問題までをも講義の対象としたい。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また(受講生の理解度を知る目的からも)何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>本年度に関しては、講義内容の多少の重複という点から、内倉担当の「会計学原理」修得者の本講義の履修を認めないことにさせていただきます。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（本講義の目的等） 2. 企業会計および会計学の歴史（複式簿記の起源、会計学の成立、ドイツの動態論、アメリカ会計学、我が国における歴史的流れ） 3. 企業会計とは何か、報告対象による種別（財務会計・管理会計）「期間損益計算」の基本原則（「財産法」・「損益法」）企業会計の“公準”（＝「基礎的条件」） 4. 財務諸表の意味・種類、動態論と静態論 5. 会計諸則（「企業会計原則」・「商法（会社の計算）」・「財務諸表等規則」）「一般原則」 6. 資産の意義と分類、資産評価の重要性、資産評価の基準 7. 現金預金、受取手形・売掛金、有価証券 8. 棚卸資産とは、消費数量の計算（棚卸計算法・継続記録法）消費単価の計算（棚卸計算法の場合、継続記録法の場合） 9. 棚卸資産の期末評価（「取得原価基準」・「低価基準」）「期末評価」に係る処理（品質低下や陳腐化等による評価損・棚卸減耗・良品への強制的な評価損・低価基準適用による評価損）売価還元原価法について 10. 有形固定資産（その種類と評価）無形固定資産（法律上認められた権利・「営業権」の本質と「企業買収」の例の場合の計算法）投資その他の資産（その典型たる「投資有価証券」の評価について・投資社債の評価の特別規定） 11. 減価償却の意義、減価の原因（「物質的減価」・「機能的減価」・偶発的減価〔簿価の切下げ〕）減価償却の方法（定率法の定率 r の算出法を中心に）取替法〔減価償却〕（その方法・対象）減価償却累計額の B/S 表示（原則・例外）研究：総合償却法（「平均耐用年数」の求め方と個別償却に比しての有利性） 12. 「将来の期間に影響する特定の費用」、商法上の「繰延資産」と上記「特定の費用」との異同、商法上の「繰延資産」の各論（創立費〔286条〕・開業費〔286条ノ2〕・新株発行費・社債発行費〔286条ノ4・5〕・社債発行差金〔287条〕・開発費と試験研究費〔286条ノ3〕・建設利息〔291条〕） 13. 負債の意義と分類、流動負債、固定負債（特に「社債」の償還の計算について）引当金（定義〔【注18】〕・その典型例） 14. 株式制度（授權資本〔授權株式〕制度・株式の種類）株式会社の資本勘定（「企業会計原則」の場合・商法との相違点）資本準備金（株式払込剰余金・減資差益・合併差益） 15. 利益準備金（その積立て・取崩しの制限）その他の剰余金（任意積立金・未処分利益） 16. 損益計算の基準〔＝認識のルール〕（収益＝実現主義の原則・費用＝発生主義の原則・費用収益対応の原則）段階的な損益の計算、実現主義の原則について 17. 委託販売の場合の「売上収益の実現の日」〔【注6】〕（原則・例外としての仕切精算書到着日基準） 18. 予約販売の場合の「売上収益の実現の基準」〔【注6】〕 19. 割賦販売の「実現の日」をどう見るか〔3基準〕（原則＝販売基準・例外＝回収基準〔入金日基準〕および回収期限到来〔日〕基準）、回収期限到来〔日〕基準についての各論（考え方の基本・実践上の計算方法） 20. 長期請負工事の収益の認識（「実現主義」によるもの〔「工事完成基準」〕・「発生主義」によるもの〔「工事進行基準」〕）工事進行基準の計算方法と仕訳 21. 小テスト：範囲…損益計算の原則その1～実現主義の例外 22. 報告式の貸借対照表 23. 報告式の損益計算書 24. 連結財務諸表
----------------------------	--

科 目 名	応用統計学	担当者名	本 田 勝
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	この講義では「統計学」で学んだ 1 変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。		
講 義 概 要	多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でも Excel や SAS などのプログラムパッケージを使用する。		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献	田中 豊、脇本和昌著「多変量統計解析法」(現代数学社) そのほか講義時にそのつど指示する。	
評 価 方 法	各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査による総合評価を行う。 定期試験は行なわない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	「統計学」および「情報処理概論」を既習であることが好ましい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多変量解析とは何かについての概観を行う。 2. 統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図) 3. 統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化) 4. 行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法) 5. 行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル) 6. 単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小2乗法) 7. 単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数) 8. 実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行う。 (分散分析表の見方、決定係数) 9. 重回帰分析への拡張を行う。(係数の推定と検定) 10. 実例データを用いて重回帰分析の演習をおこなう。(データの収集) 11. 重回帰分析演習(結果の解釈) 12. 回帰分析における変数選択の方法について述べる。 13. 2変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。 (幾何学的解釈、係数の重み、主成分) 14. P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。 (ラグランジュ未定係数法、固有値、固有ベクトル) 15. 実例データをもちいて主成分分析にかける。主成分の解釈のし方について述べる。 (寄与率、累積寄与率) 16. 各自データを収集し、主成分分析の演習を行う。(データの収集と入力) 17. 分析結果の解釈および検討。 18. 2変量判別分析の考え方とその数式化を行う。 (線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率) 19. 実例データを用いて2変量判別分析の演習を行う。 20. P変量判別分析の数式化を行う。 21. 実例データを用いてP変量判別分析の演習を行い、分析結果の解釈をする。 22. 各自データを収集し、判別分析の演習を行う。(データの収集と入力) 23. 分析結果の解釈および検討。 24. クラスタ分析とはどのような方法かについて、分析の考え方を述べる。 (クラスタ、デンドログラム、類似度の尺度)
----------------------------	---

科 目 名	標本調査論	担当者名	松 井 敬
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>新聞、TV などのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらず - である。この点に疑問や違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。</p>
講 義 概 要	<p>本講義は目標のところ述べてきたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことかを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしたい。</p> <p>なお、模擬母集団からの手作業による抽出作業を通して、色々な抽出法の意味と違いが分かるようにしてゆきたい。数値計算の作業を厭わないことが必要である。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>松井敬 「標本調査論」 内田老鶴園</p> <p>他にプリントを適宜配布する。</p>
	<p>参 考 文 献</p> <p>抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "Sampling Techniques", Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "Elementary Survey Sampling", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては 浅井晃「調査の技術」、日科技連；林、多賀「調査とサンプリング」、同文書院；辻、有馬「アンケート調査の方法」、朝倉書店など。</p>
評 価 方 法	<p>前・後期二回のレポート、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席によって評価する。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並行履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。</p>

年 間 授 業 計 画	<p>1. 標本調査とは - 1 : (1) 標本調査とはどんなことが 幾つかの具体例を通し、調査の意味や方法、問題点などについて考えてみる。(2) 本講義をどう進めるか 方針と受講生への要請。</p> <p>2. 標本調査とは - 2 : (1) 標本調査とはどういうことか、良いサンプルとは何か、よいサンプルを得るための試み。 (2) 有意抽出法 典型法、割当法など調査法とその歴史。無作為抽出法。</p> <p>3. 標本(サンプル) 母集団 : (1) 良いサンプルの条件、それを得るための方法。母集団と標本(サンプル)。(2) 母集団特性値 平均、総計、比率。母集団の分散、標本との関係。</p> <p>4. 単純無作為抽出法 - 1 : (1) 復元抽出法、非復元抽出法 意味と方法。(2) 乱数 性質と使い方。(3) 単純無作為標本の作り方。</p> <p>5. 単純無作為抽出法 - 2、標本分布 : (1) 単純無作為抽出法の例、推定量。(2) 標本分布の概念 標本平均、標本中央値などの分布。(3) 推定量の特性。</p> <p>6. 標準誤差 - 1 : (1) 推定量の分散、標準誤差。(2) 母平均と母集団総計の推定量としての標本平均と標本総計。(3) 標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。(4) 有限母集団補正。</p> <p>7. 標準誤差 - 2 : (1) 標準誤差の意味。(2) 推定量の精度(誤差)、推定量の相互比較(効率)。(3) 母集団比率の推定。</p> <p>8. 標本の大きさ : 単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。</p> <p>9. 層化無作為抽出法 - 1 : どんな抽出法か、層化抽出法における要点(どんな点が問題となるか) 構造模型。</p> <p>10. 層化無作為抽出法 - 2 : (1) サンプルの配分、推定量とその分散。(2) 比例配分と最適配分。(3) 単純無作為抽出法との比較。</p> <p>11. 層化無作為抽出法 - 3 : 層の作り方、層の数。</p> <p>12. 層化無作為抽出法 - 4 : (1) 調査項目が複数個の場合の取り扱い。(2) サンプルの大きさの決定。</p> <p>13. 系統抽出法 - 1 : 意味と方法。推定量、その分散。</p> <p>14. 系統抽出法 - 2 : 系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。</p> <p>15. 比推定と回帰推定 - 1 : 比推定の考え方と実際。抽出法の例。</p> <p>16. 比推定と回帰推定 - 2 : 回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。</p> <p>17. 抽出確率を変えた抽出法 : 抽出単位を選出する確率が等しくない場合の考察 究極の抽出法は?</p> <p>18. 1 段集落(クラスター)抽出法 - 1 : (1) なぜ集落抽出法を考えるか その方法(2) 1 段目を等確率抽出した場合。(3) 幾つかの推定量 それぞれの特徴と比較。(4) 抽出法の例。</p> <p>19. 1 段集落(クラスター)抽出法 - 2 : (1) 例を通して問題点の整理。(2) 1 段目を確率比例抽出などで抽出した場合。(3) 比率の場合。</p> <p>20. 2 段集落(クラスター)抽出法 - 1 : (1) 2 段集落抽出法の考え方、推定量その他この抽出法にかかわる問題点の整理。(2) 構造模型。クラスターの大きさが等しい場合と異なる場合。推定量と抽出法との関係を調べる。</p> <p>21. 2 段集落(クラスター)抽出法 - 2 : 一般の場合の説明、1 段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。</p> <p>22. 2 段集落(クラスター)抽出法 - 3 : 一般の場合、第 2 段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。</p> <p>23. 抽出法再考 : (1) 講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。(2) 標本調査における問題 標本調査の実際に関わる諸問題。</p> <p>24. 標本調査 : まとめ。課題。</p>
----------------------------	---

科 目 名	データベース論	担当者名	高 柳 敏 子
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>初めに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。続いて、E.F.Codd によって提案され、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ使われている、関係データベースの基礎から構築および検索の実際までを、パソコンを使って示しつつ学習する。</p> <p>関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の関係表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等については実際にデータベースを取り扱いながら理解していく。</p>				
講 義 概 要	<p>前期は、初めにデータベースの歴史を概観する。続いて、表計算ソフト (MS - Excel) のデータベース機能を使って、最も単純な関係データベースの概要を理解する。さらにデータベースを利用するという観点から、図書館の検索等インターネット上で利用できる情報検索を紹介し、実際にそれらを利用した情報収集を試みる。</p> <p>後期は、初めに関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の関係表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等について解説する。続いて関係データベース専用ソフト (MS - Access) を使って実際にデータベースを構築し操作しながら、上記関係データベースの特徴を学習していく。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版、1998</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> C. D. Date 著、藤原譲監訳「データベースシステム概論」原書 6 版、丸善、1998 C. D. Date 著、芝野・岸本訳「標準 SQL」情報科学シリーズ - 9、アジツウ ウェルストジャパン、1995 穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著「データベース標準用語辞典」オーム社、1991 </td> </tr> </table>	テキスト	前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版、1998	参考文献	C. D. Date 著、藤原譲監訳「データベースシステム概論」原書 6 版、丸善、1998 C. D. Date 著、芝野・岸本訳「標準 SQL」情報科学シリーズ - 9、アジツウ ウェルストジャパン、1995 穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著「データベース標準用語辞典」オーム社、1991
テキスト	前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版、1998				
参考文献	C. D. Date 著、藤原譲監訳「データベースシステム概論」原書 6 版、丸善、1998 C. D. Date 著、芝野・岸本訳「標準 SQL」情報科学シリーズ - 9、アジツウ ウェルストジャパン、1995 穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著「データベース標準用語辞典」オーム社、1991				
評 価 方 法	前・後期の定期試験と、前・後期各 3 回程度のレポートを加味して評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	MS - Windows の基礎、MS - Word および、特に MS - Excel の取り扱いについて十分に理解していること。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースとは(1) ファイルシステムからデータベースへ データベースの3つの観点(内容的、技術的、理論的) 2. データベースとは(2) データベースの歴史 3. データベースとは(3) 階層データベース、ネットワークデータベースとそれらの特徴 4. データベースとは(4) 関係データベースと次世代データベース 5. データベースとは(5) データベースの三層スキーマ構造とデータベース管理システム 6. データベースの利用 インターネットと情報検索 7. MS - Excelによるデータベースの実際(1) レコード、項目、キー、フィールド 8. MS - Excelによるデータベースの実際(2) レコードの分類と集計 9. MS - Excelによるデータベースの実際(3) レコード抽出 10. MS - Excelによるデータベースの実際(4) より複雑な条件とレコード検索 11. MS - Excelによるデータベースの実際(5) データベース関数の利用 12. MS - Excelによるデータベースの実際(6) クロス集計 13. 関係データベース(1) 関係代数と演算 14. 関係データベース(2) 主キーと候補キー 15. 関係データベース(3) データベース設計と関係の正規化 16. MS - Accessによる関係データベースの実際(1) MS - Excelの表の正規化とMS - Accessへのインポート 17. MS - Accessによる関係データベースの実際(2) テーブルデザインの確認と主キーの設定 18. MS - Accessによる関係データベースの実際(3) 関係(表)間の関連と関係付け 19. MS - Accessによる関係データベースの実際(4) クエリーの表現: QBEとSQL 20. 関係データベース(4) データベース言語: 標準SQL 21. 関係データベース(5) 標準SQLのデータベース定義 22. 関係データベース(6) 標準SQLのデータベース操作 23. MS - Accessによる関係データベースの実際(5) MS - AccessのSQL 24. MS - Accessによる関係データベースの実際(6) 選択クエリー、クロス集計クエリーの応用
----------------------------	---

科 目 名	コンピュータシミュレーション論	担当者名	富 田 幸 弘
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>情報処理の応用コースとして開設されており、経営科学を学ぶための基本的な考え方と分析方法を学ぶと共に、コンピュータを利用したシミュレーションの技法についても学ぶ。また、コンピュータのより高度な利用法についても体験学習することを目標としている。</p>												
講 義 概 要	<p>出来るだけ具体的な例を示しながら進め、情報処理のためのコンピュータの利用についても講義する。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)経営科学の必要性</td> <td>(6)待ち行列</td> </tr> <tr> <td>(2)シミュレーション</td> <td>(7)コンピュータ・シミュレーション</td> </tr> <tr> <td>(3)時系列分析と需要予測</td> <td>(8)価格と生産戦略</td> </tr> <tr> <td>(4)在庫管理</td> <td>(9)マネジメント・ゲーム</td> </tr> <tr> <td>(5)日程計画</td> <td>(10)ビジネス・ゲーム</td> </tr> </table>			(1)経営科学の必要性	(6)待ち行列	(2)シミュレーション	(7)コンピュータ・シミュレーション	(3)時系列分析と需要予測	(8)価格と生産戦略	(4)在庫管理	(9)マネジメント・ゲーム	(5)日程計画	(10)ビジネス・ゲーム
(1)経営科学の必要性	(6)待ち行列												
(2)シミュレーション	(7)コンピュータ・シミュレーション												
(3)時系列分析と需要予測	(8)価格と生産戦略												
(4)在庫管理	(9)マネジメント・ゲーム												
(5)日程計画	(10)ビジネス・ゲーム												
使 用 教 材	テキスト	プリント等を配布する。											
	参 考 文 献	講義に先立って紹介する。											
評 価 方 法	前期・後期の数回のレポートおよび出席状況等により評価する。												
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>第1回講義に必ず出席すること。 プログラミング論を既修しているか、または平行履修することが望ましい。</p>												

1. 今年度の講義内容と評価について
2. 経営科学の利用例
3. コンピュータ・シミュレーションとは
4. 統計データの整理 度数分布表、平均値、標準偏差
5. 統計的推定と検定 区間推定、仮説検定
6. 乱数の発生法 合同法、最大周期
7. 乱数の検定 適合度検定、無相関検定
8. 乱数を用いたシミュレーション
9. 時系列分析と需要予測 移動平均法、回帰直線
10. 需要予測シミュレーション
11. 在庫管理 種類と費用、発注と最適在庫
12. 在庫管理シミュレーション
13. 日程計画 PERT、クリティカル・パス
14. 日程計画シミュレーション
15. 待ち行列 待ち行列の基本構造、問題分析
16. 待ち行列シミュレーション
17. 価格戦略ゲーム
18. 生産戦略ゲーム
19. 販売戦略ゲーム
20. 資金繰りゲーム
21. ビジネス・ゲーム(1) 作成手順、市場構造
22. ビジネス・ゲーム(2) モデルの作成
23. ビジネス・ゲーム(3) 競争力の決定構造
24. ビジネス・ゲーム(4) 市場調査、経営分析

科 目 名	マルチメディア論	担当者名	立 田 ル ミ
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現在どのようなマルチメディアのためのソフトウェアが利用され、マルチメディア対応のプログラムを作成するためにはどのような手順が必要かを理解することを目的とする。また、ネットワークを用いてアメリカの大学のコンピュータサイエンス学科をアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、またマルチメディアがネットワークでどのように利用されているかを調査研究する。また、コンピュータネットワークがどのように教育に利用されているかを Web のページを読むことにより、研究することを目的として講義・デモンストレーションを行う。</p>		
講 義 概 要	<p>マルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら最初に講義する。また画像作成のためのソフトウェアについていくつかを取り上げて、講義とデモンストレーションを行う。次に音声とアニメーション作成のためのソフトウェアについて講義し、それらのいくつかについてデモンストレーションを行う。また、ビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて例をとりあげながら講義し、実際に作成されたものについてデモンストレーションとビデオ提示を行う。これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮についても講義する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>前期 1 回、後期 1 回の試験を行い、それを各 50%の評価とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>プログラミング論および情報処理概論を履修したか、現在履修の学生に限る。コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎的知識のある学生を前提として講義を行う。</p>		

1. マルチメディアの基礎：マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要か
2. オペレーティングシステム環境：Windows、Macintosh、OS/2、WindowsNT、Unix
3. テキスト編集ソフトウェア：ワードプロセッサ、変換ソフト、データベース
4. テキスト編集ソフトウェアの実際：大学に導入されているコンピュータで、利用可能なテキスト編集ソフトウェアを用いて実演を行う。
5. 静止画像作成ソフト：ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト、画像作成のためのチップ
6. 静止画像作成実演：大学にあるソフトウェアを用いて、静止画像作成をデモンストレーションする。
7. ビデオとアニメーションのソフトウェア：クリップビデオ、アニメーションソフトウェア、ビデオ編集
8. プロダクション管理ツール：ストーリーボードソフトウェア、プロジェクト管理ソフトウェア
9. オーディオプロダクションソフトウェア：オーディオファイルタイプ、マルチメディアサウンド、オーディオファイル作成
10. オーサリングソフトウェア：プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラム
11. オーサリングソフトウェア実演：大学にあるオーサリングソフトウェアを使って簡単なコースを作成実演する。
12. ネットワーク：ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。マルチメディアのコースがどのように出来ているか
13. 基本的なコンピュータのプラットフォーム：コンピュータの速度、コンピュータの記憶容量、ビデオ利用の問題点
14. 機種によるプラットフォーム：Macintosh、Windows、Unix
15. モニターについて：品質、マルチスキャン、コントロール、ビデオカード
16. キーボードとポインター：キーボード ポインター
17. ビデオ入力と操作：ビデオ標準、ビデオボード、デジタルカメラ
18. オーディオハードウェア：オーディオ入力ボード、MIDIハードウェア
19. スキャナー：スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケール
20. メインストレージ：グラフィックス、ビデオ、オーディオ、ハードディスクの特徴
21. 2次記憶装置：磁気、光学、記憶装置の比較
22. システム統合：マルチメディアワークエリア、ソフトウェア導入、システムテスト
23. 電子出版：ディスケット、MO、CD-ROM、DVD
24. マルチメディアシステム：今後の課題と展望

科 目 名	プログラミング論	担当者名	高 柳 敏 子
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL のより応用的なところをみたところで、現実の一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++ を取り上げ、CASL プログラムと対応させながら C++ によるプログラミングを学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p>	
	参 考 文 献	<p>田中武二著「コンピュータと社会」サイエンス社、1993 「CASL Programming」ITEC（情報処理技術者教育センター）、1994 Jamsa 著、春木・佐藤共訳「C++ 超入門」アスキー出版局、1994 ストラウストラップ著、斉藤・三次・追川・宇佐美共訳「プログラミング言語 C++」第 2 版、アジソンスウエイ・トッパン、情報科学シリーズ - 40、1993 「岩波 情報科学辞典」岩波書店、1990</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期の定期試験と、前・後期各 3 回程度のレポートを加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの歴史 (1): ハードウェア ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。 2. コンピュータの歴史 (2): ソフトウェア プログラミング言語、オペレーティングシステム 3. ノイマン型コンピュータの構成 中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置 4. COMET の処理装置 (1) 語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ (PC) 5. COMET の処理装置 (2): レジスタ 汎用レジスタ (GR) 指標レジスタ (XR)、フラグレジスタ (FR) 6. 情報の表現 (1): 数値の内部表現 整数と2の補数表記、16進表現 7. CASL プログラミング (1) CASL の命令 : 疑似命令、マクロ命令、機械語命令 プログラムの形式 : ラベル、命令コード、オペランド、注釈 8. CASL プログラミング (2) CASL プログラム : ロード命令とストア命令 加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保 9. CASL シミュレータとその実行 プログラムの入力、編集、アセンブル、1 命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼び出し 10. CASL プログラミング (3): 乗除算処理 (1) シフト演算命令 11. CASL プログラミング (4): 乗除算処理 (2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ 12. CASL プログラミング (5): 繰り返し処理 指標レジスタの使用 13. CASL プログラミング (6): 情報の表現 (2) 文字の内部表現、ASCII コード、JIS コード 14. CASL プログラミング (7): 入出力命令 コード変換と論理演算 15. CASL プログラミング (8): サブプログラム (1) 汎用レジスタによるデータの受け渡し 16. CASL プログラミング (9): サブプログラム (2) スタックを利用したデータの受け渡し 17. C++ プログラミング (1): C++ 言語とは C++ 言語の基本事項 : 文、ブロック、コメント 18. アセンブラとコンパイラ : プログラムの翻訳と実行 例題と C++ コンパイラの操作 19. C++ プログラミング (2): 演算と出力 算術式、四則演算と演算子、シフト演算 20. C++ プログラミング (3): 判断・分岐 関係式、関係演算子、論理演算子 21. C++ プログラミング (4): 繰り返し 繰り返しと配列の扱い 22. C++ プログラミング (5): データの入力 入力および文字と文字列の扱い 23. C++ プログラミング (6): 関数 (1) メインプログラムとサブプログラム サブプログラムにデータの値を渡す (call by value) 24. C++ プログラミング (7): 関数 (2) サブプログラムにデータの番地を渡す (call by reference)
----------------------------	---

科 目 名	プログラミング論	担当者名	立 田 ル ミ
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、現在どのようなプログラミング言語があり、どのような言語で現在のソフトウェアが開発されているかを知る事も目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、それらの1つ1つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	立田ルミ “教育システム情報と Visual Basic ” 朝倉書店	
	参考文献	天笠美知雄編 “情報処理の基礎” 朝倉書店	
評 価 方 法	レポート	:	80%
	ネットワーク上に提出		
	出席	:	20%
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。人数が多い場合は、講義の第1日目に抽選を行う。情報処理概論を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成 2. ソフトウェアの歴史と概略：ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows95の概略 3. 教育におけるコンピュータの役割、プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェアシステム開発の手順と機械化、情報処理技術者の職種、情報処理技術者試験、プログラム開発の手順と期間 4. Visual Basic の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド 5. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成（1）：If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 繰り返しのあるプログラム作成（2）：ラストデータの処理、条件を満たすまで繰り返し、ネスティング 13. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 14. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 15. 図形の処理（3）：Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす 16. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップを使う 17. 音声の処理：音声を録音する、音声を再生する 18. 配列とコントロール配列：一次元配列、コントロール配列、二次元配列 19. プルダウンメニュー：コンボボックスを使う、プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用 20. ファイルの利用（1）：コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み 21. ファイルの利用（2）：ランダムファイルの利用：ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み 22. 教育用ソフトの制作（1）：システム設計、詳細設計 23. 教育用ソフトの制作（2）：プログラム作成とデバッグ、デバックツールの利用法 24. 教育用ソフトの制作（3）：プログラム作成とデバッグ
----------------------------	--

科 目 名	政治学総論	担当者名	杉 田 孝 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	現代社会の政治構造を理解するうえで必要な諸観点と諸概念を学び、政治的なるものに関する教養を身につけ、「批判」の眼を養う。		
講 義 概 要	第 1 回から第 18 回までは、テキストの構成に従って解説していく。第 19 回以降は提示してある題目について、テキストに代わるプリントを配布して、講述する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	佐々木毅 『政治学講義』 東京大学出版会	
	参 考 文 献	高島通敏 『生活者の政治学』(三一新書) 三一書房	
評 価 方 法	出席率 70%以上を評価の対象とする。 毎回授業開始時に前回の授業内容についての確認テスト(15 分)を行う。 確認テスト及び前期・後期それぞれの学期末試験の結果を基に評価を行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義予定となっている項目について、テキストの該当箇所をあらかじめ予習し、問題意識をもって受講してほしい。		

年 間 授 業 計 画	1. はじめに 政治と政治学
	2. 人間の条件 相互的存在性
	3. 政治の条件 支配と服従あるいは同意の調達 秩序形成と秩序維持
	4. 政治のミステリイ 権力と政治権力
	5. 政治システムと主権 政治と国家
	6. 正統性
	7. リーダーとリーダーシップ
	8. 公共の利益と公民の徳
	9. デモクラシー デモクラシーとラディカルデモクラシー
	10. デモクラシーの諸条件
	11. デモクラシーの制度
	12. 投票行動と政治意識
	13. 政党
	14. 官僚制
	15. 利益集団
	16. 政治経済体制とデモクラシー
	17. エスノポリティクス 国民国家とナショナリズム
	18. 政治思潮とイデオロギー 「イデオロギーの終焉」というイデオロギー
	19. マス・メディアと政治(1) マス・メディアの政治的機能
	20. マス・メディアと政治(2) 権力としてのマス・メディア
	21. 「公」と「私」(1) 日本と中国と西洋 近代的二分法としての「公」と「私」
	22. 「公」と「私」(2) 相互浸透する「公」と「私」 「公」と「私」の再検討
	23. 女性と政治(1) 女性議員が少ないワケ 政治意識の男女差の問題
	24. 女性と政治(2) 「男の政治」からの解放 「女性の立場」を超えて

科目名	民法	担当者名	滝沢昌彦
-----	----	------	------

講義の目標	民法とは市民相互の関係を規律する法律であり、主に財産取引と家族関係について定める。本講義では法学部以外の学生を対象に、一般教養としての民法を講義する。		
講義概要	民法上の主要な制度を解説し、その運用上の問題点に関する判例や学説を紹介・検討する。上述のように民法は財産取引と家族関係について定める法律であるが、担当者の専門である財産法を中心に講義する。また、受講者が法律を専門としない学生であることをも考慮して民法以外の法律にも適宜言及し、広く一般的な法律の素養を身につけられるようにしたい。		
使用教材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	最近のものとして野村豊弘『民事法入門』（有斐閣）	
評価方法	定期試験による。		
受講者に対する要望など	六法（どの出版社のものでもよい）を持参すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序 [民法の歴史] 2. 序 [民法の構成]: 物権と債権 3. 人 [能力者制度]: 未成年、禁治産、成年後見制度（法改正の動き） 4. 同 [代理制度]: 代理、表見代理 5. 人 [法人制度]: 公益法人、（設立手続、機関） 6. 同: 会社制度（有限責任、株式会社） 7. 物 [物権総論]: 物権的請求権 8. 同: 物権変動、不動産登記、善意取得制度 9. 物 [物権各論]: 占有権、用益物権 10. 同: 担保物権、執行手続概説 11. 同: その他の債権担保（相殺、保証） 12. 契約 [契約総論]: 契約の成立、契約の効力（公序良俗） 13. 同: 契約の効力（意思表示論） 14. 同: 契約違反（同時履行、解除・危険負担、損害賠償） 15. 契約 [契約各論]: 売買（瑕疵担保責任） 16. 同: 賃貸借（対抗力、無断譲渡・転貸、契約の終了） 17. 同: その他の契約（請負・委任等、無名契約） 18. 契約以外による責任 [事務管理・不当利益] 19. 契約以外による責任 [不法行為] 20. 補遺 [時効制度]: 取得時効、消滅時効、時効の中断・停止 21. 補遺 [債権譲渡]: 債権譲渡、手形・小切手 22. 家族法概説 [親族]: 婚姻、親子 23. 家族法概説 [相続]: 相続、遺言 24. まとめ 		

科 目 名	商 法	担当者名	明田川 昌 幸
-------	-----	------	---------

講 義 の 目 標	会社、特に株式会社に対する法規制および裁判例の理解。		
講 義 概 要	<p>株式会社の設立、株式、株主総会、取締役会、代表取締役、監査役等、株式会社を中心に、会社に対する商法の法規制と裁判例の説明を行う。</p> <p>商法のうち特に会社法を講義内容として選んだのは、法学部以外の学生さんが将来、会社企業に就職した場合、そこで生じる可能性の高い法律問題の解決について、目安となるような知識を習得してもらいたいからである。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に指定しない。下記の参考文献等から各自に合うものを用意されたい。	
	参考文献	<p>落合誠一・近藤光男・神田秀樹「商法 - 会社（第3版）」有斐閣Sシリーズ</p> <p>青木英夫「会社法（新訂版）」税務経理協会</p> <p>山村忠平・坂本延夫・中村建編著「要説会社法（三訂新版）」嵯峨野書院</p> <p>別冊ジュリスト No.149「会社判例百選（第6版）」有斐閣</p> <p>倉沢康一郎・奥島孝康編「判例ハンドブック〔商法総則・会社法〕」日本評論社</p>	
評 価 方 法	筆記試験を中心に評価を行なう。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	六法を持参し、適宜関連条文を参照すること。		

1. 会社の概念
2. 株式会社総説
3. 株式会社の設立 1 発起人
4. 株式会社の設立 2 定款、出資、設立無効
5. 株式 1 意義、株主の権利義務
6. 株式 2 出資単位規制、株式の種類
7. 株式 3 株式の譲渡、株主名簿、株式の評価
8. 株式会社の機関
9. 株主総会
10. 取締役・取締役会
11. 取締役と会社間の利害関係の調整
12. まとめ
13. 取締役の責任
14. 代表取締役
15. 監査役・会計監査人
16. 株主代表訴訟・違法行為差止権
17. 企業会計 1 決算手続
18. 企業会計 2 経理内容の開示・利益配当
19. 資金調達 1 株式発行による資金調達
20. 資金調達 2 社債発行による資金調達
21. 財務構造の変更 資本減少、株式分割、株式併合
22. 合併・分割
23. 会社整理・更正、解散・清算
24. まとめ

科 目 名	総合講座(1)	担当者名	経 済 学 部
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、主に学外からのさまざまな分野の研究者、専門家、実務家等を招いて、それぞれの分野の最新の知識と情報にもとづく講義をしてもらう。学生は学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、日頃あまり詳しく知られていない研究分野の概観、あるいは学際的な先端の動向などをかなり詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも会得させてくれるであろう。</p>		
講 義 概 要	<p>毎週、講義内容が異なるため概要を詳しく述べることはできない。ただ、上記総合タイトルの性質上、従来より経済のみならず社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられてきた。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	特になし。	
	参 考 文 献	それぞれの講師が講義内容のレジユメを準備して配付したり、参考文献を指示することがある。	
評 価 方 法	<p>前・後期にそれぞれ筆記試験を行う。なお、講義の性質上、<u>追試験・卒業再試験は行わないので注意すること。</u></p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。</p>		

科 目 名	特殊講義 A	担当者名	仙 田 幸 子
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代日本においては、ライフコースの中でどのように仕事と家庭のバランスをとるのかは、主に女性に課せられた問題である状況が続いている。この問題を考えるための情報は必ずしも十分に提供されているとはいえず、不本意な選択を迫られる場合も多い。この講義では、企業における女性従業員活用、共働き家庭における精神的な緊張などの実態を示すことで、受講者が自らのライフコースを選択する際の手がかりを提供することを目的としている。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は日本企業における女性従業員活用の実態を検討する。総合職にしても、一般職にしても、企業の中で女性が働き続ける上では様々な障害があるのが現状である。「性別職務分離」という言葉がキーワードになる。</p> <p>後期は仕事と家庭のバランスについて、主に共働きを選択した場合に、家族内の感情生活にどのような緊張があるのか、どうすれば緊張をほぐし、よりよい関係を持つことができるのかを検討する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>前期 プリント配布（資料の配布は原則として1度。欠席者は他の受講者から入手する。） 後期 ホックシールド著、田中和子訳「セカンド・シフト」朝日新聞社、1990 ISBN4-02-256182-3</p>	
	参 考 文 献	<p>テキストは変更する場合がある。</p>	
評 価 方 法	<p>平素の授業への貢献の度合いとレポートで評価する。レポートはトピックごとの小レポート、前期、後期ごとにまとめたレポートが課せられる。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>受講者が自分に引きつけて考えることを目的としているので、授業への積極的な参加を希望する。男子学生の受講も希望する。</p>		

1. 前期ガイダンス
2. 統計資料から見る女性のライフコース
3. 産業別の女性従業員活用状況
4. 女性労働の歴史
5. 女性事務職の歴史
6. 異質な労働力としての女性
7. 小括
8. 総合職としての働き方
9. 一般職としての働き方
10. 派遣・パートとしての働き方
11. 「性別職務分離」を考える
12. 前期のまとめ
13. 後期ガイダンス
14. 統計資料から見る現代日本の家族
15. 女性のライフコースの不確実性
16. 小括
17. 共働き家族を考える・文化的な隠蔽
18. 共働き家族を考える・ジェンダー・ストラテジーのパターン
19. 共働き家族を考える・ケース1~2
20. 共働き家族を考える・ケース3~4
21. 共働き家族を考える・ケース5~6
22. 共働き家族を考える・ケース7~8
23. 日本における共働き家族
24. 後期のまとめ

科 目 名	特殊講義 B	担当者名	W . B . ロビ-
-------	--------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>This course will introduce students to English language business correspondence -- letters, memos, faxes, and e-mail. Much attention will be given to cultural factors impinging upon business writing. World English is the standard for written work. There will be an explanation of the TOEIC exam.</p> <p>Note: a description of this course as taught during the second term of 1998 is available on the WWW at http://www2.dokkyo.ac.jp/~clec0002/</p>		
講 義 概 要	<p>Students will be taught to read and write business correspondence in English. Short documents will be produced. Each work group will produce a portfolio of exemplars based on models provided by the instructor. Written work will be corrected by the instructor and then revised by the students for inclusion in the portfolio. The students will write their resume in English.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	An Introduction to Business English (IBE) Seibido Publishing, 1993	
	参 考 文 献	The instructor will provide a file of English business writings. These will supplement the models contained in the textbook.	
評 価 方 法	<p>Vocabulary quizzes count for 20% of the grade. 40% comes from written homework. 40% comes from the portfolio.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Students must attend regularly and participate actively in their work group. Students should own an English learners' dictionary (the instructor will make suggestions on good ones).</p>		

Note: The schedule set out here is approximate.

- 1 . Introduction to the course. Get acquainted. Discussion of syllabus. Brief English proficiency examination.
- 2 . IBE 1- 6 Explanation of World English
- 3 . IBE 7-15 Explanation of communication theory. Definition of boilerplate
- 4 . IBE 16-26 Demonstration on the use of reference materials. First vocabulary quiz
- 5 . IBE 27-39 Explanation of the role of culture in communications
- 6 . IBE 40-51 Discussion of fluency models
- 7 . IBE 52-65 Discussion of the differences between faxes and standard letters
- 8 . IBE 66-73 Second vocabulary quiz. Discussion of e-mail
- 9 . IBE 74-80 Discussion of the Internet's impact on English usage
- 10 . IBE 81-96 Discussion of the Internet's impact on business communications
- 11 . IBE 97-110 Portfolio due
- 12 . IBE 111-123 Final vocabulary quiz

年
間
授
業
計
画

科 目 名	経営学原理（営）	担当者名	富 田 忠 義
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしている ので、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはいつ たい何か。その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。 経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。 本講義は、この種の疑問に現代経営学の最新の研究成果を平易に概説することによって、正 面から答えようとするものである。</p>				
講 義 概 要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。 まず経営学がいかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対象と研究方 法について考察する。次に、今世紀のはじめに欧米で生まれたとされる現代経営学の生成と 発展を、主要学説の紹介を通して概観する。以下、個別のテーマに入る。</p> <p>個別のテーマとしては、経営者・管理者の機能と役割、経営管理の技法、組織の目的と理 念、経営文化と日本的経営などについて順次考察する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td> <p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p> </td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典（第3版）』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門（増補版）』同文館</p> </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	<p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p>	参 考 文 献	<p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典（第3版）』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門（増補版）』同文館</p>
テ キ ス ト	<p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p>				
参 考 文 献	<p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典（第3版）』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門（増補版）』同文館</p>				
評 価 方 法	<p>期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。 定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというではないの で、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 年間講義計画の概要 2. (経営学方法論) 経営学の対象と方法 3. 同上 4. (経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 5. 同上 6. 同上 7. (マネジメント技法論) マネジメント・プロセス 8. 同上 9. 同上 10. (経営組織論) 経営組織の設計と活性化 11. 同上 12. 前期講義のまとめ 13. (現代経営者論) 現代的経営体と経営者 14. 同上 15. 同上 16. (経営理念論) 現代企業の目的と理念 17. 同上 18. 同上 19. (経営文化論) 経営文化、企業文化 20. 同上 21. (日本的経営論) 経営の国際比較と日本的経営 22. 同上 23. (人間資源管理論) 人材の育成と活用 24. 年間講義のまとめ
----------------------------	---

科 目 名	経営戦略論	担当者名	富 田 忠 義
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p>		
講 義 概 要	<p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察する。次に、多様な経営戦略を類型化して全体を把握する。個別の戦略の策定について検討する前に、経営戦略の一般的な策定法について理解する。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略、ポートフォリオ戦略、リストラ戦略、競争力強化戦略、マーケティング戦略等について個々に考察する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。 定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間講義計画の概要 2. (経営戦略の基礎) 激動する経営環境と経営戦略の重要性の増大化、環境の定義、環境に含まれる機会と脅威の発見 3. 同上 4. (経営戦略の構造) 経営戦略策定上の関連変数、経営目標、経営環境、経営資源、効果的な経営戦略の要件 5. 同上 6. (経営戦略の種類) 全社戦略、競争戦略、機能戦略 7. (経営戦略の策定過程) 戦略的思考、業界分析、市場細分化、自社競合分析、戦略代替案の評価、アクションプラン 8. 同上 9. (成長戦略の策定 拡大化か多角化か) 事業拡大化戦略 10. 事業多角化戦略 11. (製品ライフサイクル戦略) 製品ライフサイクル、成熟期に移行する業界の経営戦略 12. 前期講義のまとめ 13. (リストラ戦略) 事業構造の再構築の必要性、リストラ戦略の策定、攻めのリストラ、守りのリストラ 14. (事業ポートフォリオ・マネジメント) 多産業型企業の戦略策定、事業選択戦略、戦略事業単位の識別、エクスペリアンス・カーブ効果 15. 同上 16. (ポーターの競争戦略の基本型) 競争戦略の策定、業界構造と5つの競争要因、競争優位の構築、価値連鎖 17. 同上 18. (コア・コンピタンスと競争優位の構築) 19. (コトラーの競争戦略の種類) コトラーの4つの競争地位 20. 同上 21. (マーケティング戦略) マーケティングの定義、マーケティングの4P、プロダクト、プライス、プレイス、プロモーション、プル型とプッシュ型 22. (経営戦略から戦略経営への展開) 23. (機能別戦略) 生産戦略、技術戦略、営業戦略、物流戦略、戦略的情報システム 24. 年間講義のまとめ
----------------------------	---

科 目 名	経営管理論	担当者名	河 野 重 榮
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営学のうち、経営管理論は機能別管理（人間資源管理、財務管理、資材管理、製造工程管理、販売管理、事務管理、情報管理……）を通じての管理の一般的特質を論じるものである。それは実践的な性質の強い経営学の中核で、取り分け経営実践に密着した分野である。したがって、そこでは、原理のみならず、いやむしろ原理の実践への活用が重視される。こうした理解を深めるのが本講義の目的である。</p>		
講 義 概 要	<p>経営管理論の出発点は経営的生産の合理化が要素的合理化（物的合理化・人的合理化）に止まらず、進んで経営全体の合理化が志向されるに及んだときに求められる。この講義では、まず、経営管理論の生成の経緯から、今日までの展開を跡づけ、経営学における経営管理論の位置付けを明確にする。ついで、経営管理の要素機能、すなわち、意思決定、計画、組織、動機づけ、コントロールなどを個別に取り上げて、各要素機能の課題と実践（技能）について講義する。最後に経営管理論の今日的課題に言及する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館	
	参考文献	河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版	
評 価 方 法	<p>成績評価は前期後期 2 回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義に出席しキチンと講義ノートをとること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営管理思想史研究 2. 経営管理論の生成 3. テーラー・システムとその問題点 4. フォレットの機能的統一論 5. メイヨールの協働の科学 6. バーナードとサイモン 7. ファヨールの再発見と管理過程論 8. 経営管理論の多様化と統合 9. 環境適応と一般システム論 10. 経営管理の課題・責任・実践 ドラッカー 11. 戦略的管理論 アンゾフ、ポーター、コトラー 12. 環境対応マネジメント 13. 問題解決と意思決定 14. 経営計画の策定過程 15. 目標管理と自己管理 16. コミュニケーション 17. コントロール 18. 管理組織の基本単位 19. 職能別組織と連邦分権制 20. チーム型組織とシステム型組織 21. 動機づけの原理 22. リーダーシップ 23. モティベーション 24. 経営管理論の今日的課題
----------------------------	--

科 目 名	経営組織論	担当者名	高 松 和 幸
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題をとりあげて論述する。		
講 義 概 要	講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンテンツエンジェンシー理論をとりあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題をとりあげて講義する。		
使 用 教 材	テキスト	開講時に指示する。	
	参 考 文 献	開講時に指示する。	
評 価 方 法	期末定期試験・平常授業の課題など		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. 伝統的組織論 ...伝統的組織論は、古典的組織論ともいわれ、アメリカのテーラーや、フランスのファヨールを始祖とする。さらに、より近代化された形で経営過程学派とよばれるクーンツなどにより継承されている。こうした伝統的組織論の特徴を明らかにし、近代組織論への発展の基礎を解明する。
2. 伝統的組織論 ...フランスのファヨールやクーンツの理論をとりあげる。
3. 近代組織論 ...バーナードは近代組織論の創始者であり、その後、多くの研究者によって発展され、組織論を一新している。こうした近代組織論は、現代ではバーナード=サイモンと、その流れをくむマーチ=サイモンなどによって展開されている。ここでは近代組織論の内容を検討し、もって現代における組織論の特徴を明らかにする。
4. 近代組織論 ...マーチ=サイモン理論をとりあげる。
5. 経営組織モデルの発展段階...経営組織モデルの形態的発展は、ファンクショナル組織を基本とすることで、ライン・スタッフ組織や職能部門制組織があり、また事業部制組織やマトリックス組織がある。こうした経営組織モデルの形態について検討する。
6. 組織とモチベーション理論 ...モチベーション理論は、「人間関係論」から始まる。また組織的意思決定論と並んでモチベーション理論が取り上げられることもある。しかし両者の過去の研究成果や、その分析方法と概念体系は、かなり相互に異質のものである。こうしたモチベーション理論を取り上げて検討する。
7. 組織とモチベーション理論 ...モチベーション理論の問題をとりあげる。
8. 組織とコンティンジェンシー理論 ...コンティンジェンシー理論は、また条件理論、条件適合理論、構造条件適合理論などともいわれ、組織と環境との関係に目を向け、組織の環境が異なれば有効な組織は異なる、という命題の上に立っている。こうしたコンティンジェンシー理論を取り上げて検討する。
9. 協働システムとしての組織 ...組織は「意識的に調整された2人以上しそれ以上の人々の活動および勢力のシステム」として定義できる。この前提には、個人能力の限界のために生じる「協働システム」がある。つまり他人との協同によって自己の動機や目的を達成しようとする。こうした組織について検討する。
10. 協働システムとしての組織 ...協働システムの問題をとりあげる。
11. 意思決定システムとしての組織 ...組織の理解に関して、サイモンは各人が組織において活動する場合の前提となる意思決定 選択問題に注目し、さらにその意思決定の前提を問題としている。サイモンの組織観は、多様な意思決定のネットワークとして形成される。こうした意思決定のシステムとしての組織について検討する。
12. 意思決定システムとして組織 ...意思決定の問題をとりあげる。
13. 組織均衡の理論 ...組織均衡の理論は、近代組織論に共通した一つの中核的な理論である。組織に参加する人々に、誘因と貢献のバランスによって満足を提供する能力をもたなければ、組織は存続できないことが明らかにされている。こうした組織の均衡問題について検討し、もって組織の存続と成長の理論を明らかにする。
14. 組織均衡の理論 ...組織均衡問題を取りあげる。
15. ゴーイング・コンサーンとしての組織 ...バーナードの組織論と重要な関係をもっているコモンスのゴーイング・コンサーンの概念は、継続的企業体を意味しており、それはバーナードにおける協働システムの概念に相当する。この概念によって表される多様性の広がりをもつ組織について検討する。
16. ゴーイング・コンサーンとしての組織 ...ゴーイング・コンサーンの問題をとりあげる。
17. 組織とコンフリクト...組織行動や人間行動が正常に機能しているとき、組織では様々な代替案を提供できる。ところがこの意思決定のメカニズムが停止するとどうなるか。このような状態がコンフリクトである。ここではコンフリクトの発生メカニズムから分類・解消まで取り上げる。
18. 組織とサイバネティクス ...サイバネティクスは、ウィナーによって創始されたもので、すべてのシステムには、制御過程を支配する一般的法則が存在することを明らかにし、その法則は究めて複雑な、いわゆる有機的機能をもつシステムに適用されることを主張している。こうしたサイバネティクスと組織との関係について検討する。
19. 組織とサイバネティクス ...組織とサイバネティクスの問題をとりあげる。
20. 生存可能システムとしての組織 ...企業組織についてピアによれば、それは平板で静的な実体ではなく、「動的で生存し続けるシステム」であるとしている。すなわち、企業の究極の目的を生存におき、生存可能な組織構造を、生存可能システムとして展開している。こうした組織に関する諸問題を取り扱う。
21. 生存可能システムとしての組織 ...生存可能システムをとりあげる。
22. 組織のカスタロフイー・モデル...カスタロフイー理論は、ルネ・トムが創始した理論で、自然界を含めて各種過程のモデルの一般論を、カスタロフイー理論として展開し、新しい世界像、自然観の建設を目指している。具体的には図形を用いて、組織サイバネティクスの立場から生存システムとの関連において取り上げる。
23. 組織と必要多様性の法則...経営組織には、多くの「多様性」が存在する。内部組織の経済学においては、不確実な要素を含むさまざまな多様性が存在することが明らかにされている。したがって経営管理は「多様性」の管理であるといわれる。こうした「多様性」の概念を出発点として、「必要多様性」の原理と法則を解明する。
24. 組織における自律性の概念...経営組織の「自律性」の概念については、その起源をメーヨーに求めることができる。こうした「自律性」の概念をとりあげて検討する。自律性の問題は、さらに今日的な課題として、非営利集団からなる自律性の問題として展開されている。

科 目 名	経営財務論	担当者名	細 田 哲
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。		
講 義 概 要	各週別の講義予定を見られたい。		
使 用 教 材	テキスト	・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 企業財務入門」日本経済新聞社	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡部政昭著「企業財務論」新世社 ・岩村 充著「入門 企業金融論」日本経済新聞社 ・高橋 誠、新井富雄「ビジネス・ゼミナール ディリバティブ入門」日本経済新聞社 ・J．A．トレシー「MBA の財務」日本経済新聞社 	
評 価 方 法	第2回の試験の結果による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	1. 1	企業の目的と財務政策	a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定	b) 企業による市場を通じる価値創造
	2.	"	c) 資本市場の役割	d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク
	3. 2	資産の価値をどう評価するか	a) 現在価値の評価	
	4.	"	b) 債権の評価	
	5. 3	株式の価値はどう決まる	a) 配当割引モデルの考え方	b) 一定成長配当割引モデルと株価収益率
	6.	"	c) 配当割引モデルの応用	d) 日本の株価水準と期待収益率
	7. 4	リスクをどう測るか	a) 投資リスクの尺度	
	8.	"	b) ポートフォリオのリスク	
	9.	"	c) ベータ値と資本資産評価モデル	
	10. 5	資本コストとは何か	a) 資本コストとは	b) 投資のキャッシュ・フロー
	11.	"	c) 資本コストの推計方法	
	12.	"	d) 日本企業の資本コストの計算例	e) 資本コストと資金コスト
	13. 6	望ましい資本構成とは	a) 完全資本市場における資本構成と企業価値	
	14.	"	b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響	
	15.	"	c) 企業価値の最大化と株価の最大化	d) 資本構成決定の現実的な考慮点
			e) 日本企業の資本構成の動向	
	16. 7	配当政策の考え方	a) 配当政策の理論	
			b) 配当政策をめぐる問題点	
	17.	"	c) 株式配当と株式分割	
			d) 日米企業の配当政策	
	18. 8	自社株取得	a) 自社株取得の本質	
			b) 自社株取得の利用動機	
	19.	"	c) 自社株取得と株価評価	
			d) 自社株取得をめぐるわが国の現状	
20. 9	リスク管理とデリバティブの利用	a) デリバティブとは何か		
21.	"	b) デリバティブを利用した金利リスク管理		
		c) 企業財務とリスク管理		
22. 10	企業の合併・買収			
23. 11	日本の伝統的な金融システムの特徴と問題点			
24. 12	日本企業の財務政策の課題			

科 目 名	経営労務論	担当者名	宮 城 浩 祐
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営労務論は、人的資源の管理の諸問題を取り扱う領域である。その目的は、企業には効率、従業員には満足をもたらすものであるということはいうまでもない。労務政策には普遍的妥当性を持った政策はない。種々の環境要因に規制されて、固有の政策がうまれるのであるが、ここでは環境要因のうち、文化に着目して、文化と労務政策との関係を考察する。そして、むしろ文化にフィットした労務政策こそすぐれた政策であることを明らかにする。そこで当然のことながら、比較経営的な観点から、各国との比較において、日本の企業の労務政策を明らかにすることになる。</p>		
講 義 概 要	<p>各週別に明らかにする（次頁の各週別の講義概要を見られたい。）</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>その都度、10枚程度の教材を配布する。期末にはかなりの枚数になるので、適宜整理しておかないと、どれが何回目の資料であるか、わからなくなってしまうことがあるので注意して下さい。また、英文資料を配布することもあります。</p>	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済企画庁編 『経済白書』（平成4年版） ・ 同庁編 『経済白書』（平成6年版） ・ R. Dore 著 『日本型資本主義なくしてなんの日本か』 光文社 1993年 ・ G. Hofstede 著 『経営文化の国際比較』 産能大出版部 1988年 	
評 価 方 法	<p>総合評価による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義順位・内容等に若干の変更もあるかも知れませんが御了承下さい。</p>		

1. “your company”と“our company”「会社は誰のものか」と問われた場合、日本人は「株主のもの」と答えず、「従業員のもの」と答えることが多く、ここに日本人の企業観が示される。ここで stakeholder について考える。
2. 配当政策の国際比較 日米の配当政策のちがいを明らかにする。これは直接的には企業と株主との関係の日米のちがいを考察するものであるが、この考察によって株主主権型企業と従業員主権型企業の差異を示す。
3. 企業の政治的側面 企業は stakeholder の連合体である。これらの構成員は、意思決定への影響力、情報の共有度において同一ではなく、階層関係にある。中核集団と衛星集団に二分して、これらを考察する。
4. 生産性と成果配分 「生産性」の概念を明らかにするとともに、生産性の向上の成果が stakeholder にどのように配分されるかを考察する。どのように配分されるかは、市場要因、stakeholder の影響、文化で決まる。
5. 労働時間の短縮と弾力性 時短のメカニズムを明らかにするとともに、もう一つの潮流である労働時間の弾力化について考える。後者は、自己決定化の世界的潮流を反映する。
6. 雇用調整の国際比較 雇用調整政策は、文化によって差異がある。ここでは雇用関係を primary model と relational perspective にわけて考察する。日本企業は後者、米国企業は前者に属する。
7. 労働市場の内部化と従業員の志向 労働市場の流動化がつねに叫ばれながら、日本企業は労働市場の内部化を人事・労務の基本戦略としてきた。従業員の志向も上昇志向である。この政策の merit/demerit を考察する。
8. 賃金政策と交換理論 文化人類学や社会学の諸領域で開発された交換理論を使って賃金政策を分析する。
9. 賃金政策と分配公正理論 分配公正理論では、どのような資源配分が公正と構成員のあいだで認識されるかは、文化によって決まることがわかっている。ここでは、この観点から賃金政策を分析する。
10. 付加給付政策とpaternalism 付加給付政策は、その企業のおかれた経済的、社会的、文化的要因によって決まる。ここではパターンリズムとの関係も考察の対象としたい。
11. 定年制の諸問題 定年制の機能、定年延長の阻害要因を検討するとともに、定年制運用は今後一層フレキシブルにならざるを得ないだろうということを示す。これには、労働時間の弾力化と共通の論理がはたらく。
12. 盛田論文をどう読むか ソニー会長盛田昭夫「日本型経営が危ない」(文芸春秋、1992年2月号)は、労務政策に影響を及ぼす重要な提案を起している。これをどう読むべきかを検討する。
13. 職務概念と組織設計 A. Brown の組織論は、組織設計において、個人の責任の明確化を貫徹すべきであることを強調する点で、アングロサクソン系組織論の典型である。これに対して日本企業のそれは弾力的である。
14. equifinality について 「講義の目標」を参照のこと。equifinality とは、同一の目標を達成するには、種々の手段があることを示す英語。
15. 計算的関与と道徳的関与 A. Etzioni の示した組織への関与の型。この二分法と個人主義/集団主義との関係を考える。
16. 合理的経済人と科学的管理法 A. Smith はいうに及ばず、伝統的な経済経営理論は、この人間モデルを前提にしている。労務政策でも同じである。この人間観の上に、管理戦略がたてられた。両者の関係を明らかにする。
17. 社会人モデルとHawthorne 実験の意味 ホーソン実験の成果が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。と同時に、そこで生まれた人事・労務政策をみる。
18. 自己実現人モデルとMaslow の欲求階層理論 彼の仮説が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。また彼の仮説は、米国以外の国で、つぎつぎと検証されたが、それらの結果を紹介する。
19. McClelland の達成動機論と経済成長 M. Weber は、宗教と経済成長の関連を考察したことでよく知られる。McClelland の理論は、この系譜に属し、経済成長には達成動機が寄与していることを証明しようとした。
20. 「Made-in-America」の動機づけ理論は普遍的妥当性をもつか Maslow の理論といい、McClelland の理論といい、それらはみんな「米国製」の理論である。はたして、それらは他の文化に移転できるか。
21. Herzberg の二要因理論と職務充実 職務設計の人間工学的技術において、職務充実が有名である。Herzberg の理論は、この技術の構築にどのように寄与したかを考える。
22. 「仕事の人間化」 もう一つの道 ボルボのカルマール工場では、仕事の人間化のために、ベルトコンベアを廃止して「半自律的作業集団」を導入した。これは職務充実とは別の道である。その文化的背景をさぐる。
23. 海外要員政策の諸問題 R. Tung による日米欧の多国籍企業の海外派遣要員政策の比較結果を紹介し、これを文化の観点から考察する。
24. 比較経営論と労務政策 G. Hofstede の比較経営論の観点から労務政策を総括的に考察し、終講とする。

科 目 名	国際経営論	担当者名	小 林 哲 也
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、国境を越える資本の活動を、歴史的かつグローバルな視点から捉えることを主テーマとする。現代の世界経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。多国籍企業による生産・販売活動は、第三世界をも含めた各国経済に、大きな構造変化をもたらしつつある。講義では、そうした多国籍企業の活動・世界経済の構造変化を捉えるための、理論的枠組みを議論する。</p>		
講 義 概 要	<p>資本主義世界経済の歴史、多国籍企業の形成史、現代資本主義の構造変化といった歴史的概観のあと、多国籍企業に関する諸問題を分析する。 後半では、日本企業の海外進出（と撤退）をとりあげ、主として対アジアおよび対北米の企業進出の事例分析や現地企業との比較分析などを行なう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特になし。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ J.H.DUNNING, THE GLOBALIZATION OF BUSINESS, ROUTLEDGE ・ ILO, INDUSTRY ON THE MOVE, ILO ・ M.CASSON, MULTINATIONALS AND WORLD TRADE, ALLEN & UNWIN ・ 『海外進出企業総覧』各年版、東洋経済 ・ 宮崎義一 『現代企業論入門』有斐閣 ・ 森田桐郎編 『世界経済論』ミネルヴァ書房 ・ 青木昌彦編 『システムとしての日本企業』NTT 出版 	
評 価 方 法	定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>関連科目：経済原論、経営学総論、企業論、国際経済論、貿易論、国際金融論、地域経済各論などを受講していることが望ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>序：国境を越える資本 世界経済の構造</p> <p>国民経済 世界経済 分析単位としての「世界経済」 世界経済の複合的構造</p> <p>歴史的形成 植民地体制の崩壊 世界経済の現段階 新国際分業 巨大企業の登場と多国籍企業の時代</p> <p>多国籍企業とは何か 多数のビジョン・定義・アプローチ</p> <p>・現代企業の理論 企業の発展段階 株式会社の発展 経営者支配論の再検討 現代資本主義における所有と決定 バーリー＝ミーンズの議論 新しい経営者支配論</p> <p>・多国籍企業の理論 輸出から直接投資へ 国内企業から世界企業へ 産業組織論的アプローチ 経営資源と優位性 ハイマー理論をめぐる諸論争 内部化「理論」 直接投資の裁定条件 多国籍企業の政治経済学 多国籍企業体制としての現代 多国籍企業と不均等発展 多国籍企業と国際分業の再編</p> <p>・日本企業の海外進出 日本企業の経営環境 法人資本主義論、日本的経営論、日本企業の経済学 対外直接投資の動向 ポストバブル期のジャパン・マネー 日本 70年代 / 80年代 / 90年代 アジアへの進出と撤退 NIES, ASEAN, 中国 アメリカの日系企業 経済摩擦と直接投資 日本企業国際化の影響 輸出 技術移転、生産移転、経営移転 国際寡占競争の構造 プロダクト・サイクルと雁行形態 ハイテク産業における競争</p> <p>・ケース・スタディ</p>
----------------------------	---

科目名	経営史	担当者名	柳 敦
-----	-----	------	-----

講義の目標	近代工業化以降の欧米における企業経営行動の変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約・文化的側面をも含めて考えてみたい。		
講義概要	近代工業化以前の企業活動を概観し、英国産業革命による企業経営行動の変革を考察する。次いで後発工業国であるフランス、ドイツ、アメリカの事例を検討し、19世紀における企業経営を明らかにする。授業計画の18あたりから、米国を中心としつつ20世紀型企業経営の問題を考える。		
使用教材	テキスト	とくに定めない。	
	参考文献	鈴木・安倍・米倉『経営史』有斐閣 1987 チャンドラー著『スケール アンド スコープ』有斐閣 1993 その他、必要に応じて紹介する。	
評価方法	前後期の試験によって判定する。		
受講者に対する要望など	とくにない		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営史の課題と視点 2. ヨーロッパ前近代における企業と経営(1) 3. ヨーロッパ前近代における企業と経営(2) 4. 重商主義とアダム・スミス 5. 資本主義とその精神 6. 英国産業革命とその特徴(1) 7. 英国産業革命とその特徴(2) 8. 綿工業での企業経営 9. 製鉄業での企業経営 10. 英国産業衰退の問題 11. フランスにおける工業化とその特徴 12. フランス企業経営の特徴 13. ドイツにおける工業化とその特徴 14. ドイツ企業経営の特徴 15. 19世紀からの小売業界における革新 16. 米国における工業化とその特徴 17. 米国企業経営の特徴 18. ピックビジネスの展開と独占禁止法 19. 科学的管理法の展開 20. 企業組織のあり方 21. フォードとGM(自動車業界でのスケールとスコープ) 22. 産業エリートと教育 23. 企業経営のもつ文化的要因に関する小括 24. 多国籍企業の発展 		

科 目 名	日本経営史	担当者名	齊 藤 博
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>「日本および日本人」のあり方を探究する大きな筋道の一つとして、「日本的経営理念」の歴史的な形成と展開をあとづけ、現代経済の態様に対する反省の材料とし、かつは21世紀に向う日本および日本人の生き方の参考としたい。したがって国民精神史、民衆的マインド、経済思想、文学作品に現われた経済精神、社会倫理と個人道徳などが研究対象となってくる。経済と道徳合一の東洋的精神世界の中へ入っていききたい。現代日本におけるエリート経営者、高級官僚、超一流企業の退廃と犯罪が群生して、日本産業、金融、財政の正義、誠実、公明な経営理念が崩壊している時代状況にあって、日本と日本人のトータルな自己点検を試みたい。</p>		
講 義 概 要	<p>講義のキーワードは以下の通りである。 1. 企業家精神 2. 近代化の背景（政治的安定、中産階級の広範な存在、国民の高度な教育水準、宗教・信仰の近代化） 3. 近代化の環境（大量・大衆市場、経済活動の自由、利潤追求の自由、近代的な経済金融財政政策） 4. 「人」「個人」の問題 5. 土屋喬雄 6. 日本的経営理念 7. 通俗道徳 8. 日本精神 9. 農本主義</p> <p>西鶴文学に現われた近代商人の商業道徳や経営理念を探究するなど、具体的な日本人のマインドの原点から出発しつつ、近世封建時代の経済思想専門家（いわゆる経世家）や近代日本の農本主義者（山崎延吉、宮沢賢治、松田甚次郎、加藤完治）や日本的経営理念家（二宮尊徳、渋沢栄一、金原明善、寛勝彦、藤原銀次郎など）の言動を通じて、日本的経営の特徴とスタイルを歴史描写していききたい。軍人勅諭や教育勅語の内在的研究を展開しながら、日本人の原点に迫りたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『民衆史の構造』新評論 ・ 齊藤 博 『民衆精神の原像』新評論 	
	参 考 文 献	<p>経営理念史あるいは経済精神史の学風の濃厚な講義であるから、とにかく講義ノートを作り、テキストの当該指定箇所をよく読んでもらいたい。</p>	
評 価 方 法	<p>前期および後期に、それぞれ筆記試験を行なう。 講義ノートを正確かつ丁寧にとってもらえば、講義の全体像が細部とともに理解できる。その点を評価の基準にしている。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必ず直接手にして熟読することを要請する。とにかく、できる限り出席をすること。</p>		

年 間 授 業 計 画	1.	経営史学とはなにか	…現代日本における経営理念の退廃と崩壊現象	
	2.	経営史学とはなにか	…現代日本における経営理念の退廃と崩壊現象	
	3.	経営史学とはなにか	…20世紀国際情況と指導者像（リーダーシップ論）	
	4.	経営史学とはなにか	…経済史学と経営史学の連関性と分離展開	
	5.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄	
	6.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄	
	7.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄	
	8.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄	
	9.	日本的経営理念の形成と確立	…封建経済の展開と「民富」の形成・確立	
	10.	日本的経営理念の形成と確立	…封建経済の展開と「民富」の形成・確立	
	11.	日本的経営理念の形成と確立	…武陽隠士『世事見聞録』を読む	
	12.	日本的経営理念の形成と確立	…「家訓」の世界	
	13.	日本的経営理念の形成と確立	…「家訓」の世界	
	14.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義	山崎延吉の世界）
	15.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義	宮沢賢治の世界）
	16.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義	増田甚次郎の世界）
	17.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義	加藤完治の世界）
	18.	いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として	
	19.	いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として	
	20.	いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として	
	21.	いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として	
	22.	いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として	
	23.	いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として	
	24.	日本精神と日本的経営理念、日本人のたましいを探る		

科 目 名	マーケティング論	担当者名	大久保 貞 義
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は“人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動”である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学(インターディスプリナー・サイエンス Interdisciplinary Science) 的な分析の理解が必要になる。</p> <p>マーケティングは極めて現実的・実地的な学問である。</p>				
講 義 概 要	<p>社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。</p> <p>これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。</p> <p>またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。</p> <p>1940年以降は社会科学との関連性が重視され、1960年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた。1970年代以降は“社会変化のためのきわめて効果的管理方法”としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。</p> <p>こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政権への分野にも取り入れられ始めた。</p> <p>マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で極めて現実的な科学として実際社会で使われ、応用されている。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>授業で指示します</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	授業で指示します	参考文献	
テキスト	授業で指示します				
参考文献					
評 価 方 法	<p>レポートと定期試験で評価します。</p> <p><u>再試験は行わないので、注意して下さい。</u></p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎日、必ず新聞の経済面を読み、経済動向を追う事を特に希望したい。一つの経済問題を追うと面白味は倍になります。</p>				

年 間 授 業 計 画	1	1.....マーケティングとは何か（第1週） 人間のニーズとは。 欲求充足の市場の形成と交換の機能 人間は何故買うか（欲求=充足=お金） 市場の形成過程
	2 3	2.....マーケティング管理の変遷（第2・3週） 企業は生産中心主義からマーケティング志向へ 企業の利益中心から消費者の満足へ 利益中心主義から社会貢献主義へ マーケティングの活用分野の拡大（ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ） 非営利組織（大学病院・軍隊・警察・政府の各部門）も大きな関心を持ち始めた。
	4 5	3.....社会の発展と人間欲求の変化（第4・5週） 農業社会・工業社会・脱工業化社会 人間欲求の変化と価値観の変動 過去 現在 未来（未来予測の方法論） 消費者動向の変化と企業の戦略形式
	6 7	4.....消費者ニーズの調査法（第6・7週） 消費者の欲求をさぐりあてる デモグラフィック・アプローチ ライフスタイル・アプローチ
	8 9	5.....市場調査の技法（第9週） データの収集法 サンプルングとその実際的方法 グループインタビュー法と潜在意識調査 質問紙の作成法と技法 市場調査の分析と企業戦略
	10	6.....消費者行動の分析（第10週） 文化的・社会的・及心理的な特性 社会階層と消費者行動 欲求の階層化と心理的ヒエラルキー 新製品の採用プロセス（認知から採用までの五段階）
	11	7.....マーケティング・セグメント（第11週） デモグラフィック要因とジオグラフィック要因 人口動態の変化 有望市場の発展とニューマーケット（シルバーマーケット、働く主婦層）
	12	8.....製品企画とライフサイクル（第12週） アイディアとコンセプト開発 開発から衰退までのライフサイクル
	13	9.....マーケティングコミュニケーション（第13週） 企業の広告戦略 広告の技術と戦略 広告とセールスプロモーション
	14 15	10.....マーケティング戦略と計画の作成（第14・15週） セールス・フォース セールス・プロモーション セールスマンの訓練と育成 製品の販売管理
	16	11.....サービス・マーケティング（第16週） 組織のマーケティング 人材のマーケティング 計画作成=組織=コントロール機能
	17 18	12.....非営利企業のマーケティング（第17・18週） 大学のマーケティング 軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング ハブリシティの役割
	19 20	13.....マーケティングと企業家（第19・20週） 企業のリーダーシップとマーケティング リーダーのタイプと時代の変化 企業のマネジメントとマーケティングの応用
	21 22	14.....マーケティングと国家体制（第21・22週） 資本主義社会と人間の欲望 社会構造と国家政策 人間の欲求と国家の政策
	23 24	15.....マーケティングの新しい応用（第23・24週） 人を動かすマーケティング 民主主義の理念とマーケティング 人間とは何か（マーケティングの視点から） 人生の将来展望（あなたの幸福とは何か？） まとめ

科 目 名	広告論	担当者名	梶 山 皓
-------	-----	------	-------

講 義 の 目 標	現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。教室の関係でクラスが月曜日と金曜日に分かれています、内容は基本的に同じですので、どちらを選択されても結構です。		
講 義 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。 2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。 3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。 5. 広告を通して、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 		
使 用 教 材	テキスト	梶山皓著『広告入門』日経文庫。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> * 八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。 * 『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。 * W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1997 * S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994. 	
評 価 方 法	試験は通常前・後期に行いますが、後期だけの年もあります。問題は5題で、講義内容と教科書から出題します。随時出席をとって評価の参考にします。なお試験時の「教科書持ち込み」はありません。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	できるだけ2年生か3年生で履修して下さい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction) 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事のポジティブな面を的確にとらえる習慣が身に付く。 2. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かせる」「注意を引く」という意味である。 3. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉は、しばしば PR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。 4. 広告の機能 (Role of Ad.) 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。 5. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。 6. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。 7. 広告主 (Advertisers) アメリカの広告費は邦貨で年間約 20 兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界 2 位で約 6 兆円である。 8. 広告主 (Advertisers) 広告主は、広告活動を効果的に行うために広告活動を策定する。また企業内に広告組織を編成して実施に当たる。 9. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。 10. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源の多くは、媒体手数料という古い習慣に基づいている。 11. 広告メディア (Ad. Media) 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。 12. 広告メディア (Ad. Media) マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向 CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。 13. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles) マーケティングは消費者志向の概念である。最近は環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。 14. 戦略企業計画 (Strategic Planning) 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。 15. マーケティング・ミクス (Marketing Mix) 企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。 16. プロモーション・ミクス (Promotion Mix) 製品の販売は、広告、セールスマン、SP (セールスプロモーション) PR などの力を合体化させて行う。 17. コミュニケーションの原理 (Communication) 広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。 18. コミュニケーションの原理 (Communication) 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。 19. DAGMAR の理論 (DAGMAR) 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。 20. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) 人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。 21. 広告計画 (Ad. Planning) 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。 22. 広告計画 (Ad. Planning) 広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。 23. 広告規制 (Ad. Regulation) 広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。 24. 広告の将来 (Ad. Future) 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
----------------------------	---

科 目 名	行動科学論	担当者名	大久保 貞 義
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会額、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。</p> <p>一般には、既成の科学（Established Science）である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部時代に学ぶのも意義があるかもしれない。</p>		
講 義 概 要	<p>まず始めに、心理学、社会額、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのではなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性（C-reativity）をいかに発揮するかという事が重要になる。</p> <p>従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式の問題を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	授業の時に指示する	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>レポートと定期試験の成績で評価します。 <u>再試験は行わないので、注意して下さい。</u></p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>従来の惰性的思考様式からいかにぬけだすか、頭のトレーニングを積む事を要望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学問の発展段階 = 先頭を切る数学の重要性。発展の順序はどうなっているか 2. 学問の法則性とは何か = 理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される 3. ニュートンの力学のポイント = 見方を変えれば.....何を表現しようとしているのか 4. = 科学の目標は何か = すべての物質の素粒子から生きている人間まで　そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。 5. 社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語 6. 集団規範の実験 = 実験可能な法則と不可能な法則 7. 人間 = この不思議なもの 8. 人間社会の発展 = 農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは.....神さま？仏さま？ 9. 伝統的社会と近代的社会の対比 10. それぞれの社会の時間の概念 = 人間と時間の関係の仕方　時間の価値は、社会によって相違して来る。 11. 社会の変化に伴う価値観の変動　人間行動の規則性 12. 経済の発展と人間行動のパターン分析　経済中心の産業主義： 13. 巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー 14. 脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。 15. コミュニケーションの理論　マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性 16. コミュニケーションの二段の流れ　その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度 17. オピニオンリーダーの役割とその特性 18. 創造性とは何か = 二つの既知の要素の組み合わせ。その本質は“反送”である 19. 創造性開発の技法 = ブレーンストーミングのやり方とチェックポイント　その他の開発法 20. 思考とパーソナリティ = 創造的人間と非創造的人間 21. 時間と人間行動、生産性・効率・労働システムと人間の時間 22. 未来予測の技術　物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違 23. 予測の面白さは、未確定要素にあり。　高齢化社会、脱工業化社会、情報化社会におきる現象分析 24. 予測の正確さは、未来を形成する力にあり。　予測したら、その方向に人間の意志の力で状況を変化させる。行動科学は、戦略の学問でもある。
----------------------------	---

科目名	保険論	担当者名	岡村 国和
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>本講義の目的は保険原理の理解と現実の保険現象を分析する能力を取得することにある。さしあたり前期は保険原論の理解を中心とし、後期には、前期に理解した保険原論に基づいて、保険市場及び保険企業の行動原理の分析への応用を試みる。したがってまず応用経済学の一分野としての観点から保険経済論を学習し、さらに現実の保険現象に照らして保険企業の行動原理を解明するために、ミクロ経済学に基づく保険市場分析および保険業の経営戦略を講義する。さらに昨今の事情を鑑み、金融ビッグバン及び保険規制の理解も深める。</p>		
講義概要	<p>前期は保険原論の学習を中心とする。純化された保険の公式は、$P = Z$ で表されるが、現実の保険現象は団体の運営費・社費などの個別企業の生産費が必要となるので、この公式の他に各種の原則や補助公式が必要となる。保険原論では経済学、とくにミクロ経済学の素養が要請され、また危険論では統計学の知識が若干必要となる。後期は、複雑多様な保険現象や保険企業の行動原理、保険市場の特殊性などの理解が中心となる。また、金融規制緩和の現状に鑑み、保険業に対する規制の特殊性および将来の変化を理解した上で、保険会社の倒産と消費者保護について講義する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	庭田範秋編『保険学』成文堂、1989年。	
	参考文献	講義中にその都度指示・紹介する。その他、補足資料などを配布する。	
評価方法	<p>学年末試験を主とし、必要に応じレポートなどを加えて評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>特段用意する必要はないが、経済学・経営学・統計学・マーケティング・法学などの基礎的な科目を既修または平行履修するのが好ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて」。 2. 「保険現象の分析方法について」。 3. 「昨今の保険現象のトピックについての概観」 4. 「リスクの基礎理論」および「リスクの認知、分類、定量化、測定、および処理について」 5. 「リスクと保険：保険可能リスクとダウンサイド・リスク、付保決定基準について」。 6. 「保険の構造（１）：保険成立の諸要件についての検討および保険の諸原理・原則の検討について」 7. 「保険の構造（２）：応用経済学による保険現象のモデル化について」。 8. 「保険の構造（３）：『被保険利益』、『保険価額』、『保険金額』、『全部保険』、『一部保険』、『超過保険』、『共同保険』について」。 9. 「保険の構造（４）：『危険負担の一般原則』及び『損害填補の一般原則』について」。 10. 「保険各論（１）：保険の分類（事故の対象、事故発生の場所、保険経営の主体、経営動機、加入者の性格、加入動機、保険料の性格、給付基準、給付手段、被保険者の選択、引き受け内容、危険分担の種類、責任の所在、政策的の有無、法制上の基準、保険期間、危険種類など）」について」。 11. 「保険各種（２）：『生命保険』の仕組みや機能、経済効果およびその構造、生命保険価格決定理論について」。 12. 「保険各論（３）：『社会保険・社会保障を中心として『高齢化社会』における諸問題、特に年金と医療に関して講義する』。 13. 「保険各論（４）：『損害保険』の仕組みや経済機能、損害保険企業の行動原理に多大な影響を及ぼしかつ伝統的な損害保険の本質論の変容をもたらしたと考えられる「積立型保険」の特徴及び問題点について」。 14. 「保険経営（１）：保険経営の特殊性、価値循環の転倒性、保険商品の特殊性、保険業の収益構造、保険経営の３利源（危険差益・利差・費差）などについて」。 15. 「保険経営（２）：保険マーケティング、保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングについて」。 16. 「保険経営（３）：金融ビックバンと保険業について」。 17. 「保険市場論（１）：『産業組織論』の枠組みによる保険市場の分析」。 18. 「保険市場論（２）：『コンテスビリティ理論』及び『競争戦略論』、保険市場における市場集中度、商品の差別化、商品に対する情報の問題、規模の経済性、範囲の経済性について」。 19. 「保険企業の行動理論：保険業における価格競争及び非価格競争について（『屈折需要曲線』、『自律的料率政策領域』および『料率の事後補正としての契約者配当』）」 20. 「保険の限界とその拡張（１）：保険技術的限界および保険経営上の限界（モラル・ハザードやアドバース・セレクションを含む）について」。 21. 「保険の限界とその拡張（２）：保険経済的限界、法的限界について」。 22. 「保険政策論：一般の経済政策と保険固有の保険政策の共通点・相違点（保険の成長・安定・公正政策）について」。 23. 「保険業の規制（１）：保険業の規制と規制緩和、保険業における競争と規制の二律的均衡の理論的枠組み（CAPM理論、オプション・プライシング理論）などについて」。 24. 「保険業の規制（２）：金融・保険業の消費者保護、とくに 銀行の預金者保護における預金保険制度（FDIC）、年金の保護における年金の支払保証制度（PBGC）、保険契約者の保護における支払保証基金（GF）の比較について」。
----------------------------	--

科 目 名	貿 易 論	担当者名	米 山 昌 幸
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実な国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目的である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいぬいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、たんに経済事情を解説するのが目的ではなく、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p>				
講 義 概 要	<p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。</p> <p>前期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。貿易実務については、貿易取引と決済の仕組みを簡単に説明するにとどめる。</p> <p>後期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。幼稚産業保護論や経済統合、コメの輸入自由化、環境資源問題など個別テーマに理論を用いてアプローチする。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>池本 清（編），『テキストブック国際経済（新版）』，有斐閣ブックス，1997．</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>Krugman, Paul R., and Maurice Obstfeld(1994), <i>International Economics: Theory and Policy</i>(3rd edn.). New York: Harper Collins College Publishers. 石井（他）訳，『国際経済：理論と政策（国際貿易）（第3版）』，新世社，1996．</p> <p>浦田秀次郎，『国際経済学入門』，日経文庫，1997．</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三，『ベーシック国際経済学』，有斐閣ブックス，1989．</p> <p>伊藤元重・大山道広，『国際貿易』，岩波書店，1985．</p> <p>なお、第1回目の授業で参考文献リストを配布する。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	池本 清（編），『テキストブック国際経済（新版）』，有斐閣ブックス，1997．	参考文献	<p>Krugman, Paul R., and Maurice Obstfeld(1994), <i>International Economics: Theory and Policy</i>(3rd edn.). New York: Harper Collins College Publishers. 石井（他）訳，『国際経済：理論と政策（国際貿易）（第3版）』，新世社，1996．</p> <p>浦田秀次郎，『国際経済学入門』，日経文庫，1997．</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三，『ベーシック国際経済学』，有斐閣ブックス，1989．</p> <p>伊藤元重・大山道広，『国際貿易』，岩波書店，1985．</p> <p>なお、第1回目の授業で参考文献リストを配布する。</p>
テキスト	池本 清（編），『テキストブック国際経済（新版）』，有斐閣ブックス，1997．				
参考文献	<p>Krugman, Paul R., and Maurice Obstfeld(1994), <i>International Economics: Theory and Policy</i>(3rd edn.). New York: Harper Collins College Publishers. 石井（他）訳，『国際経済：理論と政策（国際貿易）（第3版）』，新世社，1996．</p> <p>浦田秀次郎，『国際経済学入門』，日経文庫，1997．</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三，『ベーシック国際経済学』，有斐閣ブックス，1989．</p> <p>伊藤元重・大山道広，『国際貿易』，岩波書店，1985．</p> <p>なお、第1回目の授業で参考文献リストを配布する。</p>				
評 価 方 法	基本的に前期と後期の定期試験によって、成績評価を行う。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	試験の結果や単位ではなく、講義の本当の意義は別のところにあるはずで。大切なことは、一年間講義を聞いてみて、それによって得た知識や、喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによって、どれだけのものがあなたに付加価値として加わったか、ということではないでしょうか。				

年 間 授 業 計 画	1	イントロダクション なぜ貿易論を学ぶのが、講義の範囲と進め方、テキスト・参考文献の紹介、履修の心得など
	2 3	第1章 貿易取引と決済の仕組み 1. 送金為替 2. 逆為替（取立手形） 3. 改正外為法施行後の新たな決済方法 4. 貿易条件
	4 7	第2章 リカードの比較生産費説 1. モデルの設定（2国2財1要素モデル） 2. 閉鎖経済の均衡相対価格の決定 3. 生産フロンティア（生産可能性曲線）の導出 4. 貿易開始後の両国の生産・貿易パターン 5. 最適消費点の決定 6. 貿易利益
	8 10	第3章 ヘクシャー＝オリーン理論 伸縮的投入係数のケース 1. モデルの設定（2国2財2要素モデル） 2. 生産フロンティアの導出 3. 要素賦存量と生産構造 4. 要素賦存量と貿易構造 5. 財の相対価格と要素価格（所得分配）
	11 14	第4章 ヘクシャー＝オリーン理論 固定投入係数のケース 1. 伸縮的投入係数の生産技術 2. 両部門の単位等量曲線 3. ボックス・ダイアグラム分析 4. 一般的な生産フロンティアの導出 5. 生産フロンティアの形状とヘクシャー＝オリーン定理 6. 生産フロンティアの形状とヘクシャー＝オリーン定理 7. 財の相対価格と要素価格
	15 19	第5章 貿易政策 1. 貿易政策の目的 2. 貿易政策の手段 3. 部分均衡分析による貿易利益 4. 貿易政策の効果 部分均衡分析
	20	第6章 幼稚産業保護論 1. モデル設定 2. 保護政策が正当化されるための条件 3. 幼稚産業保護論の問題点
	21	第7章 経済統合 1. 経済統合の諸形態 2. 経済統合（関税同盟）の理論
	22	第8章 コメの輸入自由化 1. 輸入数量制限と関税化 2. 関税の段階的引き下げ 3. 完全輸入自由化（関税撤廃）
	23	第9章 環境資源問題と貿易政策 1. 国内生産に伴う外部経済と外部不経済のケース 2. 国内需要に伴う外部不経済のケース 3. 貿易に伴う外部不経済のケース 4. 食料貿易・木材貿易と環境資源問題
	24	まとめ（予備日） この講義を通じて何が得られたか

科 目 名	証券市場論	担当者名	原 亨
-------	-------	------	-----

講 義 の 目 標	<p>新しい証券経済論の構築とその解説をする。そのために古くからの商業学や取引所を、第2次世界大戦以後の経済学、金融論、株式会社論、経営財務論、会社法、有価証券法などの成果の中に取り込む作業をし、証券経済論として再編成する。学生諸君には、新しい諸問題に関心を向けさせ、新しい観点からやさしく証券経済論を解説する。</p>	
講 義 概 要	<p>証券経済論の内容は、大きく二つに分かれる。分類的には発行市場と流通市場に関する現実と理論である。まず現代経済は貨幣（証券）経済社会であることを認識する。その中で有価証券の生成、それがなぜ商品となり、売買されるのかを経済理論と有価証券制度から考えてみる。その関連で貨幣の貸借、株式会社と株式の発行、国債の大量発行などを取り上げる（発行市場）。それから証券が流動化する意味と技術を取引所、証券会社、投資家とくに機関投資家、証券投資論、株価指標、先物取引（デテバティブ）まで展開して解説する（流通市場）。</p>	
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>毎回、講義要旨のプリントを配布する。</p>
	参 考 文 献	<p>川合一郎他編『証券市場論』有斐閣双書 1981年 杉村雅彦他著『現代の証券市場』実教出版 1978年 津村英文編『証券市場論入門』有斐閣双書 1991年 蠟山昌一編『証券市場読本』東洋経済新報社 1997年 釜江廣志編『入門証券市場論』有斐閣ブックス 1998年</p>
評 価 方 法	<p>出席状況と学年末試験の結果による。答案が、どれだけ理路整然と設問に的確に答えているかを基準にする。ただし、講義内容にはこだわらない。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回、「日本経済新聞」を読み、金融や証券の記事を切り抜き、スクラップをすること。講義の中でそれらを題材にする。</p>	

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貨幣、とりわけ証券経済社会であることを強調する。その形成過程を説明し、統計的にその現実を示す。 2. 有価証券の生成とその商品化を有価証券制度から観察する。ここでは経済と法の関連と融合を考える絶好の場である。 3. 有価証券を貨幣証券（手形、小切手、債務証券など）と資本証券（債券、株券など）に分けてそれぞれの生成と機能について解説する。 4. 証券の中心は株式である。発行主体は株式会社である。その生成、形成の理論と構造について考える。 5. 現代経済社会の特徴は、国債が大量に発行されることである。なぜそうなるのか。現代経済の構造と国債の流動化システムについて考える。 6. 有価証券の流動化 = 流通を仲介するのが、証券会社である。証券会社の機能とは何か。それらは、市場構造をどう変えたか。 7. 証券は、取引所で売買される。取引所は、大きな建物である。そこに売買技術、制度、機械装置が設定され、働く人もいる。公正な価格がどのように形成されるか。 8. 取引所における売買技術をとくに解説する。取引形態と決済システム、普通取引、板よせ、ザラバ売買、先物取引技術などを解説する。 9. 株式相場とは何か。株式価格の形成、変動の特殊性について考える。理論的には、擬制資本運動であるが、それを基礎に株式価格変動が一般とは異なることを解説する。 10. 株式投機信用と株式投機。投機とは何かを解説する。信用取引、ヘッジ、スペキュレーションの取引を中心に解説する。 11. 先物取引の時代、いまやデリバティブの時代である。なぜそうなったかを説明し、株価指数先物、オプション取引、裁定取引をみて、それが現物取引を上回っていることを考えてみる。 12. 株価指標「相場」をどうつかむか。それは、統計手法によらざるをえない。「日本経済新聞」に掲載されている主要な株価指標を解説する。 13. 証券投資決定の理論。ケイ線からポートフォリオ理論までを概観する。 14. 金融・証券市場のグローバル化、金融・証券の国際化問題を取り上げる。金融証券のグローバル・トレーディングの技術やシステムをみってみる。
----------------------------	--

科 目 名	企業形態論	担当者名	栗 村 英 二
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	経済の構成単位である企業について、その歴史や法律上の分類としての合名会社、合資会社、有限会社、株式会社や個人企業について機能や事業規模や責任について明確にしたい。		
講 義 概 要	現代資本主義企業形態について述べる。特に有限会社と株式会社を取扱う。また公企業についても講義する。		
使 用 教 材	テキスト	車戸編『企業形態論』八千代出版	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	学年末の試験成績による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	企業の問題について新聞その他で知識を多くすること		

1. 中小企業の比重が多いので、有限会社について、有効な経営の手引書が少なく経営改善や事業の向上に熱心な経営者の意識について。
2. 有限会社の特質や特性について。
3. 有限会社と株式会社の相違点。社員総会と執行機関について。
4. 有限会社の株は第三者には流れない。社長 代表取締役の心得について。
5. 有限会社の資本金について。
6. 現代の企業形態の展開の意義について。
7. 株式会社について 成立、機構、発展変貌、残されている問題。
8. 現代企業における所有と支配。危険負担と支配権。所有の分散と経営者支配。
9. 企業集中の要因。 企業集中の形態 連合形態、合併形態、企業集団形態。
10. 競争と規制。 独占対策について。
11. 企業集団問題の所在。代表的な企業集団。
コンツェルンの生成発表。六大企業集団の特質。
12. 企業の集中・分割形態と企業集団。
13. 公企業とは何か、その実態。
14. 公企業の機能と役割。
15. 自由経済体制と公企業の役割。
16. わが国の公企業の生成と発展。
17. 公企業の諸問題。
18. 公企業の民営化の背景。
19. 日本企業の成熟社会の対応 国際化、多角化、業際化等。
20. 海外現地進出の形態。
21. 資本市場の拡大と多様化。

科 目 名	協同組合論	担当者名	栗 村 英 二
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	資本主義経済活動の批判として生まれた協同組合は、全世界的な市民権を得た事業体として生き続けていることを認識してほしい。		
講 義 概 要	協同組合には150年の歴史で創り出した協同組合の原則の理解と協同組合の原則を拡めつゝある現実を知ることにつとめる。		
使 用 教 材	テキスト	『新協同組合とは』(財)協同組合経営研究所	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	学年末のテストによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. 協同組合のあゆみ
協同組合の誕生
2. 世界に広がった協同組合
日本の協同組合のあゆみ
3. 協同組合の特徴としくみ
協同組合とは何か
4. 協同組合の原則を学ぶ
加入、脱退は一人ひとりの自由
5. 平等な議決権と主体的な参加（＝民主的運営）
公平に出資し余剰金はみんなのために活用する（組合員による財産の形成と管理）
6. 他に依存したり従属してはならない（組合の自治・自立）
7. 学びあう場としての協同組合（教育、研修と広報活動の促進）
協同組合どうして手を結びあおう（協同組合間協同）
8. 環境を守り、暮らしやすい地域をつくる（地域社会への配慮）
9. 七つの原則はバラバラなものではない
10. 協同の二十一世紀へ
・現代社会はどこへ
11. ・いま、なぜ協同組合に着目するか
12. ・新しい時代を協同の力で

科 目 名	会計学原理	担当者名	内 倉 滋
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>企業会計もまた 1 つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものであり、その後に展開される会計学における「語用論」(= 経営分析論等の応用・専門学科目) への 1 つの橋渡しとなるものである。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義は会計という言語の意味論だと上で述べたが、そのことの意味は、たとえば「簿記原理」が「資産」を「所有する財貨および債権の総称」と説明するだけであるのに対し、そのどちらでもない「資産」が存在することを指摘した上で、“では資産の本質は何か？”といった問題を考察していく講義だ、ということである。ただし本講義では、その解決のための拠り所を、「企業会計原則」およびその解釈論に限定することとしたい。したがって本講義は、表面的には「企業会計原則」の解釈論を展開していくという形をとることとなるが、そのこと自体が目的なのではないことを忘れないでほしい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	未定。	
	参 考 文 献	図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。	
評 価 方 法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また(受講生の理解度を知る目的からも)何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回、「私は以上のように考えますが、皆さん方はどうですか」と問いかけて終わることにしています。それに応えてくれることが、本当に価値のあることだと思っております。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の目的.....目的 = 「制度会計」とそれを支える理論の研究、3つの制度会計、「企業会計原則」(以下「原則」と略す) それを支える理論 2. 会計学の歴史.....欧米(複式簿記の起源、会計学の成立、ドイツの動態論、アメリカ会計学)、我が国(明治6年の出発点、戦前、戦後) 3. 戦後の制度会計の変遷と「原則」.....「原則」の設定(設定目的、性質、期待された機能) 3つの制度会計による「原則」の採り入れ(証券取引法、商法、法人税法) 4. 「原則」の全体像と「一般原則」の体系.....「原則」の特徴(会計担当者に対する行為の指針の存在、具体的な処理ルールの財務諸表別規定)、「一般原則」の体系 5. 「一般原則」の第1原則.....企業会計の目的観(静態論、動態論) 第1原則の目的観(“経営成績”に力点)、「真実」性を要求(2つの真実性、達成可能性) 6. 「一般原則」の第2原則.....「正規の簿記の原則」に従えとの要請(第2原則自体「正規の簿記の原則」)、「正規の簿記の原則」とは(通説、少数説) 7. 「一般原則」の第3原則.....「正規の簿記の原則」の「少数説」に立った位置付け、第3原則の要請内容(前段、後段[「特に」の意味]) 8. 「一般原則」の第4原則.....3つの要請内容、「必要な会計事実」(重要な会計方針の開示、重要な後発事象の開示)「重要性の原則」と第2・第4原則 9. 「一般原則」の第5原則.....要請内容(会計方針の継続性、「正当な理由」による変更の容認) 本原則の意義(相対的真実性との関係、代替ルールの無い場合) 10. 「一般原則」の第6原則.....意味(静態論時代の意義、意思決定のルールとしての現在の解釈)「原則」の文理解釈、過度の保守主義 11. 「一般原則」の第7原則.....2つの要請内容、「原則」は「実質的単一性」を要請してるとの解釈、そのうちの「相対的単一性」を要請してるとの解釈 12. 収益・費用の“計上額”についての基本ルール.....計上額の基本 = 収支額、損益計算書原則 1A 前段との関係、無償で固定資産を取得した時の処理(公正評価説、圧縮記帳) 13. 収益・費用の“認識(計上のタイミング)”の基本ルール.....費用 = 「発生」時点(発生主義の原則) 収益 = 「実現」時点(実現主義の原則)「実現」の要件 14. 実現主義の原則の位置付け.....収益認識の基本ルールとの立場、代替的ルールとの立場、「原則」も代替的ルールと考えてるとの解釈の可能性、国際会計基準の立場 15. 実現主義の原則の適用.....「原則」〔注6〕の規定(特殊な販売契約への適用)〔注7〕の規定(長期の請負工事への適用・非適用) 16. 実現主義の原則の適用に関する演習.....試用販売、委託販売、割賦販売等 17. 実現主義の原則の適用に関する小テスト 18. 固定資産の費用の認識.....費用認識の基本 = 「発生」、減価償却手続きの解釈、税法が残存価額を取得価額の10%と規定していることの意義 19. 棚卸資産の費用の認識.....基本、「小売棚卸法」という特殊な方法についての各論 20. 収益・費用対応の原則.....必要性、費用を「対応」させる2手続き(「引当金」による見越し、発生費用の繰延べ) 引当金(「原則」の態度、租税法の態度) 21. 発生費用の繰延べ.....その手続きの意義、繰延資産(種類、その後の費用化) 開発費・試験研究費についての各論(我が国の商法と国際会計基準との違い等) 22. 動的な貸借対照表観.....基本、支出と費用間のずれによる貸借対照表項目、収入と収益間のずれによる項目、収入と支出間の「ずれ」、貸借対照表シエーマ 23. 財務諸表の形式面のルール.....損益計算書について(総額主義、源泉別分類と対応表示) 貸借対照表について(貸借対照表の「区分」と各科目の「分類」等) 24. 連結財務諸表.....その作成目的、作成手続き、我が国の基準と国際会計基準等との違い
----------------------------	--

科 目 名	会計学原理	担当者名	湯 田 雅 夫
-------	-------	------	---------

講義の目標	本講義は、会計の学習を新たに始めようとする学生諸君、さらにはより広くまたはより深く学習しようとする学生諸君を対象にして、専門的知識としての会計学ではなく、教養としての会計学に主眼を置きつつ、企業会計が如何なる仕組みを持ち、経済社会において如何なる役割を果たしているかをできるだけわかりやすく解説する。		
講義概要	企業会計の領域を財務会計、管理会計、社会関連会計に区分して、講義を進める。		
使用教材	テキスト	適宜指示する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森川八洲男・佐藤紘光・千葉準一『会計学』有斐閣 ・ 津曲直躬・新井清光編『会計学を学ぶ』有斐閣 	
評価方法	成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。		
受講者に対する要望など	私語厳禁		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会計学とはどのような学問か / 何のために学ぶのか 2. 現代会計学の潮流 3. 会計学の今日的な基本任務 4. 企業会計の3つの領域 5. 企業会計の仕組み 6. 企業会計制度 / 法的規制 7. 財務諸表の見方 (1) 8. 財務諸表の見方 (2) 9. 財務諸表の見方 (3) 10. 財務諸表の見方 (4) 11. 財務諸表の見方 (5) 12. ディスクロージャー制度の拡充 13. 国際会計基準の制定 14. 原価計算の役割と計算構造 (1) 15. 原価計算の役割と計算構造 (2) 16. 原価計算の役割と計算構造 (3) 17. 管理会計の意義 18. 管理会計情報の特質 / 財務会計情報との相違点 19. 意思決定会計 20. 業務評価会計 21. 物量管理と価値管理 22. 社会関連会計の役割 23. 環境マネジメント・環境監査 (1) 24. 環境マネジメント・環境監査 (2) 		

科 目 名	財務会計論	担当者名	中 村 泰 將
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義は、企業、特に株式会社の会計を対象とする「企業会計」を中心に勉強します。我が国の会計制度の仕組みを理解するとともに、財務諸表の作成基準としての会計基準とそれぞれの法が要求する会計法規（商法・証券取引法・税法）の関係を理解することを目的とします。さらに、我が国の会計基準と「国際会計基準」との相違点についても触れたいと思います。</p>				
講 義 概 要	<p>企業の会計をどのように勉強したらよいか。これには、いくつかの段階的な勉強が必要である。第 1 段階は、「企業会計原則」を中心に会計学の通説を勉強する（典型的な財務会計の著書はその例である。）。第 2 段階は、我が国の企業会計制度の中で法的な枠組みに組み込まれた会計（これを「制度会計」と呼ぶ。）を勉強する。本講義は第 1 と第 2 を併せて講義する。</p> <p>できるかぎり現実の会計問題にふれるように、「日本経済新聞」等の会計・財務に関する記事を参照しながら、企業会計の諸問題を分析・説明していきたい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>以下を参照のこと。毎回、講義のレジュメ、問題（次の週に解答を配布する）、カレントな会計、財務の資料（例：雑誌、新聞等のトピックス）を配布して、それに従って講義をする。</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・ 新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている） <p>上記の著者は税理士、公認会計士、簿記一級の試験のためのテキストとして適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度は、広瀬義州編著『会计学』1級税務経理協会（¥740）を使用した。 <p>今年度も基本的には、これを中心とするが、プリントを毎週配布して問題を多くするつもりである。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>以下を参照のこと。毎回、講義のレジュメ、問題（次の週に解答を配布する）、カレントな会計、財務の資料（例：雑誌、新聞等のトピックス）を配布して、それに従って講義をする。</p>	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・ 新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている） <p>上記の著者は税理士、公認会計士、簿記一級の試験のためのテキストとして適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度は、広瀬義州編著『会计学』1級税務経理協会（¥740）を使用した。 <p>今年度も基本的には、これを中心とするが、プリントを毎週配布して問題を多くするつもりである。</p>
テキスト	<p>以下を参照のこと。毎回、講義のレジュメ、問題（次の週に解答を配布する）、カレントな会計、財務の資料（例：雑誌、新聞等のトピックス）を配布して、それに従って講義をする。</p>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・ 新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている） <p>上記の著者は税理士、公認会計士、簿記一級の試験のためのテキストとして適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度は、広瀬義州編著『会计学』1級税務経理協会（¥740）を使用した。 <p>今年度も基本的には、これを中心とするが、プリントを毎週配布して問題を多くするつもりである。</p>				
評 価 方 法	<p>前期試験と後期試験の総合によって評価する。</p> <p>前期は、出来るだけ会計の専門用語を理解し、現行の会計の仕組みを理解する問題を出題する。</p> <p>後期は、各論、特論の講義に入るので、会计学の理論的な説明を求める問題を出題する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>会计学に関する専門書は、書店に山とある。要はその内容を理解することにある。授業をサボるとその内容の行間が理解できないので注意されたい。</p> <p>簿記の基礎を習得していることが望ましい。</p> <p>他学科の学生で、会计学に興味を持っている受講生も歓迎する。</p>				

科 目 名	原価計算論	担当者名	齋藤正章
-------	-------	------	------

講義の目標	<p>原価計算は、大きく分けて、財務諸表作成のため（財務会計目的）と経営管理のため（管理会計目的）という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「原価計算制度」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、企業の生産システム、製造技術、コンピュータネットワークなどの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義では、この2つの視点から企業における原価計算の役割について理解を深めることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>前期と後期の半ばまでは、財務会計目的のための原価計算の手続き（伝統的な原価計算）について講義を行います。理解を深めるために、必要に応じて練習問題を解きます。後半は、新しい原価計算の流れについて解説を行う予定です。</p>		
使用教材	テキスト	<p>開講時に指示します。</p>	
	参考文献	<p>・岡本 清『原価計算』（5訂版）国元書房、1994年</p>	
評価方法	<p>原則として前後期の試験結果を重視します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者は簿記の基礎知識があることが望ましいです。 授業には電卓を持参のこと。</p>		

1. 原価計算総説
2. 原価とは何か
3. 原価計算の基礎手続
4. 原価の費目別計算
5. 原価の部門別計算(1)
6. 原価の部門別計算(2)
7. 総合原価計算(1)
8. 総合原価計算(2)
9. 総合原価計算(3)
10. 個別原価計算(1)
11. 個別原価計算(2)
12. 個別原価計算(3)
13. 標準原価計算(1)
14. 標準原価計算(2)
15. 標準原価計算(3)
16. 直接原価計算(1)
17. 直接原価計算(2)
18. 直接原価計算(3)
19. 特殊原価調査
20. 差額原価収益分析
21. 原価計算における問題点
22. 原価計算の新展開(1)
23. 原価計算の新展開(2)
24. 原価計算と管理会計

科 目 名	上 級 簿 記	担当者名	内 倉 滋
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」とであると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも、「文法」に相当するもの(=複式簿記)がある。その基本的な原理の修得者(=「簿記原理」修得者等)を対象に、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術の習得を目指した講義を、本講義では行っていく。</p>		
講 義 概 要	<p>会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するもの(=複式簿記)も、基本的な部分に関してはだいたいにおいて共通的なものである。しかしながら、それを越えた部分、すなわち本講義が対象とすべき部分の中身は、力点の置き方によりかなり変わってくるものと言える。本講義では、その“どこに力点を置くか”の判断に際し、日本商工会議所簿記検定試験の2級商業簿記の出題範囲を、明確に意識していきたいと考えている。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>1: 現代会計教育研究会編、「簿記練習帳 2級商業簿記」、第3版、多賀出版 2: 井上達雄他編、「検定簿記講義 2級商業簿記」、中央経済社</p>	
	参 考 文 献	<p>特に必要とはいたしません。</p>	
評 価 方 法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また受講生の理解度を知る目的からも、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>検定試験類に、どしどしチャレンジしてみてください。合格した場合は、平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現金・預金.....銀行勘定調整表に力点を 2. 有価証券.....端数利息の処理に力点を；なお期末評価の問題にも言及 3. 貸倒引当金.....その設定対象債権と設定方法（租税法の取扱いにも言及） 4. 手形.....裏書（割引）に伴う偶発債務の処理に力点を 5. 商品の払出し価格の決定.....総平均法と後入先出法を中心に 6. 商品の期末評価.....各種の評価基準、商品評価損、棚卸減耗費 7. 未着品・委託・受託販売.....荷為替の取組みにも言及 8. 割賦販売.....原則的基準、例外的基準 9. 試用販売・予約販売.....本テーマに関しては、日商1級会計学の過去問も演習 10. 有形固定資産.....買換え、改良と修繕、建設仮勘定、火災未決算、といった問題を中心に 11. 無形固定資産・投資等・租税.....1年決算法人の法人税の中間申告・納付とその決算時・確定申告時の処理にも言及 12. 前期の総復習 13. 株式会社会計その1：資本.....授權資本〔株式数〕株式発行による流入資金額の会計処理、新株発行の手続き、合併の処理、といった問題を中心に 14. 株式会社会計その2：利益処分.....個人企業との違い、設例による説明 15. 株式会社会計その3：損失処理.....考え方の基本、設例による説明 16. 株式会社会計その4：繰延資産・社債.....社債関係の2つの繰延資産の処理にも言及 17. 本支店会計その1：基本原理.....支店間取引についての支店分散計算制度と本店集中計算制度の違い、等に力点を 18. 本支店会計その2：本支店財務諸表の合併.....できれば、棚卸減耗に含まれる未実現利益の処理にも言及 19. 特殊仕訳帳.....その機能と記帳の仕方 20. 伝票.....3伝票制度と5伝票制度、仕訳日計表の作成と総勘定元帳への転記 21. 精算表.....株式会社の場合の精算表の特徴点等 22. 損益計算書.....損益計算書の形式についての「企業会計原則」の規定と、それに関する演習 23. 貸借対照表.....貸借対照表の形式についての「企業会計原則」の規定と、それに関する演習 24. 後期の総復習
----------------------------	--

科目名	上級簿記	担当者名	香取 徹
-----	------	------	------

講義の目標	この上級簿記論は、日商簿記検定 2 級の試験範囲のうち <u>工業簿記</u> を 1 年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の 2 級の試験は、商業簿記と工業簿記の 2 種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、是非習得してほしいと思います。		
講義概要	講義ではテキストを説明したあとに、ワークブックで記帳練習をします。毎回、学習した分の宿題を必ずやってください。簿記は積み重ねが大切です。		
使用教材	テキスト	New Concept 日商簿記検定試験 工業簿記 2 級、税務経理協会 New Concept 日商簿記検定試験 工業簿記 2 級ワークブック	
	参考文献		
評価方法	定期試験のほか毎回小テストを行い、合計点で評価します。		
受講者に対する要望など	検定試験にどんどんトライして下さい。 合格したら試験の点数に加算します。		
年間授業計画	第 1 週 工業簿記の特質 第 2 週 原価 第 3 週 原価計算 第 4 週 工業簿記の構造 第 5 週 材料費の計算 第 6 週 労務費の計算 第 7 週 経費の計算 第 8 週 製造間接費の計算 第 9 週 " 第 10 週 部門費の計算 第 11 週 個別原価計算 第 12 週 部門別原価計算 第 13 週 仕損費と作業屑 第 14 週 単純総合原価計算 第 15 週 期末仕掛品の評価 第 16 週 組別総合原価計算 第 17 週 工程別総合原価計算 第 18 週 等級別総合原価計算 第 19 週 標準原価計算 第 20 週 差異分析 第 21 週 直接原価計算 第 22 週 " 第 23 週 工業会計の独立 第 24 週 練習問題		

科 目 名	経営数学	担当者名	前 田 功 雄
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済・経営に広範囲に应用されている線形代数の基本的事項をコンピュータを利用して解説する。目標としては線形計画問題のコンピュータ・アルゴリズムの理解と応用までとする。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義では線形代数の基礎的事項を解説するが、授業を進めるに当たって基本概念の視覚化を計るためコンピュータを利用する。BASIC による簡単なプログラムを組むことが要求されるが、必要な事項は講義中に補う。先ず、前期では、n 次元ユークリッド空間の基本概念の導入とそれらの視覚的理解の為にコンピュータ・グラフィックスを利用する。最後の数週間で、経営科学で広く応用をもつ線形計画法の理論と Dantzig によるシンプレックス法の紹介とプログラム実習を行う。</p> <p>キー・ワード：ベクトル空間、内積、写像、線形変換、行列、行列式、基行列、基本操作、連立方程式、逆行列、ピボティング、シンプレックス法</p>		
使 用 教 材	テキスト	必要に応じてプリント配布。	
	参考文献	授業中に推薦する。	
評 価 方 法	授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	コンピュータ概論又は情報処理概論既修が望ましい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学における空間の概念 数学では空間はどのように扱われているか。空間の構成要素は何か？ キー・ワード：空間、点 2. n次元ベクトル空間 n次元ベクトル空間の定義を述べる。 キー・ワード：点、ベクトル、実数、座標、零ベクトル、ベクトル空間 3. ベクトルの幾何学的意味 2次元空間を例にとってベクトルの矢線表示による視覚化を導入する。 キー・ワード：始点、終点、位置ベクトル、和ベクトル、実数倍ベクトル 4. ベクトルのノルム ベクトルの長さ（ノルム）の概念を導入し重要な公式について解説。 キー・ワード：ノルム、コーシーの不等式、n次元ユークリッド空間 5. ベクトルの内積 2つのベクトルの内積を定義することによって交角を求める。 キー・ワード：内積、交角、直交、射影、一般化されたピタゴラスの定理 6. 演習 ベクトル計算、ベクトルの交角の計算、コンピュータのスクリーン上に矢線ベクトルを表示するプログラム。 7. 線形変換 任意のベクトルを原点の回りに だけ回転したベクトルの座標を求める。 キー・ワード：写像、変換、線形変換、行列 8. 行列と線形変換 行列によって引き起こされる様々な線形変換についての解説。 キー・ワード：恒等変換、伸縮変換、射影変換、変換の積 9. 演習 上の各変換に対応する行列を使って平面上の与えられた図形を変換するプログラムを作れ。 10. 行列計算 行列の和、差、実数倍および積を定義する。 キー・ワード：行列の和、差、実数倍、積、逆行列、行列式 11. n元連立一次方程式の行列・ベクトル表示と解表示 行列・ベクトルを使っての連立方程式とその解の表示法。 キー・ワード：n元連立一次方程式、行列・ベクトル表示 12. 前期レポート解説 レポート課題と提出方法（コンピュータ通信）について説明する 13. 連立方程式の解法（ガウスの消去法） ガウスの消去法のアルゴリズムの数値例による解説。 キー・ワード：ガウスの消去法、アルゴリズム、基本行列、基本操作 14. ガウスの消去法の一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：フロー・チャート、プログラム、乱数 15. ガウス・ザイデルの反復法 ガウス、ザイデルの反復法の数値例による解説。 キー・ワード：ガウス・ザイデルの反復法 16. ガウス・ザイデルの一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：ストップングルール 17. 演習 ガウス・ザイデルの一般解法のプログラミング 18. 逆行列の数値解法 数値例により解法の説明。 キー・ワード：基本操作のサブルーチン化 19. 逆行列の一般的解法 一般的解法のフロー・チャートにより表現。 キー・ワード：正則性 20. 表計算ソフトを使っての行列計算について紹介。 キー・ワード：表計算、Excel 21. 線形計画問題について キー・ワード：モデル化、線形計画問題、基底解、実効可能解、最適解 22. 数値的解法の一つである罰金法について数値例で解説。 キー・ワード：モデル化、線形計画問題、基底解、実行可能解、最適解 23. 罰金法のフロー・チャート フロー・チャートに従って各自の好きな言語によるプログラミング実習 24. 後期レポート作成 後期レポート課題と作成法について。
----------------------------	--

科 目 名	情報検索論	担当者名	福 田 求
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>必要な情報を効果的に選択，入手する行為としての「情報検索」について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義ではまず，情報検索に関する基礎的な概念について解説し，情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。そしてその知識を踏まえた上で，実際の情報検索技術に慣れ，習熟するために，CD-ROMによる情報検索の実習を行う。次に，情報検索のサービスについて説明し，さらにオンラインの情報検索サービスの実際の利用を通して，情報検索の理解を深める。そして最後に，新たな情報検索の場としてインターネットを取り上げ，これについても実習を行う。実習では可能なかぎり，受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源（CD-ROM，オンライン）を紹介する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	適宜指示する。	
評 価 方 法	<p>前期および講義の定期試験。これに平常点（実習への参加態度等）を加味する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>実習の形式（個人で行うかグループ単位で行うか等）は，学内で利用できる機材と受講者数とのバランスを見て決定する。よって受講者数を確認したいので第1回の授業には「必ず」出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。年間予定，授業方法等の注意事項について説明。 2. 情報検索概論(1)：情報検索の定義，種類，歴史について解説。 3. 情報検索概論(2)：データベースの定義，意義，構成要素について解説。 4. 情報検索概論(3)：データベースの種類，歴史について解説。 5. 情報検索概論(4)：第7回以降の実習で用いる索引言語について解説。 6. 情報検索概論(5)：第7回以降の実習で用いる検索式について解説。 7. CD-ROM検索(1)：実習 8. CD-ROM検索(2)：実習 9. CD-ROM検索(3)：実習 10. CD-ROM検索(4)：実習 11. CD-ROM検索(5)：実習 12. 前期講義のまとめ 13. 情報検索サービス(1)：情報検索サービスの定義，意義，歴史，種類について解説。 14. 情報検索サービス(2)：情報検索サービスの利用について解説。 15. オンライン検索(1)：実習 16. オンライン検索(2)：実習 17. オンライン検索(3)：実習 18. オンライン検索(4)：実習 19. 新しい情報検索の動向：インターネットなど新たな情報検索の領域を紹介。 20. インターネットによる情報検索(1)：実習 21. インターネットによる情報検索(2)：実習 22. インターネットによる情報検索(3)：実習 23. インターネットによる情報検索(4)：実習 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	情報システム論	担当者名	前 田 功 雄
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>		
講 義 概 要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をどうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2~3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、コンピュータ・ネットワーク、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	必要な都度プリント配布。	
	参 考 文 献	授業中に述べる。	
評 価 方 法	評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。		

1. パソコン通信とは パソコン通信とは?どんなことができるのか?どんな機械が必要か?
キー・ワード:パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2. パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS 局に接続して実演。
キー・ワード:BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3. コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。
キー・ワード:ホスト-端末、LAN、コンピュータ間通信、Internet
4. Internet の仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるInternetの仕組みと実演。
キー・ワード:ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信
5. Internet の実習 ログオン、ログオフ、デンシメールの送受信等の実習。
6. Internet によるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。
キー・ワード:TEXT FILE、BINARY FILE
7. パソコン上のファイルのInternet上での転送 FDのファイルをInternet経由で転送する方法を解説。
キー・ワード:アップロード、ダウンロード
8. 前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9. 情報管理とデータベース(ファイルとディレクトリ) 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。
キー・ワード:ファイル、(ルート、サブ)ディレクトリ、ツリー
10. 情報管理とデータベース(情報検索と抽出) データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。
キー・ワード:データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
11. 情報管理とデータベース(情報検索と抽出) データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。
キー・ワード:ダウンロード、エディター
12. 前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
13. 自然言語と情報理論 自然言語(英語)の生成メカニズムと確率モデル。
キー・ワード:文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
14. 情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。
キー・ワード:アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
15. 情報量の測りかた(確率入門1) 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。
キー・ワード:確率、基本公式、独立な確率変数
16. 情報量の測りかた(確率入門2) 情報理論によく出てくる確率概念の解説。
キー・ワード:条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
17. 情報量の測りかた(エントロピーの導入) 情報量の定義とその尺度の導入。
キー・ワード:不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
18. エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。
キー・ワード:所得の均衡とエントロピー
19. 情報伝達システム(誤りの無い場合) 効率のよい伝達システムと符号化について解説。
キー・ワード:情報源、通信経路、受信点、符号器、複号器、符号化
20. 情報伝達システム(誤りのある場合) 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。
キー・ワード:雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
21. Hamming 符号とHuffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。
キー・ワード:誤り訂正符号、情報圧縮
22. 10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。
キー・ワード:誤り検出符号、パリティチェック方程式
23. 獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。
キー・ワード:置換、パリティチェック方程式
24. 後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。

科 目 名	オペレーションズ・リサーチ	担当者名	本 田 勝
-------	---------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>オペレーションズ・リサーチ（OR）の技法とは、組織（システム）を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、ORの応用される分野も幅広い。この講義では、これらの手法を習得し、経済や経営の問題へどのように適用していくかを実例を通して理解することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>オペレーションズ・リサーチの基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを続けて述べていく。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参 考 文 献	講義時にそのつど指示	
評 価 方 法	各テーマごとに課すレポート、毎回の出席調査および定期試験による総合評価を行なう。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンピュータを用いた演習を行なうので、「情報処理概論」は既習のこと。 また確率モデルに関しては「統計学」の知識が必要になる。</p>		

1. OR とは何かについての概観を行う。
2. 線形計画法 (LP) の定式化と幾何学的解法について述べる。
(決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数)
3. シンプレックス法 (単体法) の考え方について述べる。
(スラック変数、基底解、実行可能解)
4. 単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。
(ピボット、人工変数、2段階シンプレックス法)
5. パソコンによる演習を行う。
6. LP の相対性、相対問題について述べる。(双対定理)
7. パソコンによる演習を行う。双対問題の経済学的解釈について述べる。
8. LP の感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。
9. 輸送問題と LP との関連について述べる。
10. 輸送問題の解法について述べる。(ポテンシャル法、解の退化、 - 摂動法)
11. 輸送問題のパソコンによる演習を行う。
12. LP および輸送問題について総合的演習を行う。
13. 動的計画法 (DP) の考え方について述べる。
(多段階決定法、最適性の原理)
14. DP のいろいろの応用例を述べる。
(資源配分問題、最短経路問題、Knapsack 問題)
15. DP のパソコンによる演習を行う。
16. PERT について述べる。(ネットワーク、クリティカル・パス)
17. PERT と CPM の違いについて述べ、パソコンによる演習を行う。
PERT の確率的評価について述べる。(3点推定)
18. ゲームの理論について述べる。(純粹戦略、混合戦略、2人ゼロ和ゲーム)
19. ゲーム理論のグラフ解法について述べ、演習を行う。
20. ゲーム理論と LP との問題について述べる。
21. 在庫管理の考え方について述べる。(発注点、発注量、調達期間、安全在庫)
22. 在庫管理の考え方について述べる。(定期発注法定量発注法)
23. 在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行う。
24. 一年間の総まとめをおこなう。

科 目 名	システムズ・エンジニアリング	担当者名	天 笠 美知夫
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ曖昧性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり、主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割とその具体的な方法論について理解と意識を深めることを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義は 4 部から構成される。第 1 部ではシステムズ・エンジニアリングの基礎として、システム・エンジニアリングの基本概念と工学的方法論の概要について述べる。第 2 部では問題の発見と種々のシステムの構造化法について述べる。第 3 部では評価と意思決定について述べる。第 4 部ではいろいろなシステム手法と信頼性について述べる。</p> <p>尚、後期には数時間をかけて、理論に従い事例演習を行い、その報告書を作成させるとともに発表会を行う。本講義を受講するために前提となる必修科目はない。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>授業時間にプリントを配布する。</p>	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知夫『システム構成論』森山書店 1986 ・寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985 ・Wayne C Turner, et, al.; <i>Introduction to Industrial and Systems Engineering</i>, Prentice-Hall 1978 	
評 価 方 法	<p>成績評価は、試験、事例演習、レポートおよび出席を考慮して総合的に決定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業に出席し、積極的に質疑応答して欲しい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 部 システム工学の基礎 第 1 章 システム工学の基本概念：システム工学の発達とその背景、システムの定義と特徴、システム思考 2. システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性 自然システムと人工システム 3. 第 2 章 システム工学方法論の概要：システム開発の手順と組織（その 1）(問題の設定、目標の設定、システム合成、システム解析、システムの評価と選定) 4. システム開発の手順と組織（その 2） システム工学方法論 5. 第 2 部 問題の発見とシステムの構造化 6. 第 3 章 構造モデルとグラフ理論 7. ISM 法、FSM 法と KJ 法（その 1） 8. ISM 法、FSM 法と KJ 法（その 2） 9. 構造モデルの分割 10. 第 4 章 統計的手法による構造化（その 1） 11. 統計的手法による構造化（その 2） 12. 事例演習 1：具体的な問題についてシステム構造化の演習を行う。 13. 第 3 部 評価と意思決定：第 5 章 評価の基礎、価値と評価、効用理論（その 1） 14. 価値と評価、効用理論（その 2） 15. 第 6 章 統計的手法による数量化、数量化理論（その 1） 16. 統計的手法による数量化、数量化理論（その 2） 17. 第 4 部 いろいろなシステムの手法と信頼性：第 7 章 スケジューリング、PERT、CPM（その 1） 18. PERT、CPM（その 2） 19. 予測 デルファイ法とファジィデルファイ法 20. 第 8 章 システムの信頼性 21. 事例演習 2：4~5 人からなるグループごとに、身近な問題をテーマとして設定し、これまでに学習した理論にしたがいながらシステム構造化を行い、問題解決を図る。 22. 事例演習 23. 事例演習 24. 報告書の作成とグループ発表、質疑応答
----------------------------	--

科 目 名	管理工学	担当者名	日 下 泰 夫
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営を取り巻く外部環境が激しく変化するなかで、経営、管理工学は今大きく変貌しつつある。時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、問題解決・意思決定能力を高めることが、今ほど要求されている時代はない。本講義は、管理工学を初めて学ぶ人を対象に、その体系の理解と実社会で役立つ考え方と技法の修得をはかることを目的としている。できるだけ具体的、平易に説明する。</p>
講 義 概 要	<p>前期は、外部環境変化と経営システムの課題、管理工学の役割と概念などの基本的な内容、典型的な技法としての線形計画法、動的計画法を平易に説明する。後期は、品質管理（QC）七つ道具、経済性工学、階層分析法（AHP）の各技法を取り上げる。QC 七つ道具、経済性工学、AHP などでは、理解を深めるためにいくつかの演習も行なう。次にこれらの諸技法の理解を前提に、問題解決法を構造的に把握し、管理工学の役割を考察する。最後に、情報化時代と管理工学、21 世紀に向けた管理工学についての見解を述べる。</p> <p>講義は OHP により進める。各回の講義の終わりにはその時点における経営のトピックスも紹介する。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>拙書：「経営工学概論」、中央経済社、1997</p>
	<p>参 考 文 献</p> <p>開講時に紹介する。</p>
評 価 方 法	<p>前・後期末に実施する計 2 回の試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>管理工学の考え方は実社会の種々の場面で役立つ筈ですから、履修したら継続して受講する（中途半端にならない）ように留意して下さい！</p>

年
間
授
業
計
画

- 1. 外部環境変化と管理工学
オープンシステムと経営、 外部環境変化と経営の課題、 管理工学の役割
- 2~5. 管理工学の概念
企業活動、 企業活動の諸側面：経営職能（生産過程・管理過程・管理特性・経営資源的諸側面） 経営活動の立体構造による把握、 意思決定、 管理工学とは
- 6~8. 管理工学における典型的な問題解決技法1
問題解決技法の外観、 モデルの概念、 最適化とシミュレーション、 在庫管理
- 9~12. 管理工学における典型的な問題解決技法2
線形計画法（LP） 動的計画法（DP）
- 13~15. 管理工学における典型的な問題解決技法3
QC 七つ道具、 経済性工学（EE）
- 16~18. 管理工学における典型的な問題解決技法4
階層分析法（AHP）
- 19~20. 問題解決法と管理工学
問題解決法の重要性、 外部環境変化とパラダイムの役割、 従来の問題解決法の概要と特徴、 問題解決の構造的分析、 問題解決法と管理工学の役割
- 21~22. 情報化・創造化時代と管理工学
情報化・創造化時代、 情報ネットワーク化と経営へのインパクト、 意思決定と情報創造、 情報化・創造化時代における管理工学の役割
- 23~24. 21世紀に向けた管理工学
時代と共に生きる管理工学、 管理工学における問題解決法の教育、 管理工学を学ぶ人へのメッセージ

科 目 名	体育理論（再履修）	担当者名	本 田 稔 祐
-------	-----------	------	---------

講 義 の 目 標	生涯健康を維持するために、人には運動が必要である。そこで、誰にでもすぐできる運動（スポーツ）には、どんなものがあるか、その実施方法などを考えて、今後の日常生活の中で少しでも運動をする習慣を身につけ、健康な生活が送れるようにすることを目的としたい。		
講 義 概 要	文明の進歩とともに、人はあまりからだを動かさなくても不自由がなくなったが、運動不足がわれわれのからだに様々な影響を与え、身体機能に障害が出てくる。運動不足病をはじめそれらの症状・予防法などを検証し、運動不足を解消する対策を練り健康の維持増進に役立てようとするものである。		
使 用 教 材	テキスト	特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。	
	参考文献	福岡スポーツ研究所「健康スポーツライフ」スキージャーナル社 大学保健体育研究会「大学生の体育と保健」道と書院 大学体育研究会 「保健体育概論」教育の科学社	
評 価 方 法	授業への出席点 40%、筆記テスト 60%で評価する。尚、テストは授業の最終日に実施する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	遅刻、欠席をしないこと。授業中私語をしない、後の方の席に行かず、出来るだけ前に来ること。		

1. ガイダンス
社会の現状と人の健康について
2. 運動の概念 日常生活の中での運動
3. 運動不足による疾病の種類
4. 運動不足による身体機能の変化
5. 運動不足を解消するための対策
6. 健康スポーツの実施方法
7. 体力と体格 行動体力と防衛体力について
8. 心肺持久力 運動と呼吸について
9. 心肺持久力 運動と循環について
10. 運動と疲労 疲労の制定、種類、解消法など
11. 運動と栄養 何をどれくらいとれば良いか
12. 筆記テストを実施する

科 目 名	経済変動論	担当者名	松 本 正 信
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p> <p>また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	私の「講義ノート」による。	
	参 考 文 献	講義の都度、指示する。	
評 価 方 法	後定期試験によって評価する		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことであるから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>以下の講義内容を年間を通じて行なう。</p> <p>「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。</p> <p>序論 経済変動論の現代的課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 現代の経済成長と景気循環 2 経済変動の歴史的素描 産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題 3 経済変動の諸要因：その学説史的素描 資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論 4 ケインズ経済思想とニュー・デール、The Great Depression, New-Deal policy; New-Economics、 修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制度へ、WTO 体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊 5 経済変動要因の理論的類別 6 有効需要拡大の「拡大」解釈 グローバル化 <p>均衡成長とその不安定性論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済成長の不可避的要素と必要性 古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーター的動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論 3 独立投資と誘発投資 4 外生要因と内生要因 <p>景気循環のメカニズム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 定常状態の経済 2 新投資の循環（更新投資循環） 3 在庫投資の循環 4 ヒックスの景気循環モデル 5 カレッキーの景気循環論 6 カルドアの景気循環論 7 景気変動への安定化要因 8 景気循環論の類型と循環の局面 9 景気循環と経済諸変量 10 景気の転換点と景気動向指数 <p>経済成長と景気循環</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成長経済における「定型化された事実」 2 新古典派成長理論の登場 3 新古典派の経済成長理論 4 技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動） <p>現代景気循環論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派 2 経済成長軌道は安定か不安定か 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題 4 これからの景気循環論への展望
----------------------------	---

科 目 名	経 済 学 史	担当者名	鈴 木 勇
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 的 お よ び 概 要	<p>この講義では、「価値論の史的考察」を中心テーマに、労働価値論と効用価値論の二大思潮を、古代および中世の経済理論にまで溯って考察する。講義の目標は、マルクス労働価値論の批判とその再検討にある。したがって講義では、一先ず、19世紀後半の資本主義の拡大発展期までの時期を研究の対象範囲として限定し、この期間に成立した主要な経済理論を取り上げて考察する予定である。過去の知的努力がどのように受け継がれ、そのときどきの経済的現象をどう解釈し、どのようにそれと係わり合い、影響してきたかを知ることは現在を知るうえで重要な意味をもつ。特に、社会主義の崩壊という歴史的な転換期に立つ現代世界を洞察し、未来社会を展望するためには、原点に立ち返り歴史の大きな流れの中で現代を捉える必要がある。その意味では、この講義で取り扱う対象は古くても受講者の知的関心は現代の問題にも向けられねばならない。講義では、このような観点から経済学史を考えていきたいと思っている。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>鈴木勇『資本主義の発展と経済理論』新評論、1977年 鈴木勇『経済学前史と価値論的要素』学文社、1991年</p>	
	参考文献	<p>その都度指示する。</p>	
評 価 方 法	<p>評価は定期試験の成績に出席状況を加味して行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目標と概要について 2. アリストテレスの経済学 3. 聖トマス・アクィナスの経済学とスコラ学者の価値論 4. 近世への転換：資本主義の興隆と宗教改革 5. ヘイルズの王室重商主義論 6. マンの貿易差額論と国富増進論 7. ペティの財政論と価値論 8. ロックの所有論と利子論 9. 16 - 17 世紀の効用説.....自然法哲学者と経験主義者 10. カンティロンの経済学と価値論 11. ステュアートの重商主義論 12. ケネーの重農主義論 13. イギリス産業革命と経済社会の変化 14. スミスの道徳哲学体系 15. スミスの経済学と価値論 16. 産業革命期の経済学(1) 17. 同 上 (2) 18. ヘーゲルとマルクスの市民社会観(1) 19. 同 上 (2) 20. マルクスの労働価値論と資本主義崩壊の論理(1) 21. 同 上 (2) 22. 同 上 (3) 23. メンガーの限界効用説 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	産業構造論	担当者名	山 越 徳
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展・成長を促す。本講義ではそれら構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える種々の経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そして石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとつかわる指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。</p>		
講 義 概 要	<p>これらの講義や議論を一層身近かものとするために、種々のデータや資料、分析結果を用いて、短期間に後進国からトップクラスの先進国へと成長した、戦後の日本経済の事例を扱いながら、進めていくことにする。また構造分析の有力な分析道具である投入 - 産出分析の手法や産業構造を示す労働力構造とその変化に伴う労働市場問題についても考察する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	『産業の経済学』(経済学入門叢書・16)第2版 宮沢健一 東洋経済新報社	
	参 考 文 献	『経済成長 - 六つの講義』サイモン・クズネッツ著、長谷川亮一訳 巖松堂出版など 講義を進めていく中でその都度、紹介していく	
評 価 方 法	<p>前期のレポート(産業および構造変化に関するもので、課題については授業の中で提示)後期の試験により、双方の結果で評価。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>現実の経済で生じている種々の変化や問題を扱っている文献、論文、事例に関心を持つとともに、読みかつ考察してほしい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1.	・経済成長、経済発展 経済成長とは、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化
	2.	
	3.	・経済成長と産業構造 経済進歩の歴史過程、産業革命、三部門分類、ペティの法則、AMS分類、労働力構成と所得構成
	4.	
	5.	所得弾性、成長の弾性、時系列データとクロスセクションデータ
	6.	
	7.	・経済成長と産業構造 製造業内部の構造と発展、発展段階説、消費財と投資財、最終財と中間財
	8.	
	9.	輸入と国産化、輸入代替、生産規模、輸出指向型工業化、先進工業国と発展途上国 雁行形態、重化学工業化
	10.	
	11.	・産業連関表（投入 - 産出表）とは 製品の販路と投入、投入係数、産出係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門
	12.	
	13.	直接および間接の生産波及、相互依存関係、産業特性、感応度係数と影響度係数
	14.	
	15.	前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、商品ベースと企業ベース、輸入 スカイライン分析、貿易構造
	16.	
	17.	・産業連関表による分析 構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、資本マトリックス、雇用および産職マトリックス
	18.	
	19.	生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、素原材料系統の転換 工業原材料と規模、ユニットストラクチャー、規模別 I-O 表、国際 I-O 表、公害 I-O 表 国際分業
	20.	
	21.	・産業構造の新しい方向 サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複号化、構造変化の指標
	22.	
	23.	財とサービス、有形財と無形財、構造変化の流れ、投入労働と評価
	24.	
25.	・産業内部の構造変化 ケース・スタディ 3つのオートメーション、ロボットとコンピュータ、高度経済成長期の生産技術と	
26.		
27.	'80年代・'90年代の生産技術鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行など	
28.		
29.	・構造変化と就業構造 労働力の需要と供給、人口構造、新規学卒労働力、基幹労働力と縁辺労働力、大企業と中小企業	
30.		
31.	日本の労働市場、雇用制度、雇用慣行、労働の属性、産業と職業、雇用調整	
32.		
33.	・日本の産業政策および産業と地域 大企業と中小企業、大都市産業、地場産業、産業集積、地域の取組み	
34.		
35.	経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき	

科 目 名	産業組織論	担当者名	青 木 雅 明
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	経済学の1分野である産業組織論 (Industrial Organization) の基本的な考え方と手法、応用分野について学んでもらいます。産業組織論は、財貨・サービスの生産者あるいは供給者の行動とそれに影響を与える市場の構造、政府の規制について研究し、その成果を経済政策に応用します。				
講 義 概 要	ミクロ経済学のうち産業組織論の基礎にあたる部分を十分復習します。完全競争市場の企業行動や独占・寡占市場の経済的非効率性などです。次に、公正な競争促進政策の法律である独占禁止法と日本の生産物市場の現状を解説します。14～24回は下記のテキストにそって最近の産業組織分析の考え方、成果を講義します。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998年(2800円)</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 1995年 滝川敏明『日米EUの独禁法と競争政策』青林書院 1996年 小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 1994年 </td> </tr> </table>	テキスト	長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998年(2800円)	参考文献	ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 1995年 滝川敏明『日米EUの独禁法と競争政策』青林書院 1996年 小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 1994年
テキスト	長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998年(2800円)				
参考文献	ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 1995年 滝川敏明『日米EUの独禁法と競争政策』青林書院 1996年 小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 1994年				
評 価 方 法	毎回、「学んだことの要旨」、「理解できなかった点」、「質問事項」、「講義を聞いて触発されたアイデア」、「面白いと感じた点」などについてミニレポートの提出を求めます。これの提出状況と内容による評価に、2000年1月提出の中レポートによる評価を加えたものにします。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業中の私語、遅刻、早退は禁止。欠席は最小限。テキストを購入してよく読むこと。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 完全競争市場における企業行動について費用の分析の仕方を学びます。 2. 完全競争市場における企業行動について生産量の決定の仕方を学びます。 3. 完全競争市場における競争的均衡と経済的効率性について学びます。 4. たった 1 企業からなる独占市場やあまり多くない企業からなる不完全市場における価格と産出量の決定の仕方、市場参入障壁の存在、市場均衡を学びます。 5. 2、3 の企業だけで成り立っている寡占市場における企業行動について学びます。 6. 独占市場や不完全競争市場の非効率性とこれに対する政府の政策はどのようなものかを学びます。 7. 技術進歩 「知識」という財の生産 とこれについての制度、政府の政策を学びます。 8. 生産物市場における「情報」の機能について学びます。 9. 公正な競争促進政策の法律である独占禁止法の基本的考え方、目的と体系について学びます。 10. 独占禁止法（以下独禁法という）によるカルテルの規制、不公平な取引方法の規制について学びます。 11. 独禁法による経済力集中の規制と独禁法の運用体制について学びます。 12. 日米 EU の独禁法の違いについて学びます。 13. 日本の生産物市場の現状について経済統計で学びます。 14. 産業組織分析の基本概念と企業の仕組みについて学びます。 15. 独占市場における企業行動とそれがもたらす経済的結果について学びます。 16. 垂直統合と垂直的制限について学びます。 17. 価格競争、数量競争などの競争の形態について学びます。 18. 市場への参入の経済効果について学びます。 19. カルテルと合併の経済的影響について学びます。 20. 情報の不完全性と企業行動との関係について学びます。 21. 生産物市場における企業の戦略的行動について学びます。 22. 技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発などについて学びます。 23. 貿易と直接投資の生産物市場に与える影響について学びます。 24. 規制と規制改革について学びます。
----------------------------	--

科 目 名	流通経済論	担当者名	西 村 允 克
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>流通とは、財・サービスが生産者から消費者へ移転する過程で、この移転過程を分析するための論理システムの理解と現実の流通経済の理解が、本講義の目的である。流通経済論は従来流通システムとして把握され、その視点から分析がなされているが、本講義では、流通は経済システムの中心的部分を占めるから、経済学的視点から流通を把握し、経済理論との関連において流通を理解することが、本講義の最も重要な目的である。</p>		
講 義 概 要	<p>指定したテキストには、流通経済に関連する統計データが多く含まれている。講義はこれらの統計データを基礎として進められ、テキストに不十分な点をカバーしながら進行するから、テキストを読んでいることを前提としている。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	ゼミナール流通入門 田島義博編著 日本経済新聞社	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本流通新聞社編『流通現代史』 日本経済新聞社 ・日経流通新聞社編『流通経済の手引 98』 日本経済新聞社 ・(本書には、各年版があり、それぞれの年の流通問題、流通統計が説明されている) ・アクネア、メイ著 清水 猛訳『小売の輪は廻る』 有斐閣 ・林 周二著『流通』 日経文庫 ・鈴木安昭 関根 孝 矢作敏行編『マテリアル 流通と商業』 有斐閣 	
評 価 方 法	<p>{ 前期 試験 後期 試験</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>流通現象の多くは、日々受講者の生活環境のなかで生起しているものであるから、講義内容を生活体験を通じて追体験して理解を深められたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 流通経済分析の基礎理論(1) 主要な用語について 流通経済とは、流通主体、流通チャネル、流通費用、リベート、流通市場 2. 流通経済分析の基礎理論(2) 価格を中心として 3. 流通経済分析の基礎理論(3) 前回のつづき 4. 流通経済分析の基礎理論(4) 統計データの読み方を中心として 5. 小売業の変化(1) 流通革命論を中心として、 第1次流通革命、第2次流通革命 6. 小売業の変化(2) チェーン・ストアを中心として 7. 卸売業 卸売業とは、卸売業の現状 8. 百貨店 9. スーパー(1) 10. スーパー(2) 11. コンビニエンス・ストア 12. 前期のまとめ 13. 専門量販店 14. ショッピング・センター(1) 15. ショッピング・センター(2) 16. 小売商業間競争と商店街 17. 青果物と米の流通構造(1) 18. 青果物と米の流通構造(2) 19. 消費生活協同組合 20. 流通規制の問題(1) 大店舗法を中心として 21. 流通規制の問題(2) 再販売価格維持制度を中心として 22. 流通規制の問題(3) 消費者保護を中心として 23. 98年度の流通問題 96年度に発生した流通問題を取り上げ、これまでの学習成果を再確認する。 24. まとめ
----------------------------	--

科目名	交通論	担当者名	山野邊 義方
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>交通は、人や物の空間的・地点間移動であり、経済社会にとって、不可欠のサービスである。第2次大戦後、日本経済の発展とともに、交通部門の整備・近代化を図ることが重要な課題になった。交通政策は、交通事業者間の競争と、利用者の自由な選択を反映する市場構造を整備するために、規制の見直しや、競争促進施策を推進する方向に向かっている。</p> <p>このような時代の進展のなかで、個別企業、国民経済、国際経済等の観点から、交通の体系、実態および将来方向について考察する。</p>		
講義概要	<p>前期は、交通の概念と機能、日本経済の発展と交通との関連、交通サービスの需要と供給、交通機能の管理等に重点を置く。</p> <p>後期は、各交通手段の特性と実態、国際交通の展開、交通事業の経営、交通の将来方向等に重点を置く。</p> <p>前期、後期を通じ、交通を旅客輸送と貨物輸送に大別し、貨物輸送については、物流機能・物流システムを構成する主要機能として考察する。</p>		
使用教材	テキスト	山野邊義方著「物流管理の基礎」白桃書房刊	
	参考文献		
評価方法	前期・後期の定期試験。出席状況等により、総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	講義に常時出席することはもとより、新聞を読み、交通・物流の動向、交通・物流活動に影響を与えている諸要因の認識など、問題意識をもつことが必要である。		

1. 交通の概念・基本的機能
2. 日本経済と交通、産業構造と交通、都市交通、交通構造
3. 貨物の専用輸送と雑貨輸送
4. 交通サービスの需要と供給
5. 需要開発型事業、労働力の活用
6. 交通の基礎施設・拠点施設
7. 交通の拠点施設 - 中小企業の集団化と共同事業
8. 交通政策、交通近代化の要請、物流の近代化
9. 運輸行政と法規制
10. 規制緩和と交通
11. 企業経営と交通
12. 交通サービスの管理、物流管理
13. 物流機能と貨物輸送
14. 物流システムと貨物輸送
15. 貨物輸送と物流の合理化
16. 各交通手段の特性、鉄道、自動車
17. 船舶、航空
18. 国際海運、国際航空
19. 交通手段の複合化、複合輸送
20. 配送
21. 共同配送
22. 交通と情報
23. 交通事業と経営の多角化、総合物流事業
24. 交通の将来展望

科 目 名	地域産業政策論	担当者名	伊 藤 正 昭
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>これまで、産業政策と地域政策は別々の研究分野として発展してきた。もともと、産業は地域に立地し、地域経済は産業なくして存立できないことを考えると、産業と地域の経済政策として統合されなければならない。</p> <p>こうした観点から、産業と地域のかかわりを研究しながら、その政策の理論とあり方について学ぶことをねらいとしたい。</p> <p>とくに、わが国の例を参考にしながら、産業政策の理論と現実、地域政策の実際とめざすべき方向性を明らかにすることを努めたい。</p>				
講 義 概 要	<p>わが国では産業政策（ industrial policy ）という言葉がよく使われる。しかし、産業政策は、経済政策のなかでも位置づけが曖昧で、理論的な基礎も確立していない。わが国ではなじみの深い産業政策は、先進各国では最近になって注目するようになったものである。</p> <p>講義では、わが国の産業政策の実態を分析しながら、産業政策の体系的な理解に努める。これによって産業構造政策の特異性が明らかになるであろう。ついで、産業組織政策（独占禁止政策）の意義と内容に触れ、産業構造政策との関係を明らかにする。</p> <p>さらに、地方分権化、地域の自立、地域産業をキーワードにしながら、地域経済のあり方を多面的に検討してみたい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>伊藤正昭 『地域産業論』学文社、1997年。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭 『産業と地域の経済政策』学文社、1989年。 ・小宮隆太郎・奥野正寛他編 『日本の産業政策』東大出版会、1984年。 ・伊藤元重・清野一治他著 『産業政策の経済分析』東大出版会、1988年。 ・今井賢一・小宮隆太郎編 『日本の企業』東大出版会、1989年。 ・三輪芳郎 『日本の企業と産業組織』東大出版会、1990年。 ・チャーマーズ・ジョンソン / 矢野監訳 『通産省と日本の奇跡』TBS ブリタニカ ・O. E. ウィリアムソン / 浅沼・岩崎訳 『市場と企業組織』日本評論社、1980年。 </td> </tr> </table>	テキスト	伊藤正昭 『地域産業論』学文社、1997年。	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭 『産業と地域の経済政策』学文社、1989年。 ・小宮隆太郎・奥野正寛他編 『日本の産業政策』東大出版会、1984年。 ・伊藤元重・清野一治他著 『産業政策の経済分析』東大出版会、1988年。 ・今井賢一・小宮隆太郎編 『日本の企業』東大出版会、1989年。 ・三輪芳郎 『日本の企業と産業組織』東大出版会、1990年。 ・チャーマーズ・ジョンソン / 矢野監訳 『通産省と日本の奇跡』TBS ブリタニカ ・O. E. ウィリアムソン / 浅沼・岩崎訳 『市場と企業組織』日本評論社、1980年。
テキスト	伊藤正昭 『地域産業論』学文社、1997年。				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭 『産業と地域の経済政策』学文社、1989年。 ・小宮隆太郎・奥野正寛他編 『日本の産業政策』東大出版会、1984年。 ・伊藤元重・清野一治他著 『産業政策の経済分析』東大出版会、1988年。 ・今井賢一・小宮隆太郎編 『日本の企業』東大出版会、1989年。 ・三輪芳郎 『日本の企業と産業組織』東大出版会、1990年。 ・チャーマーズ・ジョンソン / 矢野監訳 『通産省と日本の奇跡』TBS ブリタニカ ・O. E. ウィリアムソン / 浅沼・岩崎訳 『市場と企業組織』日本評論社、1980年。 				
評 価 方 法	前期末および学年末に筆記試験を行って、成績の評価を行う。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	関連科目：経済政策				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域主義とその主張 2. 地域社会の論理と産業の論理 3. 市場システムと企業および地域経済 4. 産業地域分析の視点 5. 産業地域の形成論理 6. 第二の産業分水嶺と柔軟な専門化 7. 規模の経済と地域経済 8. 産業構造の高度化と地域構造調整 9. 都市化の経済とネットワーク化 10. 大都市の工業集積 11. 都市型工業集積の変質と技術の空洞化 12. 地方圏における機械工業集積 13. 前半のまとめ 14. 企業城下町型の工業集積と下請分業生産システム 15. 下請分業生産体制の変容 16. 産地型集積の社会的分業 17. イタリアにみる発展する産業地域 18. 地域企業家精神と創業 19. 地域ベンチャー・ビジネス 20. 地域インキュベータ 21. 地域からの産業政策 22. 内発的地域振興の選択 23. ローカル・エンパワメント 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	地方財政論	担当者名	伊 藤 為一郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>地方財政は「行政のデパート」といわれるように、福祉、教育、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策などまで多様なサービスを供給している。地方公共団体のこのような活動をとらえたものが地方財政である。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが課題である。</p>		
講 義 概 要	<p>都道府県から市町村まで 3200 余もある地方団体は社会経済的条件が様々であり、一律に論ずることは不可能であるが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>講義のはじめに指示する。</p>	
	参 考 文 献	<p>講義の中でその都度指示する。</p>	
評 価 方 法	<p>年度末の成績および中間テストの成績によって評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	1. はじめに 地方財政の役割 国民経済と地方財政 国と地方の財政 諸外国では 文献紹介
	2. 地方財政の現状 わが国経済の現況 財政の現況 歴史の変遷
	3. 地方公共団体の多様性 都道府県 市町村 社会経済条件の多様性
	4. 地方自治・財政の歴史 明治期 大正デモクラシー シャウブ勧告 昭和30年代 40年代 50年代 70年代以後
	5. 公共支出の拡大と役割の変化 公共支出の機能 地方公共財の供給 範囲の拡大と規模の膨張 支出構造の変化 赤字
	6. 地方収入 国と地方の税源配分 地方税体系 地方財源の偏在 税源の再配分
	7. 地方財政調整制度 地方交付税 国庫支出金 地方譲与税 地方消費税
	8. 政府間関係 国と地方の役割分担再考 事務と税の配分 諸外国における政府間関係
	9. 地方債 地方債の制度 地方債の累増 地方債の償還と負担
	10. 地方公営企業の現状 公営企業の経営状況 独立採算制 公営企業の財政再建
	11. 地方分権と行政改革 地方分権の動き 分権委員会の「勧告案」 行政改革への取組み
	12. まとめ

科 目 名	国際金融論	担当者名	山 本 美樹子
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>金融とはお金を融通しあうことである。これは国内であっても、国際間であっても同じことである。ただ、国際間では通貨単位が異なるため、国内金融とは異なる問題が生じてくる。</p> <p>本講義では国際金融にスペシフィックな事柄に焦点を当てて説明し、これから社会にでていく諸君が、日々の新聞やニュース等をにぎわしている国際金融に関連した記事を読みこなしていくことができるようにしたいと考えている。</p>		
講 義 概 要	<p>これから国際金融論を学ぶ上で最低限覚えていてほしいことがらについて、たとえば為替レートとは何か、どのようにして決まるのか、政府の介入とは何か、という基礎的な問題を説明した上で、平成 10 年 4 月 1 日に施行された外国為替法が日本経済にどのような影響を与えているのかとか、本年 1 月 1 日よりヨーロッパで誕生した共通通貨ユーロについての説明も考えている。</p> <p>後期には開放マクロ経済学をした上で、国際的な資金移動のメカニズムについて説明していく。外国為替法により、国際間の資金移動はより活発になったが、ロシアのルーブル危機、中南米諸国、東アジアの経済危機を経験し、国際的な資本移動も新しい局面を迎えている。ビッグバンをまえにして今国際金融がどのような問題を抱えているのかについても論じたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に定めない	
	参 考 文 献	<p>渡辺福太郎編 「エレメンタル国際経済学」 英創社</p> <p>伊藤元重 「ゼミナール国際経済入門」 日経新聞社</p> <p>須田美矢子 「ゼミナール国際金融入門」 日経新聞社</p> <p>高木信二 「入門国際金融論」 日本評論社</p>	
評 価 方 法	<p>後期の試験</p> <p>レポートを課す場合がある</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	出席をきちんとすること		

議題を始めるに当たって

第1部 国際収支

第1章 国際収支とは何か

- 第1節 国際収支表
- 第2節 経常収支とは
- 第3節 経常収支の金融的メカニズム
- 第4節 経常収支の変動メカニズム

第2部 外国為替取引と為替レート

第2章 外国為替取引と為替レート

- 第1節 外国為替市場と為替レート
- 第2節 為替リスクとヘッジング（新外国為替法による企業の外貨決済、ネットィングにもふれる。

金利裁定取引

- 第3節 為替投機
- 第4節 政府の外貨市場への介入（1）
- 第5節 新外国為替法が我々の生活に与える影響について
個人消費、企業の決済、外国為替取扱銀行のあるべき姿について

第3章 為替レートの決定と変動の理論

- 第1節 購買力平價説
- 第2節 フローアプローチ vs アセットアプローチ

第4章 固定相場制

- 第1節 金本位制とIMFのブレトンウッズ体制
- 第2節 固定相場制のメカニズム
- 第3節 世界の通貨制度
- 第4節 欧州の新通貨制度とEUROについて

第3部 開放マクロ経済学と開放マクロ経済政策

第5章 開放マクロ経済政策

- 第1節 外国貿易乗数の理論
- 第2節 固定相場制下での開放マクロ経済政策
ティンバーゲンの理論と国際収支均衡曲線
- 第3節 変動相場下での開放マクロ経済政策
機関車論について
- 第4節 どの制度にどの政策があうのか

第4部 国際資本移動の拡大（新外国為替法の下での）

第6章 国際金融取引拡大の背景

- 第1節 国際取引とはなにか
- 第2節 国際資本移動とはなにか
- 第3節 国際投資と為替レート
- 第4節 外国為替のスワップ取引の具体的形態
- 第5節 オプション取引
- 第6節 新外国為替法の下での国際資本移動

第7章 アジアの金融センターとしての東京外国為替市場の現状（ビッグバンに向けて）

第8章 まとめ

科目名	国際法	担当者名	廣部 和也
-----	-----	------	-------

講義の目標	国際社会の法である国際法の基礎的知識及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。		
講義概要			
使用教材	テキスト	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 解説条件集(石末泰雄・小田滋編)(三省堂)	
	参考文献		
評価方法	試験による。(中間試験を行う予定である)		
受講者に対する要望など	関心を持って学ぶこと		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般に関する注意。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際法の意義 ・ 国際法主体(国家、国際組織、個人) 2. 国際法の法源(国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。) 3. 国際法の歴史(国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。) 4. 国際法と国内法(両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。) 5. 国家の成立(国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。) 6. 国家の基本権(国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。) 7. 国際社会の組織化1(国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。) 8. 国際社会の組織化2(国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようになっているのか。) 9. 国家領域1(国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。) 10. 国家領域2(領海制度と無害通航権) 11. 公海制度と船舶の通航(公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取扱い) 12. 大陸棚、排他的経済水域(大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。) 13. 深海底(深海底とその資源の法的地位及び開発) 14. 航空機の地位(航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。) 15. 宇宙法(宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位) 16. 個人の地位(国籍、外交保護権、など) 17. 人権の国際的保護(世界人権規約や国際人権規約などによる基本的人権の保護とその保障措置) 18. 国際犯罪(個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度) 19. 外交使節(外交官及び領事の地位、特権免除) 20. 国家責任(国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除) 21. 国際環境の保護(人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面) 22. 国際紛争の平和的解決(国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか) 23. 国際裁判(国際仲裁裁判と国際司法裁判) 24. 安全保障制度(国連による集団安全保障体制) 		

科 目 名	外国書研究	担当者名	岡 村 国 和
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義の目標は、主として英国の経済分野あるいは経営分野の専門書を講読し、その内容を理解した上で検討することにある。さしあたりテキストの輪読を行うが、翻訳することが主要目標ではなく内容の検討が主要目標であることを十分に認識して欲しい。区切れごとにディスカッションやディベートすることを予定している。専門用語が多い分野なので、受講希望者は、テキストのより一層の理解を深めるために講義中に紹介する関連文献による予習を厭わないで欲しい。</p>		
講 義 概 要	<p>本年度はイリスのグリーン・ペーパーを用いて、英国型福祉国家の基本理念及びそれに基づく福祉政策を研究する予定である。さしあたり社会保障をめぐる経済・社会環境の変化を検討するため、EU（ヨーロッパ共同体）およびEMU（ヨーロッパ通貨統合）への参加基準・参加条件などについての予備学習を行う。EMU参加に伴い自国通貨は廃止されることになるので、参加各国にとって将来を決する問題といっても過言ではない。本論は社会保障とくに年金や医療について論及されることになるので、基本理論について別途学習する機会を設ける。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>New ambitions for country; A New Contract for Welfare, Green Paper, Cm3805, 1998.ただしプリントして配布する。</p>	
	参 考 文 献	<p>講義中に適宜紹介する。</p>	
評 価 方 法	<p>主として出席状況およびレポート・発言内容等によって評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>輪読の速度が速いので、予習の労を惜しまない者の参加を希望する。またディベート時に自己の意見を展開する意欲のある者の参加を期待する。</p>		

科 目 名	外国書研究	担当者名	小 林 進
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>外書 は選択科目なので、英語の力を一層向上させたいかまたは現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお 4 年生については、あらかじめ担当教官の承認を受けた学生のみ受講を許可する。</p>		
講 義 概 要	<p>講読を中心とする</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>Olivier Blanchard, <i>Macroeconomics</i>, 1997</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>平常の出欠と予習を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	外国書研究	担当者名	小 林 哲 也
-------	-------	------	---------

講義の目標	多国籍企業と世界経済に関する、英文の専門書を読みすすめながら、世界経済の構造変化について考察する。		
講義概要			
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Richard Barnet & John Cavanagh ・ GLOBAL DREAMS, Simon & Schuster,94 	
	参考文献	授業中に適宜、指示する。 語数、20万程度の英和辞典（例えば研究社『現代英和』など）を用意しておくこと。	
評価方法	平常点を重視する。		
受講者に対する要望など	専門書の英文の読解が中心となるので、きちんとした予習・復習が要求される。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：英文経済専門書を読む意義 2. The Age of Globalization 3. Global Dreams 4. The Technology of Pleasure 5. A Small Town Global Giant 6. Of the Making Books 7. Global Entertainment and Local Taste 8. The Global Shopping Mall 9. The Global Customer 10. Marlboro Country 11. The Global Grocer 12. Excursion:英文経済情報活用法 13. The Global Workplace 14. Mass Production in Post Modern Times 15. The New Division of Labor(1) 16. The New Division of Labor(2) 17. The Transformed Workplace 18. Politics, Markets, and Jobs 19. Global Money 20. Bankers in a World of Debt 21. Global Finance and Banking Crisis 22. The Future of Money 23. Digital Cashe 		

科 目 名	外国書研究	担当者名	高 橋 善四郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>古典講読 経済学の古典学派のジョン・スチュアート・ミル (John Stuart Mill) の『経済学原理』を講読する。</p>		
講 義 概 要	<p>Principle of Political Economy, with some of their Application to Social Philosophy</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>テキストのコピーを配布する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>期末試験の成績、出欠状況、ノートの提出、授業における評価を総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	外国書研究	担当者名	高 松 和 幸
-------	-------	------	---------

講義の目標	現代経営学に影響を与えた名著を読む。 英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説などを加えることで習得を目指す。		
講義概要	前期は Simon の <i>Models of Man</i> の中で出てくる有名な概念「Bounded Rationality」を取り上げる。それは、「Rationality and Administrative Decision Making」や「A Behavioral Model of Rational Choice」などである。 後期は James G. A March & Herbert A. Simon の <i>Organizations</i> の中で出てくる有名な概念「Cognitive limits on rationality」を取り上げる。		
使用教材	テキスト	・本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、必要に応じて他文献のコピーも配布する予定である。	
	参考文献		
評価方法	レポートの結果などにより、成績評価する。		
受講者に対する要望など	予習・復習をすること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「Rationality and Administrative Decision Making」と「A Behavioral Model of Rational Choice」の概要説明 2. ~ 11. 毎回 1~2 頁程度の進捗予定 12. まとめ 13. 「Cognitive limits on rationality」の概要説明 14. The concept of Rationarity 15. same as above 16. Performance programs in organizations 17. same as above 18. Perception and indentifications 19. same as above 20. The division of work 21. same as above 22. Communication 23. same as above 24. まとめ 		

科 目 名	外国書研究	担当者名	富 田 忠 義
-------	-------	------	---------

講義の目標	経営学の原書が読めるようになること。		
講義概要	テキストの講読。順番で訳していきます。 テキストは経営戦略の学習の際の重要文献です。 すでに翻訳がでております。		
使用教材	テキスト	Michael E. Porter "Competitive Advantage" 1985	
	参考文献		
評価方法	期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価します。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画			

科 目 名	外国書研究	担当者名	森 健
-------	-------	------	-----

講義の目標	<p>日本を含むアジア太平洋地域の多くの国（地域）は、近年、深刻な経済不振に陥った。経済不振がさらに政治体制を揺るがすに至った国も多い。これらの国の多くは過去 20 年余、奇跡とも言われた高度成長を遂げてきた。何故、そのような国が経済不振、政治危機を招くにいったのか。また、この地域にあっても台湾、豪州などは比較的好調な経済運営を続けてきた。何故か。この講義の目的は、かかる問題について触れた学術論文、定期刊行物・新聞記事等を読み、この地域の経済についての理解を深めることにある。</p>		
講義概要	<p>上記で触れた問題に関連する学術論文、良質の定期刊行物、新聞等の記事を適宜コピーし、授業の当日配布するので、先ず、辞書なしで概要を把握する訓練をする（自分の判断した要旨を作成、相互に検討する）。次に、辞書等を用い、徹底的に内容を検討する。不明なところは次回までの宿題として調査をする。予習は無いが、復習と関連事項の調査とその理解に精力を使うことになる。</p>		
使用教材	テキスト	学術論文、英文経済誌、新聞記事などのコピー。	
	参考文献		
評価方法	通常の授業参加を主とし、定期試験結果を参考として総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	英語の授業ではなく経済（学）の授業である。異なった国において形式は違っても同じ経済原則が貫かれている例の多いことを学んで欲しい。		

科 目 名	外国書研究	担当者名	山 本 美樹子
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	私が行っていた外国書研究 を英字新聞を読むことの基礎編とすると、この講義はその応用編と考えてもらいたい。扱う記事は社説等、内容的にも、英語の言い回し的にも高度なものを扱っていく。		
講 義 概 要	英字新聞には新聞独特の言い回しがあるが、そのような点にも注意を払いつつ、授業を進めていく。扱う記事は、最新のもので、最近の経済状況を意見として述べている社説等を取り上げていく。特に私の専門である国際金融的、さらに混迷している日本の金融状況について扱っているものを中心としていきたいと思っている。		
使 用 教 材	テキスト	特になし。授業で使う記事は毎回プリントして配る。	
	参 考 文 献	特になし。	
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期の学期末試験 ・出席回数（欠席回数が3回を越える場合には単位は出さない） ・予習を含めた平常点（指名されたとき予習していなくて訳せない場合も3回以上の場合は欠席1回にカウントする） 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	演習なので講義には学生が積極的に参加していくことが前提となるので、できる限り出席してほしい。また出席だけでなく、予習を含めて講義に積極的に「参加」してほしい。		

年 間 授 業 計 画	1. 外国書研究 をどのように進めるのかについての説明 2. 前の週に配られたプリントを読んでいく。(第 2 週～第 11 週) 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 前期の期末試験 13. 前期末に配られたプリントを読んでいく。(後期第 1 週～第 11 週) 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 後期の期末試験
----------------------------	--

科 目 名	外国書研究（ドイツ語）	担当者名	御園生 眞
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	現代ドイツ経済やドイツ経済史に関するドイツ語テキストを読みながら、近現代ドイツ経済の理解を深めたいと思います。		
講 義 概 要	テキストを分担して訳してもらい、それに解説を加え、議論しつつ講義を進めます。		
使 用 教 材	テキスト	未定。履修希望者と相談して決定する予定。	
	参 考 文 献	第1回の授業の時に指示する。	
評 価 方 法	出席を重視します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	原則としてドイツ語の外書 を履修した人を対象とします。 履修希望者は、必ず第1回の授業に出席すること。		

科 目 名	外国書研究（外国人学生用）	担当者名	本 田 浩 邦
-------	---------------	------	---------

講義の目標	留学生向けの日本語による入門的な経済問題の学習		
講義概要	日本経済の構造的な特徴を欧米やアジアと比較検討する。		
使用教材	テキスト	（仮）橋木俊詔『日本の経済格差 所得と資産から考える』岩波新書	
	参考文献		
評価方法	平常点と後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など	継続的に出席していただきたい。		
年間授業計画	具体的なスケジュールやレポートの分担などについては第 1 回目に受講者の問題意識を聞いた上で決めたい。		

科 目 名	社会会計論	担当者名	湯 田 雅 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>'70年代の2度の石油危機を契機として、工業社会の成長にともなうコストが先進工業国の市民の間で意識されるようになり、新たな社会に適合した会計情報が求められるようになった。伝統的な企業会計から選られる会計情報だけで企業の真の実像を把握することは、もはや不可能になったのである。</p> <p>このような時代の変化を踏まえて、本講義では、真の企業像み把握するために、緊急に取り組むべき最先端のテーマの一つである環境マネジメント、環境監査および環境会計の内容と最近の動向を解説する。</p>				
講 義 概 要	<p>社会関連会計は、'80年代後半に至り、とくに環境保護の観点からエコ Bilanz (環境監査、環境管理 ; Okobilanz = Environmental Audit) の領域で新たな展開をみせている。EU では EMAS、EU 域外の国々では ISO14000 シリーズという二つの環境マネジメント・環境監査に関する国際規格が施行した。EU の動向を踏えつつ、ドイツ、スイスおよびわが国の最新の事例を概観しながら環境マネジメント、環境監査および環境会計について考察したい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>湯田雅夫『ドイツ環境会計論』中央経済社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No.15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向 ドイツ語圏諸国を中心として』『国際会計研究学会 '93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。 </td> </tr> </table>	テキスト	湯田雅夫『ドイツ環境会計論』中央経済社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No.15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向 ドイツ語圏諸国を中心として』『国際会計研究学会 '93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。
テキスト	湯田雅夫『ドイツ環境会計論』中央経済社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No.15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向 ドイツ語圏諸国を中心として』『国際会計研究学会 '93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。 				
評 価 方 法	<p>当該講義課目の成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。</p> <p>なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>履修条件は、とくに定めない。将来、証券アナリスト、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望する者、企業経営を志す者ならびに地球環境問題に関心のある者は、履修することが望ましい。</p>				

1. オリエンテーション
2. 第1章 国際規格化と会計情報(1)
3. 第1章 国際規格化と会計情報(2)
4. 第1章 国際規格化と会計情報(3)
5. 第2章 環境情報の変遷(1)
6. 第2章 環境情報の変遷(2)
7. 第2章 環境情報の変遷(3)
8. 第3章 エコピランツ(1)
9. 第3章 エコピランツ(2)
10. 第3章 エコピランツ(3)
11. 第4章 エココントローリング(1)
12. 第4章 エココントローリング(2)
13. 第4章 エココントローリング(3)
14. 第5章 環境監査(1)
15. 第5章 環境監査(2)
16. 第5章 環境監査(3)
17. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(1)
18. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(2)
19. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(3)
20. 第7章 環境マネジメント会計(1)
21. 第7章 環境マネジメント会計(2)
22. 第8章 環境会計(1)
23. 第8章 環境会計(2)
24. 終章 財務情報、社会情報、環境情報の統合に向けて

科 目 名	管理会計論	担当者名	香 取 徹
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>企業の経営者や管理者およびこれを助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。</p>		
講 義 概 要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるために会計情報の計数的な分析を講義します。</p> <p>前半は、意思決定に役立つコストの考え方、利益の測り方などを整理し、改善管理に役立つ分析の仕方や生産及び販売計画への応用について、教科書を中心にして講義し、練習問題やケーススタディのプリントを配布して全員で解いていきます。</p> <p>後半は、設備投資計画とキャッシュフロー利益の考え方、戦略計画における収益性の尺度の問題や会計情報のあり方などをとりあげます。実際にコンピューターを使ってシミュレーションモデルを作成して、キャッシュフロー情報と財務諸表情報とを分析します。</p>		
使 用 教 材	テキスト	『キャッシュフロー管理会計』伊藤・香取 中央経済社	
	参考文献	・桜井通晴著『管理会計』同文館	
評 価 方 法	定期試験のみ（教科書持込）		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	2年修了時までには授業で簿記原理を修得しているか、日商3級程度の実力のある者が望ましい。コンピューターについての知識は、初めから教えるので特別必要とはしません。		

年 間 授 業 計 画	第1週 管理会計の基礎
	第2週～第4週 経済的な意思決定の重要性と考え方
	1, 経済的な意思決定とキャッシュフロー
	2, 意思決定のプロセス
	3, 関連原価と無関連原価
	4, 手余り状態と手不足状態
	第5週～第7週 意思決定のタイプと判断基準
	1, 意思決定問題のタイプ
	2, 独立案からの選択問題
	3, 排反案からの選択問題
	4, 混合案からの選択問題
	5, 自己資金の正味利益とは
	第8週～第10週 短期利益計画とシミュレーション
	1, 目標利益の設定
	2, シミュレーション
	3, 損益分岐点分析
	4, 短期利益計画
第11週～第13週	
1, 事業部制	
2, 原価企画	
3, ABC・ABM	
第14週～第16週 投資分析とキャッシュフロー利益	
1, 資金の時間価値	
2, キャッシュフロー図	
3, 時間換算	
4, 税引後利益と経済性	
第17週～ コンピューターを使っての長期計画の収益性と会計情報	
1, 投資の評価指標と選択指標	
2, PIC	

科 目 名	経営分析論	担当者名	百 瀬 房 徳
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させた。現在では特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにある。</p>		
講 義 概 要	<p>前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>・松尾・前林著編『入門経営分析』</p>	
	参 考 文 献	<p>無し</p>	
評 価 方 法	<p>テーマごとにレポートを完成させて提出してもらう。このレポートを中心に評価する。後期にはレポートが理解されているかテストする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	1年間の講義内容の説明。
	2	米国における経済環境における手形市場の形成過程
	3	手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
	4	信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
	5	信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程
	6	信用分析のケース・スタディ ケース -ウォール、ケース -プリス、ケース -シュルター
	7	信用分析のケース・スタディ ケース -ギルマン、ケース -ウォール、ケース -シュマルツ
	8	収益性の分析およびその他の分析への発展
	9	経営分析の意義とその限界
	10	経営分析の主体と目的
	11	経営分析の種類
	12	経営分析の体系
	備考	
	後 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	安全性の分析(1)...比率分析 新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
	2	安全性の分析(2)...資金運用表の作成 レポート提出
	3	安全性の分析(3)...資金移動表の作成 レポート提出
	4	収益性の分析(1)...各種資本利益率
	5	収益性の分析(2)...売上高利益率と資本回転率 収益性の分析”とくをまとめてレポート提出
	6	収益性の分析(3)...利益増・減原因分析 レポート提出
	7	生産性の分析(1)...付加価値の意義
8	生産性の分析(2)...付加価値の計算と数値の意味	
9	生産性の分析(3)...付加価値の計算 レポート提出	
10	損益分岐点分析(1)...損益分岐点の意義	
11	損益分岐点分析(2)...損益分岐点の計算と数値の意味	
12	損益分岐点分析(3)...損益分岐点の計算 レポート提出	
備考		

科 目 名	会計監査論	担当者名	長 吉 眞 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>会計監査について、その構造と制度についての理解をめざす。具体的な監査手続については、後期において4コマを割り当て、注意すべき点や盲点となりがちな事項について説明し、これらの理解をうながす。</p> <p>講義は、会計監査論の理論的な理解と、具体的な監査手続の二本建てとなるが、相互の関連性について、常に注意を喚起していきたい。</p>				
講 義 概 要	<p>会計監査に関する基本的な知識と具体的な監査手続について学ぶ。講義はテキストを中心に実施するが、監査は実務と密着し理論と実務が相俟って発展してきた新しい科学であるため、実務を抜きにしては考えられない。このため、講義のあい間に関連する実務上のトピックス等についても必要に応じて説明するつもりである。</p> <p>講義は平明に行うが、周辺科学を履習済みであることが望ましい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>長吉眞一『財務諸表監査の理論』中央経済社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	長吉眞一『財務諸表監査の理論』中央経済社	参考文献	
テキスト	長吉眞一『財務諸表監査の理論』中央経済社				
参考文献					
評 価 方 法	<p>前期はレポート提出による。</p> <p>後期は試験を実施する。</p> <p>成績評価はそれらを総合的に勘案して行う。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>簿記原理、会計学原理、財務会計論などを履習していることが望ましい。とくに、簿記原理は履習していないと、用語についても理解できないおそれがある。</p>				

1. 一年間の講義概要の説明 会計監査論とその周辺の会計科目との関連性の説明
2. 財務諸表監査の意義（監査の意義をふくむ。） 財務諸表監査と経営者による不正との関連
3. 監査基準
4. 監査人（その意義、独立性、監査法人）
5. 監査人（組織的な監査、正当な注意、責任、守秘義務）
6. 監査証拠と合理的な基礎
7. 監査要点
8. 内部統制（その構造、財務諸表監査との関連）
9. 内部統制（その調査、評価）
10. 監査計画（その意義、組織的な監査との関連）
11. 監査計画（基本計画、年度計画、実施計画）
12. 予備及び前期の総括
13. 監査手続（通常実施すべき監査手続、分析的手続、一般監査手続）
14. 監査手続（個別監査手続）
15. 資産科目の監査手続（現金預金）
16. 資産科目の監査手続（売掛金）
17. 負債科目の監査手続（支払手形、買掛金）
18. 損益科目の監査手続
19. 監査調書
20. 監査報告書（その意義、審査機関への付議）
21. 監査報告書（その種類、構造、特記事項）
22. 監査報告書（個別意見と総合意見）
23. 中間財務諸表の監査、連結財務諸表の監査
24. 一年間のまとめとして、財務諸表監査のあり方や将来の展望等について考察する。

科 目 名	税務会計論	担当者名	山 田 浩 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現実の企業の会計実践においては、法人税を中心とする企業課税の概要に関する理解が重要であるとともに、税務と企業会計の相互関係の理解が重要となる。また、国際的動向に対する理解も必要となろう。すなわち、講義の目的は次のとおりとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、法人税法の趣旨と計算構造の理解 2、会計的思考と税務的思考の相違の把握 3、法人税法等の会計に与えるインパクトの検討 4、諸外国の税務・会計制度との比較検討 	
講 義 概 要	<p>本講義では、会計および税務が対象とする個々の経済事象がいかなるものかについての理解の形成につとめた上で、現行制度上、企業利益や課税所得の計算において、それら経済事象がどのように取扱われていくのかを把握していくこととする。さらに、必要に応じて現行制度についての批判的検討を加えることとなる。</p> <p>すなわち、確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、真実公正な会計の実現を阻害している面があるということ、また、国家単位の税務規制と国際的共通性の強い会計基準との調整が重要な課題となりつつあるといった点である。</p>	
使 用 教 材	テキスト	『税務会計要論』中田信正著（同文館）
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』（中央経済社他） ・『法人税法規集』（中央経済社他） ・『法人税取扱通達集』（中央経済社他） ・『総説税務会計』 鈴木明男・鈴木 豊共著（税務経理協会） ・『税務会計論』 井上久彌（中央経済社） ・『法人税法精説』 武田隆二著（森山書店） <p>その他に法人税・税務会計関係書籍多数が参考となる。</p>
評 価 方 法	<p>前期および後期 2 回の定期試験における成績を基礎として評価する予定である。また、授業時間内の積極的な発言（問題提起、質問、意見等）については評価において考慮したいと考えている。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講義の履修にあたっては会計学原理、財務会計論、財政学等の関連科目の履修が有用であるが、特に簿記については基礎知識として把握しておいてもらいたい。</p>	

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 税務会計論の対象と方法 年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取り扱う。 2. 租税制度 租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。 3. 制度会計の構造 制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。 4. 法人税法上の課税所得の計算 企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。 5. 公正会計処理基準 法人税法第 22 条 4 項にいう公正会計処理基準の意義を考え、会計理論の GAAP 等との関連を考えていく。 6. 税務会計判断の特性 税務判断の特徴的な考え方を、実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等を通じてみていく。 7. 売上収益と金銭債権 販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。 8. 有価証券と受取配当 有価証券の意義、分類、認識と測定、評価に触れた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。 9. 売上原価と棚卸資産 売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。 10. 有形固定資産・減価償却・リース 有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。 11. 圧縮記帳 圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。 12. 無形固定資産・借地権 無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。 13. 繰延資産 繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上の扱いを概観する。 14. 引当金・準備金 会計上の引当金、商法上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点等を解明する。 15. 給与・報酬・源泉徴収 役員と従業員とにおける人件費用の取扱いの相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱いをみる。 16. 交際費・寄付金 交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。 17. 租税公課 企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱と、税法上の取扱いの相違点をみていく。 18. 自己資本 資本等取引における税務上の取扱を中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。 19. 合併・分割・解散 企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。 20. 国際課税 企業の国際活動に伴って派生する、外国税額控除、タックスヘイブン、移転価格税制といった問題を取扱う。 21. 申告・納税制度の概要・連結納税制度 税務会計上の実務的な流れについての各種申告制度の概要、及び研究対象としての連結納税制度についてみる。 22. 消費税と経理方法 消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。 23. 非営利法人の税務 公益法人、学校法人等の非営利法人における、法人税その他租税の取扱を概観する。 24. 税効果会計 税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果会計等を概観する。
----------------------------	--